

厚木市民意識調査報告書

平成24年1月

厚木市

はじめに

厚木市では、平成21年4月にスタートした第9次厚木市総合計画「あつぎ元気プラン」において、将来都市像「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市あつぎ」を掲げ、参加と協働によるまちづくりを推進しています。

総合計画を着実に推進する取組のひとつとして、市民の皆様と一緒に安心安全な地域社会を実現するため、平成22年11月にWHO（世界保健機関）によるセーフコミュニティの国際認証を国内3番目の自治体として取得することができました。さらに同年12月には、市民自治の推進を目的とした厚木市自治基本条例を制定いたしました。こうした活動を通して、市民の皆様の視点を大切にした厚木市らしいまちづくりを進めているところです。

今回、市民の皆様に御協力いただきました市民意識調査は、アンケートを通じた市政への市民参加であり、自治基本条例の理念を実現するための第一歩であり、明日のまちづくりにつながる貴重な資料となるものです。

本報告書にまとめました調査結果は、平成24年からスタートする総合計画第2期実施計画を始め日々の事務事業の中に取り入れ、市民の皆様のお考えや御要望を反映した市政運営のために活用してまいります。

今回の調査に当たりまして、御協力いただきました多くの皆様に心からお礼を申し上げますとともに、今後も市政に対して、積極的に御協力をいただきますよう心からお願い申し上げます。

平成24年1月

厚木市長 小林 常良

目 次

I	調査の概要	
1	調査の目的	1
2	調査項目	1
3	調査設計	1
4	回収結果	1
5	報告書の見方	2
6	標本誤差	2
II	回答者の属性	
1	回答者の属性	3
	(1) 性別(ア)	3
	(2) 年齢(イ)	3
	(3) 家族構成(ウ)	3
	(4) 住居形態(エ)	4
	(5) 居住地区(オ)	4
	(6) 居住年数(カ)	5
	(7) 利用駅(キ)	5
	(8) 自宅から最寄り駅までの交通手段(ク)	5
	(9) 職業(ケ)	6
	(10) 通勤(通学)先(コ)	6
III	意識調査結果	
1	暮らしの状況	7
	(1) 定住意向	7
	(2) 住み続けたい理由	10
	(3) 市外に転居したい理由	13
2	市の現状と将来	15
	(1) 市の現在のイメージ	15
	(2) 市の将来のイメージ	17
3	産業・商業	19
	(1) 買い物をする場所	19
	(2) 産業の活性化	21
	(3) 観光地活性化のための取組	22
	(4) 農業・林業振興のための取組	24

4	福祉・人権	26
	(1) 介護保険料の金額設定	26
	(2) 高齢時の居住形態	28
	(3) 人権侵害を受けた経験	30
	(4) 人権侵害を受けた時の対応	33
	(5) 人権や差別に対する関心	36
5	男女共同参画社会の推進	38
	(1) 子どもを産み育てられる環境	38
6	スポーツ	41
	(1) スポーツをする頻度	41
	(2) 取り組んでいるスポーツの種目	43
	(3) 参加してみたいスポーツイベント	45
7	国際交流	47
	(1) 国際交流の取組	47
8	環境	50
	(1) ごみの減量化・資源化の推進	50
	(2) 資源とごみの分別	52
	(3) 地球温暖化防止のための取組	54
	(4) 環境問題啓発事業への参加	56
	(5) 実践してほしい新エネルギー施策	58
9	交通・安全・防災	60
	(1) 本厚木駅周辺の治安	60
	(2) 防犯対策に望むもの	62
	(3) セーフコミュニティの考え方	64
	(4) 住宅用火災警報器の設置	66
	(5) 行政に希望する災害対策	68
10	教育・生涯学習・文化	70
	(1) 子どもの教育のために最も大切なこと	70
	(2) 生涯学習活動に参加する上で支障になること	72
	(3) 優先すべき芸術文化施策	74
11	市民生活	77
	(1) 市の施設の利用状況	77
	(2) 日ごろの交通手段	79
	(3) 整備が必要な施設	82
	(4) 市の施設の利用の有料化について	84
	(5) 高齢時の交通手段	86
	(6) 窓口開庁日時について	89

目 次

12	保健・健康	91
	(1) 市立病院のイメージ	91
	(2) 身近な医療機関	93
	(3) 医療機関の役割分担	95
	(4) がん検診の受診状況	97
	(5) 自殺への対策	99
13	広報・広聴	101
	(1) 「広報あつぎ」の配布	101
	(2) ケーブルテレビ「あつぎ元気 Wave」の視聴頻度	103
	(3) 屋外大型映像装置（あつぎビジョン）の視聴頻度	105
	(4) 市の情報の入手方法	107
	(5) 行政サービスの情報化・ICT化	110
	(6) 家庭で保有する情報機器	113
	(7) 「マイタウンクラブ」の認知度	115
14	まちづくり	117
	(1) 本厚木駅周辺のイメージ	117
	(2) まちづくり全般の変化	119
	(3) 60歳以降の生活様式の希望	137
	(4) まちづくりへの参加	139
	(5) 本厚木駅周辺の活性化の必要性	142
	(6) 本厚木駅周辺の買物で不満を感じる事	144
	(7) 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設	146
	(8) 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段	149
	(9) 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場	151
	(10) 市の将来の土地利用	153
	(11) 厚木市内の道路の現状	155
	(12) 交通渋滞の緩和状況	158
	(13) 道路整備に望むもの	160
	(14) 河川環境の整備状況	163
15	行政	165
	(1) 市の財政状況	165
	(2) 市民の声を行政に反映させる仕組み	167
	(3) 行政情報の公開状況	169
IV	調査票と集計結果	
1	調査票（A）	171
2	調査票（B）	182

I. 調査の概要

1 調査の目的

市民のまちづくりに対する考えや市民生活に関係の深い事項について、市民意識調査を実施し、あつぎ元気プラン第2期実施計画策定及び今後の市政運営等の資料とする。

2 調査項目

- (1) 暮らしの状況
- (2) 市の現状と将来
- (3) 産業・商業
- (4) 福祉・人権
- (5) 男女共同参画社会の推進
- (6) スポーツ
- (7) 国際交流
- (8) 環境
- (9) 交通・安全・防災
- (10) 教育・生涯学習・文化
- (11) 市民生活
- (12) 保健・健康
- (13) 広報・広聴
- (14) まちづくり
- (15) 行政

3 調査設計

- | | |
|------------|----------------------------|
| (1) 調査地域 | 厚木市全域 |
| (2) 調査対象 | 厚木市在住の18歳以上の男女 |
| (3) 調査対象者数 | 調査票A：1,500人
調査票B：1,500人 |
| (4) 抽出方法 | 無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送配布・郵送回収法 |
| (6) 調査期間 | 平成23年6月1日～15日 |

4 回収結果

- | | |
|-----------|--------------------------|
| (1) 有効回収数 | 調査票A：815人
調査票B：814人 |
| (2) 回収率 | 調査票A：54.3%
調査票B：54.3% |

5 報告書の見方

- (1) 図表中の「n」(Number of Cases の略) は、各設問の回答者数のことである。
- (2) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が 100.0% ちょうどにならない場合がある。
- (3) 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100.0% を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 設問によっては、平成 21 年度、19 年度、17 年度に実施した「厚木市民意識調査」の結果と比較している。
- (6) 回答者数が 30 に満たないものについては、図表に示すに留め、この報告書の中では特に取りあげていない場合がある。

6 標本誤差

今回の調査は、調査対象となる母集団(厚木市全域に住む満 18 歳以上の男女)から一部を抽出した標本(サンプル)の比率等から母集団の比率等を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、母集団に対する標本誤差が生じることがある。

標本誤差は次式で統計学的に得られ、①比率算出の基数(n)、②回答の比率(P)によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

(注) $\frac{N-n}{N-1} \div 1$

N = 母集団数
 (厚木市の満 18 歳以上人口)
 n = 比率算出の基数(回答者数)
 p = 回答の比率 (%)

ある設問の回答者数が 1,629 人で、その設問中のある選択肢の回答比率が 50% のとき、その標本誤差は、±2.42% と考えてよい(つまり、回答比率は 47.58% ~ 52.42% の間にある)。

今回の調査結果の標本誤差は次表のようになる。

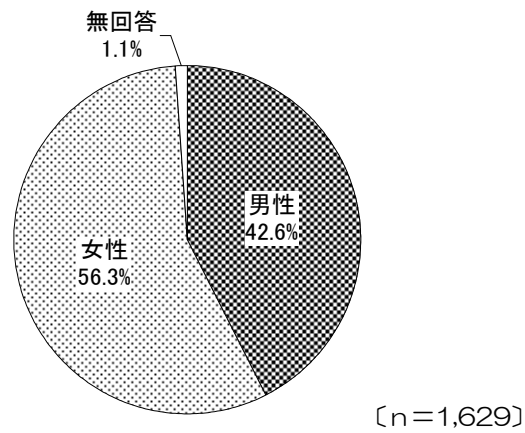
n (基数) \ p	回 答 比 率				
	90%または 10%	80%または 20%	70%または 30%	60%または 40%	50%
1,629 票	±1.45	±1.93	±2.22	±2.37	±2.42
1,500 票	±1.51	±2.02	±2.31	±2.47	±2.52
1,000 票	±1.85	±2.47	±2.83	±3.03	±3.09
500 票	±2.63	±3.50	±4.01	±4.29	±4.38
300 票	±3.39	±4.52	±5.18	±5.54	±5.65
100 票	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.80

(この表の計算式の信頼度は 95% である。)

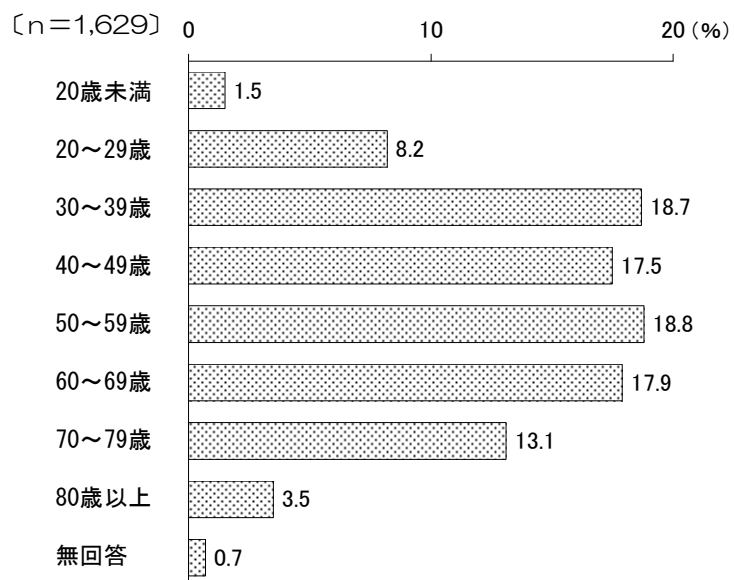
II. 回答者の属性

1 回答者の属性

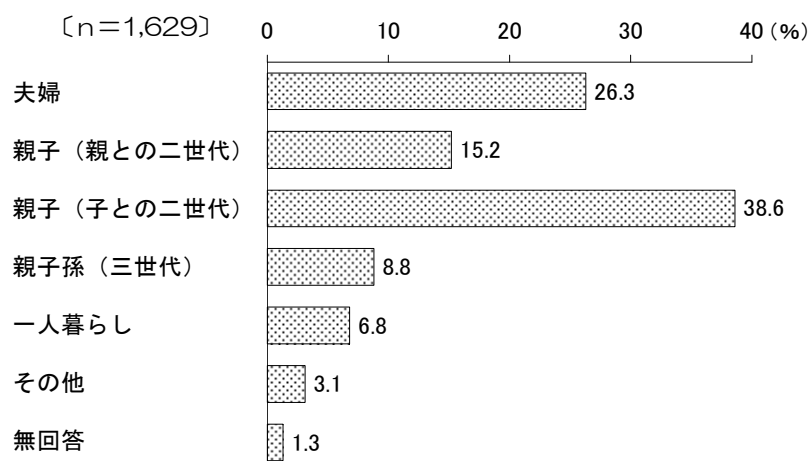
(1) 性別 (ア)



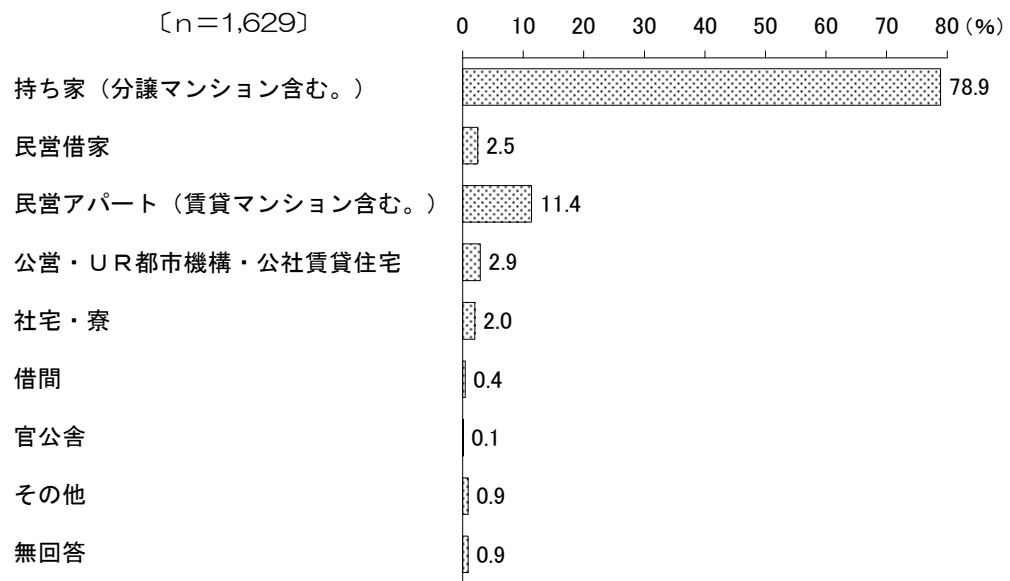
(2) 年齢 (イ)



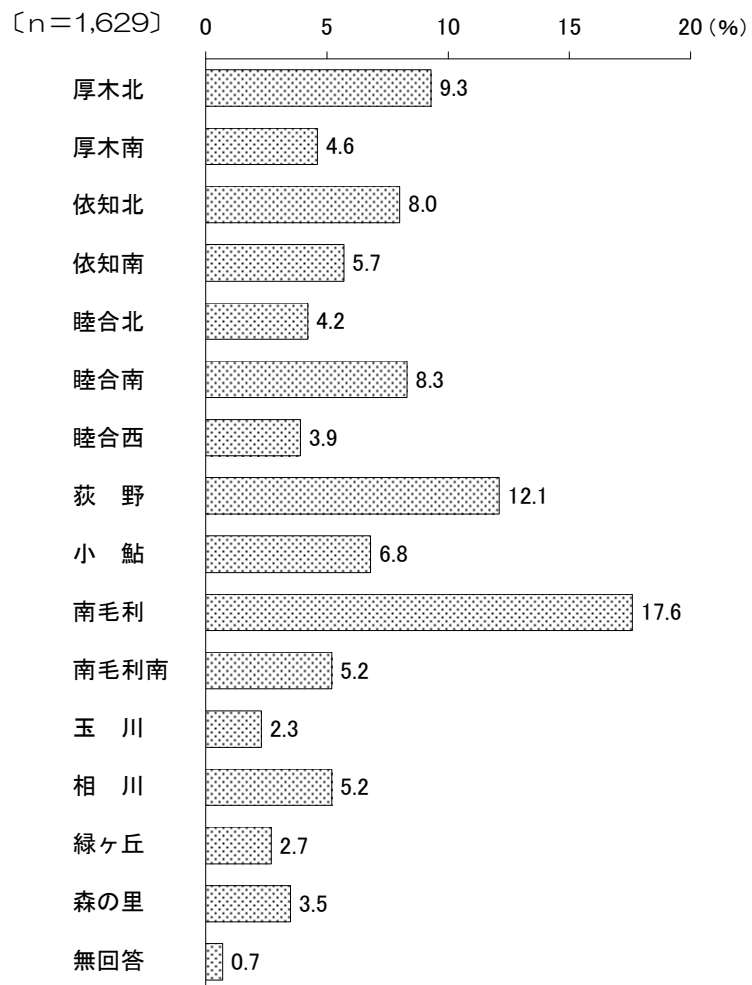
(3) 家族構成 (ウ)



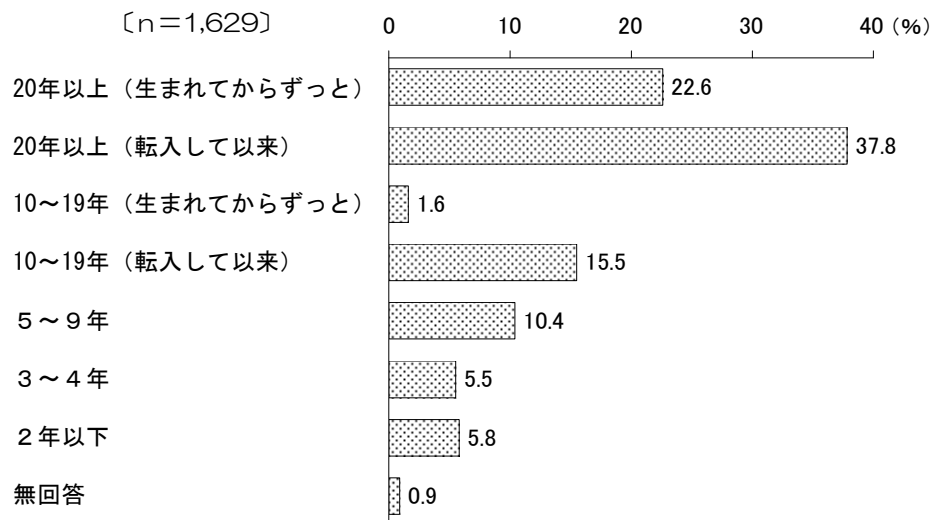
(4) 住居形態 (工)



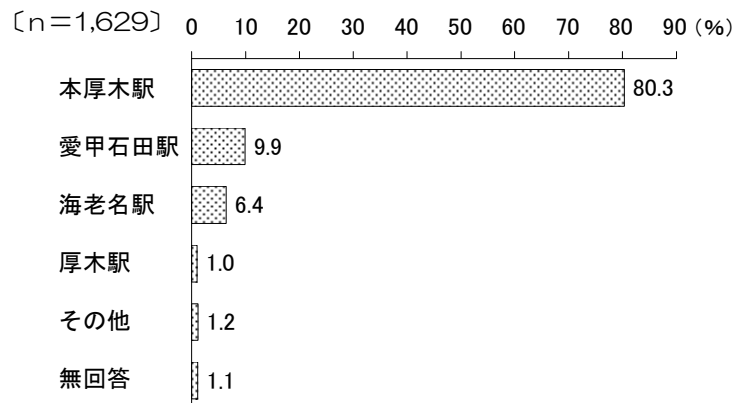
(5) 居住地区 (才)



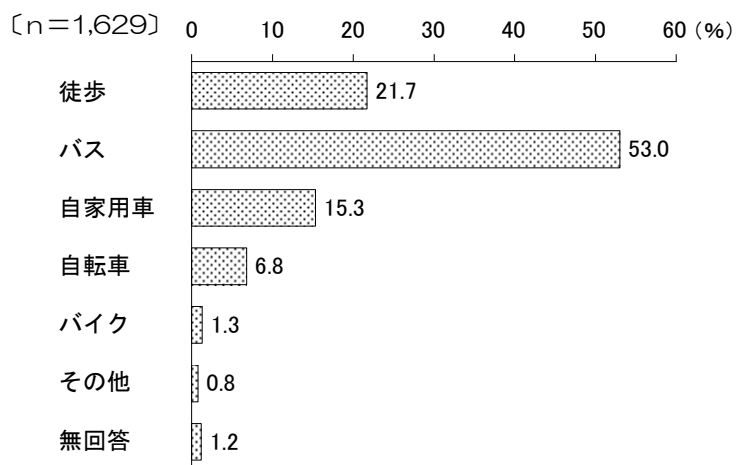
(6) 居住年数 (カ)



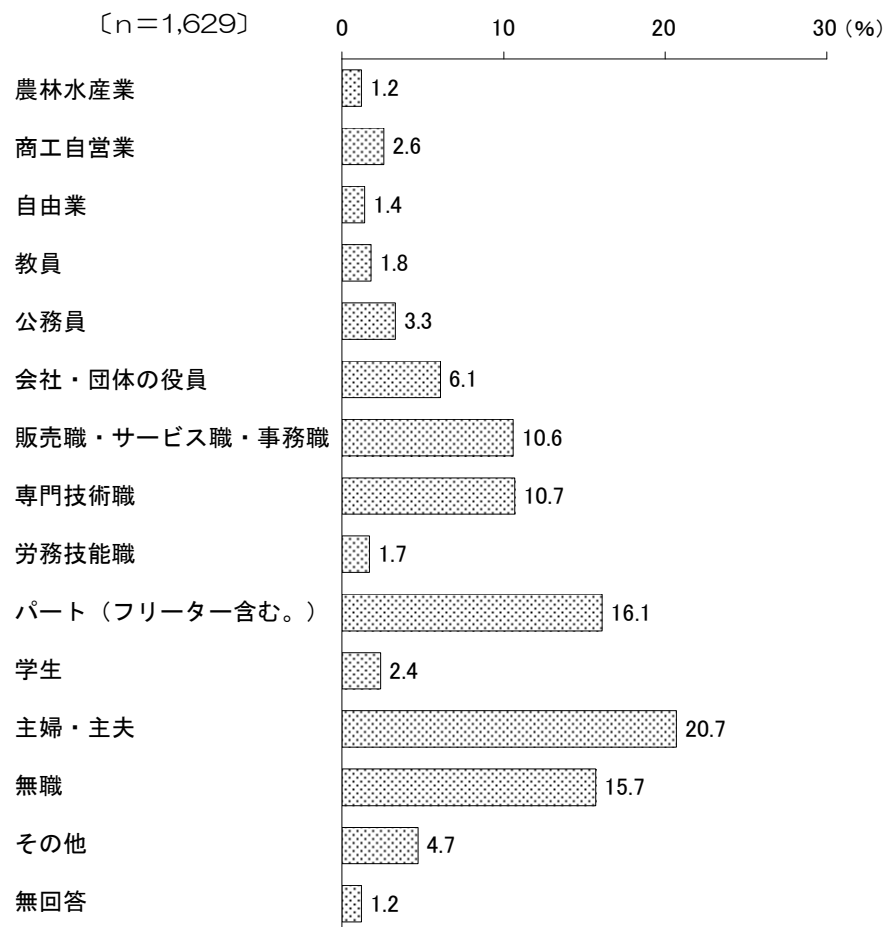
(7) 利用駅 (キ)



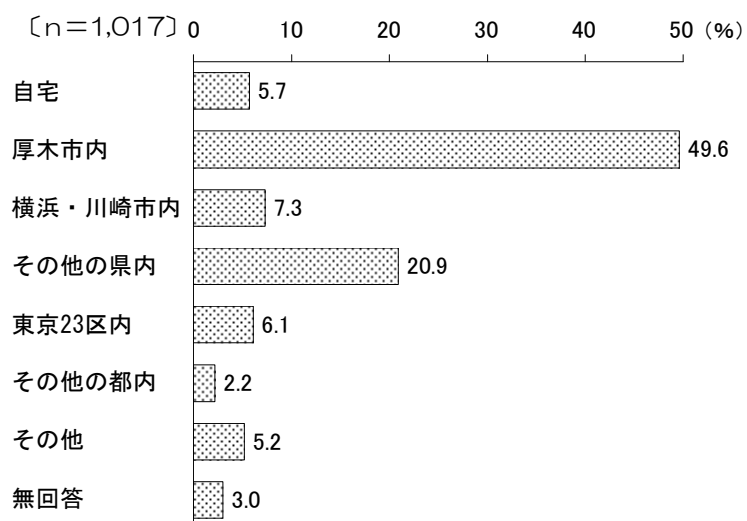
(8) 自宅から最寄駅までの交通手段 (ク)



(9) 職業 (ケ)



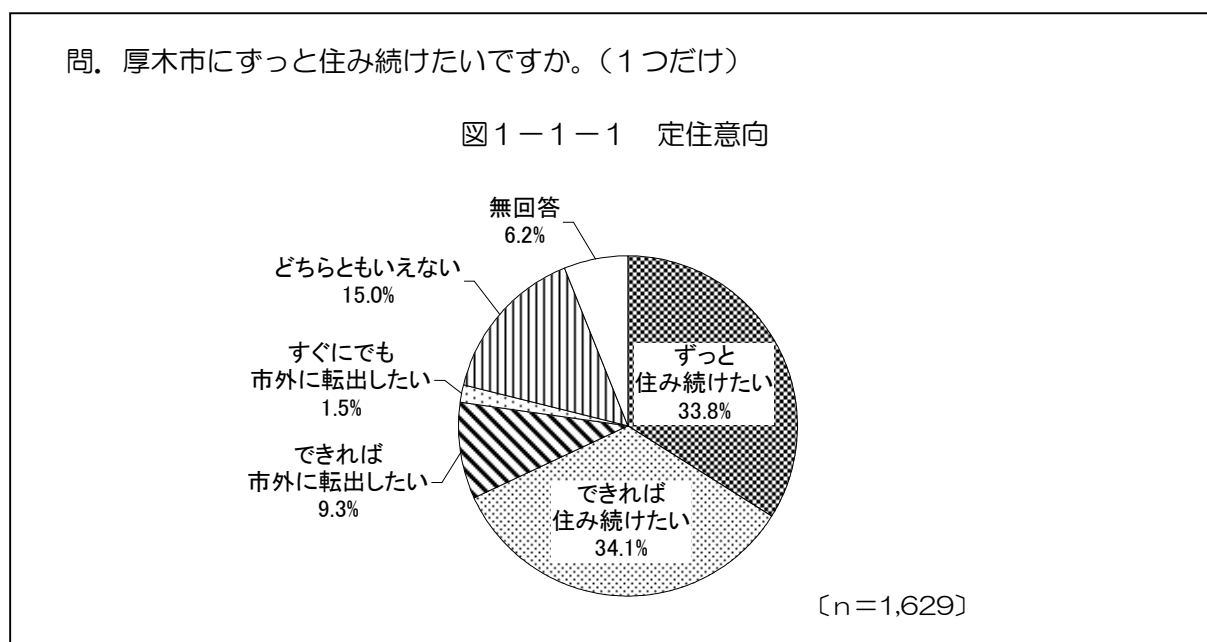
(10) 通勤 (通学) 先 (コ)



Ⅲ. 意識調査結果

1 暮らしの状況

(1) 定住意向 (A・B：問 32)



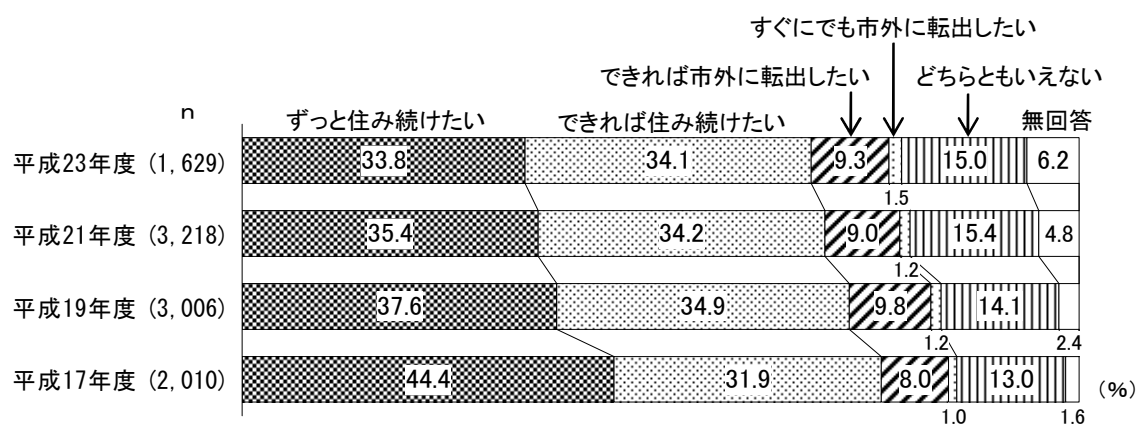
【全体】

厚木市への定住意向は、「ずっと住み続けたい」(33.8%)が3割を超え、これに「できれば住み続けたい」(34.1%)を合わせた『定住意向(計)』(67.9%)は7割近くとなっている。一方、「できれば市外に転出したい」(9.3%)と「すぐにでも市外に転出したい」(1.5%)を合わせた『転出意向(計)』(10.8%)はほぼ1割となっている。

【経年変化】

「ずっと住み続けたい」は、平成21年度調査(以下「前回調査」という。)、平成19年度調査(以下「前々回調査」という。)、平成17年度調査(以下「前々々回調査」という。)から減少傾向が続いている。

図1-1-2 定住意向—経年変化

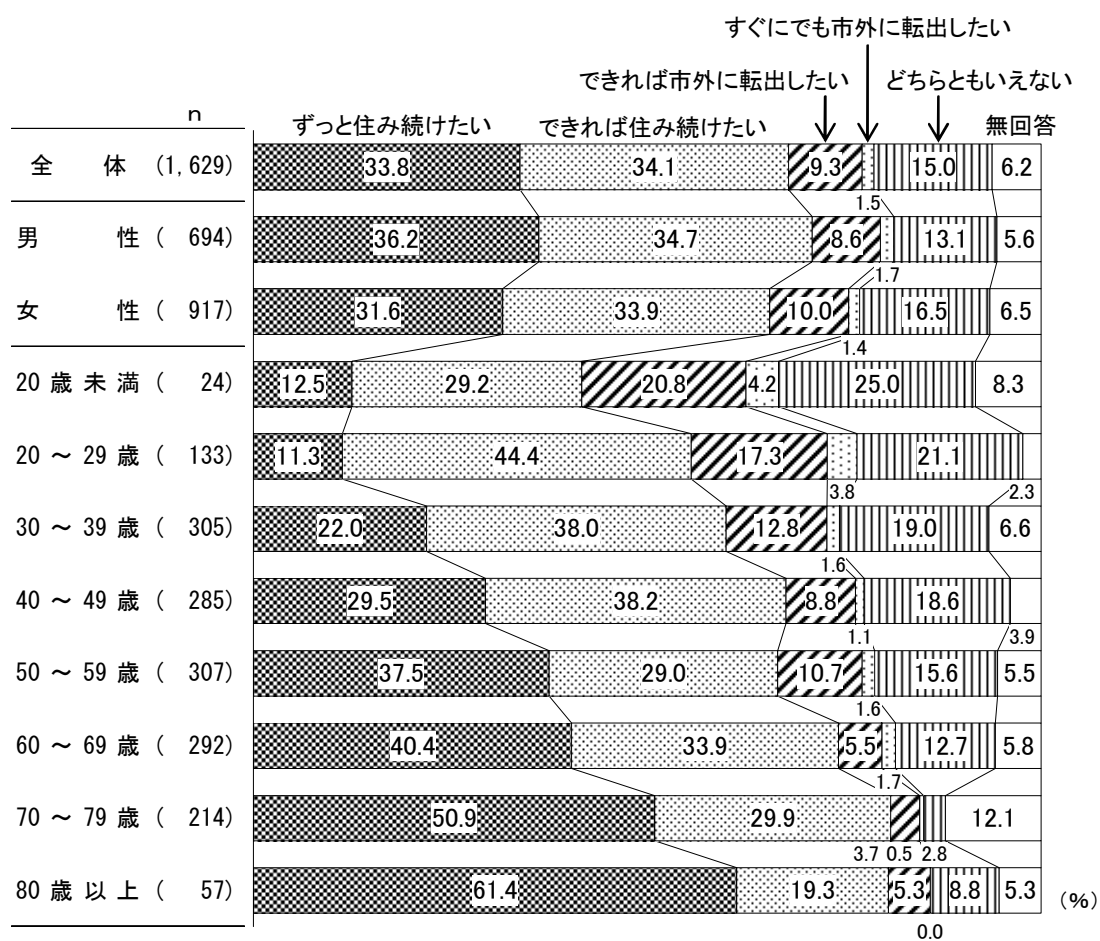


【属性別】

性別にみると、男性で「ずっと住み続けたい」（36.2%）が女性より 4.6 ポイント高くなっている。

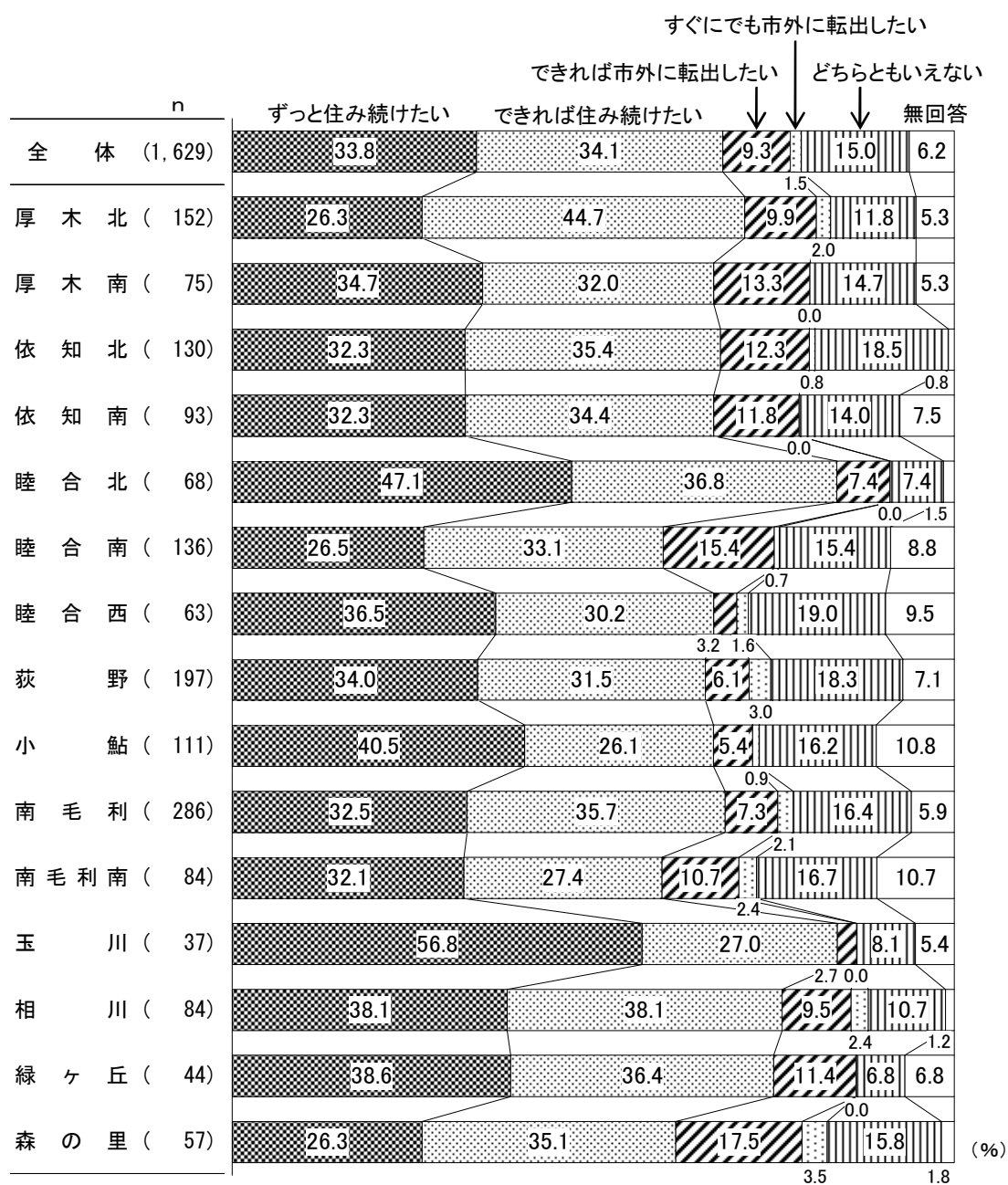
年齢別にみると、『定住意向（計）』は 60 歳代以上の年代で 7 割以上となっている。また、『定住意向（計）』はおおむね年代が高くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

図 1-1-3 定住意向—性別、年齢別



居住地区別にみると、『定住意向（計）』が高い地区は、睦合北（83.9%）、玉川（83.8%）、相川（76.2%）、緑ヶ丘（75.0%）、厚木北（71.0%）の順となっている。一方、『定住意向（計）』が低い地区は、南毛利南（59.5%）、睦合南（59.6%）、森の里（61.4%）、荻野（65.5%）の順となっている。

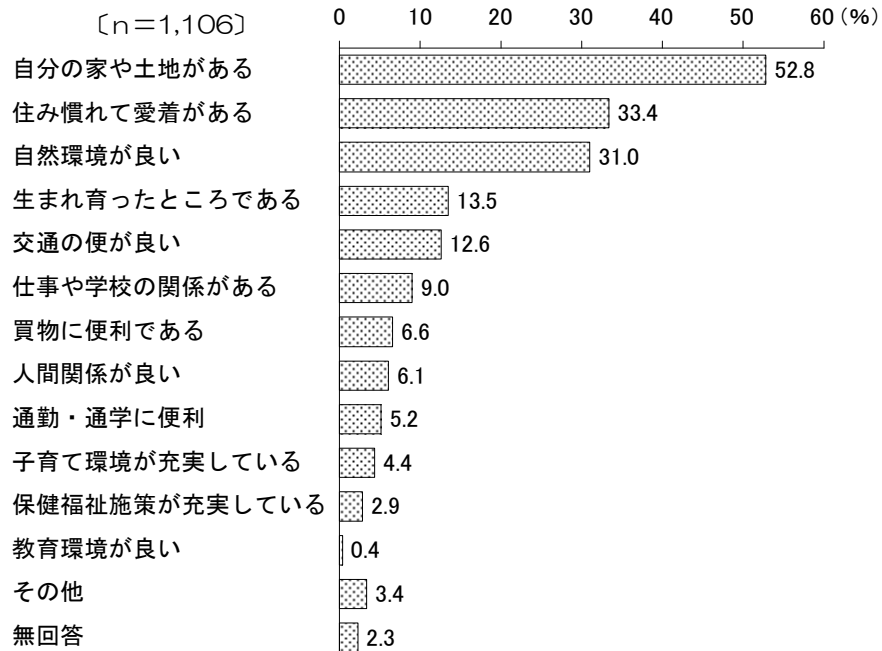
図1-1-4 定住意向一居住地区別



(2) 住み続けたい理由 (A・B：問33)

問. 「住み続けたい」とお答えの方の理由は何ですか。(2つまで)

図1-2-1 住み続けたい理由



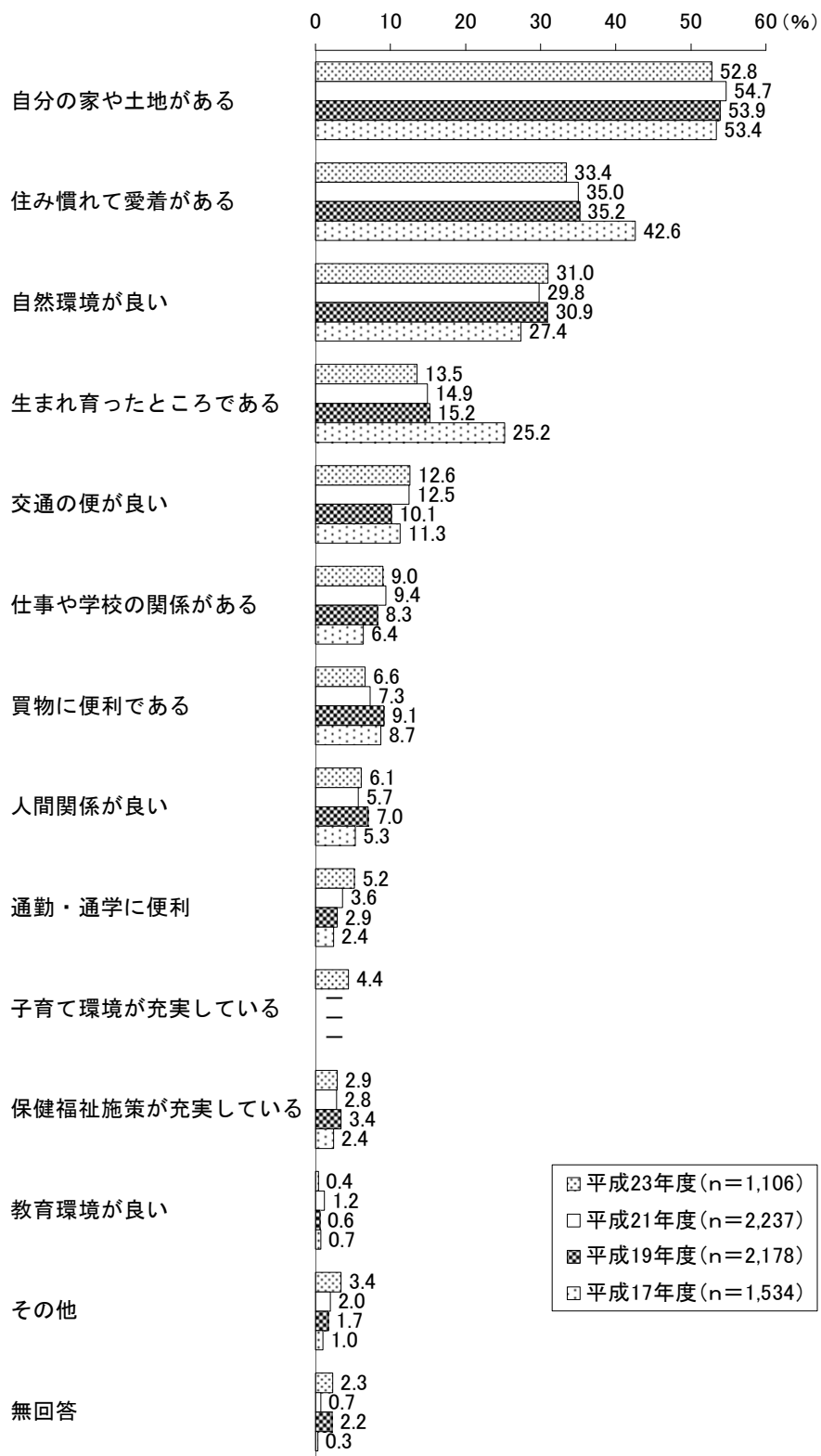
【全体】

厚木市に「ずっと住み続けたい」及び「できれば住み続けたい」と答えた人(1,106人)にその理由を聞いたところ、「自分の家や土地がある」(52.8%)が5割を超え最も高くなっている。次いで、「住み慣れて愛着がある」(33.4%)、「自然環境が良い」(31.0%)、「生まれ育ったところである」(13.5%)となっている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

図1-2-2 住み続けたい理由—経年変化（2つまでの複数回答）



(注) 平成23年度調査では、「子育て環境が充実している」が選択肢に追加されている。

【属性別】

居住年数別にみると、20年以上（転入して以来）で「住み慣れて愛着がある」（43.9%）が4割を超え他の居住年数より高くなっている。また、居住年数が3～4年で「自然環境が良い」（44.9%）が4割半ば、「交通の便が良い」（24.5%）が2割半ばで他の居住年数より高くなっている。

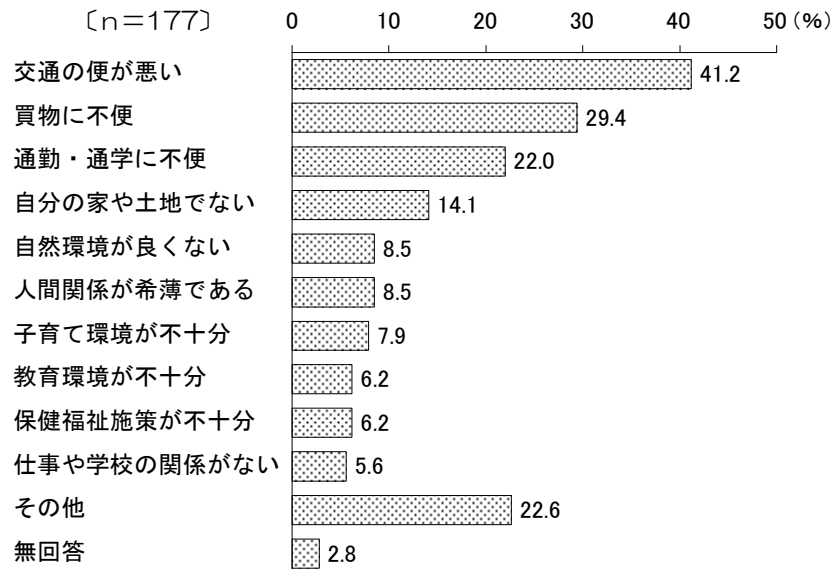
表1-2-1 住み続けたい理由—居住年数別（2つまでの複数回答）

		(%)														
		n	自分の家や土地がある	住み慣れて愛着がある	自然環境が良い	生まれ育ったところである	交通の便が良い	仕事や学校の関係がある	買物に便利である	人間関係が良い	通勤・通学に便利	子育て環境が充実している	保健福祉施策が充実している	教育環境が良い	その他	無回答
全 体		1,106	52.8	33.4	31.0	13.5	12.6	9.0	6.6	6.1	5.2	4.4	2.9	0.4	3.4	2.3
居住年数別	20年以上 (生まれてからずっと)	287	53.3	32.8	22.6	43.9	9.8	5.2	3.5	5.6	2.4	2.4	2.1	-	1.4	1.7
	20年以上 (転入して以来)	444	58.3	43.9	35.4	2.3	12.4	6.8	6.8	5.9	2.9	1.6	2.7	0.2	1.8	2.9
	10～19年 (生まれてからずっと)	12	50.0	41.7	16.7	25.0	8.3	25.0	8.3	-	-	-	-	-	-	-
	10～19年 (転入して以来)	153	50.3	30.7	30.1	0.7	14.4	17.0	10.5	4.6	9.8	5.2	2.6	-	4.6	2.6
	5～9年	106	53.8	13.2	32.1	2.8	12.3	10.4	7.5	10.4	10.4	11.3	4.7	0.9	9.4	0.9
	3～4年	49	34.7	10.2	44.9	4.1	24.5	12.2	6.1	8.2	14.3	12.2	2.0	2.0	6.1	2.0
	2年以下	46	26.1	8.7	34.8	2.2	15.2	15.2	10.9	6.5	10.9	17.4	6.5	-	13.0	2.2

(3) 市外に転居したい理由 (A・B：問34)

問. 「転出したい」とお答えの方の理由は何ですか。(2つまで)

図1-3-1 市外に転居したい理由



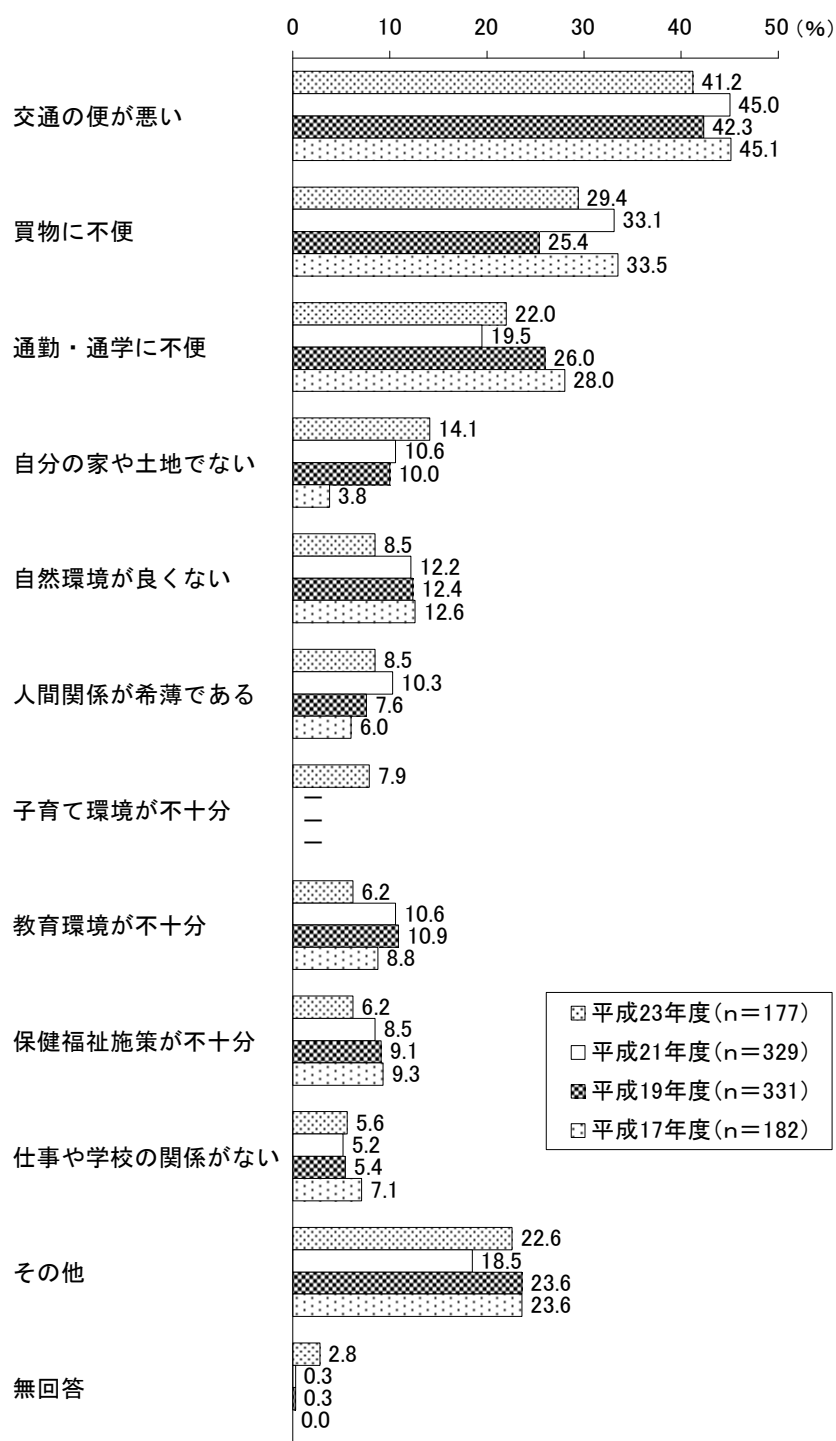
【全体】

厚木市から「できれば市外に転出したい」及び「すぐにでも市外に転出したい」と答えた人(177人)にその理由を聞いたところ、「交通の便が悪い」(41.2%)が4割を超え最も高くなっている。次いで、「買物に不便」(29.4%)、「通勤・通学に不便」(22.0%)、「自分の家や土地でない」(14.1%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査、前々々回調査とも「交通の便が悪い」が4割を超え最も高くなっている。また、「教育環境が不十分」が前回調査より4.4ポイント低く、「自分の家や土地でない」が増加傾向となっている。

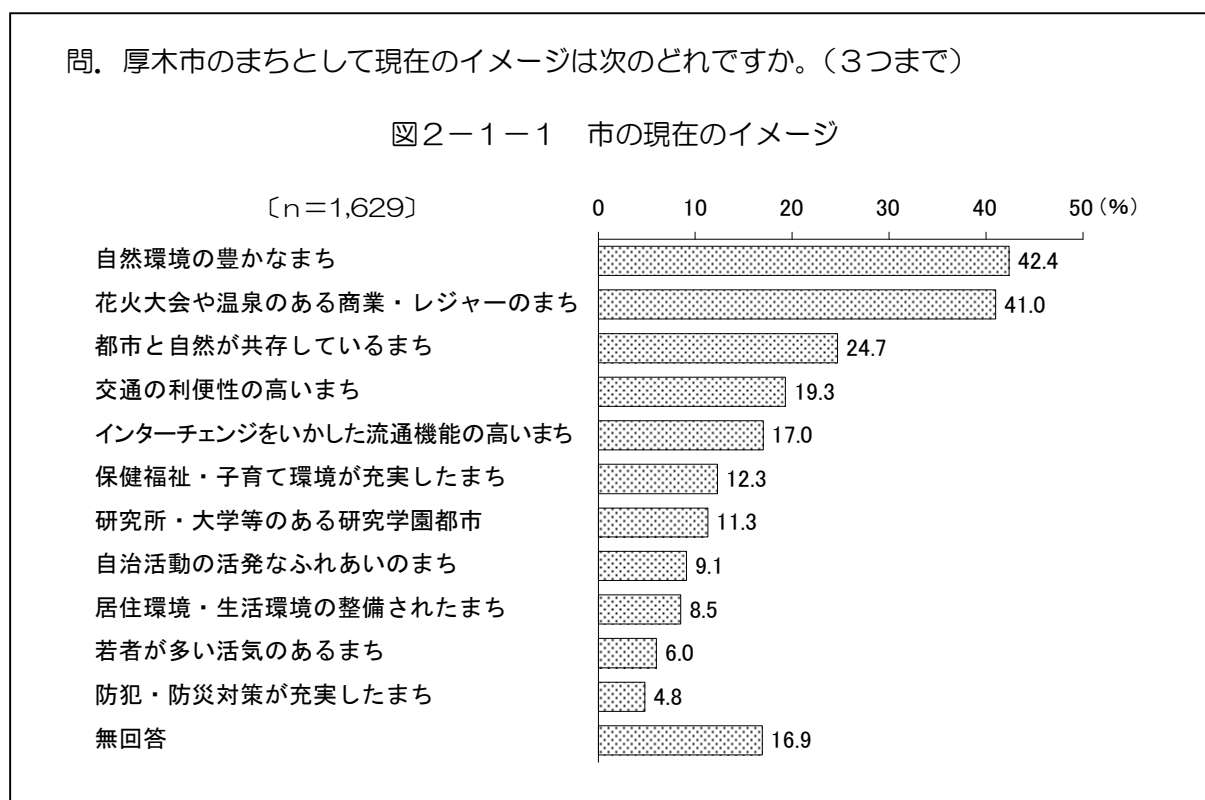
図1-3-2 市外に転居したい理由—経年変化（2つまでの複数回答）



(注) 平成23年度調査では、「子育て環境が不十分」が選択肢に追加されている。

2 市の現状と将来

(1) 市の現在のイメージ (A・B：問 35①)



【全体】

現在の厚木市のまちとしてのイメージを聞いたところ、「自然環境の豊かなまち」(42.4%)が4割を超え最も高くなっている。次いで、「花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち」(41.0%)、「都市と自然が共存しているまち」(24.7%)、「交通の利便性の高いまち」(19.3%)となっている。

【経年変化】

前回調査との比較は、選択肢が異なるため、参考に掲載する。

表2-1-1 市の現在のイメージー経年変化(3つまでの複数回答)

(%)

順位	平成23年度 (n=1,629)	平成21年度 (n=3,218)	平成19年度 (n=3,006)	平成17年度 (n=2,010)
1	自然環境の豊かなまち 42.4	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち 45.7	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち 46.5	花火大会、鮎、温泉(飯山、七沢)のまち 49.0
2	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち 41.0	恵まれた自然環境を持つまち 41.1	恵まれた自然環境を持つまち 42.9	恵まれた自然環境を持つまち 43.4
3	都市と自然が共存しているまち 24.7	都市と自然が共存するまち 22.6	都市と自然が共存するまち 23.3	都市と自然が共存するまち 25.7
4	交通の利便性の高いまち 19.3	交通の利便性の高いまち 16.4	交通の利便性の高いまち 17.6	交通の利便性の高いまち 20.6
5	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち 17.0	ハイテク・研究開発型企業の集まるまち 6.7	ハイテク・研究開発型企業の集まるまち 6.2	自治活動の活発なふれあいのまち 5.8

【属性別】

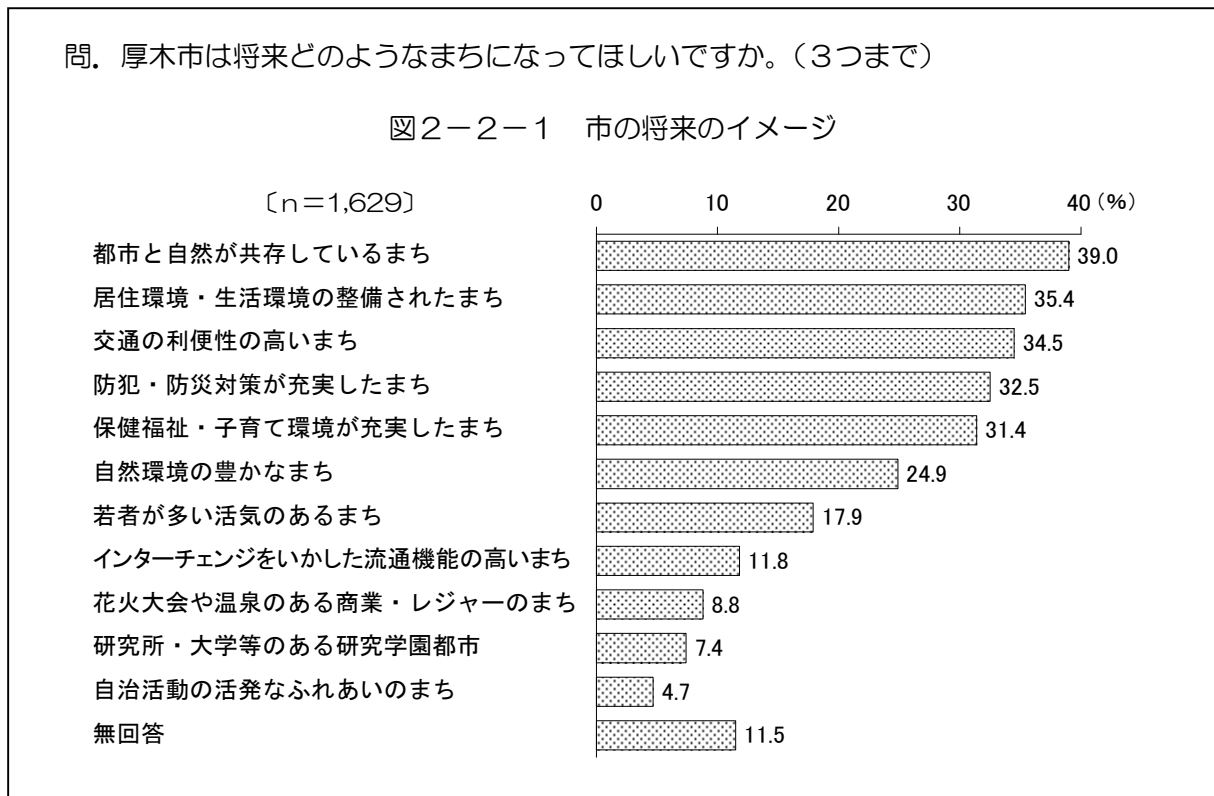
性別にみると、男性で「インターチェンジをいかした流通機能の高いまち」（21.9％）が女性より 8.5 ポイント高くなっている。一方、女性で「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（15.2％）が男性より 6.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30 歳代で「保健福祉・子育て環境が充実したまち」（22.0％）が 2 割を超え他の年代より高く、20 歳未満で「若者が多い活気のあるまち」（20.8％）がほぼ 2 割で他の年代より高くなっている。

表 2-1-2 市の現在のイメージ-性別、年齢別（3 つまでの複数回答）

		n	自然環境の豊かなまち	花火大会や温泉のあるまち	商業・レジャーのまち	都市と自然が共存しているまち	交通の利便性の高いまち	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	充実したまち 保健福祉・子育て環境が	研究所・大学等のあるまち	自治活動の活発なふれあいのまち	居住環境・生活環境の整備されたまち	若者が多い活気のあるまち	防犯・防災対策が充実したまち	無回答
全 体		1,629	42.4	41.0	24.7	19.3	17.0	12.3	11.3	9.1	8.5	6.0	4.8	16.9	
性別	男 性	694	41.8	39.2	27.2	20.7	21.9	8.6	12.2	8.1	9.4	6.1	5.9	15.9	
	女 性	917	43.0	42.5	23.1	18.3	13.4	15.2	10.6	9.8	7.9	5.8	3.9	17.2	
年齢別	20 歳 未 満	24	29.2	54.2	29.2	25.0	12.5	-	12.5	-	8.3	20.8	12.5	12.5	
	20 ～ 29 歳	133	43.6	45.9	25.6	22.6	19.5	16.5	11.3	5.3	7.5	15.8	2.3	9.0	
	30 ～ 39 歳	305	42.0	46.6	24.6	16.4	17.4	22.0	12.8	9.8	7.5	5.2	3.3	11.8	
	40 ～ 49 歳	285	45.3	44.6	30.5	24.6	21.1	15.4	10.5	6.7	7.4	6.3	2.5	8.4	
	50 ～ 59 歳	307	45.6	46.6	27.0	20.8	16.9	7.8	11.1	8.8	9.4	4.2	4.9	13.0	
	60 ～ 69 歳	292	40.8	35.6	21.6	17.1	15.8	7.9	13.4	10.6	10.3	4.5	6.2	23.6	
	70 ～ 79 歳	214	40.7	29.4	21.5	15.0	14.0	6.1	8.9	11.7	7.9	3.3	7.0	31.3	
	80 歳 以 上	57	35.1	21.1	12.3	19.3	8.8	10.5	7.0	12.3	8.8	3.5	12.3	35.1	

(2) 市の将来のイメージ (A・B：問35②)



【全体】

市の将来のイメージについて聞いたところ、「都市と自然が共存しているまち」(39.0%)がほぼ4割で最も高くなっている。次いで、「居住環境・生活環境の整備されたまち」(35.4%)、「交通の利便性の高いまち」(34.5%)となっている。

【経年変化】

前回調査との比較は、選択肢が異なるため、参考に掲載する。

表2-2-1 市の将来のイメージー経年変化(3つまでの複数回答)

順位	平成23年度 (n=1,629)		平成21年度 (n=3,218)		平成19年度 (n=3,006)		平成17年度 (n=2,010)	
	イメージ	割合 (%)	イメージ	割合 (%)	イメージ	割合 (%)	イメージ	割合 (%)
1	都市と自然が共存しているまち	39.0	自然環境の豊かな都市	56.3	自然環境の豊かな都市	61.3	自然環境の豊かな都市	75.3
2	居住環境・生活環境の整備されたまち	35.4	居住環境・生活環境の整備された都市	49.7	居住環境・生活環境の整備された都市	52.3	保健福祉都市	35.5
3	交通の利便性の高いまち	34.5	防犯・防災対策が充実した都市	44.3	防犯・防災対策が充実した都市	47.3	心のふれあいのある交流都市	30.4
4	防犯・防災対策が充実したまち	32.5	保健福祉都市	23.2	保健福祉都市	26.4	居住環境・生活環境の整備された都市	29.9
5	保健福祉・子育て環境が充実したまち	31.4	若者が多い活気のある都市	20.4	若者が多い活気のある都市	17.7	若者が多い活気のある都市	20.8

【属性別】

性別にみると、女性で「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(36.9%)が男性より12.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、40歳代で「居住環境・生活環境の整備されたまち」(47.0%)が5割近く、20歳代から40歳代の年代で「保健福祉・子育て環境が充実したまち」(39.8%・42.6%・41.1%)が4割前後で他の年代より高くなっている。また、20歳代で「花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち」(19.5%)が2割で他の年代より高くなっている。

表2-2-2 市の将来のイメージ性別、年齢別（3つまでの複数回答）

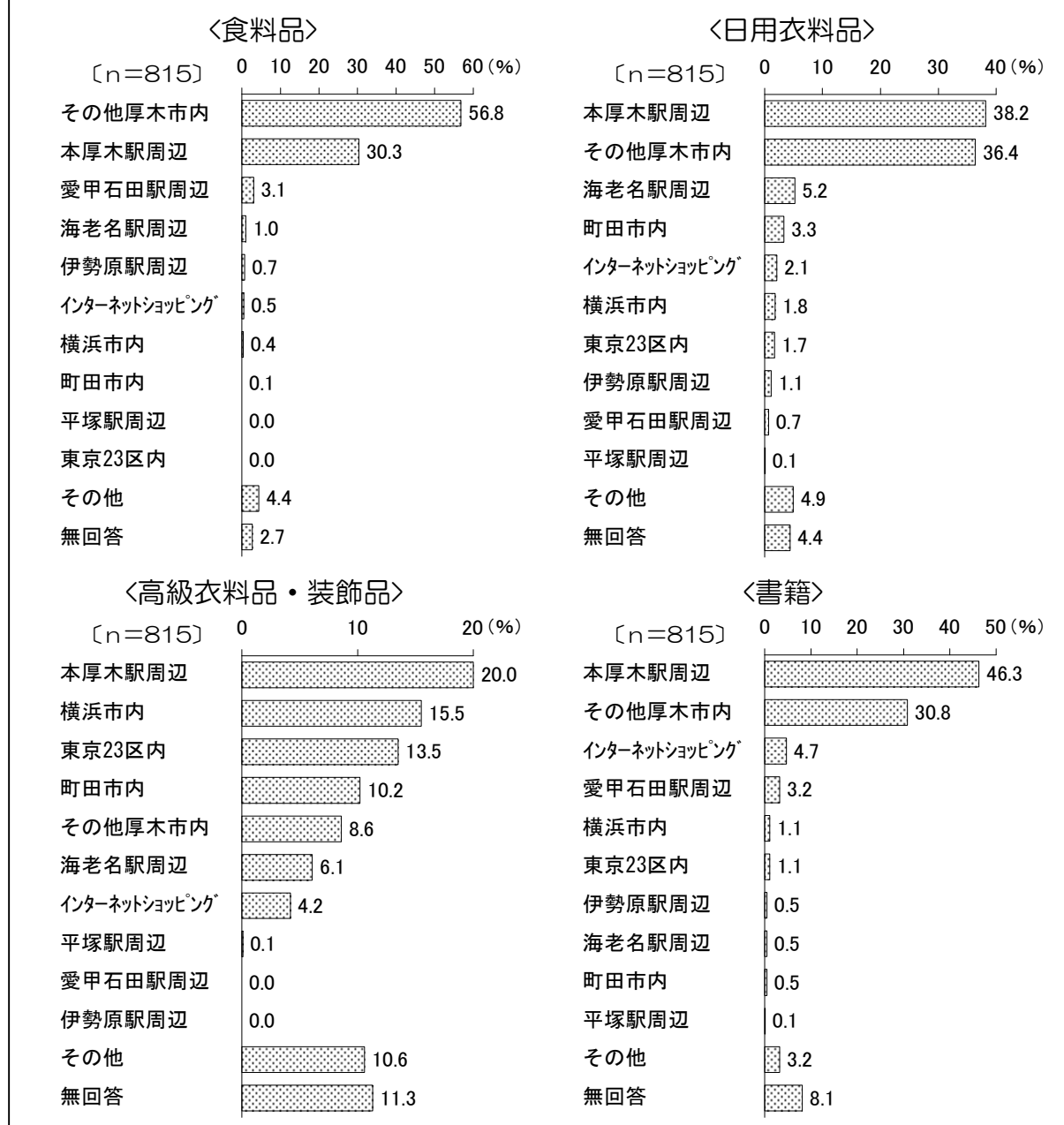
			都市と自然が共存しているまち	整備されたまち 居住環境・生活環境の	交通の利便性の高いまち	防犯・防災対策が充実したまち	充実したまち 保健福祉・子育て環境が	自然環境の豊かなまち	若者が多い活気のあるまち	した流通機能の高いまち インターネットをい	花火大会や温泉のあるまち 商業・レジャーの	研究所・大学等のあるまち	自治活動の活発なまち あいのまち	無回答
		n	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全 体		1,629	39.0	35.4	34.5	32.5	31.4	24.9	17.9	11.8	8.8	7.4	4.7	11.5
性別	男 性	694	39.9	37.8	35.9	31.0	24.5	25.2	19.5	13.5	8.1	9.1	5.2	11.0
	女 性	917	37.9	33.9	33.8	34.0	36.9	25.0	16.7	10.8	9.3	6.0	4.5	11.5
年齢別	20歳未満	24	45.8	41.7	29.2	25.0	33.3	25.0	25.0	4.2	16.7	4.2	8.3	4.2
	20～29歳	133	37.6	32.3	39.8	34.6	39.8	19.5	18.0	14.3	19.5	6.0	3.0	6.0
	30～39歳	305	41.6	38.4	37.4	35.7	42.6	22.0	13.8	14.1	10.8	6.2	4.9	5.6
	40～49歳	285	40.0	47.0	35.4	39.6	41.1	24.2	14.4	8.8	9.8	6.3	5.3	4.6
	50～59歳	307	45.6	39.4	35.5	33.6	27.7	28.0	21.2	12.7	7.5	7.8	4.6	7.2
	60～69歳	292	40.1	30.5	29.8	25.7	23.3	28.4	21.2	12.7	5.5	6.2	4.5	16.8
	70～79歳	214	28.5	23.8	34.6	28.0	16.8	24.8	18.7	11.2	4.7	11.7	5.6	25.2
	80歳以上	57	15.8	15.8	26.3	28.1	19.3	24.6	17.5	7.0	3.5	10.5	1.8	35.1

3 産業・商業

(1) 買い物をする場所 (A: 問1)

問. ふだんどどこで買物をしますか。各品目について主な場所1つに○印を入れてください。

図3-1-1 買い物をする場所



【全体】

普段の買物をどこでするか品目別に聞いたところ、『食料品』は、「その他厚木市内」(56.8%)が半数以上を占めている。『日用衣料品』は、「本厚木駅周辺」(38.2%)と「その他厚木市内」(36.4%)で、合わせて7割半ばとなっている。『高級衣料品・装飾品』は、「本厚木駅周辺」(20.0%)、「横浜市内」(15.5%)、「東京23区内」(13.5%)で回答が割れている。『書籍』は、「本厚木駅周辺」(46.3%)と「その他厚木市内」(30.8%)で、合わせて8割近くとなっている。

【経年変化】

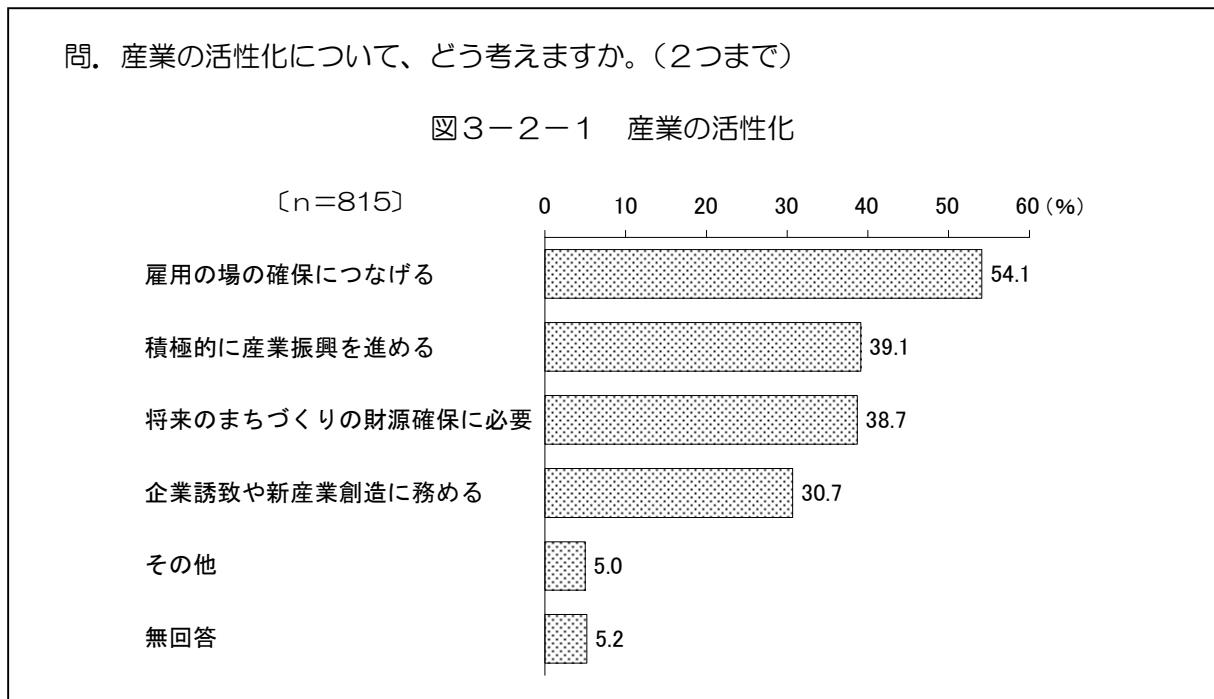
前回調査との比較をみると、『食料品』では「その他厚木市内」が4.5ポイント高くなっている。また、その他の品目では大きな差異はみられない。

表3-1-1 買い物をする場所—経年変化

(%)

品目	順位	平成23年調査 (n=815)		平成21年調査 (n=1,608)	
【食料品】	1	その他厚木市内	56.8	その他厚木市内	52.3
	2	本厚木駅周辺	30.3	本厚木駅周辺	33.1
	3	愛甲石田駅周辺	3.1	愛甲石田駅周辺	3.2
	4	海老名駅周辺	1.0	海老名駅周辺	0.9
	5	伊勢原駅周辺	0.7	伊勢原駅周辺	0.7
【日用衣料品】	1	本厚木駅周辺	38.2	本厚木駅周辺	40.2
	2	その他厚木市内	36.4	その他厚木市内	38.1
	3	海老名駅周辺	5.2	海老名駅周辺	3.6
	4	町田市内	3.3	町田市内	2.1
	5	インターネットショッピング	2.1	インターネットショッピング	1.1
【高級衣料品・装飾品】	1	本厚木駅周辺	20.0	本厚木駅周辺	23.6
	2	横浜市内	15.5	東京23区内	13.7
	3	東京23区内	13.5	横浜市内	13.4
	4	町田市内	10.2	その他厚木市内	11.0
	5	その他厚木市内	8.6	町田市内	9.6
【書籍】	1	本厚木駅周辺	46.3	本厚木駅周辺	48.6
	2	その他厚木市内	30.8	その他厚木市内	29.8
	3	インターネットショッピング	4.7	愛甲石田駅周辺	2.6
	4	愛甲石田駅周辺	3.2	インターネットショッピング	2.5
	5	横浜市内／東京23区内	1.1	東京23区内	1.4

(2) 産業の活性化 (A: 問2)



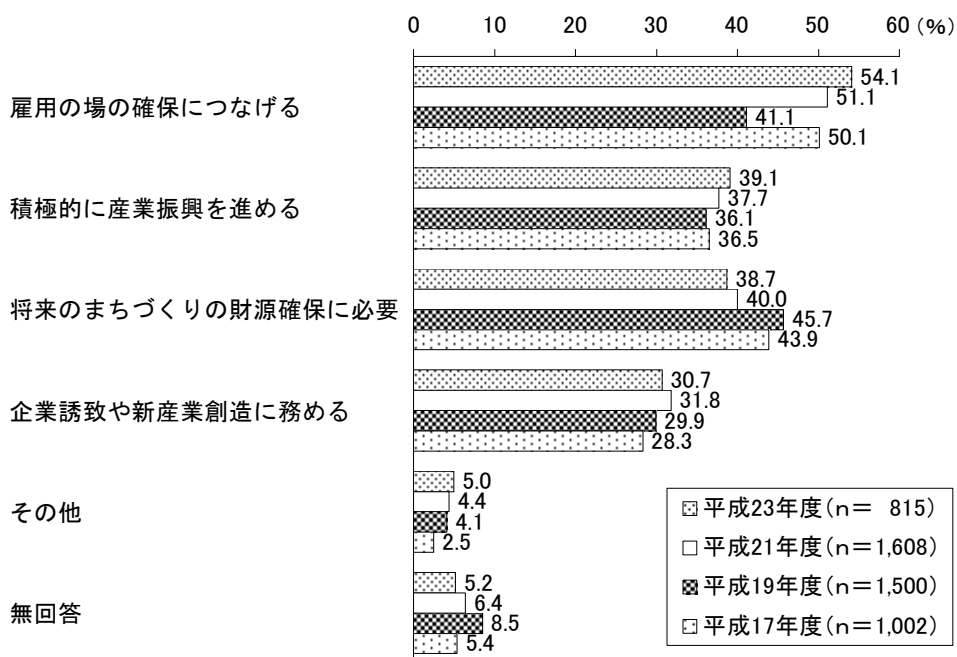
【全体】

産業の活性化についての考え方を聞いたところ、「雇用の場の確保につなげる」(54.1%)が5割半ばで最も高くなっている。次いで、「積極的に産業振興を進める」(39.1%)、「将来のまちづくりの財源確保に必要」(38.7%)、「企業誘致や新産業創造に努める」(30.7%)となっている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

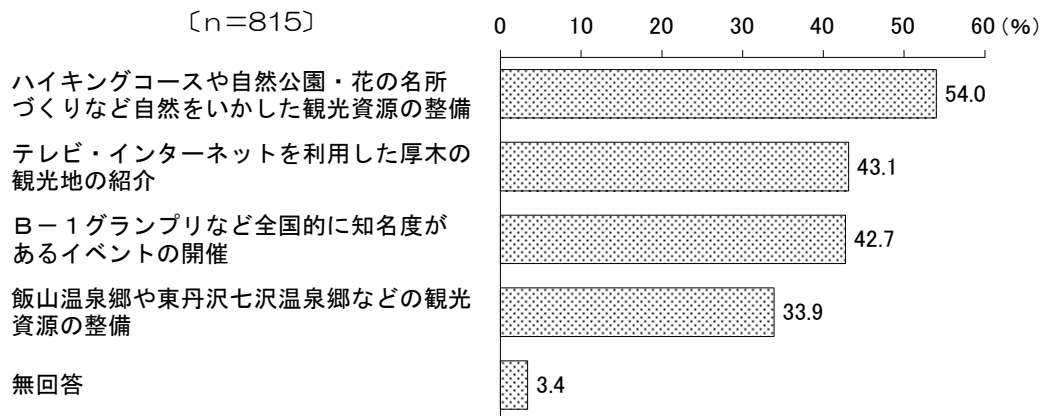
図3-2-2 産業の活性化—経年変化(2つまでの複数回答)



(3) 観光地活性化のための取組 (A:問3)

問. 厚木市の観光地の活性化には、どのような取組が必要だと思いますか。(2つまで)

図3-3-1 観光地活性化のための取組



【全体】

観光地の活性化のための取組について聞いたところ、「ハイキングコースや自然公園・花の名所づくりなど自然をいかした観光資源の整備」(54.0%)が5割半ばで最も高くなっている。次いで、「テレビ・インターネットを利用した厚木の観光地の紹介」(43.1%)、「B-1グランプリなど全国的に知名度があるイベントの開催」(42.7%)、「飯山温泉郷や東丹沢七沢温泉郷などの観光資源の整備」(33.9%)となっている。

【経年変化】

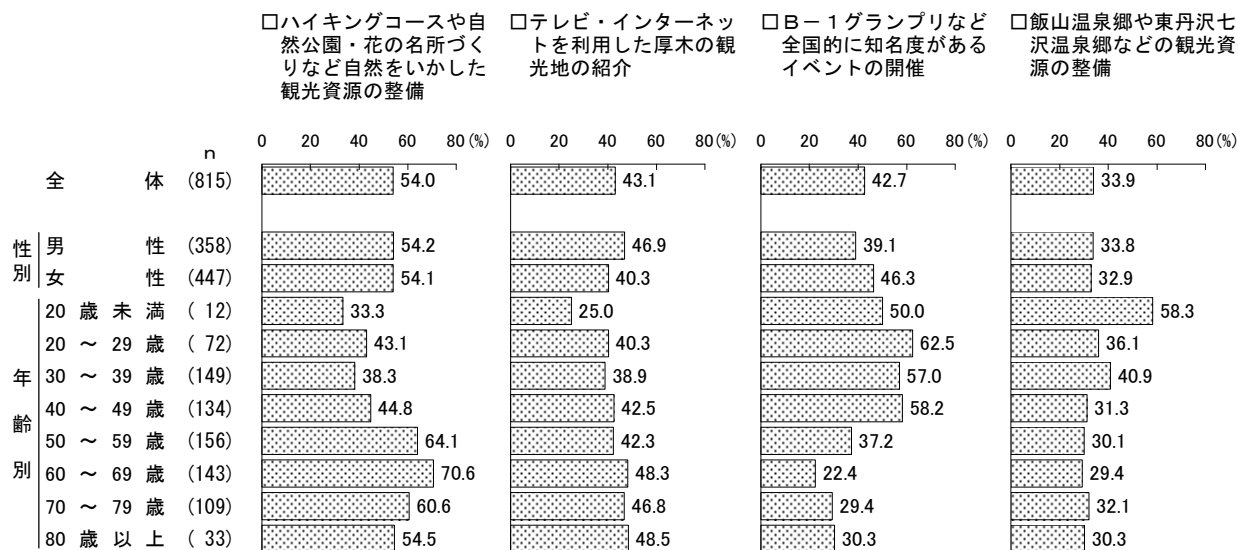
新規設問のため、経年変化はなし。

【属性別】

性別にみると、女性で「B-1グランプリなど全国的に知名度があるイベントの開催」(46.3%)が男性より7.2ポイント高くなっている。一方、男性で「テレビ・インターネットを利用した厚木の観光地の紹介」(46.9%)が女性より6.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「ハイキングコースや自然公園・花の名所づくりなど自然をいかした観光資源の整備」が50歳代(64.1%)で6割半ば、60歳代(70.6%)でほぼ7割と他の年代より高く、40歳代以下で「B-1グランプリなど全国的に知名度があるイベントの開催」が5割以上で他の年代より高くなっている。

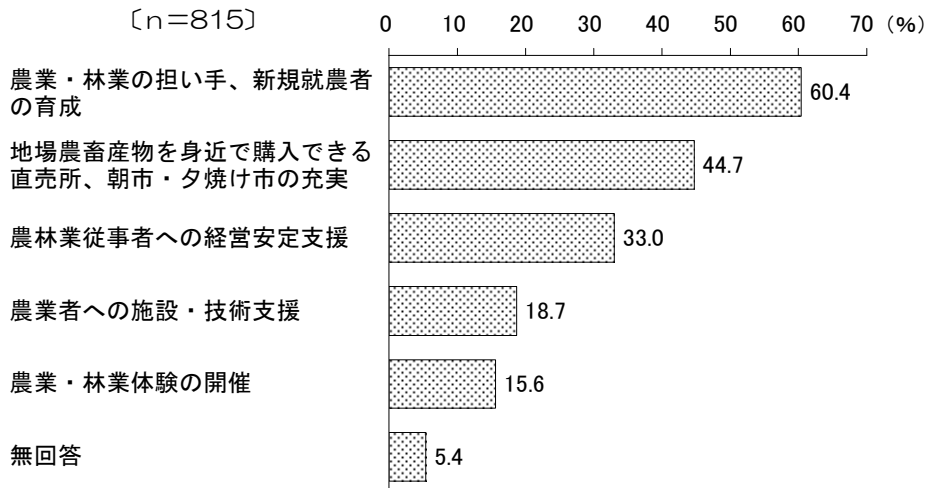
図3-3-2 観光地活性化のための取組一性別、年齢別(2つまでの複数回答)



(4) 農業・林業振興のための取組 (A:問4)

問. 都市農業や林業の振興にはどのような取組が必要だと思いますか。(2つまで)

図3-4-1 農業・林業振興のための取組



【全体】

都市農業や林業の振興のための取組について聞いたところ、「農業・林業の担い手、新規就農者の育成」(60.4%)が6割で最も高くなっている。次いで、「地場農畜産物を身近で購入できる直売所、朝市・夕焼け市の充実」(44.7%)、「農林業従事者への経営安定支援」(33.0%)となっている。

【経年変化】

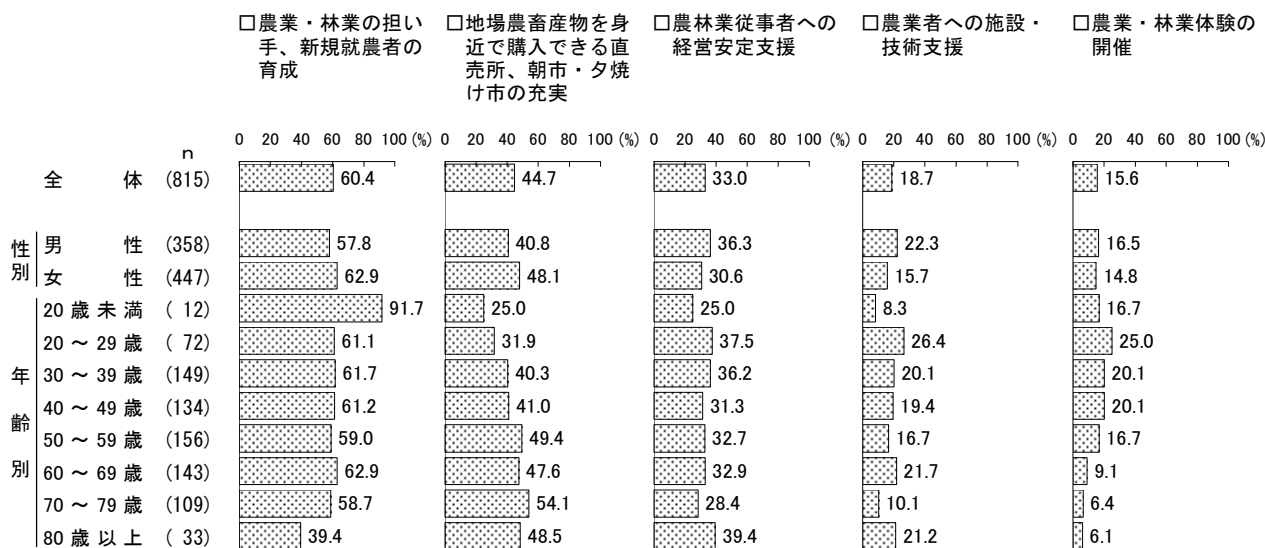
新規設問のため、経年変化はなし。

【属性別】

性別にみると、女性で「地場農畜産物を身近で購入できる直売所、朝市・夕焼け市の充実」(48.1%)が男性より7.3ポイント高く、「農業・林業の担い手、新規就農者の育成」(62.9%)が男性より5.1ポイント高くなっている。一方、男性で「農業者への施設・技術支援」(22.3%)が女性より6.6ポイント高く、「農林業従事者への経営安定支援」(36.3%)が女性より5.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70歳代で「地場農畜産物を身近で購入できる直売所、朝市・夕焼け市の充実」(54.1%)が5割半ばで他の年代より高くなっている。

図3-4-2 農業・林業振興のための取組—性別、年齢別（2つまでの複数回答）

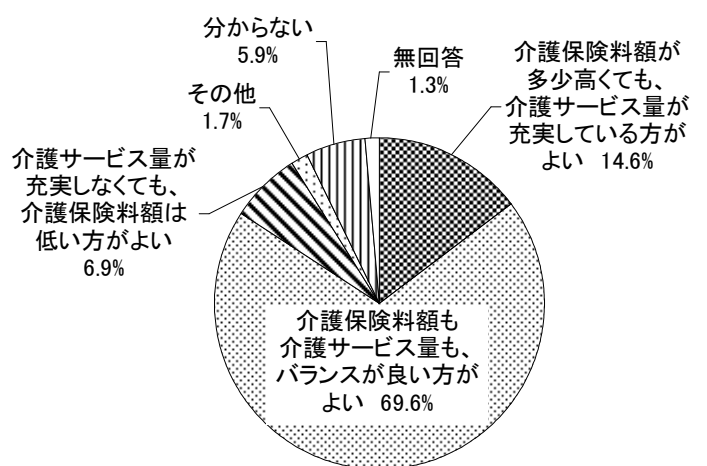


4 福祉・人権

(1) 介護保険料の金額設定 (A：問5)

問. 介護保険制度の介護保険料の額は、利用した介護サービスの量によって決まる仕組みとなっています。介護保険料額と介護サービス量のバランスについて、どう考えますか。
(対象年齢でない方は、対象者になることを想定して回答してください。)(1つだけ)

図4-1-1 介護保険料の金額設定



[n=815]

【全体】

介護保険料の金額設定について聞いたところ、「介護保険料額も介護サービス量も、バランスが良い方がよい」(69.6%)が7割で最も高くなっている。その他、「介護保険料額が多少高くても、介護サービス量が充実している方がよい」(14.6%)、「介護サービス量が充実しなくても、介護保険料額は低い方がよい」(6.9%)となっている。

【経年変化】

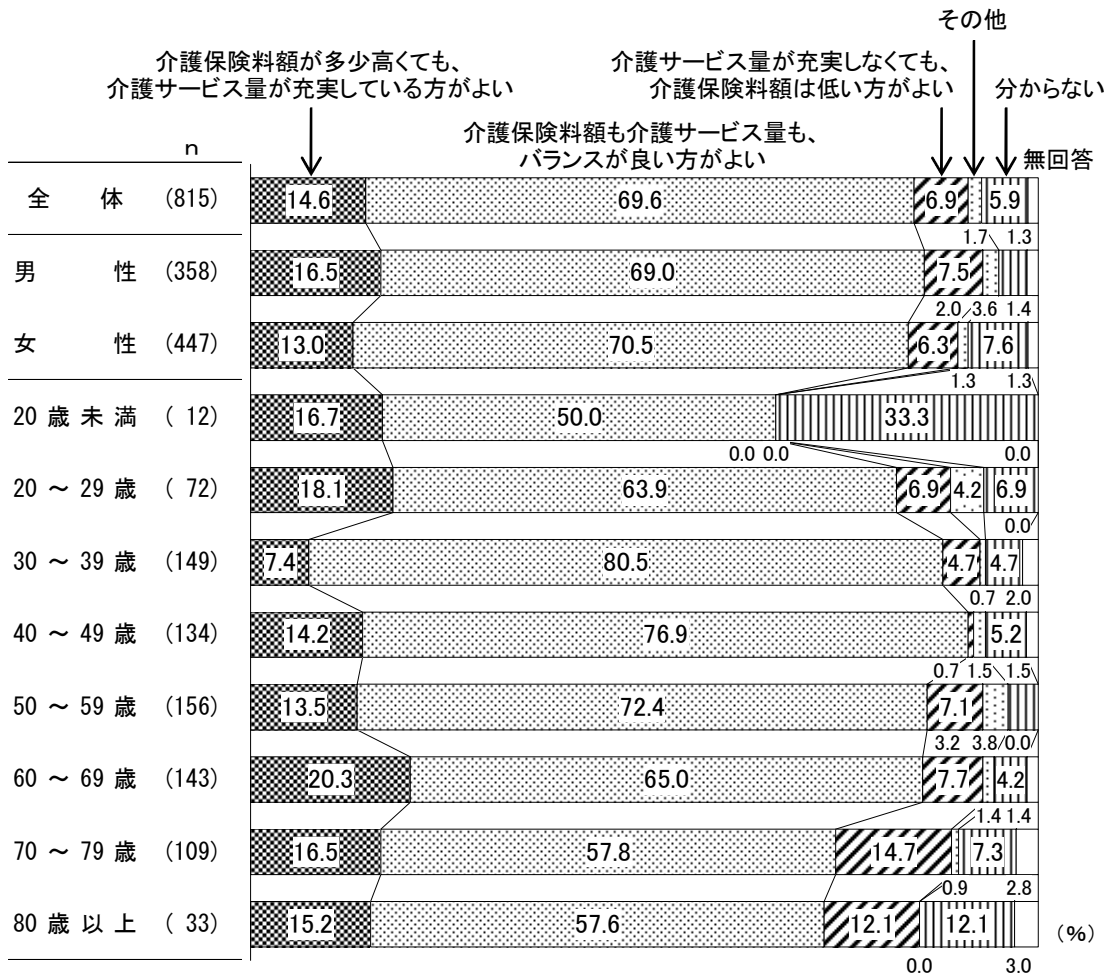
新規設問ではないが、選択肢の内容を変更しているため、経年変化は記載しないものとする。

【属性別】

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、30歳代で「介護保険料額も介護サービス量も、バランスが良い方がよい」(80.5%) がほぼ8割で他の年代より高くなっている。

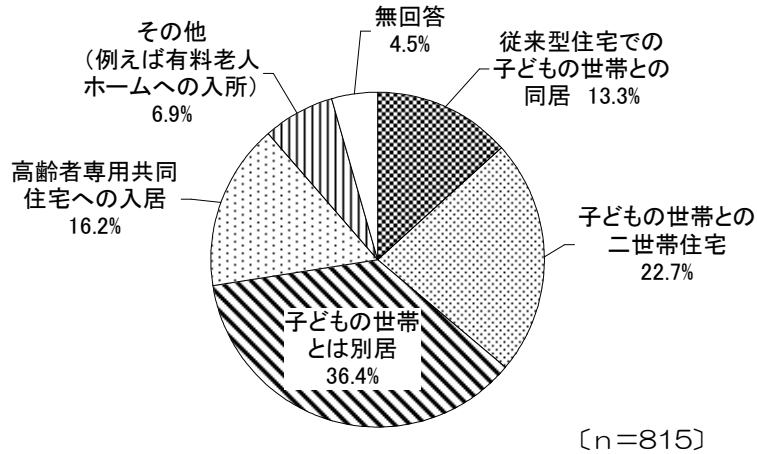
図4-1-2 介護保険料の金額設定—性別、年齢別



(2) 高齢時の居住形態 (A: 問6)

問. あなた自身が高齢になった場合、望む居住形態はどちらですか。
 (現在 65 歳以上の方はどのような居住形態を望んでいますか。)(1つだけ)

図4-2-1 高齢時の居住形態



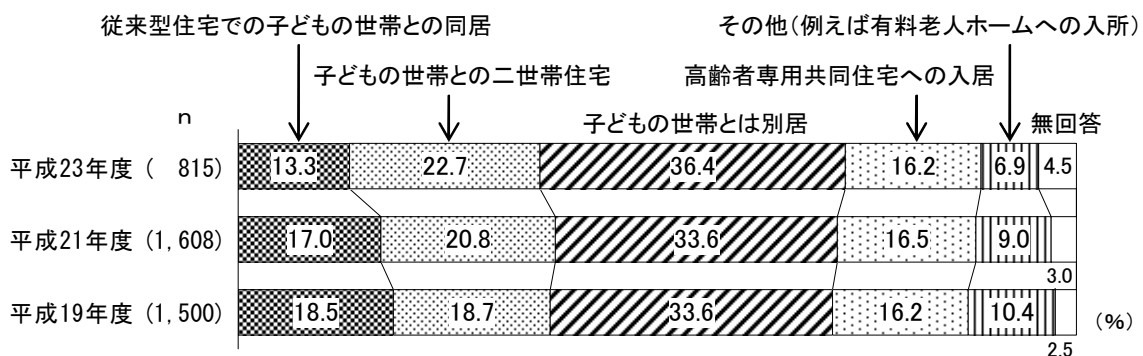
【全体】

高齢者の居住形態について聞いたところ、「子どもの世帯とは別居」(36.4%)が3割半ばで最も高くなっている。次いで、「子どもの世帯との二世帯住宅」(22.7%)、「高齢者専用共同住宅への入居」(16.2%)、「従来型住宅での子どもの世帯との同居」(13.3%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「従来型住宅での子どもの世帯との同居」が減少傾向、「子どもの世帯との二世帯住宅」が増加傾向となっている。

図4-2-2 高齢時の居住形態—経年変化

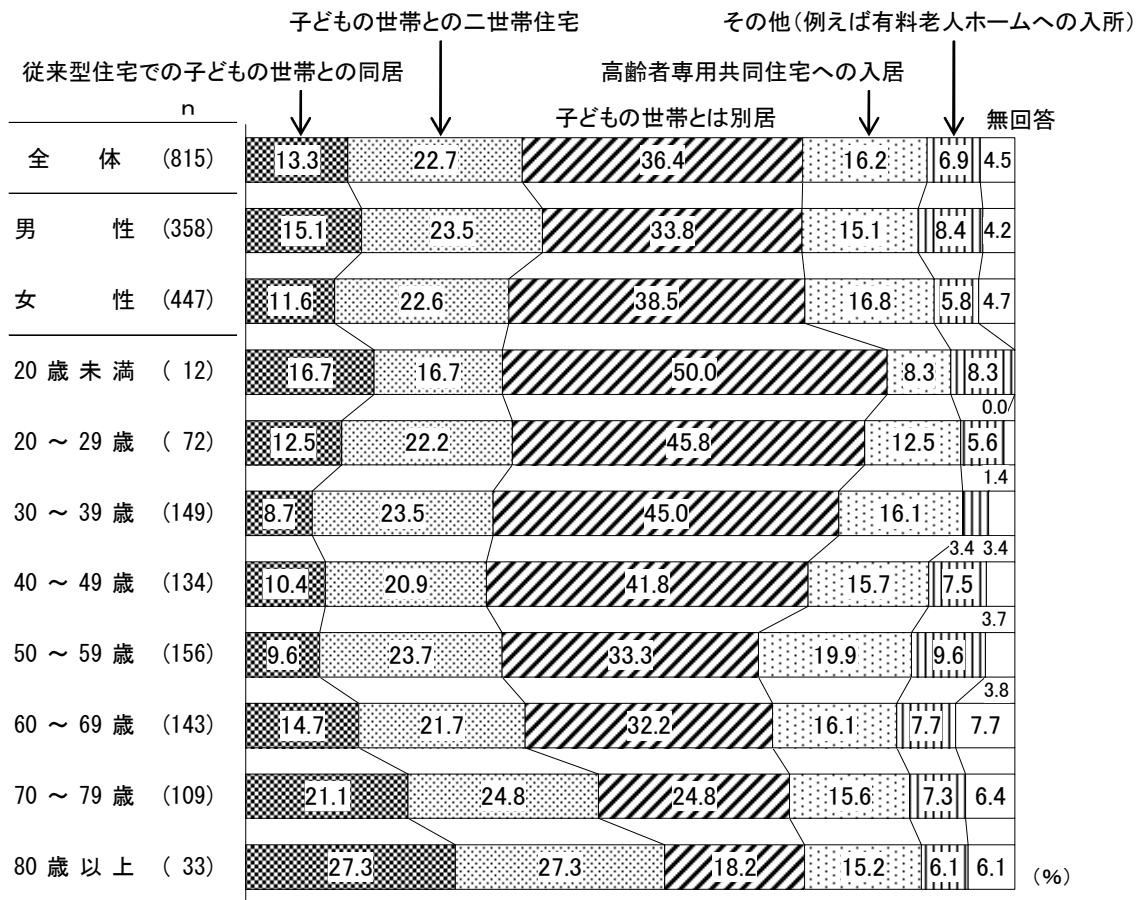


【属性別】

性別にみると、女性で「子どもの世帯とは別居」（38.5%）が男性より 4.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、80 歳以上で「従来型住宅での子どもの世帯との同居」（27.3%）が3割近くで他の年代より高くなっている。また、20 歳代と30 歳代で「子どもの世帯とは別居」（45.8%・45.0%）が4割半ばで他の年代より高く、年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

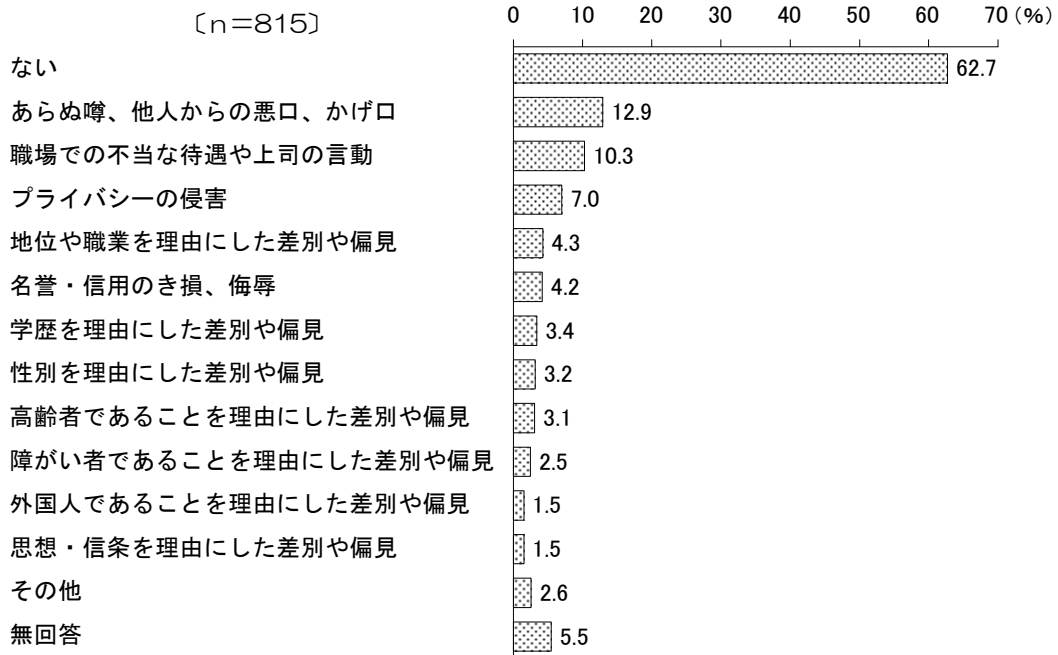
図 4-2-3 高齢時の居住形態—性別、年齢別



(3) 人権侵害を受けた経験 (A：問 13)

問. 自己的人権が侵害されたと思ったことがありますか。ある場合、それはどのような人権侵害ですか。(ある場合はいくつでも)

図4-3-1 人権侵害を受けた経験



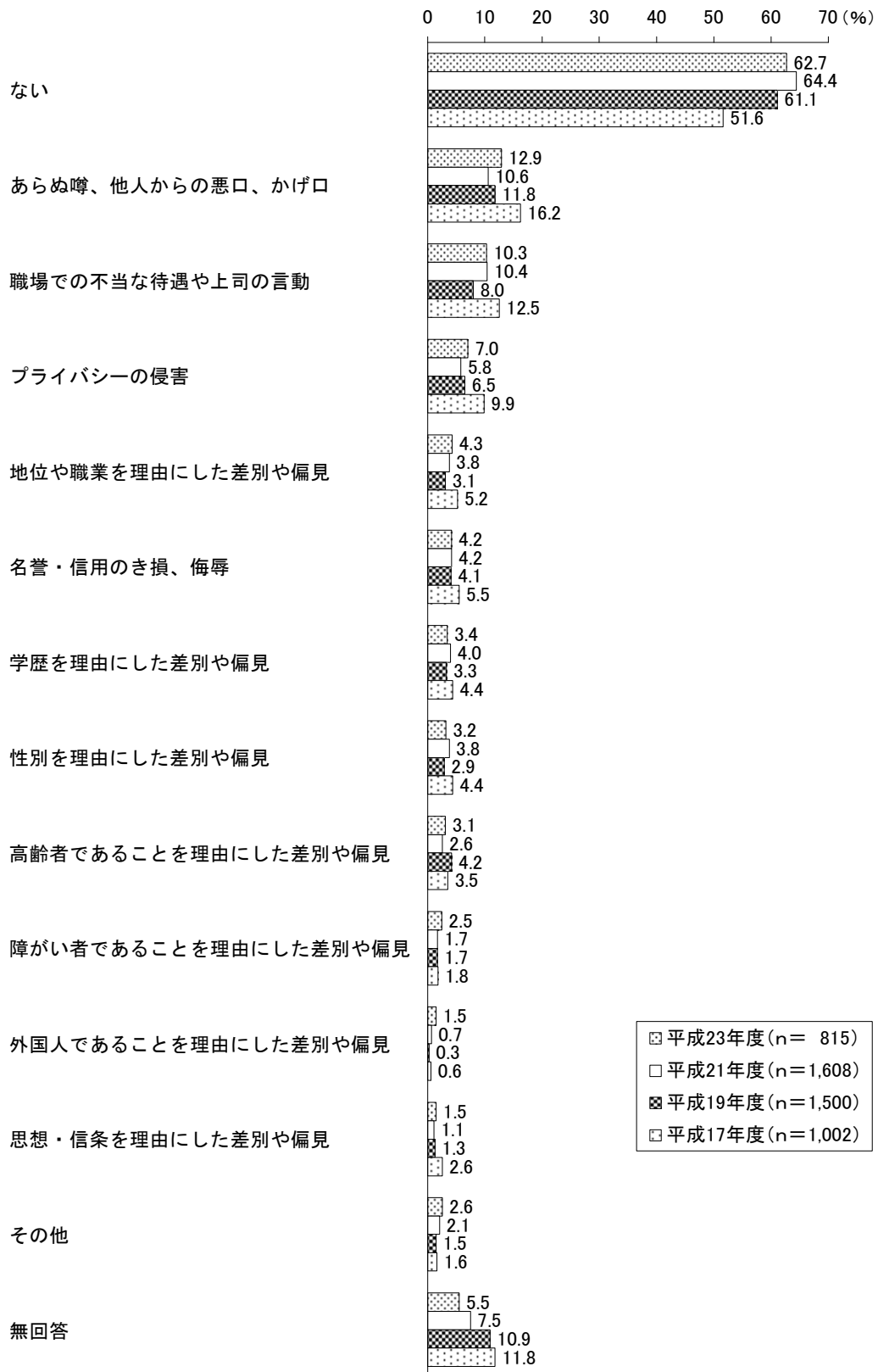
【全体】

人権侵害を受けた経験について聞いたところ、「ない」(62.7%)が6割を超えている。ある場合については、「あらぬ噂、他人からの悪口、かけ口」(12.9%)が最も高くなっている。次いで、「職場での不当な待遇や上司の言動」(10.3%)、「プライバシーの侵害」(7.0%)となっている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

図4-3-2 人権侵害を受けた経験—経年変化（複数回答）



【属性別】

性別にみると、男性で「ない」(71.2%) が7割を超え、女性より 15.5 ポイント高くなっている。一方、女性で「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」(17.4%) が男性より 10.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、ある場合については、30 歳代で「職場での不当な待遇や上司の言動」(19.5%) が2割で他の年代より高くなっている。

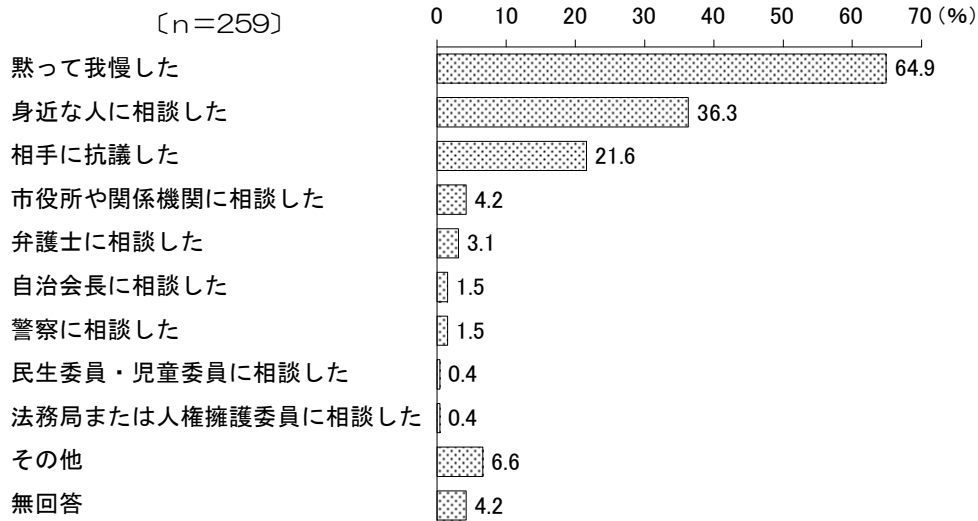
表4-3-1 人権侵害を受けた経験—性別、年齢別 (複数回答)

			(%)															
		n	ない	あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口	職場での不当な待遇や上司の言動	プライバシーの侵害	地位や職業を理由にした差別や偏見	名誉・信用のき損、侮辱	学歴を理由にした差別や偏見	性別を理由にした差別や偏見	高齢者であることや偏見	理由にした差別や偏見	障がい者であることや偏見	外国人であることや偏見	理由にした差別や偏見	思想・信条を理由にした差別や偏見	その他	無回答
全 体		815	62.7	12.9	10.3	7.0	4.3	4.2	3.4	3.2	3.1	2.5	1.5	1.5	1.5	2.6	5.5	
性別	男 性	358	71.2	7.3	8.4	3.4	4.7	2.2	3.1	0.3	2.0	1.7	0.8	1.1	2.2	5.0		
	女 性	447	55.7	17.4	12.1	9.8	4.0	5.6	3.8	5.6	4.0	2.9	2.0	1.8	2.9	6.0		
年齢別	20 歳 未 満	12	58.3	25.0	-	-	8.3	16.7	-	-	-	-	-	-	8.3	-	8.3	
	20 ~ 29 歳	72	56.9	20.8	11.1	8.3	5.6	2.8	2.8	5.6	-	4.2	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	
	30 ~ 39 歳	149	57.7	12.1	19.5	10.7	4.7	6.0	6.7	5.4	0.7	4.7	1.3	2.0	2.7	3.4	3.4	
	40 ~ 49 歳	134	64.9	14.2	14.2	8.2	4.5	6.0	1.5	4.5	-	3.0	3.0	1.5	3.7	0.7	0.7	
	50 ~ 59 歳	156	62.2	12.8	9.6	7.1	4.5	4.5	4.5	1.9	3.8	-	-	1.9	3.8	3.8	3.8	
	60 ~ 69 歳	143	65.7	11.2	7.7	4.9	4.2	3.5	0.7	2.1	4.9	2.8	2.1	-	1.4	7.7	7.7	
	70 ~ 79 歳	109	67.9	9.2	1.8	2.8	1.8	0.9	5.5	1.8	7.3	0.9	0.9	0.9	1.8	11.9	11.9	
	80 歳 以上	33	57.6	9.1	-	6.1	3.0	-	-	-	9.1	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	21.2	21.2

(4) 人権侵害を受けた時の対応 (A: 問 14)

問. 「ある」とお答えの方にお聞きします。人権侵害を受けた時、どのように対応されましたか。(ある場合はいくつでも)

図4-4-1 人権侵害を受けた時の対応



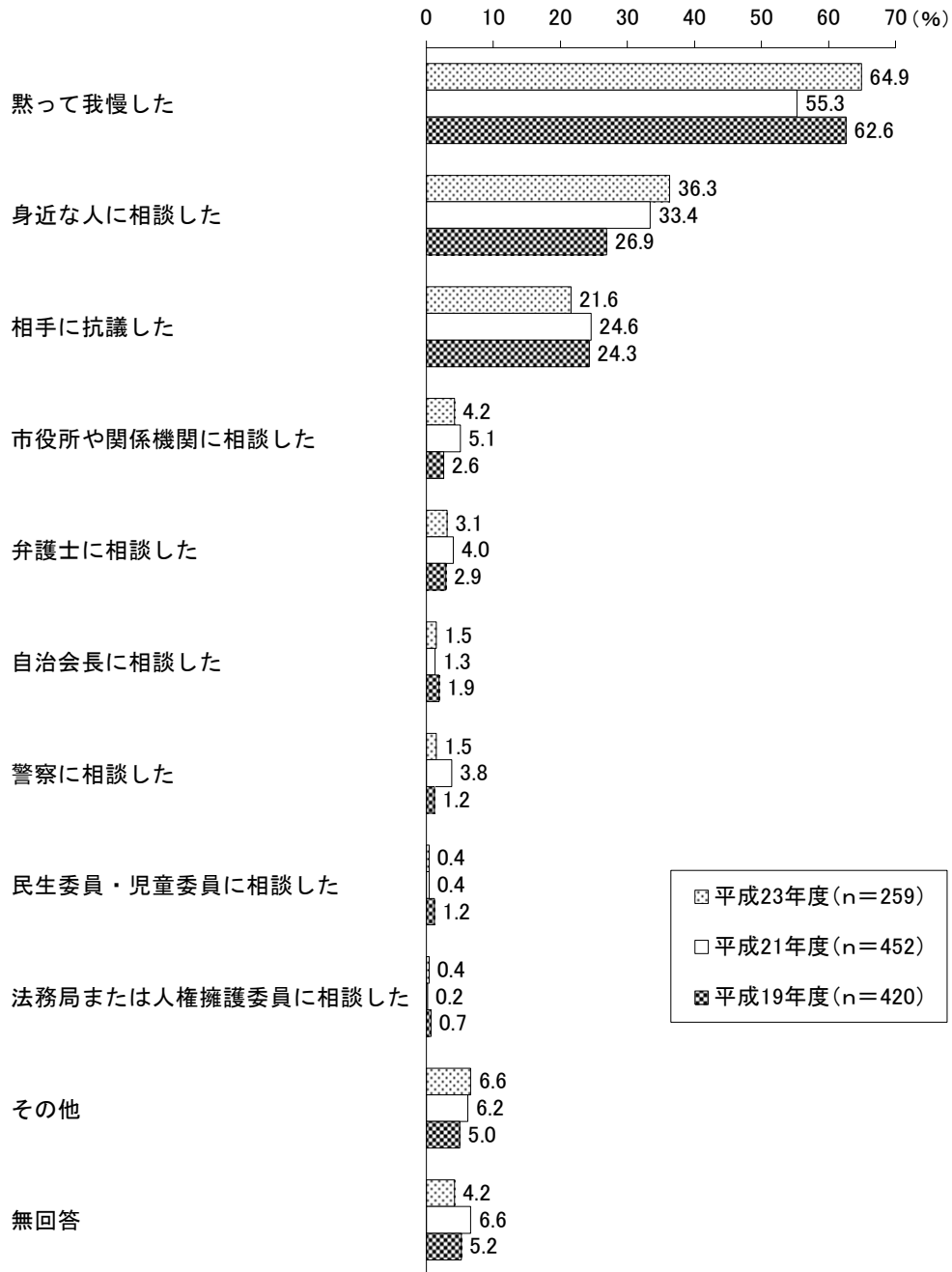
【全体】

自分の人権が侵害されたと思ったことが「ある」と答えた人(259人)に、人権侵害を受けた時の対応について聞いたところ、「黙って我慢した」(64.9%)が6割半ばで最も高くなっている。次いで、「身近な人に相談した」(36.3%)、「相手に抗議した」(21.6%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「黙って我慢した」が前回調査より9.6ポイント高くなっている。また、「身近な人に相談した」が増加傾向となっている。

図4-4-2 人権侵害を受けた時の対応—経年変化（複数回答）



【属性別】

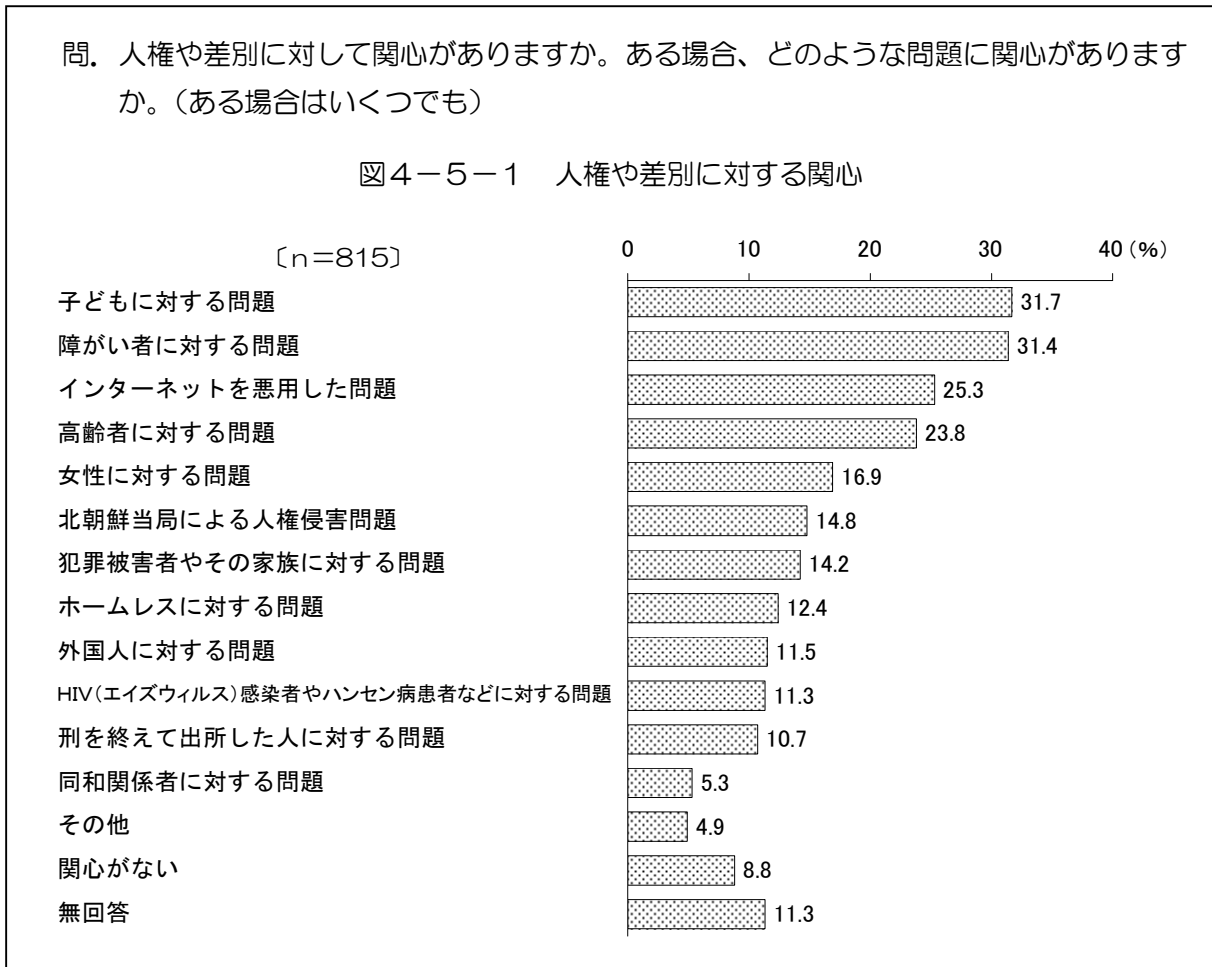
性別にみると、女性で「身近な人に相談した」（43.3%）が男性より 22.1 ポイント高くなっている。一方、男性で「黙って我慢した」（72.9%）が女性より 11.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「黙って我慢した」はおおむね年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。また、30 歳代で「身近な人に相談した」（50.0%）が5割で他の年代より高くなっている。

表4-4-1 人権侵害を受けた時の対応—性別、年齢別（複数回答）

			(%)										
		n	黙って我慢した	身近な人に相談した	相手に抗議した	相談した市役所や関係機関に	弁護士に相談した	自治会長に相談した	警察に相談した	民生委員・児童委員に相談した	法務局または人権擁護委員に相談した	その他	無回答
全 体		259	64.9	36.3	21.6	4.2	3.1	1.5	1.5	0.4	0.4	6.6	4.2
性別	男 性	85	72.9	21.2	20.0	3.5	4.7	1.2	1.2	-	1.2	10.6	1.2
	女 性	171	61.4	43.3	22.8	4.7	1.8	1.8	1.8	0.6	-	4.7	5.8
年齢別	20 歳 未 満	4	75.0	75.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20 ～ 29 歳	30	80.0	40.0	16.7	3.3	-	-	-	-	-	10.0	-
	30 ～ 39 歳	58	62.1	50.0	27.6	6.9	1.7	-	1.7	-	-	3.4	-
	40 ～ 49 歳	46	67.4	37.0	21.7	2.2	2.2	4.3	-	-	-	6.5	-
	50 ～ 59 歳	53	67.9	39.6	20.8	1.9	3.8	1.9	1.9	1.9	-	3.8	5.7
	60 ～ 69 歳	38	55.3	21.1	15.8	2.6	5.3	2.6	2.6	-	2.6	10.5	13.2
	70 ～ 79 歳	22	54.5	13.6	27.3	9.1	4.5	-	4.5	-	-	13.6	13.6
80 歳 以 上	7	57.1	14.3	14.3	14.3	14.3	-	-	-	-	-	-	

(5) 人権や差別に対する関心 (A: 問 15)



【全体】

人権や差別に対して関心がある場合、どのような問題に関心があるか聞いたところ、「関心がない」(8.8%)は1割未満にとどまっており、関心がある問題としては「子どもに対する問題」(31.7%)、「障がい者に対する問題」(31.4%)、「インターネットを悪用した問題」(25.3%)、「高齢者に対する問題」(23.8%)が上位となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「高齢者に対する問題」が前回調査より6.2ポイント低くなっている。

表4-5-1 人権や差別に対する関心—経年変化(複数回答)

順位	平成23年調査 (n=815)		平成21年調査 (n=1,608)		平成19年調査 (n=1,500)	
1	子どもに対する問題	31.7	高齢者に対する問題	30.0	高齢者に対する問題	29.4
2	障がい者に対する問題	31.4	障害者に対する問題	29.4	障害者に対する問題	27.8
3	インターネットを悪用した問題	25.3	子どもに対する問題	27.3	子どもに対する問題	26.4
4	高齢者に対する問題	23.8	北朝鮮当局による人権侵害問題	25.4	インターネットを悪用した問題	23.1
5	女性に対する問題	16.9	インターネットを悪用した問題	24.9	北朝鮮当局による人権侵害問題	19.2

【属性別】

性別にみると、女性で「女性に対する問題」(22.1%)が男性より11.8ポイント、「障がい者に対する問題」(36.0%)が男性より10.0ポイント、「子どもに対する問題」(35.1%)が男性より8.0ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、30歳代で「子どもに対する問題」(48.3%)が5割近くで他の年代より高く、20歳代で「障がい者に対する問題」(43.1%)が4割を超え、「女性に対する問題」(29.2%)がほぼ3割で他の年代より高くなっている。また、「女性に対する問題」はおおむね年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

表4-5-2 人権や差別に対する関心—性別、年齢別(複数回答)

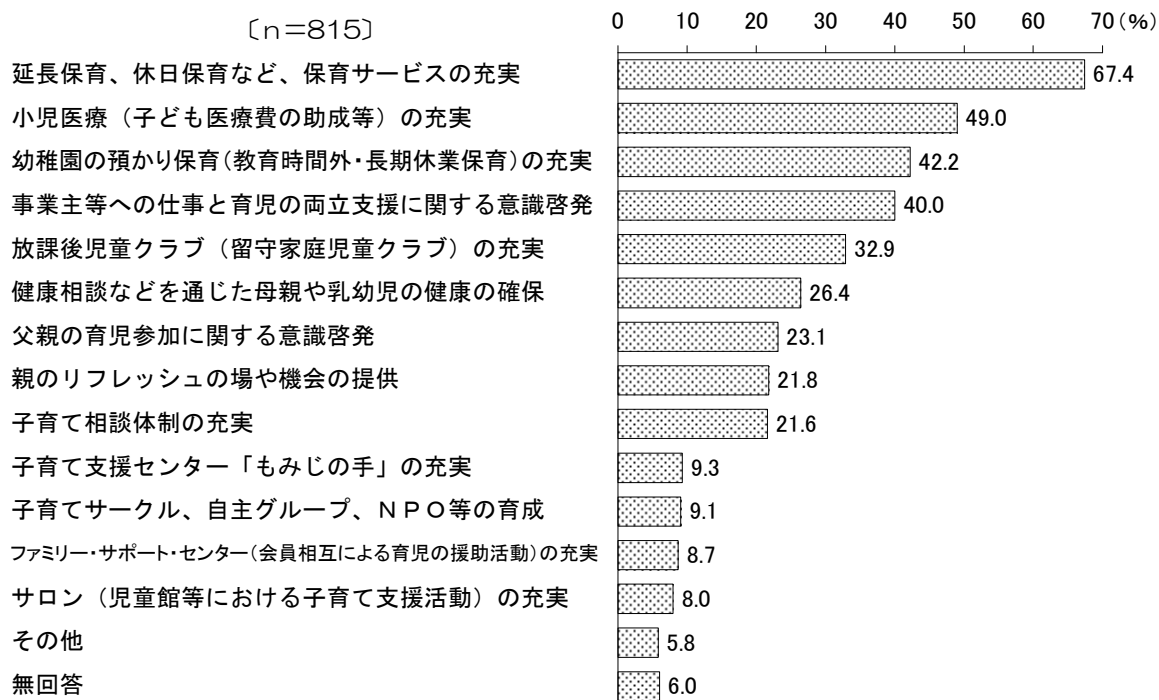
		n	子どもに対する問題	障がい者に対する問題	インターネットを悪用した問題	高齢者に対する問題	女性に対する問題	北朝鮮当局による人権侵害問題	犯罪被害者やその家族に対する問題	ホームレスに対する問題	外国人に対する問題	HIV(エイズウイルス)感染者やハンセン病患者などに対する問題	刑を終えて出所した人に対する問題	同和関係者に対する問題	その他	関心がない	無回答
全 体		815	31.7	31.4	25.3	23.8	16.9	14.8	14.2	12.4	11.5	11.3	10.7	5.3	4.9	8.8	11.3
性別	男 性	358	27.1	26.0	27.9	22.3	10.3	18.2	13.7	14.5	11.7	8.4	9.5	5.9	6.7	10.3	11.2
	女 性	447	35.1	36.0	23.5	25.1	22.1	12.3	15.0	10.7	11.2	13.4	11.6	4.9	3.6	7.4	11.4
年 齢 別	20歳未満	12	50.0	41.7	33.3	25.0	50.0	8.3	16.7	-	25.0	-	16.7	8.3	-	16.7	-
	20～29歳	72	41.7	43.1	34.7	25.0	29.2	9.7	18.1	18.1	19.4	18.1	11.1	5.6	2.8	6.9	2.8
	30～39歳	149	48.3	38.9	31.5	20.1	21.5	14.1	15.4	10.1	11.4	13.4	14.8	2.7	2.0	10.7	5.4
	40～49歳	134	39.6	32.1	28.4	21.6	22.4	10.4	17.9	8.2	17.9	11.9	10.4	8.2	6.0	6.0	5.2
	50～59歳	156	26.3	32.1	23.1	20.5	16.0	17.3	13.5	15.4	11.5	12.8	10.3	6.4	5.8	9.6	7.1
	60～69歳	143	19.6	28.7	23.1	28.0	9.8	18.9	13.3	13.3	4.9	9.1	9.8	5.6	9.1	10.5	9.1
	70～79歳	109	22.0	22.0	17.4	28.4	6.4	16.5	8.3	14.7	9.2	6.4	5.5	4.6	3.7	4.6	34.9
80歳以上	33	3.0	6.1	9.1	30.3	6.1	15.2	15.2	6.1	-	3.0	12.1	-	3.0	12.1	36.4	

5 男女共同参画社会の推進

(1) 子どもを産み育てられる環境（A：問 16）

問. 安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、何が必要であると思いますか。（5つまで）

図5-1-1 子どもを産み育てられる環境



【全体】

子どもを産み育てられる環境について聞いたところ、「延長保育、休日保育など、保育サービスの充実」（67.4%）が7割近くで最も高くなっている。次いで、「小児医療（子ども医療費の助成等）の充実」（49.0%）、「幼稚園の預かり保育（教育時間外・長期休業保育）の充実」（42.2%）となっている。

【経年変化】

前回調査との比較は、選択肢を一部追加したため、参考に掲載する。

表5-1-1 子どもを産み育てられる環境—経年変化（5つまでの複数回答）

順位	平成23年調査（n=815）		平成21年調査（n=1,608）		平成19年調査（n=1,500）	
	項目	(%)	項目	(%)	項目	(%)
1	延長保育、休日保育など、 保育サービスの充実	67.4	延長保育、休日保育など、 保育サービスの充実	64.6	小児医療の充実	38.7
2	小児医療（子ども医療費の 助成等）の充実	49.0	小児医療体制（小児救急医 療などの整備）の充実	59.6	子どもが安心して外出できる 環境の整備	37.7
3	幼稚園の預かり保育（教育時 間外・長期休業保育）の充実	42.2	事業主等への仕事と育児の 両立支援に関する意識啓発	41.0	保育サービスの充実	35.1
4	事業主等への仕事と育児の 両立支援に関する意識啓発	40.0	放課後児童クラブ（留守家 庭児童クラブ）の充実	35.6	安心・安全のまちづくりの 推進	33.3
5	放課後児童クラブ（留守家 庭児童クラブ）の充実	32.9	健康相談などを通じた母親 や乳幼児の健康の確保	29.7	職業生活と家庭生活の両立 の支援	27.4

（注）平成23年度調査と平成21年度調査では選択可能数が5つまで、平成19年度調査では選択可能数が3つまでとしていた。

【属性別】

性別にみると、女性で「父親の育児参加に関する意識啓発」(26.0%)が男性より6.4ポイント、「放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実」(35.6%)が男性より5.7ポイント、「事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発」(42.5%)が男性より4.5ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると、30歳代で「小児医療(子ども医療費の助成等)の充実」(63.8%)が6割を超え他の年代より高くなっている。また、20歳代で「幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実」(54.2%)が5割半ば、20歳代・40歳代で「親のリフレッシュの場や機会の提供」(34.7%・31.3%)が3割台で他の年代より高くなっている。

表5-1-2 子どもを産み育てられる環境—性別、年齢別(5つまでの複数回答)

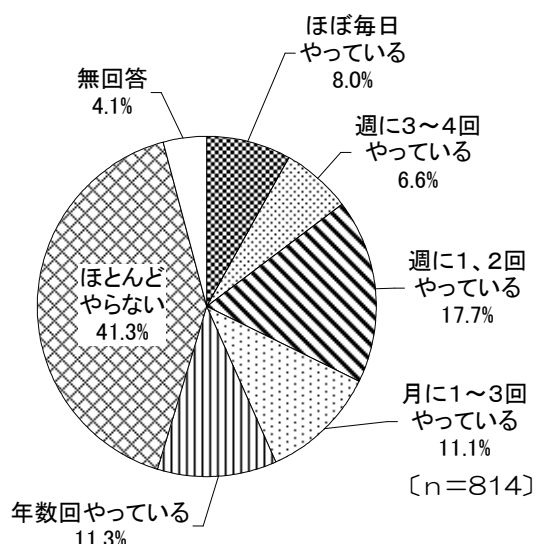
		n	延長保育、休日保育など、保育サービスの充実	小児医療(子ども医療費の助成等)の充実	幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実	事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実	健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の確保	父親の育児参加に関する意識啓発	親のリフレッシュの場や機会の提供	子育て相談体制の充実	子育て支援センター「もみじの手」の充実	等々の育成	相互による育児の援助活動)の充実	サロン(児童館等における子育て支援活動)の充実	その他	無回答
			(%)														
全 体		815	67.4	49.0	42.2	40.0	32.9	26.4	23.1	21.8	21.6	9.3	9.1	8.7	8.0	5.8	6.0
性別	男 性	358	69.0	48.3	43.6	38.0	29.9	26.3	19.6	20.4	20.4	10.1	10.1	8.1	7.8	8.9	6.1
	女 性	447	66.7	49.7	41.4	42.5	35.6	26.4	26.0	23.3	22.4	8.5	8.1	9.4	7.6	3.4	5.8
年 齢 別	20歳未満	12	83.3	25.0	75.0	25.0	16.7	41.7	25.0	33.3	25.0	16.7	8.3	-	-	8.3	-
	20～29歳	72	75.0	56.9	54.2	38.9	30.6	25.0	33.3	34.7	19.4	2.8	13.9	5.6	6.9	12.5	2.8
	30～39歳	149	69.8	63.8	40.3	45.0	36.2	24.8	28.9	26.2	28.2	4.0	10.7	10.1	8.1	4.0	-
	40～49歳	134	67.2	58.2	34.3	41.0	28.4	21.6	25.4	31.3	18.7	9.7	7.5	10.4	4.5	6.0	2.2
	50～59歳	156	69.2	44.2	48.1	40.4	34.6	27.6	19.9	12.2	24.4	12.2	11.5	10.9	7.7	6.4	2.6
	60～69歳	143	65.0	44.1	46.2	43.4	39.9	27.3	20.3	17.5	20.3	9.1	5.6	9.1	7.0	6.3	7.0
	70～79歳	109	59.6	32.1	33.9	33.9	26.6	26.6	18.3	13.8	17.4	15.6	6.4	6.4	12.8	1.8	20.2
80歳以上	33	60.6	30.3	27.3	30.3	27.3	39.4	12.1	24.2	15.2	9.1	6.1	3.0	15.2	3.0	24.2	

6 スポーツ

(1) スポーツをする頻度 (B:問8)

問. あなたは、スポーツ(運動)をどの程度やっていますか。(1つだけ)

図6-1-1 スポーツをする頻度



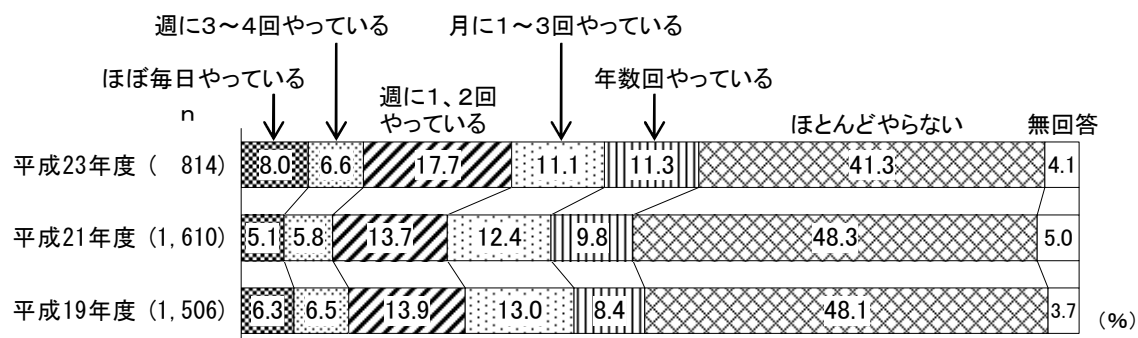
【全体】

スポーツをする頻度を聞いたところ、「ほとんどやらない」(41.3%)が4割を超え最も高くなっている。次いで、「週に1,2回やっている」(17.7%)、「年数回やっている」(11.3%)、「月に1~3回やっている」(11.1%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「ほとんどやらない」が前回調査より7.0ポイント低くなっている。

図6-1-2 スポーツをする頻度—経年変化



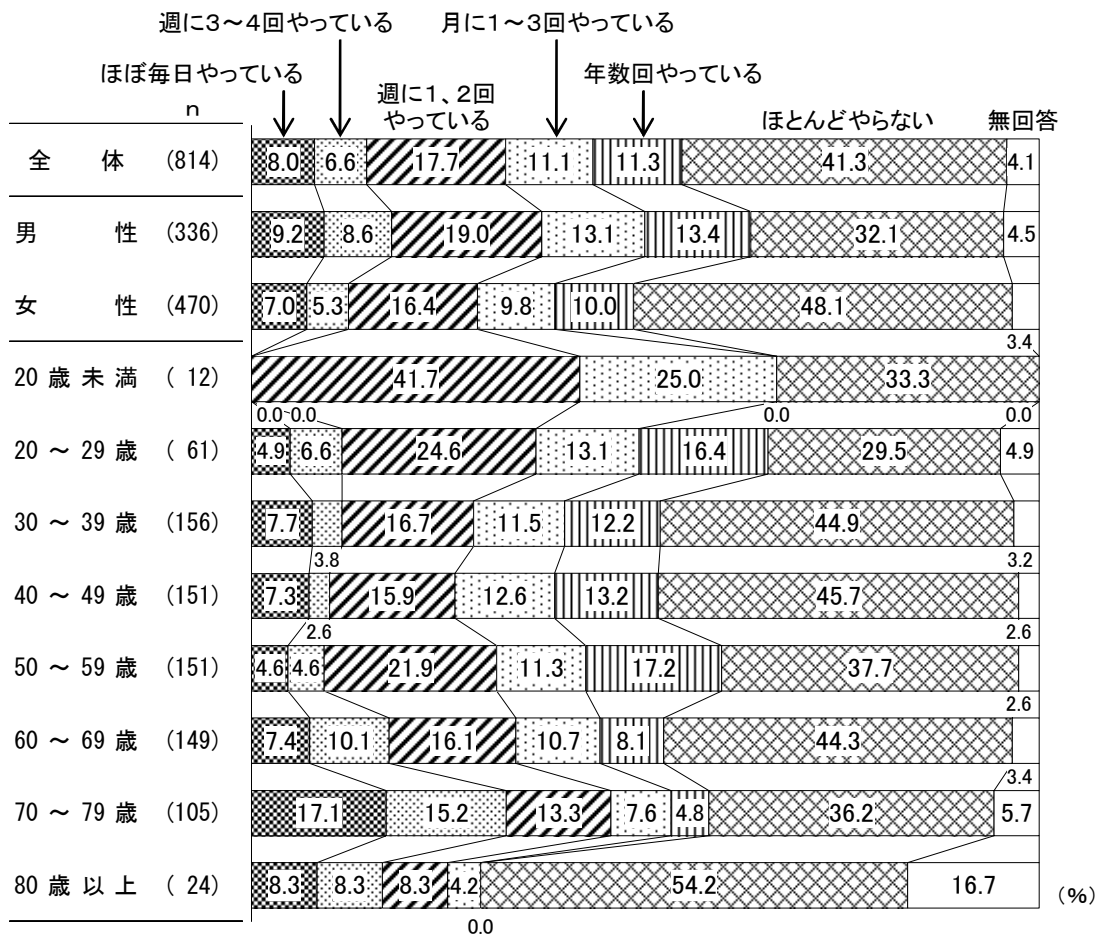
(注)「週に3~4回やっている」は、平成19年度調査では「週に3~5回程度やっている」としていた。

【属性別】

性別にみると、女性で「ほとんどやらない」（48.1%）が男性より 16.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70 歳代で「ほぼ毎日やっている」（17.1%）が2割近く、「週に3～4回やっている」（15.2%）が1割半ばで他の年代より高くなっている。

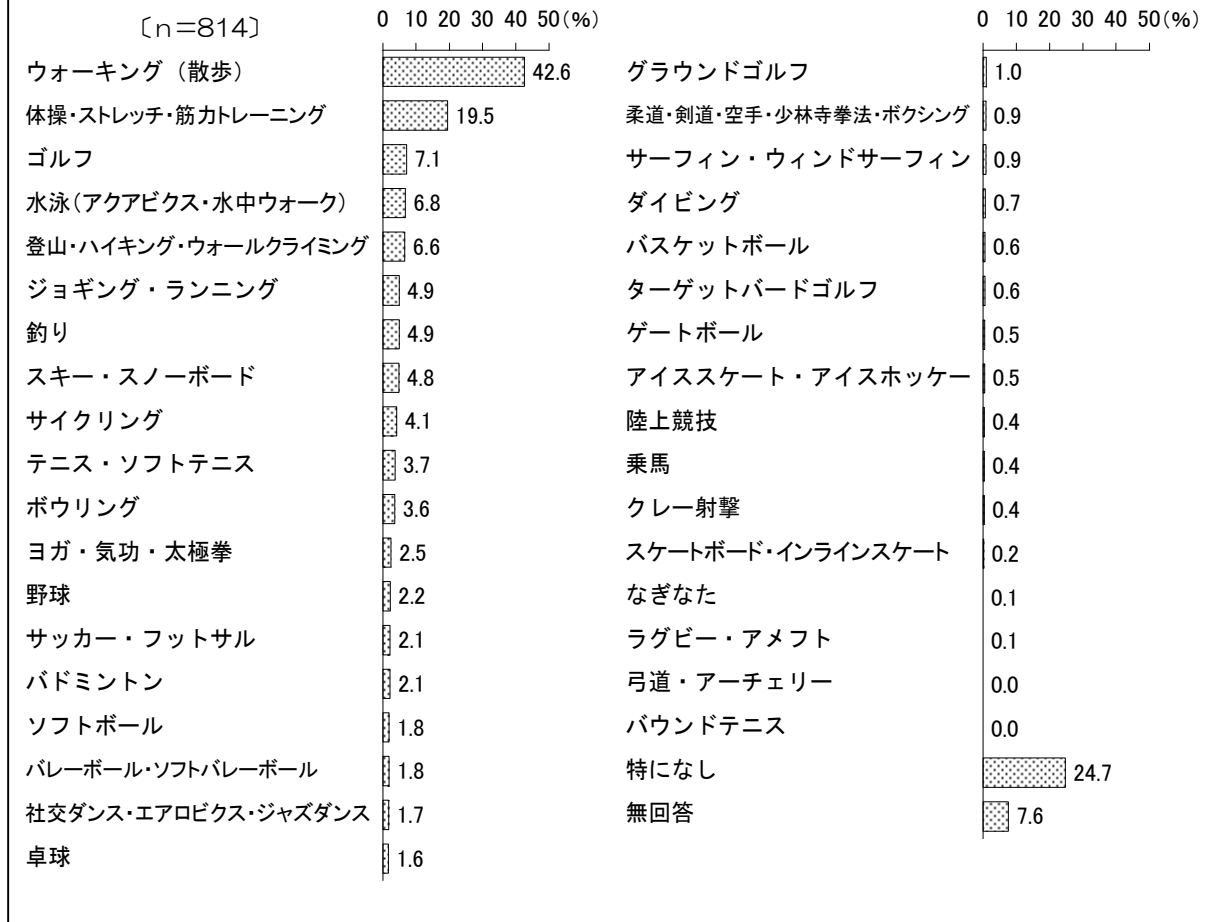
図6-1-3 スポーツをする頻度—性別、年齢別



(2) 取り組んでいるスポーツの種目 (B: 問9)

問. 現在、あなたがやっているスポーツの種目を教えてください。(いくつでも)

図6-2-1 取り組んでいるスポーツの種目



【全体】

取り組んでいるスポーツの種目について聞いたところ、「ウォーキング (散歩)」(42.6%) が4割を超え最も高くなっている。次いで、「体操・ストレッチ・筋力トレーニング」(19.5%)、「ゴルフ」(7.1%)、「水泳 (アクアビクス・水中ウォーク)」(6.8%)、「登山・ハイキング・ウォールクライミング」(6.6%) となっている。

【経年変化】

前回調査との比較は、選択肢が異なるため、参考に掲載する。

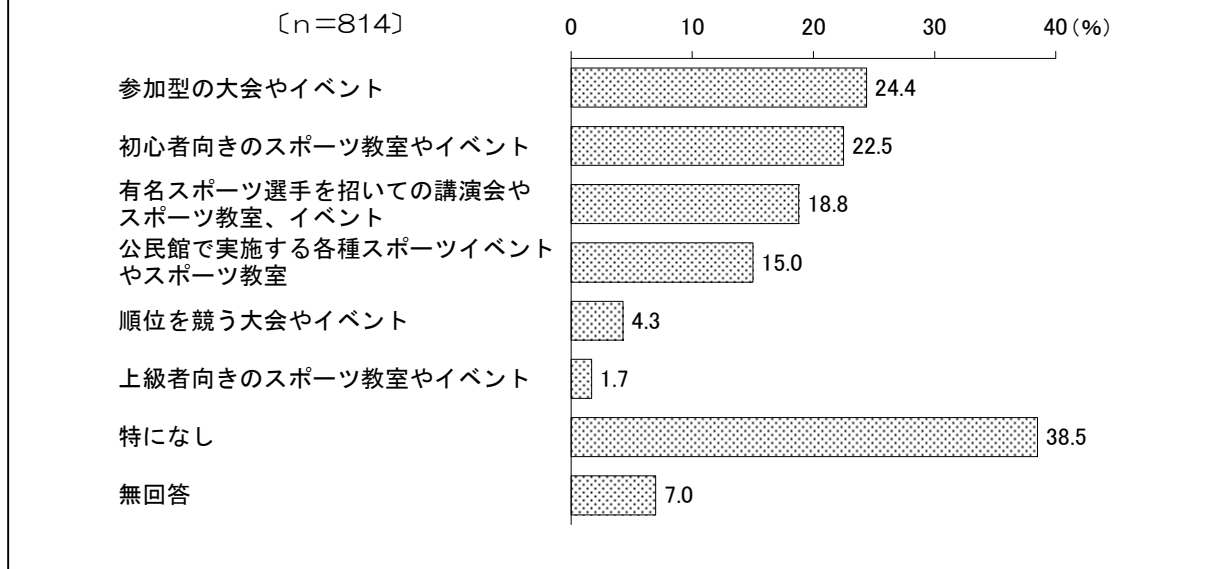
表6-2-1 取り組んでいるスポーツの種目—経年変化（複数回答）

順位	平成23年度（n=814）		平成21年調査（n=1,610）	
1	ウォーキング（散歩）	42.6	ウォーキング・散歩	34.7
2	体操・ストレッチ・筋力トレーニング	19.5	体操・ストレッチ	13.3
3	ゴルフ	7.1	ゴルフ	8.2
4	水泳（アクアビクス・水中ウォーク）	6.8	ジョギング・ランニング	7.1
5	登山・ハイキング・ウォールクライミング	6.6	水泳	6.8

(3) 参加してみたいスポーツイベント (B:問7)

問. あなたが、今度、参加してみたいと思うスポーツイベントがあれば教えてください。
(いくつでも)

図6-3-1 参加してみたいスポーツイベント



【全体】

参加してみたいスポーツイベントについて聞いたところ、「特になし」(38.5%)が4割近くで最も高くなっている。参加してみたいものとしては、「参加型の大会やイベント」(24.4%)が最も高く、「初心者向きのスポーツ教室やイベント」(22.5%)、「有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント」(18.8%)と続いている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、参加してみたいものとしては「参加型の大会やイベント」が前回調査より5.6ポイント高くなり、1位となっている。

表6-3-1 参加してみたいスポーツイベント—経年変化(複数回答)

順位	平成23年度 (n=814)		平成21年調査 (n=1,610)		平成19年調査 (n=1,506)	
	イベント	(%)	イベント	(%)	イベント	(%)
1	参加型の大会やイベント	24.4	初心者向きのスポーツ教室やイベント	22.5	初心者を対象としたスポーツ大会やイベント	20.2
2	初心者向きのスポーツ教室やイベント	22.5	参加型の大会やイベント	18.8	有名スポーツ選手を招いて行うスポーツに関する講演やスポーツ教室、イベント	16.1
3	有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント	18.8	有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント	18.3	公民館で実施する各種スポーツイベントやスポーツ教室	12.4
4	公民館で実施する各種スポーツイベントやスポーツ教室	15.0	公民館で実施する各種スポーツイベントやスポーツ教室	14.2	勝敗を競うことを主な目的としない大会やイベント	10.5
5	順位を競う大会やイベント	4.3	順位を競う大会やイベント	4.5	勝敗を競うことを主な目的とした大会やイベント	6.8

【属性別】

性別にみると、女性で「初心者向けのスポーツ教室やイベント」(27.2%)が男性より 11.1ポイント高くなっている。一方、男性で「参加型の大会やイベント」(29.8%)が女性より 8.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20歳代・40歳代で「有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント」(24.6%・25.2%)が2割半ばで他の年代より高くなっている。また、50歳代で「公民館で実施する各種スポーツイベントやスポーツ教室」(21.2%)が2割を超え他の年代より高くなっている。

表6-3-2 参加してみたいスポーツイベント—性別、年齢別（複数回答）

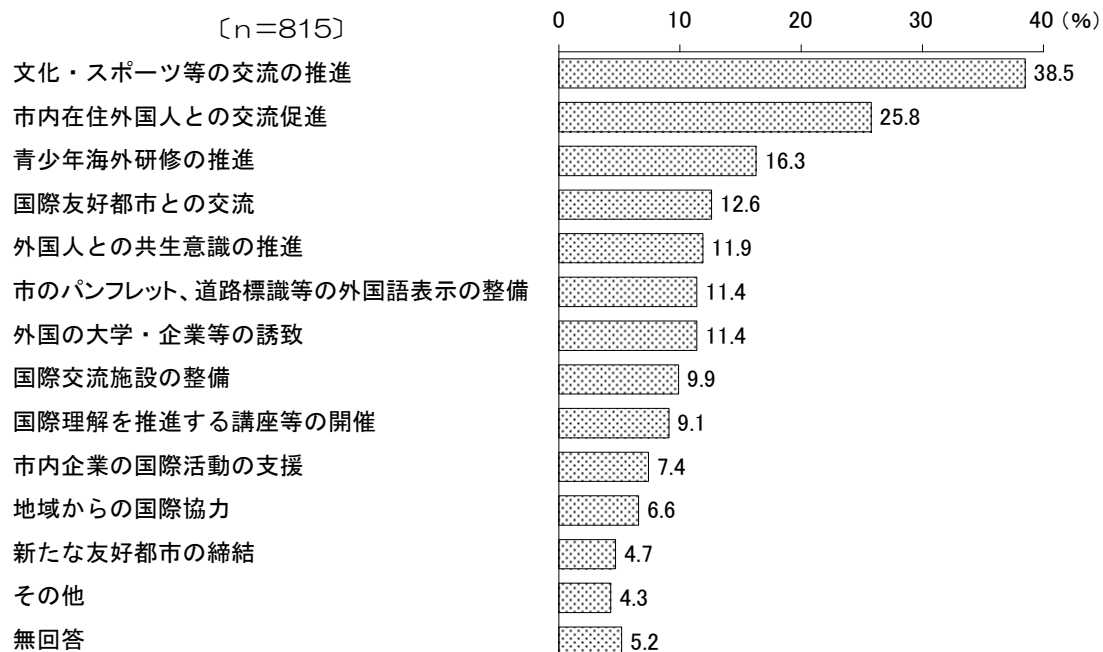
			参加型の大会やイベント	初心者向けのスポーツ教室やイベント	会や有名スポーツ選手を招いての講演	公民館で実施する各種スポーツ	順位を競う大会やイベント	上級者向けのスポーツ教室やイベント	特になし	無回答
		n								(%)
全 体		814	24.4	22.5	18.8	15.0	4.3	1.7	38.5	7.0
性別	男 性	336	29.8	16.1	19.0	12.2	6.5	2.4	36.6	7.1
	女 性	470	20.9	27.2	18.7	17.2	2.8	1.3	39.8	6.4
年齢別	20歳未満	12	16.7	41.7	41.7	8.3	16.7	16.7	25.0	-
	20～29歳	61	29.5	24.6	24.6	4.9	4.9	3.3	31.1	6.6
	30～39歳	156	30.8	28.2	22.4	14.7	9.6	1.3	28.2	4.5
	40～49歳	151	23.2	29.1	25.2	17.2	2.6	0.7	38.4	2.6
	50～59歳	151	30.5	19.2	21.2	21.2	2.6	4.0	37.7	4.6
	60～69歳	149	19.5	19.5	11.4	13.4	2.7	0.7	45.0	10.1
	70～79歳	105	18.1	14.3	8.6	13.3	1.9	-	48.6	13.3
80歳以上	24	4.2	4.2	4.2	12.5	4.2	-	54.2	16.7	

7 国際交流

(1) 国際交流の取組 (A: 問 12)

問. 国際化に対応するために、どのような取組が必要だと思いますか。(2つまで)

図7-1-1 国際交流の取組



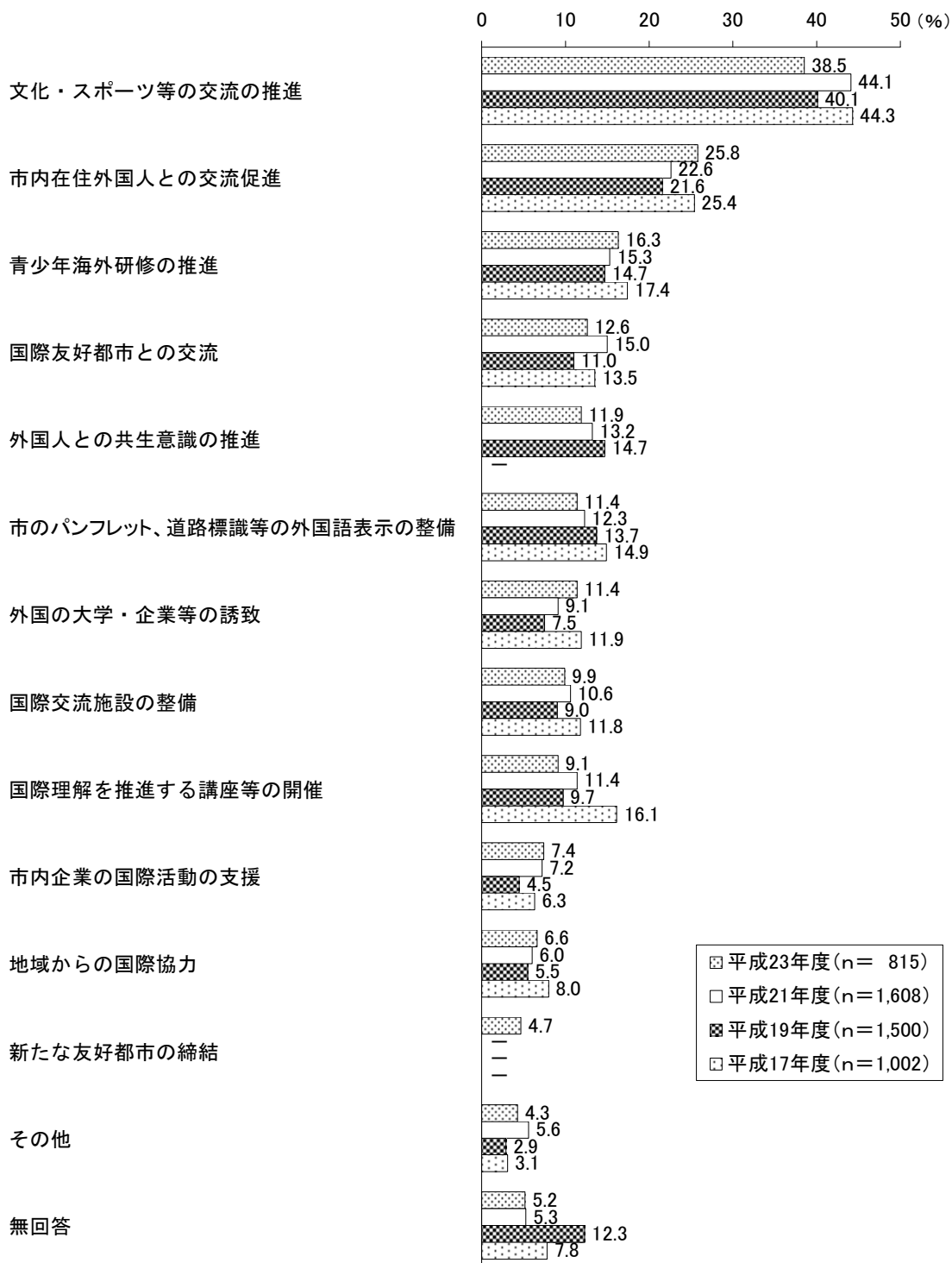
【全体】

国際交流の取組について聞いたところ、「文化・スポーツ等の交流の推進」(38.5%)が4割近くで最も高くなっている。次いで、「市内在住外国人との交流促進」(25.8%)、「青少年海外研修の推進」(16.3%)、「国際友好都市との交流」(12.6%)となっている。

【経年変化】

「文化・スポーツ等の交流の推進」は、前回調査、前々回調査、前々々回調査では4割以上であったが、前回調査より5.6ポイント低くなっている。また、「外国人との共生意識の推進」と「市のパンフレット、道路標識等の外国語表示の整備」が減少傾向となっている。

図7-1-2 国際交流の取組—経年変化（2つまでの複数回答）



(注) 平成23年度調査では、「新たな友好都市の締結」が選択肢に追加されている。

【属性別】

性別にみると、男性で「外国の大学・企業等の誘致」（14.2%）が女性より5.3ポイント高く、「文化・スポーツ等の交流の推進」（41.3%）が女性より5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、80歳以上で「国際友好都市との交流」（24.2%）が2割半ばで他の年代より高くなっている。

表7-1-1 国際交流の取組—性別、年齢別（2つまでの複数回答）

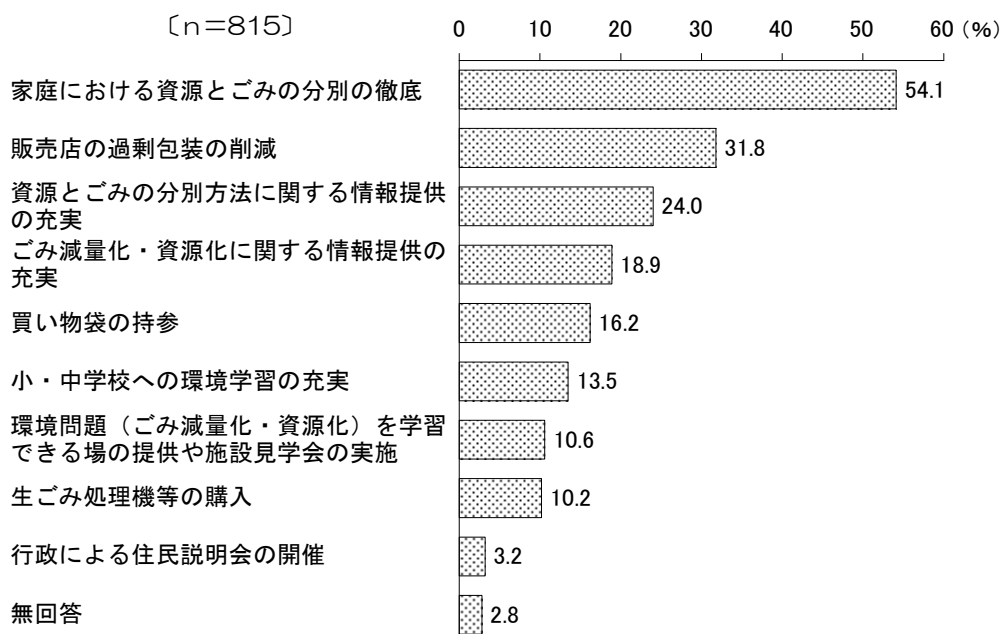
		n	文化・スポーツ等の交流の推進	市内在住外国人との交流促進	青少年海外研修の推進	国際友好都市との交流	外国人との共生意識の推進	市の国際交流の推進	外国の大学・企業等の誘致	国際交流施設の整備	国際理解を推進する講座等の開催	市内企業の国際活動の支援	地域からの国際協力	新たな友好都市の締結	その他	無回答
全体		815	38.5	25.8	16.3	12.6	11.9	11.4	11.4	9.9	9.1	7.4	6.6	4.7	4.3	5.2
性別	男性	358	41.3	25.4	15.6	11.5	12.0	10.6	14.2	10.9	10.1	8.1	8.1	4.2	4.7	2.5
	女性	447	36.2	26.4	17.2	13.9	11.9	11.9	8.9	9.2	8.5	6.9	5.4	4.9	4.0	6.9
年齢別	20歳未満	12	50.0	8.3	16.7	16.7	33.3	25.0	-	8.3	16.7	-	8.3	8.3	-	-
	20～29歳	72	34.7	26.4	12.5	11.1	13.9	15.3	12.5	9.7	9.7	9.7	8.3	2.8	8.3	2.8
	30～39歳	149	41.6	28.2	9.4	15.4	10.7	13.4	15.4	5.4	7.4	6.7	6.0	6.7	6.0	2.7
	40～49歳	134	44.0	24.6	19.4	14.9	11.9	11.2	13.4	11.9	9.7	6.7	4.5	2.2	3.0	0.7
	50～59歳	156	38.5	29.5	17.3	12.2	13.5	11.5	9.6	11.5	7.7	7.7	3.8	5.8	4.5	3.2
	60～69歳	143	30.8	29.4	18.9	8.4	12.6	8.4	9.8	13.3	11.9	9.8	7.0	4.2	4.9	5.6
	70～79歳	109	45.9	22.0	19.3	10.1	6.4	7.3	10.1	8.3	8.3	5.5	9.2	2.8	0.9	14.7
80歳以上	33	21.2	6.1	21.2	24.2	9.1	9.1	6.1	9.1	9.1	6.1	15.2	12.1	3.0	15.2	

8 環境

(1) ごみの減量化・資源化の推進 (A: 問 17)

問. ごみの減量化・資源化システムを推進する上で、あなたが特に重要と思われることは何ですか。(2つまで)

図8-1-1 ごみの減量化・資源化の推進



【全体】

ごみの減量化・資源化システムを推進する上で重要と思うことについて聞いたところ、「家庭における資源とごみの分別の徹底」(54.1%)が5割半ばで最も高くなっている。次いで、「販売店の過剰包装の削減」(31.8%)、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(24.0%)、「ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実」(18.9%)となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化はなし。

【属性別】

性別にみると、女性で「買い物袋の持参」（19.9％）が男性より9.0ポイント高く、「販売店の過剰包装の削減」（34.2％）が男性より5.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、60歳代・70歳代で「家庭における資源とごみの分別の徹底」（65.0％・65.1％）が6割半ばで他の年代より高くなっている。また、20歳代で「小・中学校への環境学習の充実」（26.4％）が2割半ばで他の年代より高くなっている。

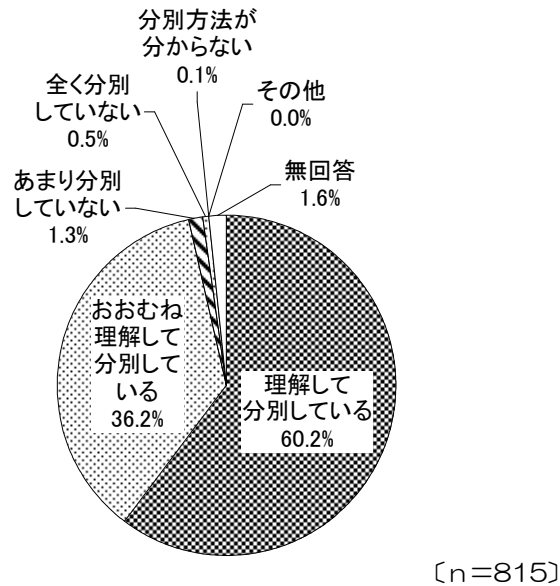
表8-1-1 ごみの減量化・資源化の推進—性別、年齢別（2つまでの複数回答）

		n	家庭における資源とごみの分別の徹底	販売店の過剰包装の削減	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	買い物袋の持参	小・中学校への環境学習の充実	できる場の提供や施設見学会の実施（環境問題（ごみ減量化・資源化）を学習）	生ごみ処理機等の購入	行政による住民説明会の開催	無回答
全 体		815	54.1	31.8	24.0	18.9	16.2	13.5	10.6	10.2	3.2	2.8
性別	男 性	358	55.6	28.5	24.9	18.4	10.9	13.7	12.0	11.7	5.6	2.8
	女 性	447	52.8	34.2	23.5	19.7	19.9	13.6	9.6	8.9	1.3	2.9
年 齢 別	20歳未満	12	50.0	16.7	25.0	16.7	50.0	25.0	-	-	-	-
	20～29歳	72	37.5	41.7	23.6	11.1	22.2	26.4	8.3	8.3	1.4	4.2
	30～39歳	149	43.0	34.9	26.8	24.2	14.8	18.8	10.7	12.8	-	1.3
	40～49歳	134	54.5	32.8	29.1	20.9	10.4	9.0	9.7	9.7	7.5	1.5
	50～59歳	156	55.1	34.6	24.4	14.1	12.8	10.3	12.8	13.5	5.1	1.9
	60～69歳	143	65.0	25.2	17.5	23.8	16.1	15.4	9.1	7.7	2.1	2.8
	70～79歳	109	65.1	20.2	26.6	15.6	21.1	9.2	13.8	7.3	3.7	4.6
80歳以上	33	54.5	42.4	12.1	21.2	15.2	-	9.1	12.1	-	12.1	

(2) 資源とごみの分別 (A: 問 18)

問. 資源とごみの分別方法を理解し、積極的に分別していますか。(1つだけ)

図8-2-1 資源とごみの分別



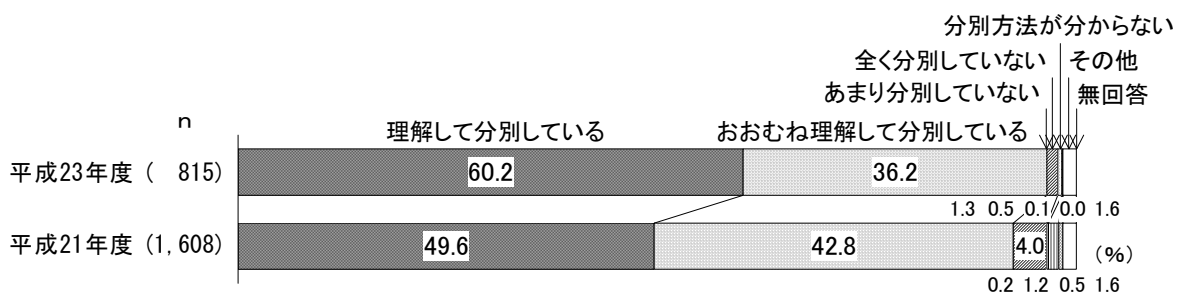
【全体】

資源とごみの分別について聞いたところ、「理解して分別している」(60.2%)が6割、「おおむね理解して分別している」(36.2%)が3割半ばとなっており、これらを合わせた『分別している』(96.4%)が9割半ばとなっている。

【経年変化】

前回調査との比較をみると、「理解して分別している」が10.6ポイント高くなっている。

図8-2-2 資源とごみの分別—経年変化

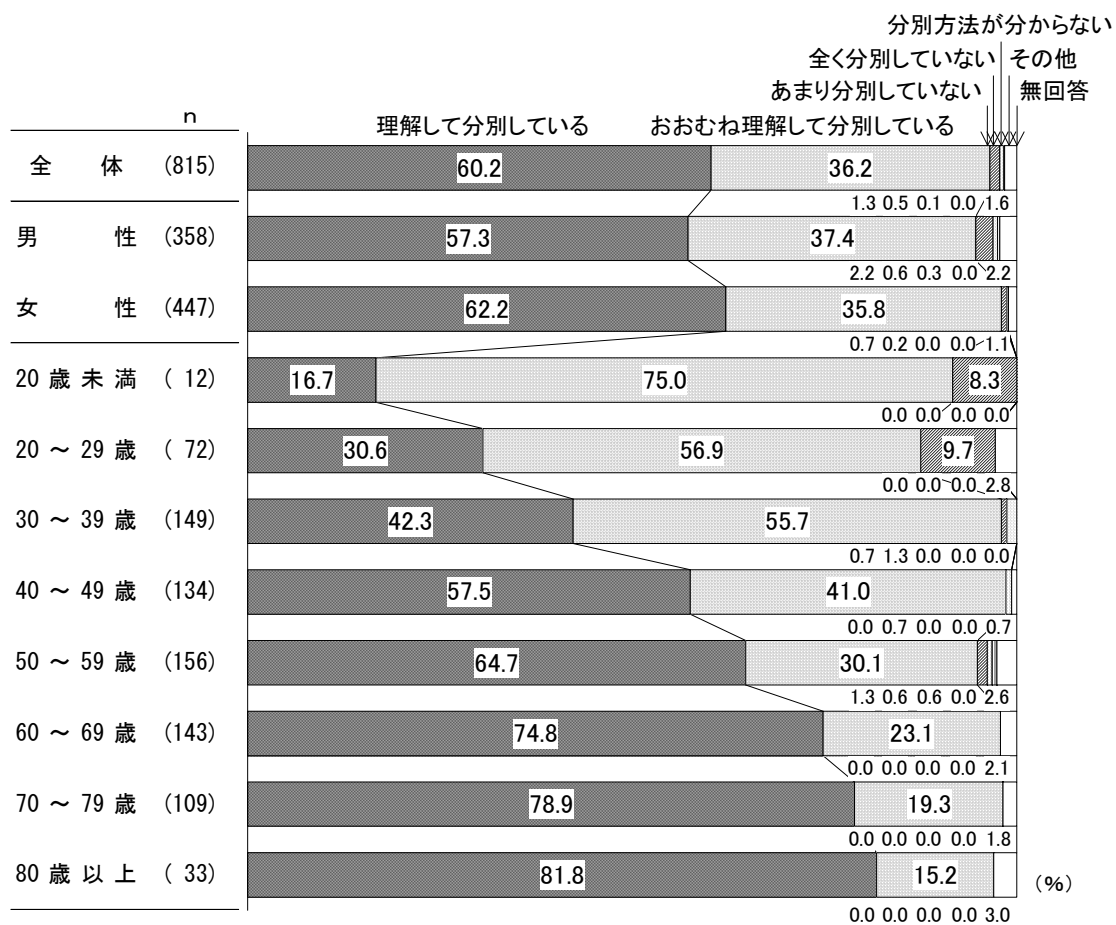


【属性別】

性別にみると、女性で「理解して分別している」(62.2%)が男性より4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「理解して分別している」は年代が高くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にあり、「おおむね理解して分別している」は年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向になっている。

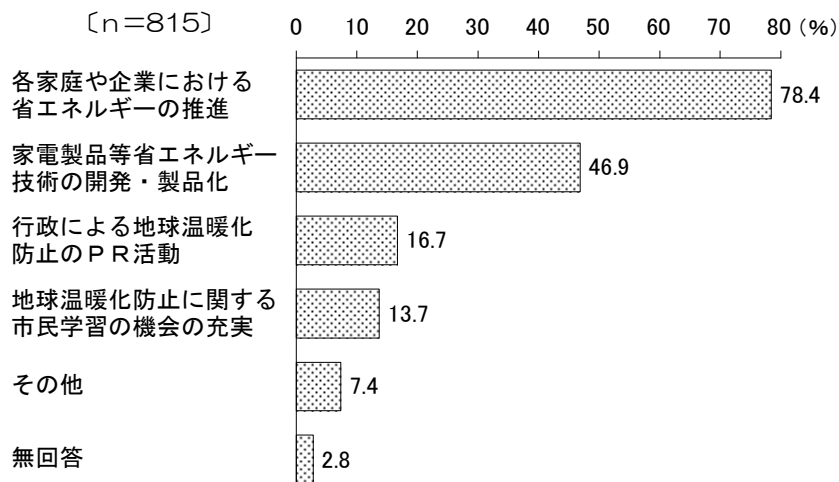
図8-2-3 資源とごみの分別—性別、年齢別



(3) 地球温暖化防止のための取組（A：問19）

問. 地球温暖化防止には、どのような取組が特に必要だと思いますか。（2つまで）

図8-3-1 地球温暖化防止のための取組



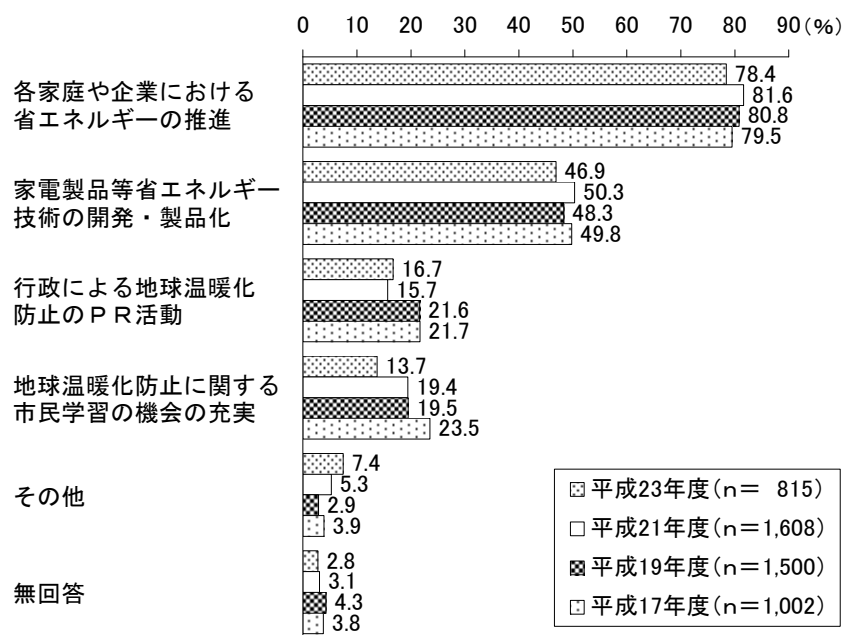
【全体】

地球温暖化防止のための取組について聞いたところ、「各家庭や企業における省エネルギーの推進」（78.4%）が8割近くで最も高くなっている。次いで、「家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化」（46.9%）、「行政による地球温暖化防止のPR活動」（16.7%）、「地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実」（13.7%）となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査、前々々回調査との比較をみると、「地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実」が減少傾向にあり、前回調査より5.7ポイント低くなっている。

図8-3-2 地球温暖化防止のための取組—経年変化（2つまでの複数回答）



【属性別】

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、「行政による地球温暖化防止のPR活動」は70歳代（27.5%）が3割近く、80歳以上（45.5%）が4割半ばで他の年代より高くなっている。

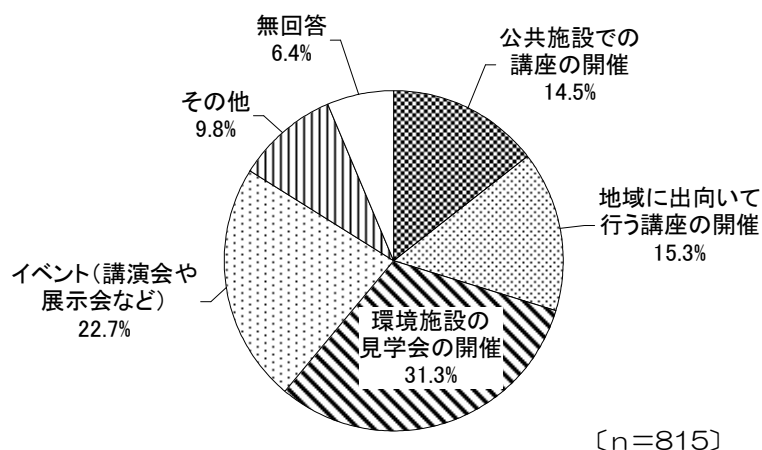
表8-3-1 地球温暖化防止のための取組—性別、年齢別（2つまでの複数回答）

			(%)					
		n	各 省 家 庭 エ ネ ル ギ ー の 推 進 を お け る	家 電 製 品 開 発 等 省 エ ネ ル 化 品 の 推 進	防 止 に よ る 地 球 温 暖 化 の PR 活 動	地 球 温 暖 化 の 防 止 に 関 する 機 会 の 充 実	そ の 他	無 回 答
全 体		815	78.4	46.9	16.7	13.7	7.4	2.8
性 別	男 性	358	76.3	46.6	18.4	12.3	9.8	3.4
	女 性	447	80.1	47.2	15.7	14.3	5.6	2.5
年 齢 別	20 歳 未 満	12	75.0	16.7	16.7	8.3	16.7	8.3
	20 ～ 29 歳	72	77.8	52.8	4.2	8.3	13.9	4.2
	30 ～ 39 歳	149	80.5	48.3	13.4	15.4	6.0	-
	40 ～ 49 歳	134	85.1	47.8	10.4	9.0	4.5	1.5
	50 ～ 59 歳	156	78.8	48.1	14.7	12.2	9.6	1.9
	60 ～ 69 歳	143	75.5	44.1	19.6	18.9	9.8	4.2
	70 ～ 79 歳	109	73.4	46.8	27.5	16.5	2.8	6.4
	80 歳 以 上	33	66.7	45.5	45.5	12.1	3.0	3.0

(4) 環境問題啓発事業への参加 (A: 問 20)

問. 行政が行う環境問題に関する啓発事業として、どのようなものに参加してみたいですか。(1つだけ)

図8-4-1 環境問題啓発事業への参加



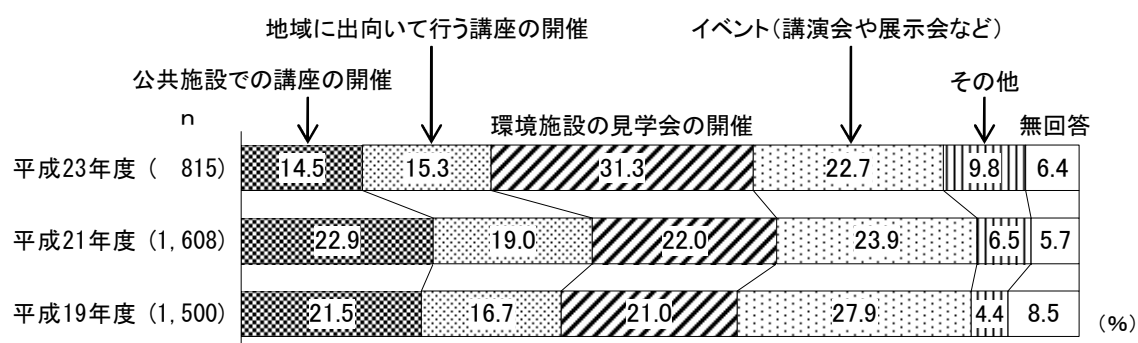
【全体】

どのような環境問題啓発事業に参加してみたいか聞いたところ、「環境施設の見学会の開催」(31.3%)が3割を超え最も高くなっている。次いで、「イベント(講演会や展示会など)」(22.7%)、「地域に出向いて行う講座の開催」(15.3%)、「公共施設での講座の開催」(14.5%)となっている。

【経年変化】

前回調査までは環境問題啓発事業の有効性について質問したが、今回調査では参加意向について質問しているため、参考として掲載する。

図8-4-2 環境問題啓発事業への参加—経年変化

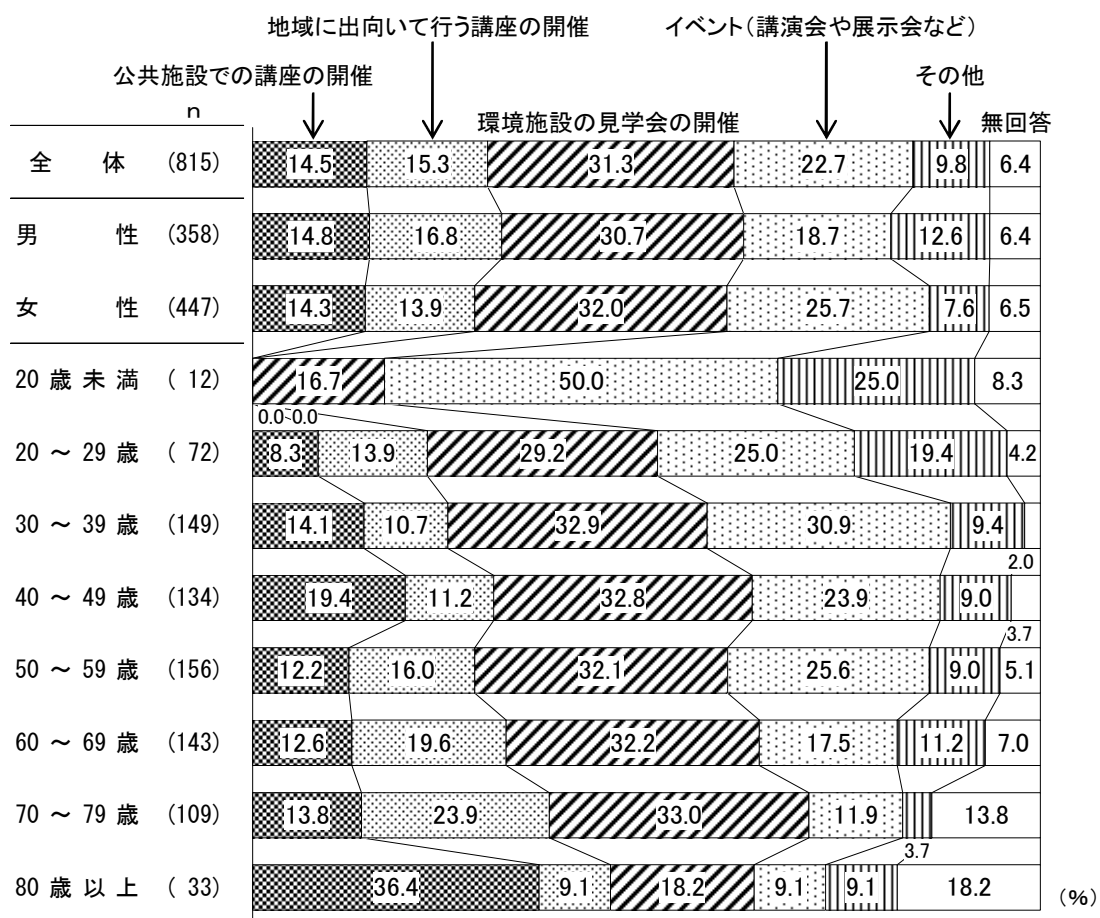


【属性別】

性別にみると、女性で「イベント（講演会や展示会など）」（25.7%）が男性より7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、80歳以上で「公共施設での講座の開催」（36.4%）が3割半ば、70歳代で「地域に出向いて行う講座の開催」（23.9%）が2割を超え他の年代より高くなっている。また、「イベント（講演会や展示会など）」はおおむね年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

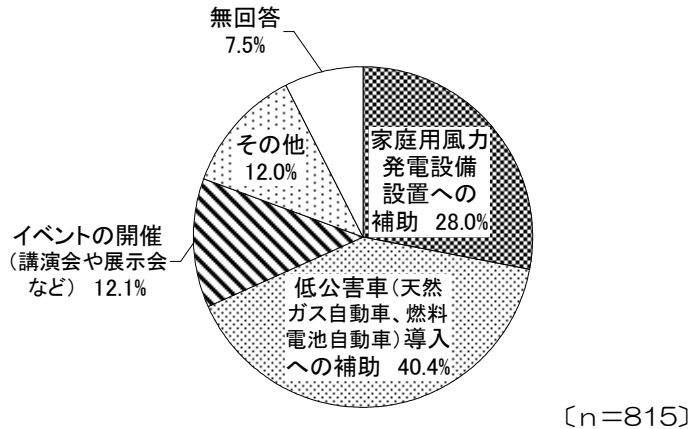
図8-4-3 環境問題啓発事業への参加—性別、年齢別



(5) 実践してほしい新エネルギー施策 (A: 問 21)

問. 現在、厚木市では住宅用太陽光発電や電気自動車の購入に支援をしていますが、他にも実施してほしい新エネルギー施策はありますか。(1つだけ)

図8-5-1 実践してほしい新エネルギー施策



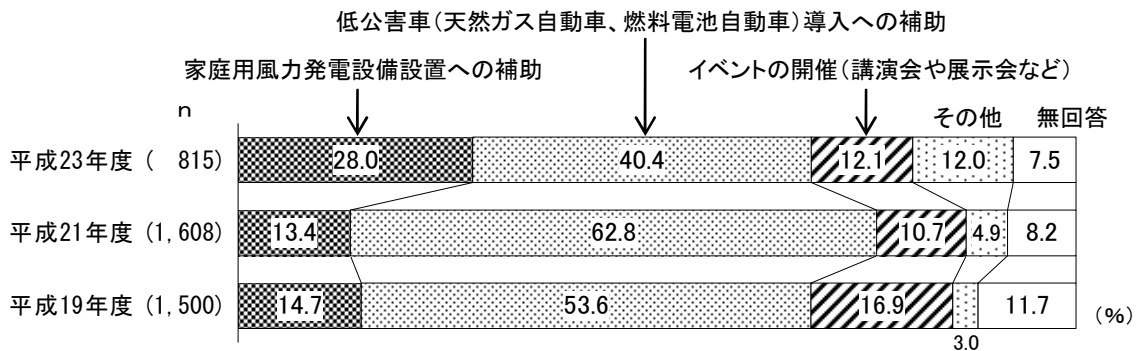
【全体】

実践してほしい新エネルギー施策について聞いたところ、「低公害車(天然ガス自動車、燃料電池自動車)導入への補助」(40.4%)が4割で最も高くなっている。次いで、「家庭用風力発電設備設置への補助」(28.0%)、「イベントの開催(講演会や展示会など)」(12.1%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「低公害車(天然ガス自動車、燃料電池自動車)導入への補助」が前回調査より22.4ポイント低くなっている。一方、「家庭用風力発電設備設置への補助」が前回調査より14.6ポイント高くなっている。

図8-5-2 実践してほしい新エネルギー施策—経年変化



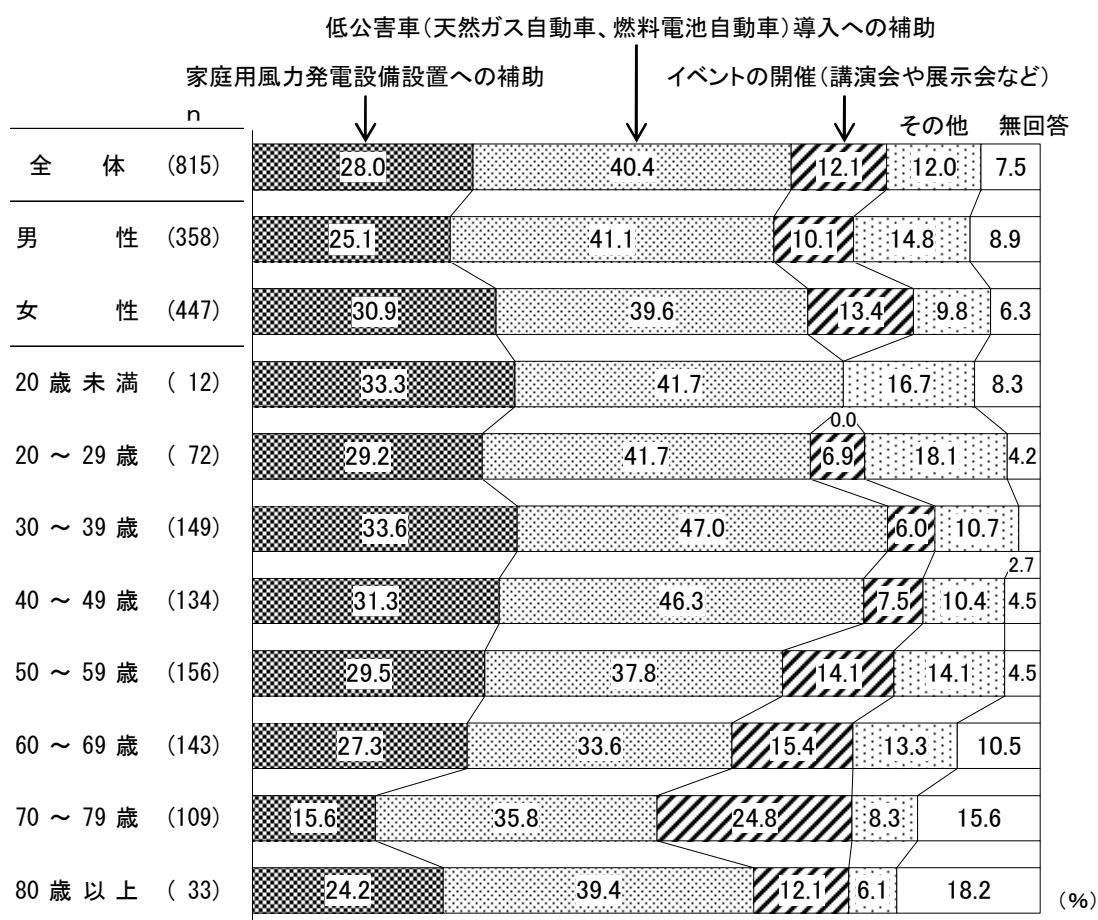
(注)「家庭用風力発電設備設置への補助」は、前回調査までは「風力発電設備設置への補助」、「低公害車(天然ガス自動車、燃料電池自動車)導入への補助」は、前回調査までは「低公害車(電気自動車、天然ガス自動車、燃料電池自動車)導入への補助」となっている。

【属性別】

性別にみると、女性で「家庭用風力発電設備設置への補助」(30.9%)が男性より5.8ポイント高くなっている。

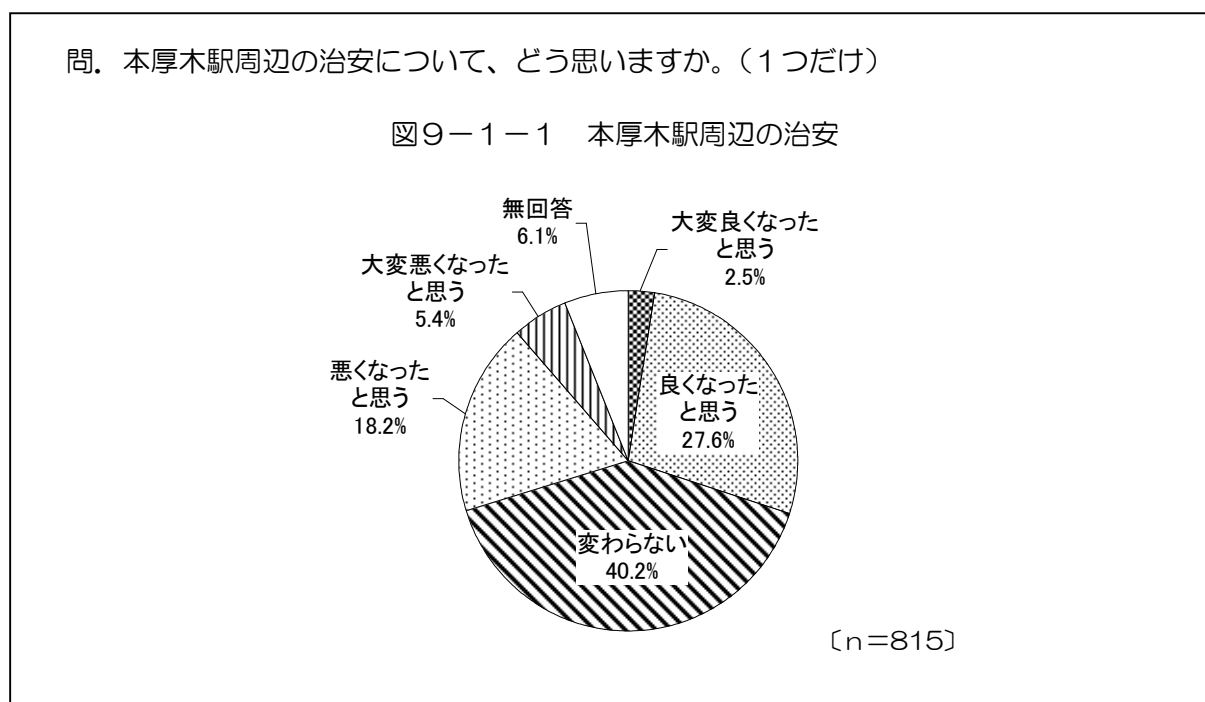
年齢別にみると、70歳代で「イベントの開催(講演会や展示会など)」(24.8%)が2割半ばで他の年代より高くなっている。

図8-5-3 実践してほしい新エネルギー施策—性別、年齢別



9 交通・安全・防災

(1) 本厚木駅周辺の治安 (A: 問 22)



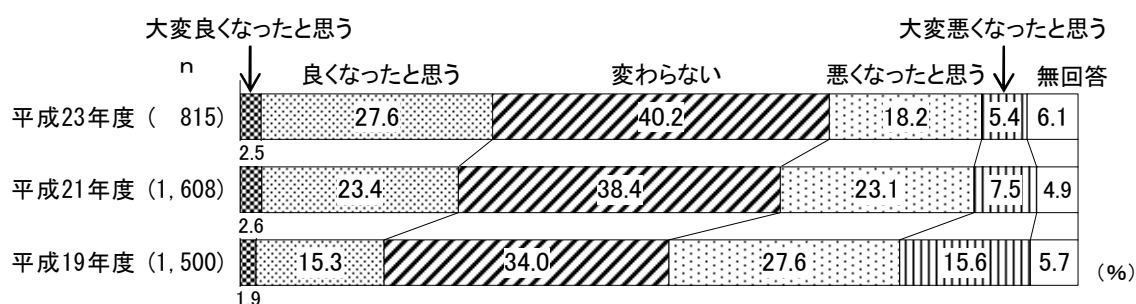
【全体】

本厚木駅周辺の治安について聞いたところ、「大変良くなったと思う」(2.5%)と「良くなったと思う」(27.6%)を合わせた『改善派』(30.1%)が3割となっている。一方、「悪くなったと思う」(18.2%)と「大変悪くなったと思う」(5.4%)を合わせた『悪化派』(23.6%)は2割程度となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、『改善派』が増加傾向にあり、前回調査より4.1ポイント高くなっている。一方、『悪化派』が減少傾向にあり、前回調査より7.0ポイント低くなっている。

図9-1-2 本厚木駅周辺の治安—経年変化

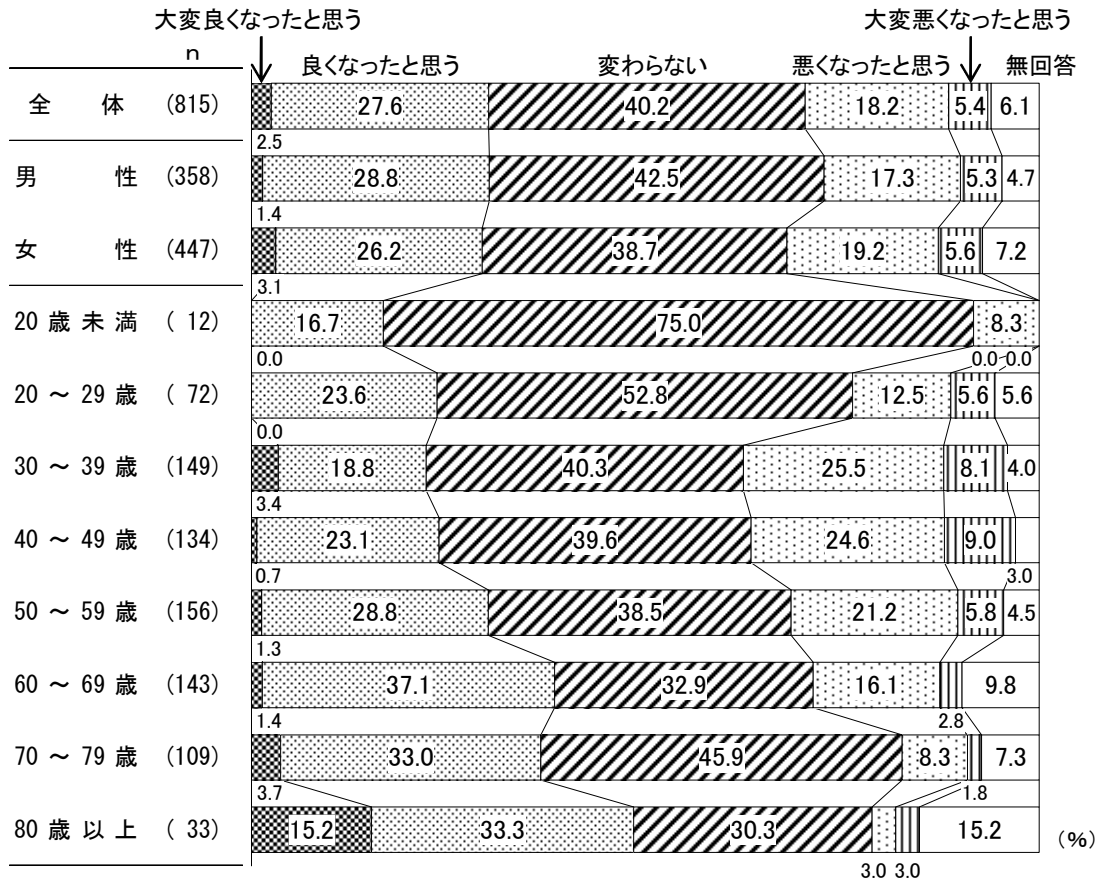


【属性別】

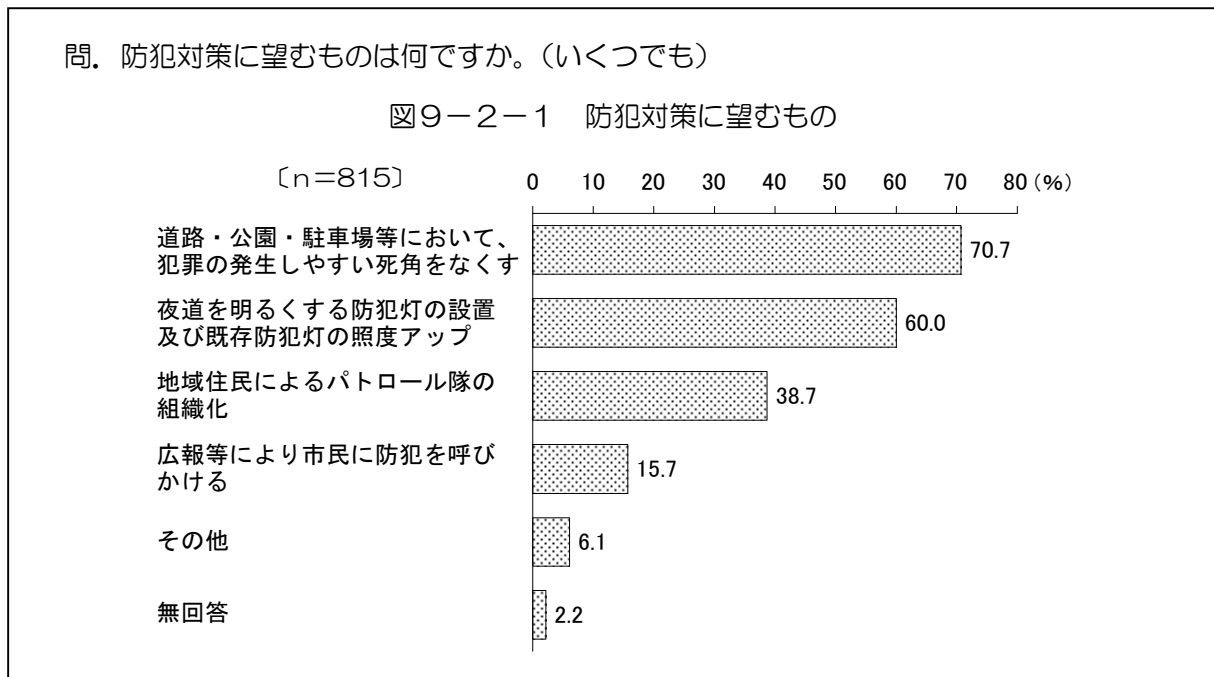
性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、30歳代と40歳代で『悪化派』が『改善派』を上回っている。一方、20歳代以下と50歳代以上では『改善派』が『悪化派』を上回っている。

図9-1-3 本厚木駅周辺の治安—性別、年齢別



(2) 防犯対策に望むもの（A：問23）



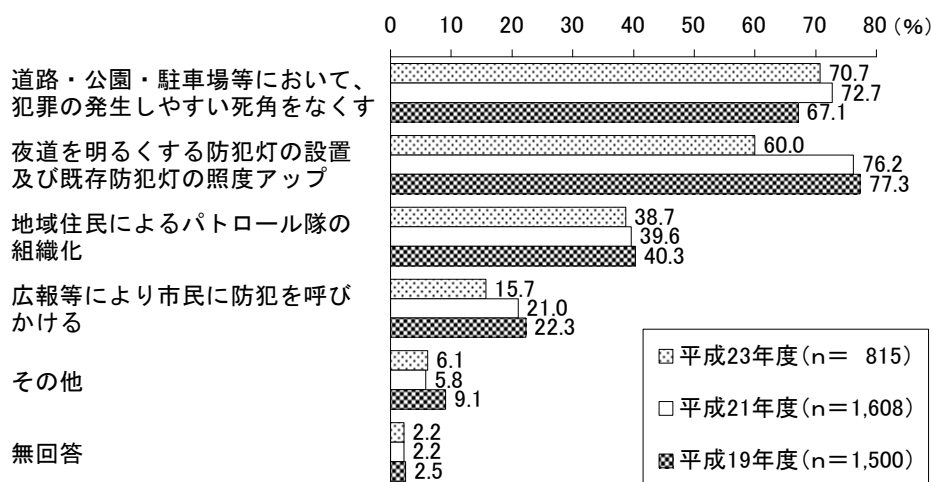
【全体】

防犯対策に望むものについて聞いたところ、「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」（70.7%）がほぼ7割で最も高くなっている。次いで、「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」（60.0%）、「地域住民によるパトロール隊の組織化」（38.7%）、「広報等により市民に防犯を呼びかける」（15.7%）となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」が前回調査より16.2ポイント低くなっている。また、「広報等により市民に防犯を呼びかける」が減少傾向にあり、前回調査より5.3ポイント低くなっている。

図9-2-2 防犯対策に望むもの一経年変化（複数回答）



(注)「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」は、前回調査までは「夜道を明るくする防犯灯の設置」となっている。

【属性別】

性別にみると、女性で「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(64.4%)が男性より9.7ポイント高く、「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(74.7%)が男性より9.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、40歳代で「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(77.6%)が8割近くで他の年代より高くなっている。また、30歳代で「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(68.5%)が7割近くで他の年代より高くなっている。

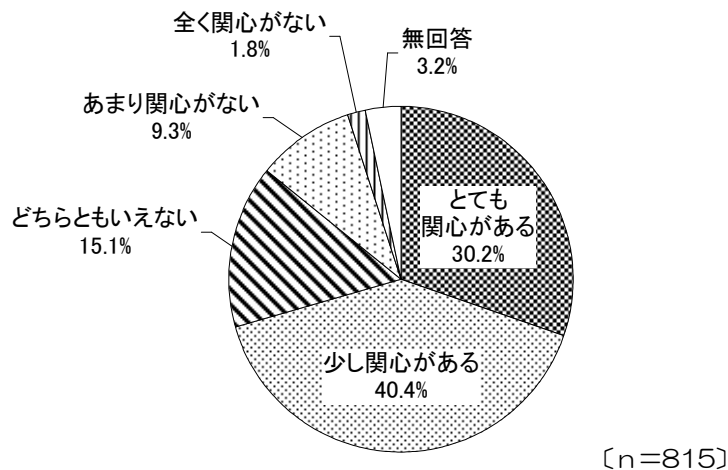
表9-2-1 防犯対策に望むもの一性別、年齢別（複数回答）

			道にし 路おや ・いす 公園 ・犯 車罪を 場なく 等生す	夜灯の 道の設 を照度 明置る 及及び くびッ す存 る防 防防 犯犯	地口 域ー 住ル 民隊 にの よ組 る織 パ化 ト	広防 報犯 等を に呼 びよ りか け る に	そ の 他	無 回 答
		n						(%)
全 体		815	70.7	60.0	38.7	15.7	6.1	2.2
性 別	男 性	358	65.6	54.7	37.4	16.5	9.5	2.0
	女 性	447	74.7	64.4	39.8	15.4	3.4	2.2
年 齢 別	20歳未満	12	66.7	58.3	33.3	-	-	-
	20～29歳	72	59.7	58.3	38.9	9.7	13.9	4.2
	30～39歳	149	75.8	68.5	36.9	13.4	2.0	0.7
	40～49歳	134	77.6	61.2	35.8	11.9	5.2	0.7
	50～59歳	156	69.9	55.8	38.5	20.5	8.3	2.6
	60～69歳	143	67.8	59.4	40.6	15.4	9.1	1.4
	70～79歳	109	69.7	56.0	42.2	22.0	0.9	5.5
80歳以上	33	57.6	54.5	42.4	21.2	9.1	3.0	

(3) セーフコミュニティの考え方 (A: 問 24)

問. 市民と行政が協働して、平成 22 年 11 月 19 日にセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯など安心安全なまちづくりを推進するという考え方に関心がありますか。(1つだけ)

図9-3-1 セーフコミュニティの考え方



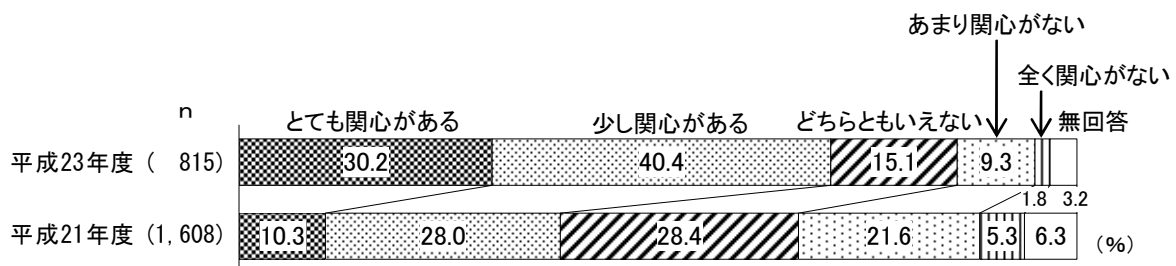
【全体】

セーフコミュニティの考え方について聞いたところ、「とても関心がある」(30.2%)と「少し関心がある」(40.4%)を合わせた『関心がある』(70.6%)がほぼ7割となっている。一方、「あまり関心がない」(9.3%)と「全く関心がない」(1.8%)を合わせた『関心がない』(11.1%)は1割程度である。

【経年変化】

前回調査との比較をみると、『関心がある』が 32.3 ポイント高くなっている。一方、『関心がない』は 15.8 ポイント低くなっている。

図9-3-2 セーフコミュニティの考え方—経年変化

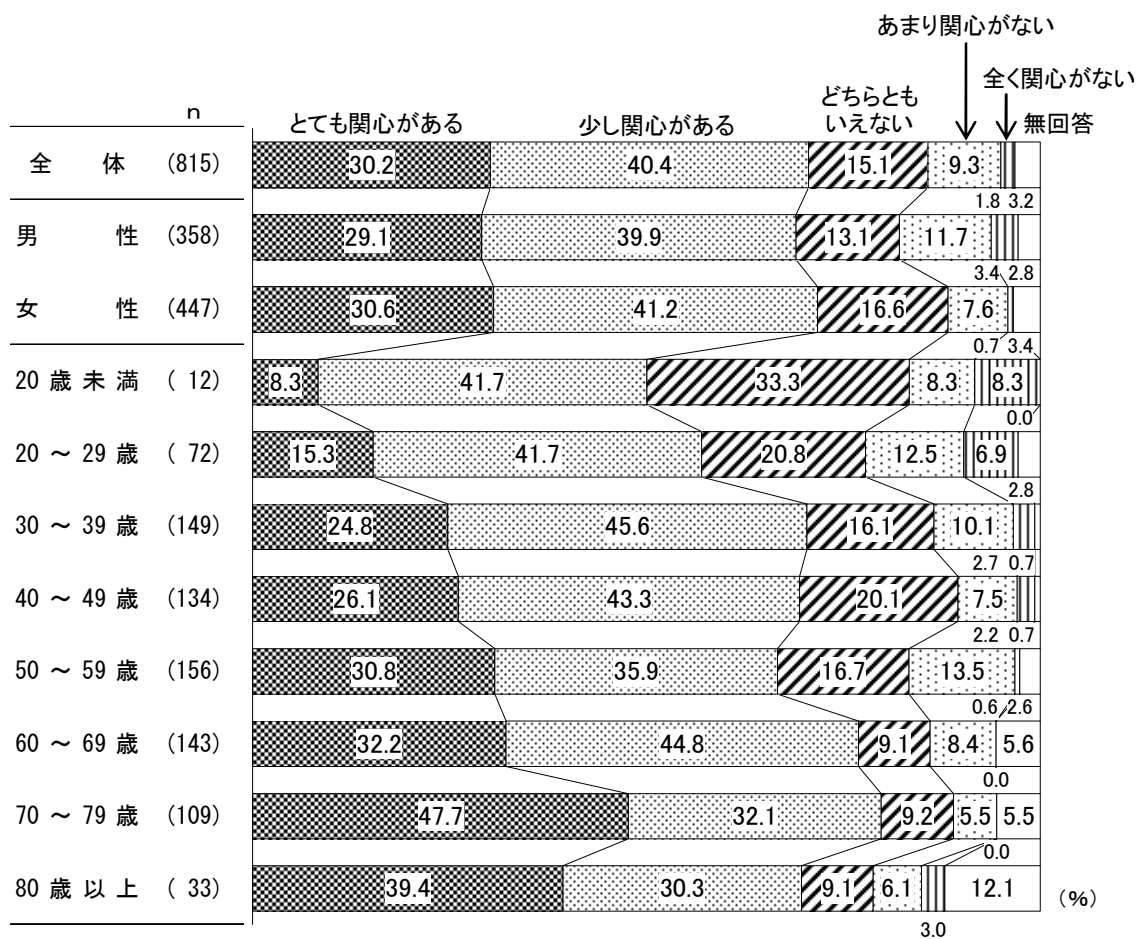


【属性別】

性別にみると、男性で『関心がない』（15.1%）が女性より6.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『関心がある』は70歳代（79.8%）で8割、60歳代（77.0%）で8割近くと他の年代より高くなっている。一方、『関心がない』は20歳代（19.4%）でほぼ2割と他の年代より高くなっている。

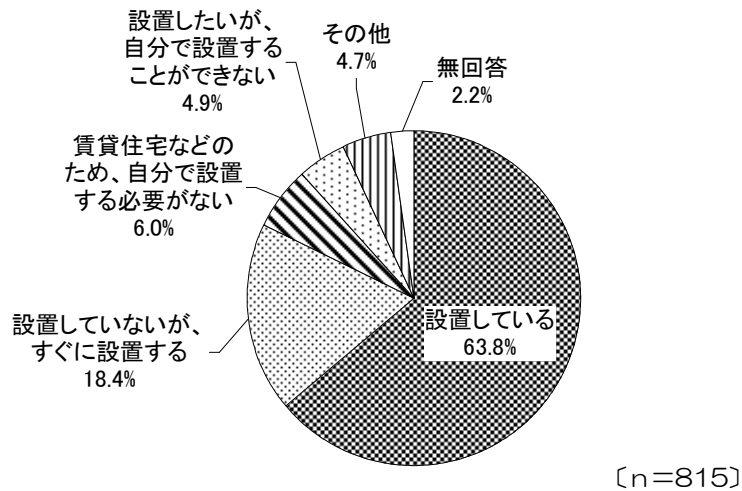
図9-3-3 セーフコミュニティの考え方—性別、年齢別



(4) 住宅用火災警報器の設置 (A: 問 25)

問. 平成 18 年 6 月 1 日からすべての住宅へ住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。あなたの家には住宅用火災警報器が寝室、階段に設置されていますか。
 (なお、既に建てられた住宅は、平成 23 年 5 月 31 日で猶予期間が終了しています。)
 (1つだけ)

図9-4-1 住宅用火災警報器の設置



【全体】

住宅用火災警報器の設置について聞いたところ、「設置している」(63.8%)が6割を超え最も高く、「設置していないが、すぐに設置する」(18.4%)が2割近くとなっている。一方、「賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない」(6.0%)と「設置したいが、自分で設置することができない」(4.9%)がそれぞれ1割未満となっている。

【経年変化】

前回調査との比較は、選択肢が異なるために参考としての掲載となるが、「設置している」は増加傾向となっている。

表9-4-1 住宅用火災警報器の設置—経年変化

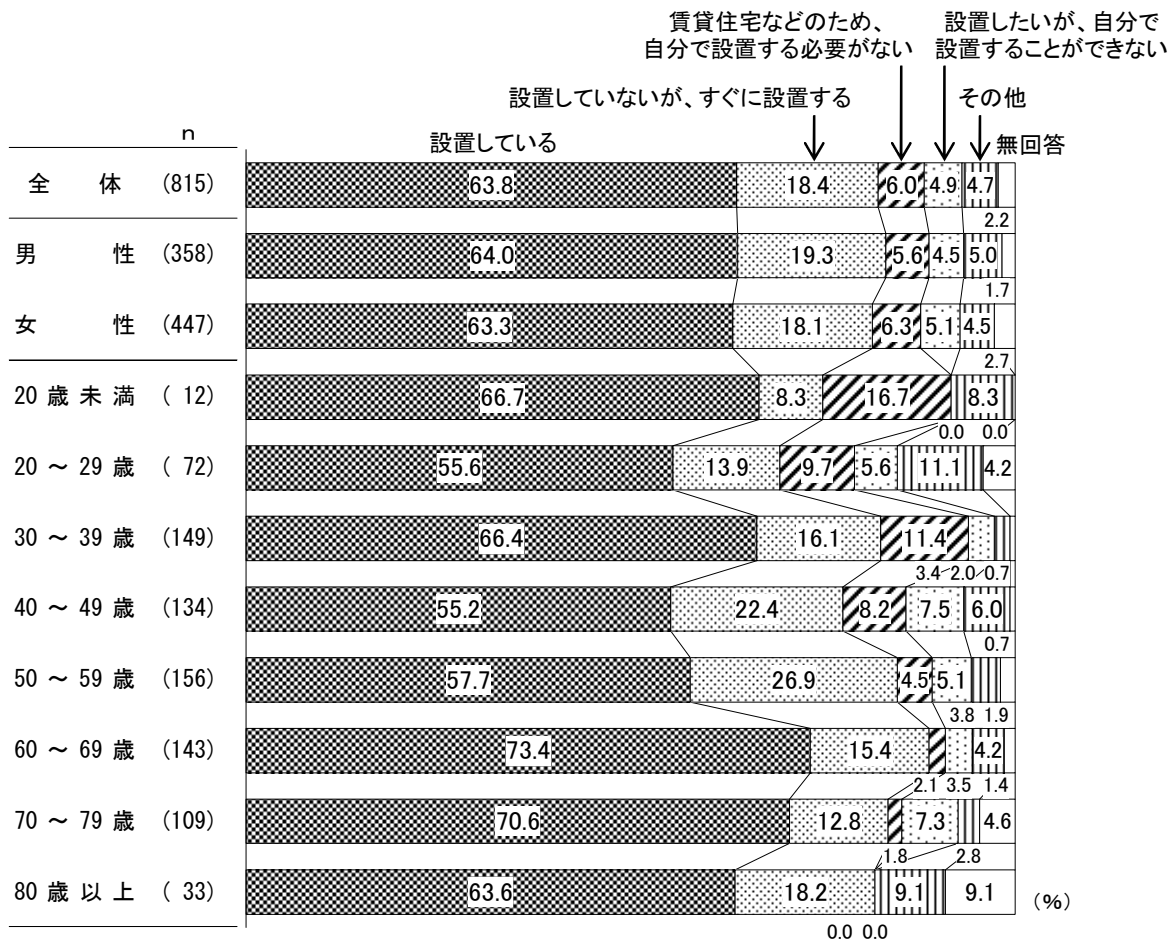
順位	平成23年調査 (n=815)		平成21年調査 (n=1,608)		平成19年調査 (n=1,500)	
	設置状況	割合 (%)	設置状況	割合 (%)	設置状況	割合 (%)
1	設置している	63.8	設置している	37.9	設置していないが、平成23年5月31日までの猶予期間中に設置する	39.9
2	設置していないが、すぐに設置する	18.4	設置していないが、平成23年5月31日までの猶予期間中に設置する	37.6	設置している	24.5
3	賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない	6.0	設置していないし、設置する予定もない	12.4	設置していないし、設置する予定もない	22.6
4	設置したいが、自分で設置することができない	4.9	設置していないが、すぐに設置する	3.2	設置していないが、すぐに設置する	1.9

【属性別】

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、60歳代で「設置している」(73.4%)が7割を超え他の年代より高く、50歳代で「設置していないが、すぐに設置する」(26.9%)が3割近くで他の年代より高くなっている。また、「賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない」はおおむね年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

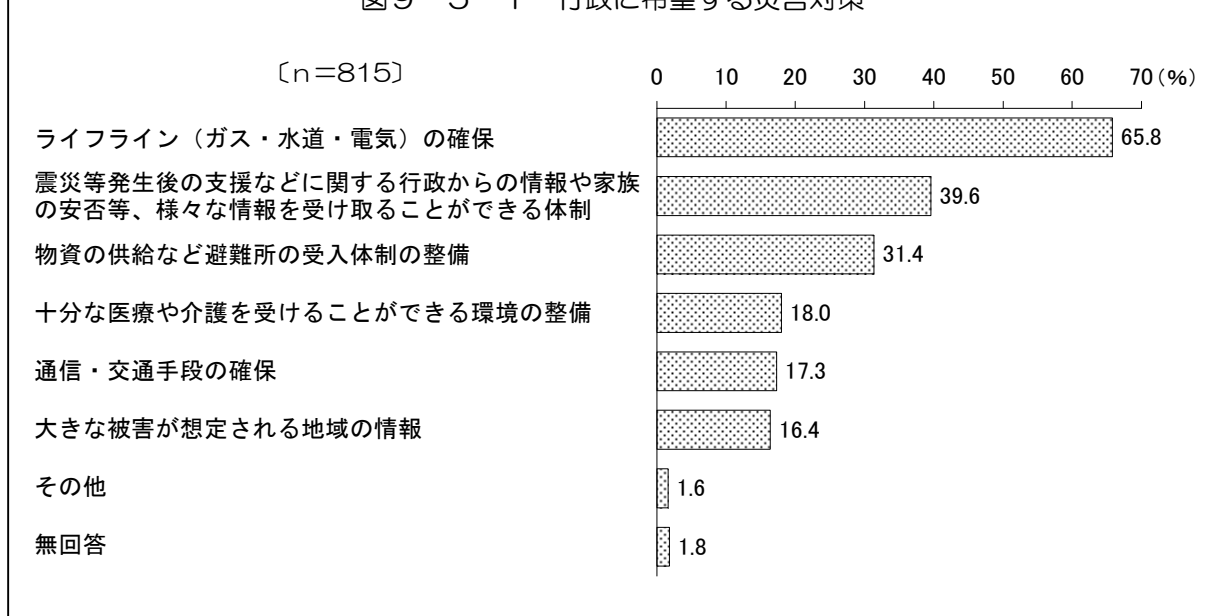
図9-4-2 住宅用火災警報器の設置—性別、年齢別



(5) 行政に希望する災害対策（A：問 26）

問. 平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、厚木市でも強い揺れを観測しましたが、今後、災害の発生に備えて、あなたは行政にどのような対策を望みますか。
（2つまで）

図9-5-1 行政に希望する災害対策



【全体】

行政に希望する災害対策について聞いたところ、「ライフライン（ガス・水道・電気）の確保」（65.8%）が6割半ばで最も高くなっている。次いで、「震災等発生後の支援などに関する行政からの情報や家族の安否等、様々な情報を受け取ることができる体制」（39.6%）、「物資の供給など避難所の受入体制の整備」（31.4%）、「十分な医療や介護を受けることができる環境の整備」（18.0%）となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化はなし。

【属性別】

居住地区別にみると、緑ヶ丘で「ライフライン（ガス・水道・電気）の確保」（87.0%）が9割近くで他の居住地区より高くなっている。また、森の里で「十分な医療や介護を受けることができる環境の整備」（32.0%）が3割を超え他の居住地区より高く、玉川で「通信・交通手段の確保」（33.3%）が3割を超え他の居住地区より高くなっている。

表9-5-1 行政に希望する災害対策—居住地区別（2つまでの複数回答）

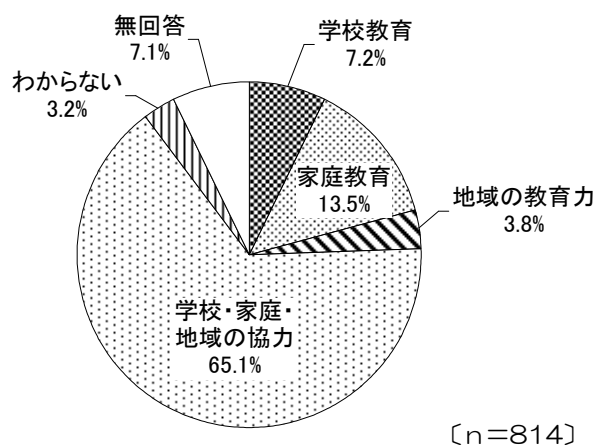
		(%)								
		n	ライフライン（ガス・水道・電気）の確保	震災からの発生後や支援助などに関する行政からの情報を受け取る支族の不安等、様々な情報を受け取ることができない	物資の供給など避難所の受入体制の整備	十分な医療や介護を受けることができる環境の整備	通信・交通手段の確保	大きな被害が想定される地域の情報	その他	無回答
全 体		815	65.8	39.6	31.4	18.0	17.3	16.4	1.6	1.8
居住地区別	厚 木 北	76	71.1	43.4	34.2	11.8	18.4	13.2	-	2.6
	厚 木 南	43	62.8	30.2	37.2	16.3	16.3	23.3	2.3	2.3
	依 知 北	63	63.5	46.0	38.1	17.5	14.3	9.5	1.6	3.2
	依 知 南	47	66.0	34.0	34.0	27.7	8.5	14.9	4.3	-
	睦 合 北	35	71.4	42.9	28.6	20.0	22.9	8.6	-	-
	睦 合 南	64	70.3	39.1	28.1	23.4	15.6	10.9	-	4.7
	睦 合 西	27	59.3	48.1	40.7	11.1	11.1	11.1	-	3.7
	荻 野	104	65.4	36.5	26.9	20.2	19.2	19.2	4.8	-
	小 鮎	57	75.4	33.3	21.1	21.1	22.8	24.6	1.8	-
	南 毛 利	138	60.9	40.6	34.8	13.8	14.5	23.2	1.4	1.4
	南 毛 利 南	38	65.8	42.1	31.6	21.1	15.8	15.8	-	-
	玉 川	21	47.6	42.9	28.6	23.8	33.3	9.5	4.8	-
	相 川	46	60.9	43.5	30.4	13.0	19.6	19.6	-	2.2
	緑 ヶ 丘	23	87.0	39.1	26.1	13.0	13.0	8.7	-	4.3
森 の 里	25	60.0	32.0	32.0	32.0	28.0	4.0	-	4.0	

10 教育・生涯学習・文化

(1) 子どもの教育のために最も大切なこと (B：問 26)

問. 子どもの教育には何が大切だと思いますか。(1つだけ)

図 10-1-1 子どもの教育のために最も大切なこと



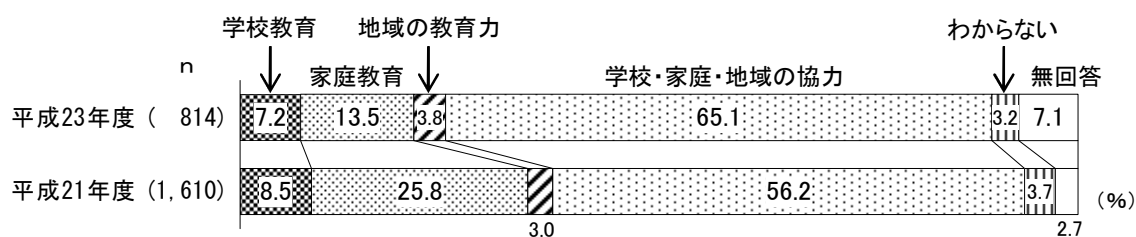
【全体】

子どもの教育のために最も大切なことについて聞いたところ、「学校・家庭・地域の協力」(65.1%)が6割半ばで最も高くなっている。その他、「家庭教育」(13.5%)、「学校教育」(7.2%)、「地域の教育力」(3.8%)となっている。

【経年変化】

前回調査との比較をみると、「家庭教育」が12.3ポイント低くなっている。一方、「学校・家庭・地域の協力」が8.9ポイント高くなっている。

図 10-1-2 子どもの教育のために最も大切なこと—経年変化

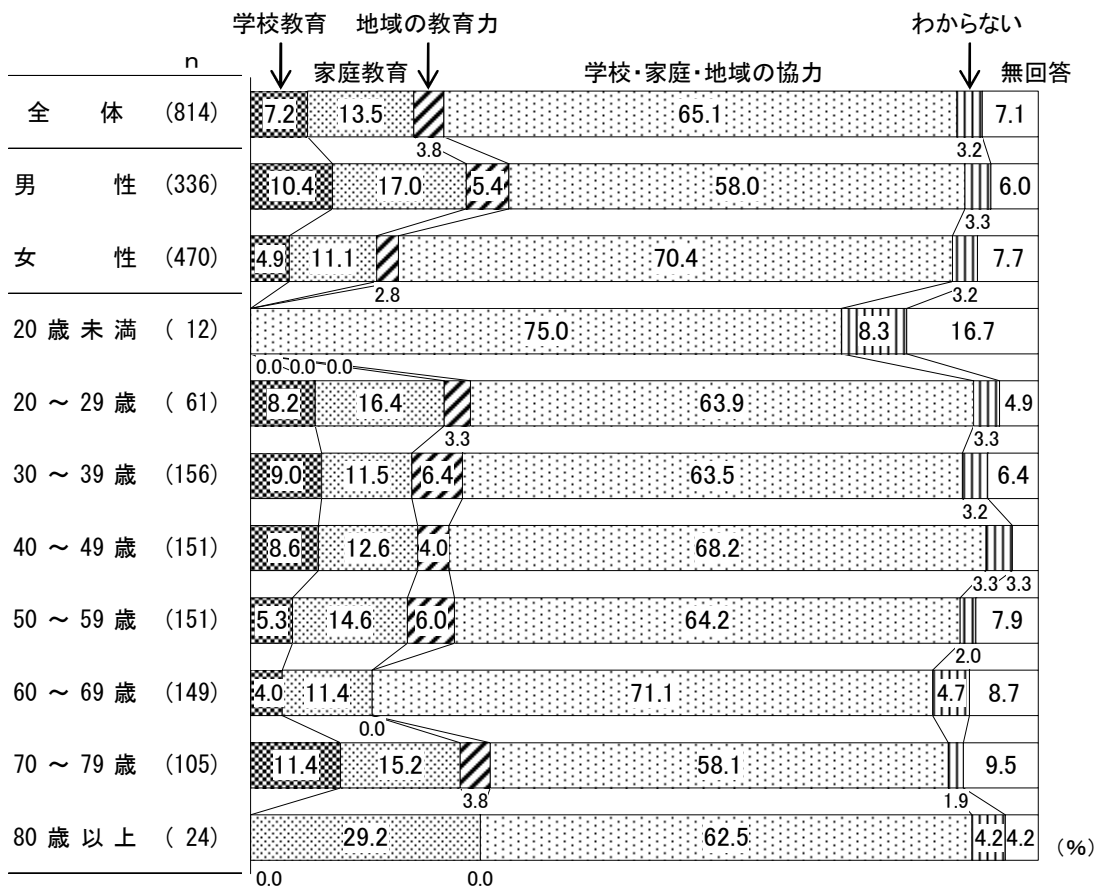


【属性別】

性別にみると、女性で「学校・家庭・地域の協力」(70.4%)が男性より12.4ポイント高くなっている。一方、男性で「家庭教育」(17.0%)が女性より5.9ポイント高く、「学校教育」(10.4%)が女性より5.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、80歳以上で「家庭教育」(29.2%)がほぼ3割で他の年代より高くなっている。

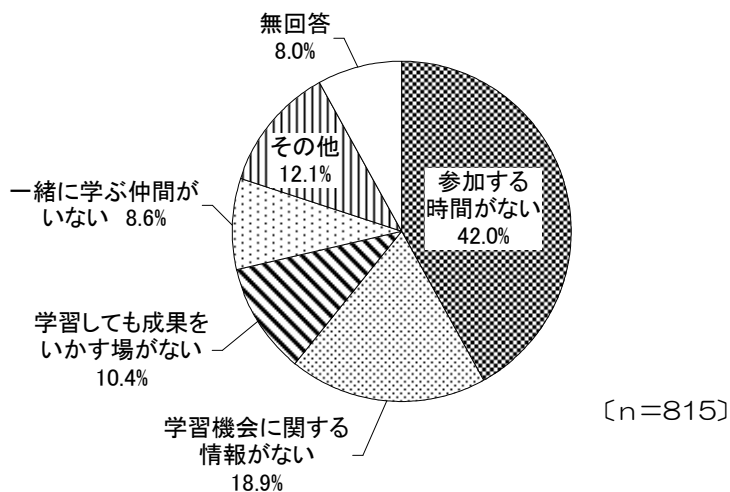
図 10-1-3 子どもの教育のために最も大切なこと—性別、年齢別



(2) 生涯学習活動に参加する上で支障になること (A：問 27)

問. 講座、教室などの学習活動に参加する際、最も支障になるとと思われる理由は何ですか。(1つだけ)

図 10-2-1 生涯学習活動に参加する上で支障になること



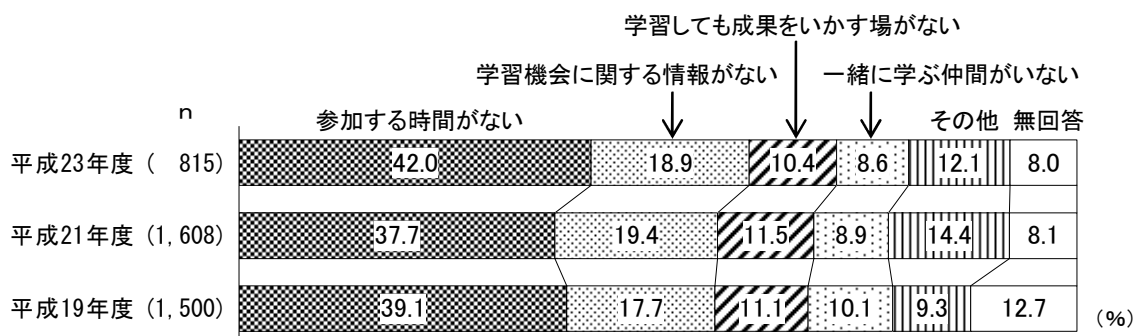
【全体】

生涯学習活動に参加する上で支障になることについて聞いたところ、「参加する時間がない」(42.0%)が4割を超え最も高くなっている。次いで、「学習機会に関する情報がない」(18.9%)、「学習しても成果をいかす場がない」(10.4%)、「一緒に学ぶ仲間がいない」(8.6%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「参加する時間がない」が前回調査より4.3ポイント高くなっている。

図 10-2-2 生涯学習活動に参加する上で支障になること—経年変化

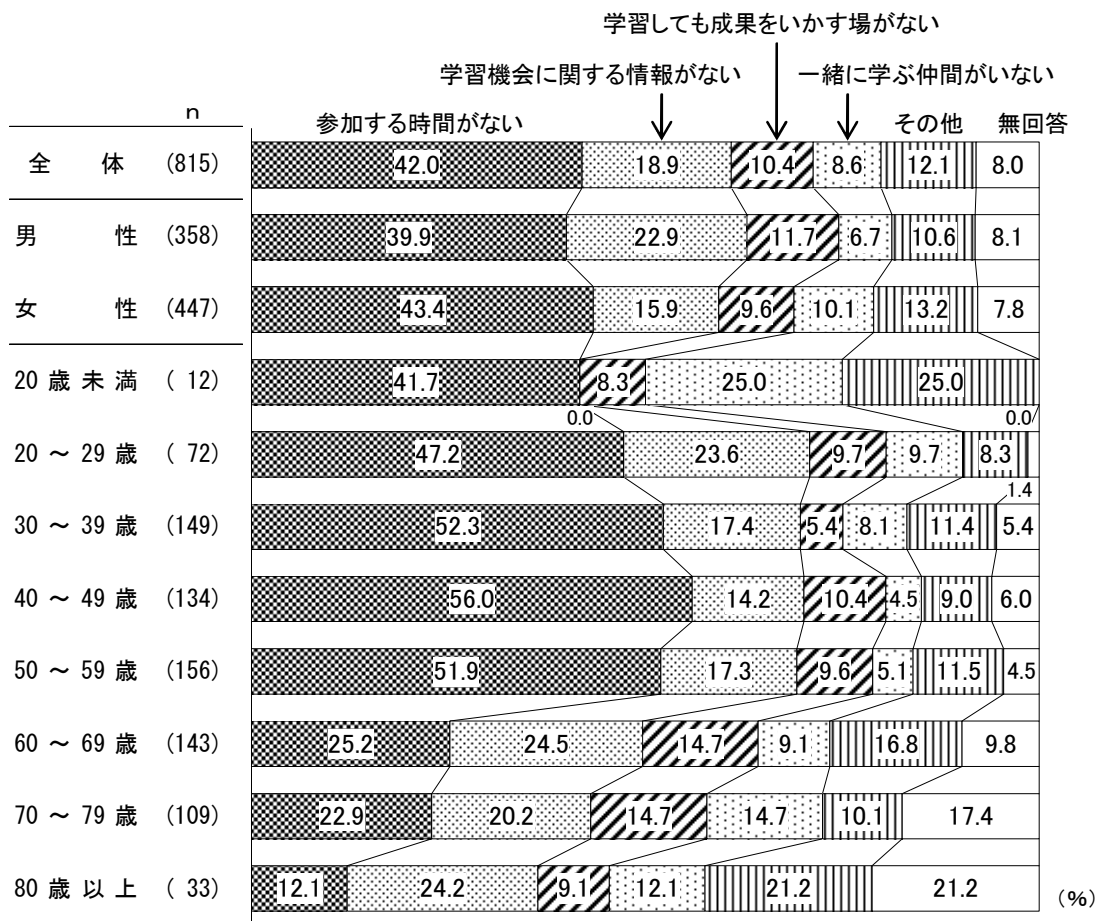


【属性別】

性別にみると、男性で「学習機会に関する情報がない」（22.9%）が女性より 7.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30 歳代から 50 歳代の年代で「参加する時間がない」が5割以上と他の年代より高くなっている。

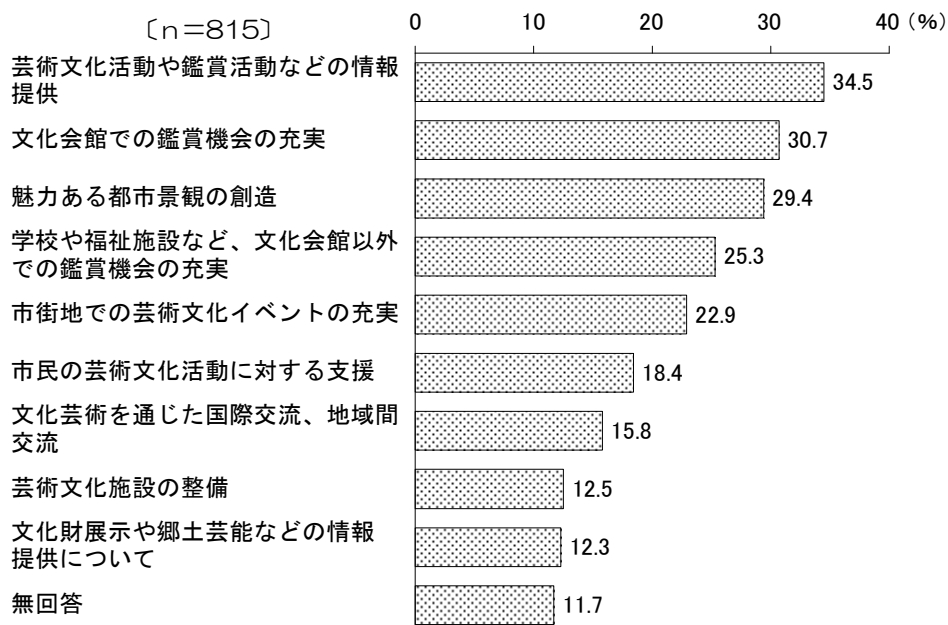
図 10-2-3 生涯学習活動に参加する上で支障になること—性別、年齢別



(3) 優先すべき芸術文化施策 (A: 問 28)

問. 厚木市に優先的に取り組んでほしい芸術文化施策は何ですか。(3つまで)

図 10-3-1 優先すべき芸術文化施策



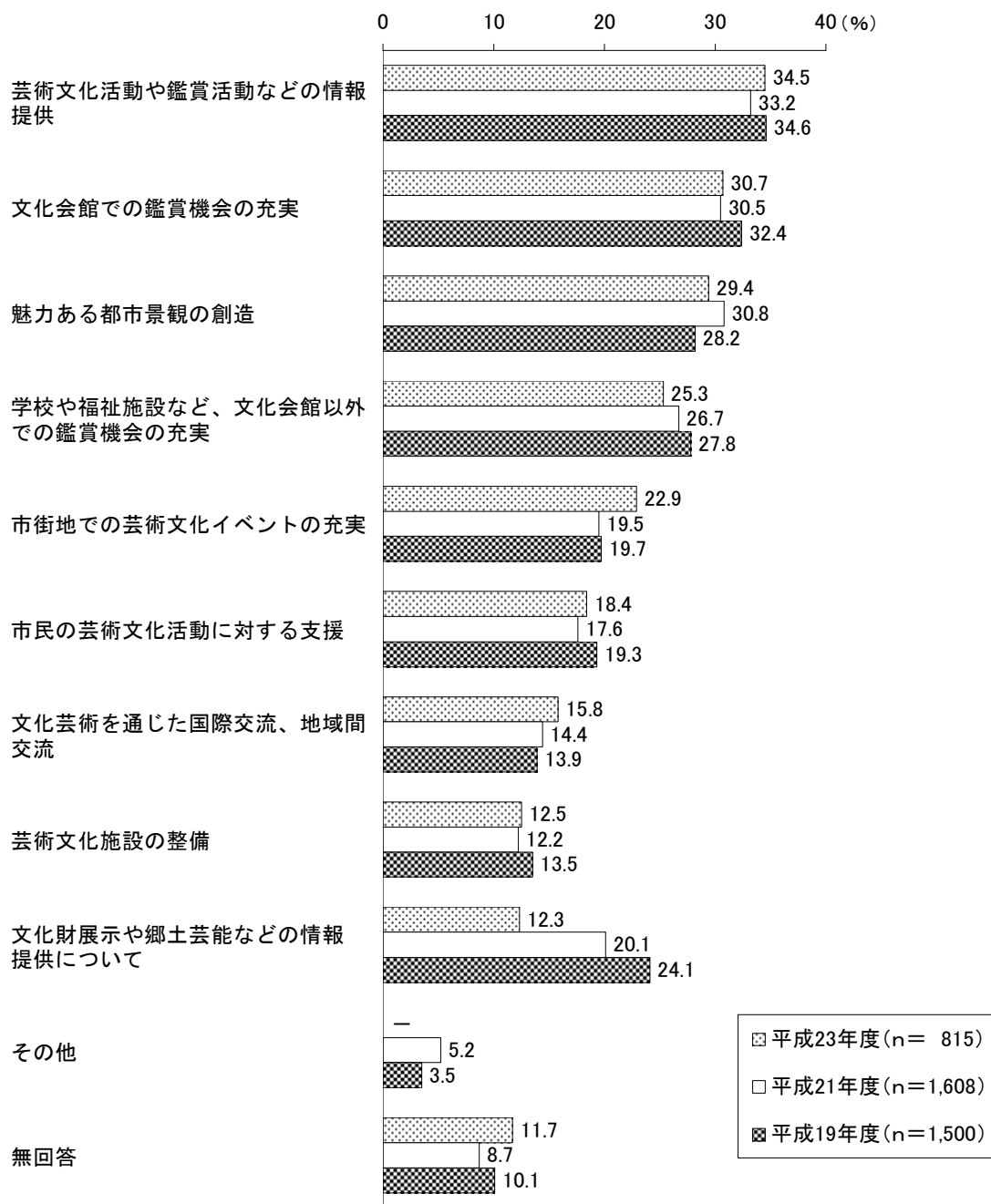
【全体】

優先すべき芸術文化施策について聞いたところ、「芸術文化活動や鑑賞活動などの情報提供」(34.5%)が3割半ばで最も高くなっている。次いで、「文化会館での鑑賞機会の充実」(30.7%)、「魅力ある都市景観の創造」(29.4%)、「学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実」(25.3%)、「市街地での芸術文化イベントの充実」(22.9%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「文化財展示や郷土芸能などの情報提供について」が減少傾向にあり、前回調査より 7.8 ポイント低くなっている。

図 10-3-2 優先すべき芸術文化施策—経年変化（3つまでの複数回答）



(注) 平成 23 年度調査では、「その他」が選択肢から削除されている。

【属性別】

性別にみると、男性で「魅力ある都市景観の創造」（34.4％）が女性より 9.1 ポイント高くなっている。一方、女性で「学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実」（28.2％）が女性より 6.4 ポイント高くなっている。

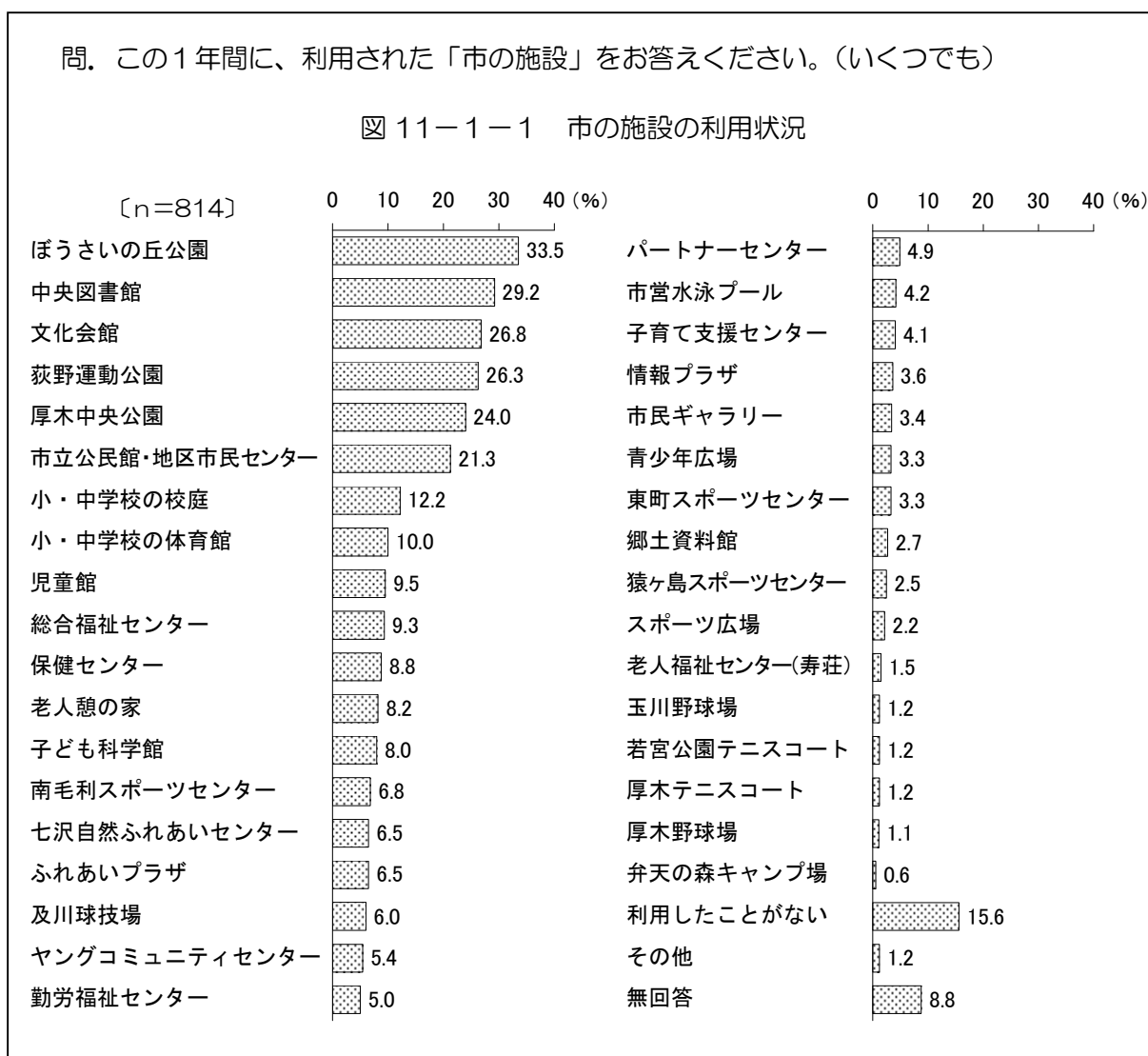
年齢別にみると、70 歳代で「文化会館での鑑賞機会の充実」（39.4％）がほぼ 4 割で他の年代より高くなっている。また、20 歳代で「市街地での芸術文化イベントの充実」（40.3％）が 4 割で他の年代より高くなっている。

表 10-3-1 優先すべき芸術文化施策一性別、年齢別（3つまでの複数回答）

		n	の 情 報 提 供 の 充 実 機 会 の 充 実	文 化 会 館 で の 鑑 賞 機 会 の 充 実	魅 力 あ る 都 市 景 観 の 創 造	学 校 や 福 祉 施 設 な ど、 文 化 会 館 以 外 で の 鑑 賞 機 会 の 充 実	市 街 地 で の 芸 術 文 化 イ ベ ン ト の 充 実	支 援 の 芸 術 文 化 活 動 に 対 す る	地 域 間 交 流 、 文 化 芸 術 を 通 じ た 国 際 交 流	芸 術 文 化 施 設 の 整 備	情 報 提 供 に つ い て の 充 実 機 会 の 充 実	無 回 答
全 体		815	34.5	30.7	29.4	25.3	22.9	18.4	15.8	12.5	12.3	11.7
性 別	男 性	358	33.5	28.2	34.4	21.8	20.9	19.8	17.0	15.1	13.1	11.2
	女 性	447	35.6	32.4	25.3	28.2	24.8	17.2	15.0	10.5	11.6	12.1
年 齢 別	20 歳 未 満	12	8.3	50.0	25.0	33.3	16.7	25.0	25.0	-	-	16.7
	20 ～ 29 歳	72	26.4	22.2	31.9	22.2	40.3	19.4	23.6	12.5	9.7	5.6
	30 ～ 39 歳	149	33.6	35.6	28.9	22.8	26.8	19.5	19.5	13.4	10.1	8.7
	40 ～ 49 歳	134	38.8	23.1	27.6	26.1	23.9	14.2	17.9	9.7	11.9	11.9
	50 ～ 59 歳	156	37.2	32.1	32.7	25.6	19.2	17.9	14.1	14.7	12.8	7.1
	60 ～ 69 歳	143	35.7	30.8	28.7	31.5	18.2	18.9	15.4	15.4	16.8	11.2
	70 ～ 79 歳	109	34.9	39.4	24.8	20.2	20.2	19.3	7.3	11.9	11.9	22.0
	80 歳 以 上	33	36.4	15.2	30.3	30.3	12.1	21.2	12.1	6.1	12.1	24.2

11 市民生活

(1) 市の施設の利用状況 (B:問2)



【全体】

最近1年間での市の施設の利用状況を聞いたところ、「ぼうさいの丘公園」(33.5%)が3割を超え最も高くなっている。次いで、「中央図書館」(29.2%)、「文化会館」(26.8%)、「荻野運動公園」(26.3%)、「厚木中央公園」(24.0%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査、前々々回調査との比較をみると、前回調査の3位にあげられた「ぼうさいの丘公園」が今回調査では1位となっている。また、「文化会館」が前回調査より4.3ポイント低くなっている。

表 11-1-1 市の施設の利用状況—経年変化（複数回答）

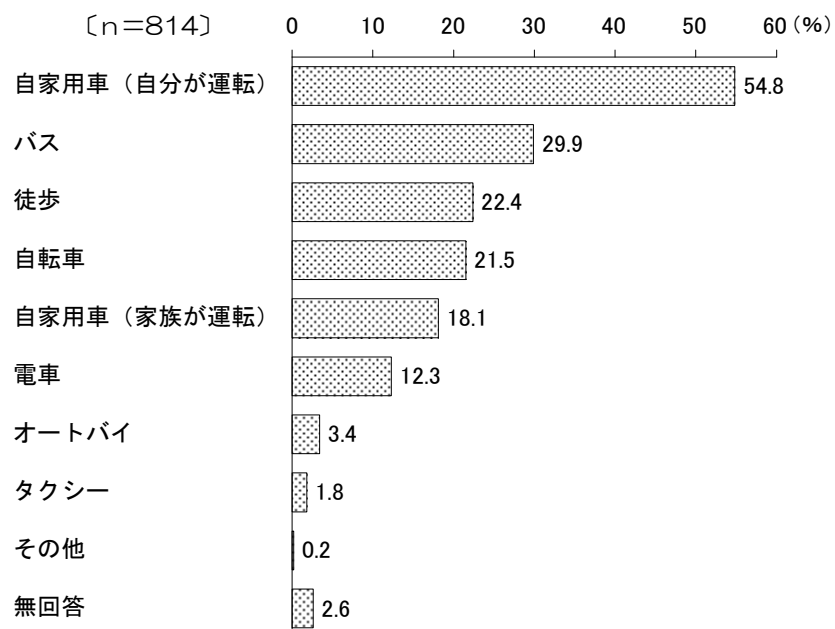
順位	平成23年度（n=814）		平成21年度（n=1,610）		平成19年度（n=1,506）		平成17年度（n=1,008）	
	施設名	(%)	施設名	(%)	施設名	(%)	施設名	(%)
1	ぼうさいの丘公園	33.5	中央図書館	31.4	荻野運動公園	36.9	中央図書館	28.4
2	中央図書館	29.2	文化会館	31.1	中央図書館	34.2	荻野運動公園	28.1
3	文化会館	26.8	ぼうさいの丘公園	30.7	文化会館	33.3	文化会館	27.8
4	荻野運動公園	26.3	荻野運動公園	25.7	ぼうさいの丘公園	28.1	総合福祉センター	17.1
5	厚木中央公園	24.0	市立公民館・地区市民センター	22.4	厚木中央公園	24.1	市立公民館・地区市民センター	17.0
	利用したことがない	15.6	利用したことがない	16.6	利用したことがない	12.7	利用したことがない	21.3

（注）平成17年度調査では、選択肢が異なっている。

(2) 日ごろの交通手段 (B: 問3)

問. 日ごろ、自宅から目的地まで出かけるときに、どのような交通手段を利用しますか。
(2つまで)

図 11-2-1 日ごろの交通手段



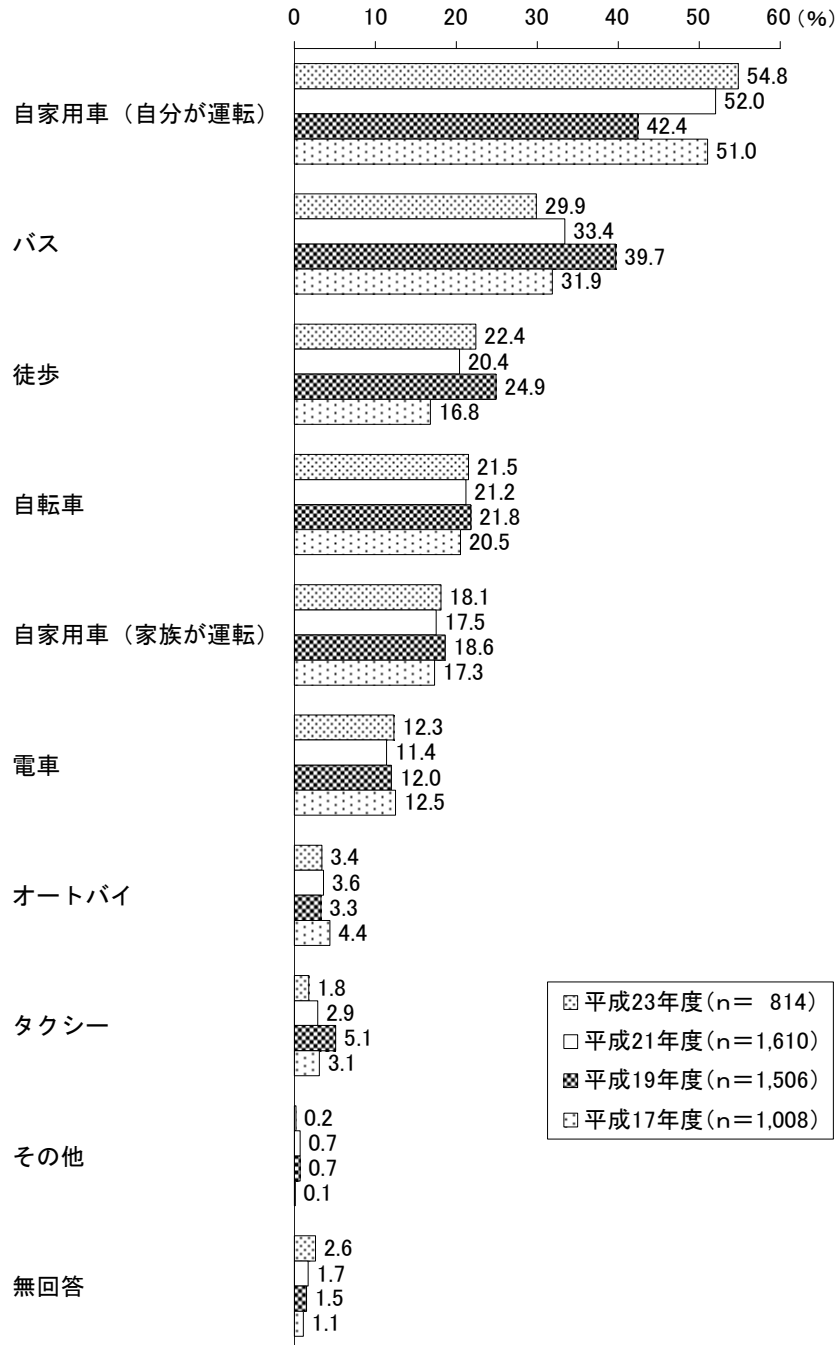
【全体】

日ごろの交通手段について聞いたところ、「自家用車 (自分が運転)」(54.8%) が5割半ばで最も高くなっている。次いで、「バス」(29.9%)、「徒歩」(22.4%)、「自転車」(21.5%) となっている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

図 11-2-2 日ごろの交通手段—経年変化（2つまでの複数回答）



【属性別】

性別にみると、男性で「自家用車（自分が運転）」（70.5%）が女性より 26.7 ポイント高くなっている。一方、女性で「自家用車（家族が運転）」（26.0%）が男性より 18.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20 歳未満は「徒歩」（66.7%）・「自転車」（58.3%）、20 歳代は「電車」（19.7%）、30 歳代から 50 歳代は「自家用車（自分が運転）」（63.5%・67.5%・64.2%）、60 歳代・70 歳代は「バス」（38.3%・51.4%）、80 歳以上は「自家用車（家族が運転）」（41.7%）が、それぞれ他の年代より高くなっている。

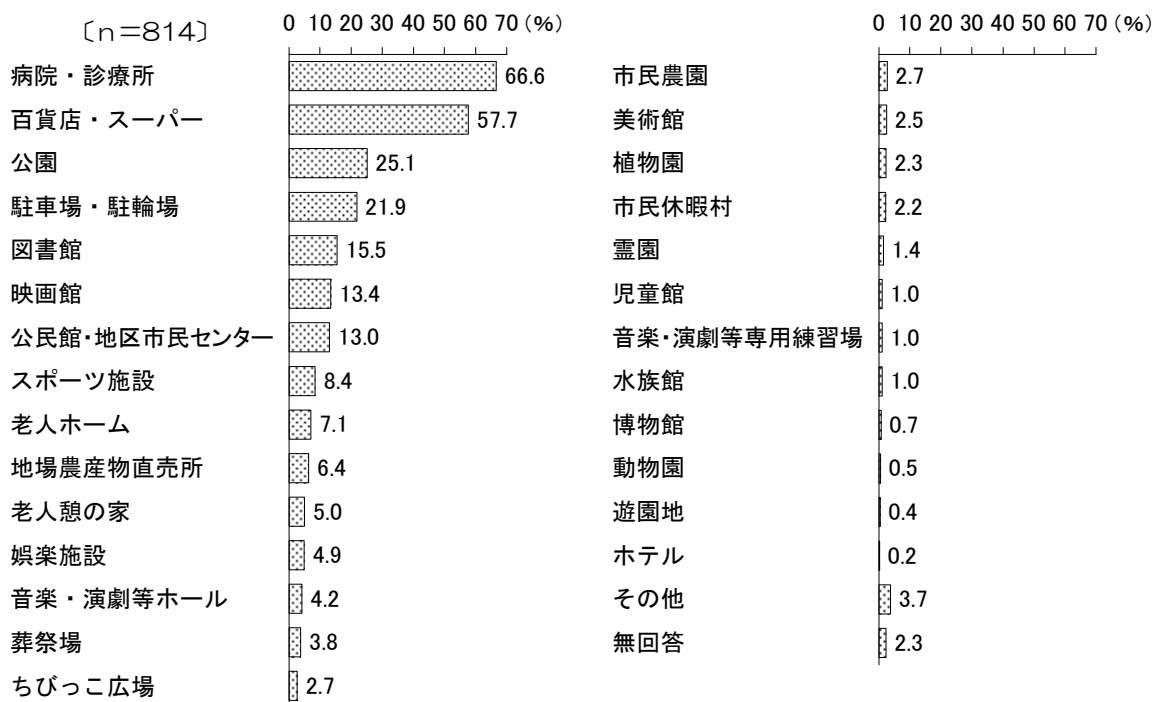
表 11-2-1 日ごろの交通手段—性別、年齢別（2つまでの複数回答）

		n	自家用車 （自分が運転）	バス	徒歩	自転車	自家用車 （家族が運転）	電車	オートバイ	タクシー	その他	無回答
全 体		814	54.8	29.9	22.4	21.5	18.1	12.3	3.4	1.8	0.2	2.6
性別	男 性	336	70.5	25.0	22.9	19.6	7.4	9.8	6.0	1.2	-	3.3
	女 性	470	43.8	32.8	21.9	23.0	26.0	14.0	1.5	2.3	0.4	1.9
年 齢 別	20 歳 未 満	12	16.7	8.3	66.7	58.3	16.7	8.3	8.3	-	-	-
	20 ～ 29 歳	61	41.0	23.0	23.0	26.2	23.0	19.7	9.8	-	-	4.9
	30 ～ 39 歳	156	63.5	21.2	19.2	22.4	19.2	12.8	2.6	1.9	0.6	1.3
	40 ～ 49 歳	151	67.5	19.9	24.5	29.8	15.9	9.3	3.3	-	-	1.3
	50 ～ 59 歳	151	64.2	27.2	17.9	18.5	17.2	14.6	2.6	0.7	-	1.3
	60 ～ 69 歳	149	50.3	38.3	20.1	18.8	19.5	10.7	2.0	2.7	0.7	3.4
	70 ～ 79 歳	105	40.0	51.4	27.6	11.4	11.4	11.4	3.8	4.8	-	5.7
	80 歳 以 上	24	12.5	37.5	20.8	12.5	41.7	8.3	-	8.3	-	4.2

(3) 整備が必要な施設 (B:問5)

問. 生活をする上で、必要な施設は何ですか。(3つまで)

図 11-3-1 整備が必要な施設



【全体】

生活をする上で必要な施設は何か聞いたところ、「病院・診療所」(66.6%)が7割近くで最も高くなっている。次いで、「百貨店・スーパー」(57.7%)、「公園」(25.1%)、「駐車場・駐輪場」(21.9%)、「図書館」(15.5%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査、前々々回調査との比較をみると、「病院・診療所」の1位、「百貨店・スーパー」の2位、「公園」の3位の順位の変動はない。

表 11-3-1 整備が必要な施設—経年変化（3つまでの複数回答）

		(%)							
順位	平成23年度（n=814）		平成21年度（n=1,610）		平成19年度（n=1,506）		平成17年度（n=1,008）		
1	病院・診療所	66.6	病院・診療所	54.7	病院・診療所	50.9	病院・診療所	43.2	
2	百貨店・スーパー	57.7	百貨店・スーパー	35.7	百貨店・スーパー	37.5	百貨店・スーパー	36.8	
3	公園	25.1	公園	30.4	公園	32.3	公園	33.5	
4	駐車場・駐輪場	21.9	図書館	17.5	図書館	17.3	駐車場・駐輪場	20.6	
5	図書館	15.5	駐車場・駐輪場	17.1	駐車場・駐輪場	15.7	図書館	17.8	

【属性別】

性別にみると、女性で「百貨店・スーパー」（63.8%）が男性より13.5ポイント高く、「病院・診療所」（71.1%）が男性より10.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30歳代では「百貨店・スーパー」が1位、それ以外の年代では「病院・診療所」が1位となっている。

表 11-3-2 整備が必要な施設—性別、年齢別（3つまでの複数回答）

		(%)			
順位	男 性		女 性		
1	病院・診療所	60.4	病院・診療所	71.1	
2	百貨店・スーパー	50.3	百貨店・スーパー	63.8	
3	公園	28.9	公園	22.3	

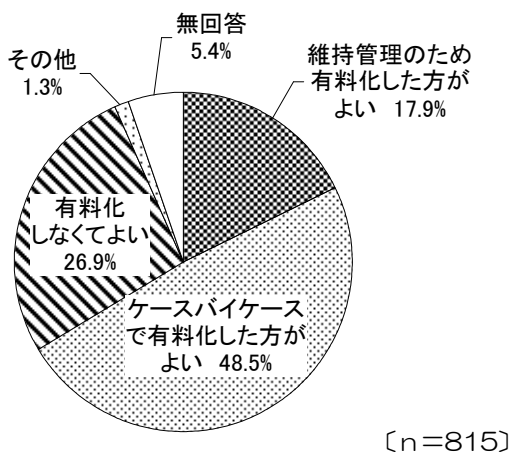
		(%)							
順位	20歳未満		20~29歳		30~39歳		40~49歳		
1	病院・診療所	58.3	病院・診療所	55.7	百貨店・スーパー	67.9	病院・診療所	69.5	
2	／図書館		百貨店・スーパー	54.1	病院・診療所	60.3	百貨店・スーパー	66.9	
3	百貨店・スーパー	50.0	公園	34.4	公園	36.5	駐車場・駐輪場	29.8	

		(%)							
順位	50~59歳		60~69歳		70~79歳		80歳以上		
1	病院・診療所	72.8	病院・診療所	69.8	病院・診療所	69.5	病院・診療所	54.2	
2	百貨店・スーパー	64.2	百貨店・スーパー	45.0	百貨店・スーパー	47.6	百貨店・スーパー	41.7	
3	駐車場・駐輪場	20.5	駐車場・駐輪場／公園	20.1	公園	25.7	映画館／老人憩の家	20.8	

(4) 市の施設の利用の有料化について (A: 問 31)

問. 市の公民館など、現在使用料が無料の施設を有料化することについてどう思いますか。
(1つだけ)

図 11-4-1 市の施設の利用の有料化について



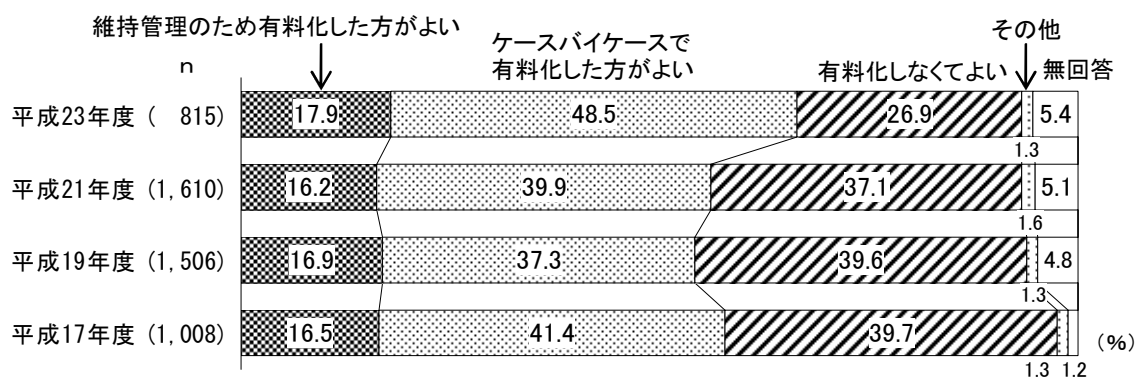
【全体】

現在使用料が無料である市の施設を有料化することへの考えを聞いたところ、「ケースバイケースで有料化した方がよい」(48.5%) が5割近くで最も高くなっている。また、「有料化しなくてよい」(26.9%) が3割近く、「維持管理のため有料化した方がよい」(17.9%) が2割近くとなっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査、前々々回調査との比較をみると、「ケースバイケースで有料化した方がよい」が前回調査より 8.6 ポイント高くなっている。一方、「有料化しなくてよい」が前回調査より 10.2 ポイント低くなっている。

図 11-4-2 市の施設の利用の有料化について一経年変化

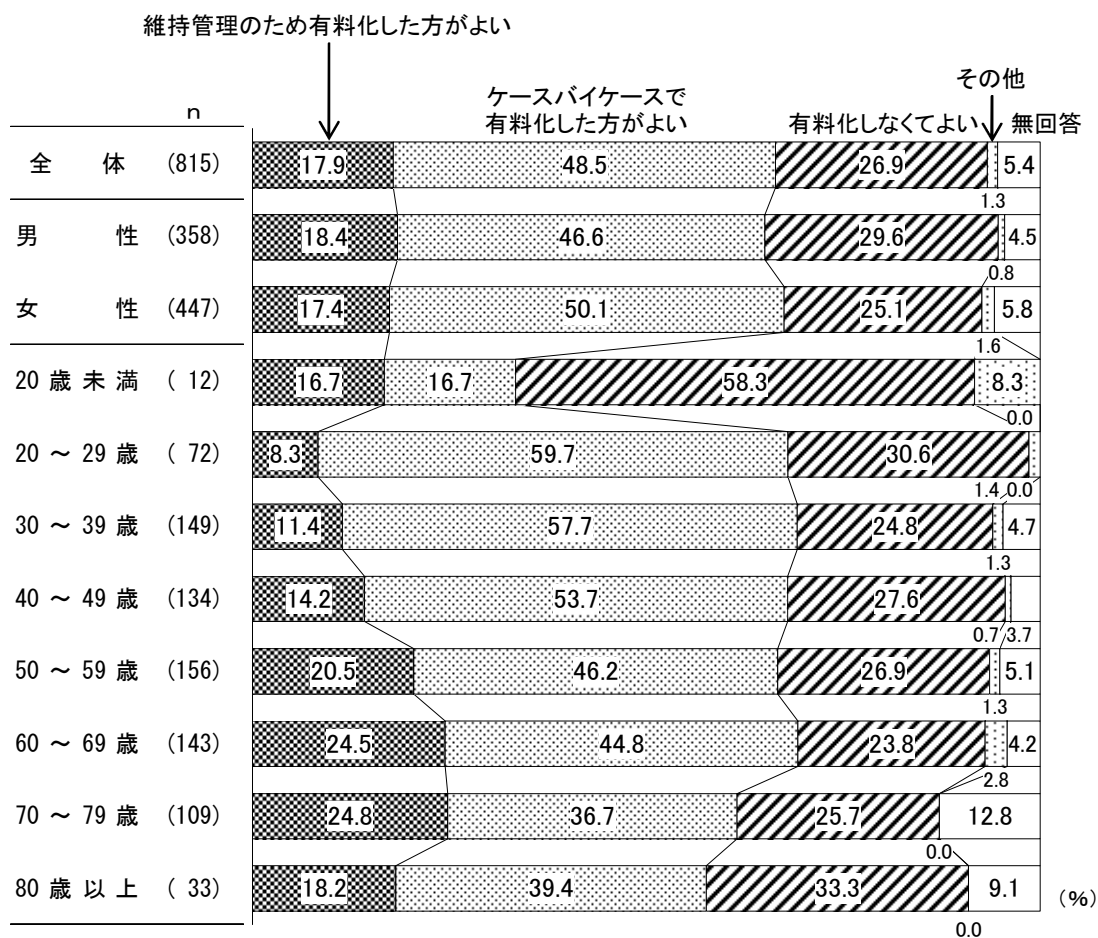


【属性別】

性別にみると、男性で「有料化しなくてよい」（29.6%）が女性より 4.5 ポイント高くなっている。一方、女性で「ケースバイケースで有料化したほうがよい」（50.1%）が男性より 3.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、50 歳代から 70 歳代で「維持管理のため有料化した方がよい」（20.5%・24.5%・24.8%）が 2 割以上と他の年代より高くなっている。また、20 歳代で「ケースバイケースで有料化したほうがよい」（59.7%）が 6 割で他の年代より高くなっている。

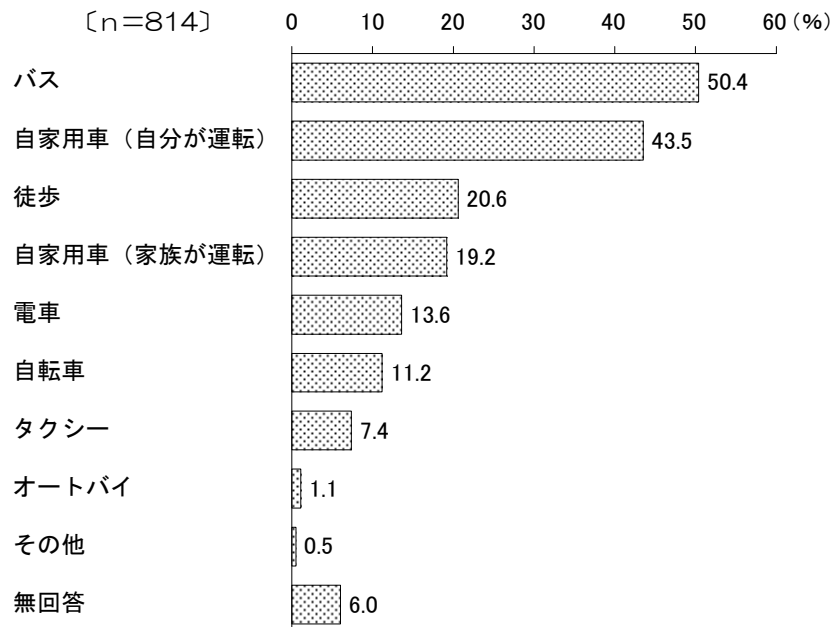
図 11-4-3 市の施設の利用の有料化について—性別、年齢別



(5) 高齢時の交通手段 (B: 問4)

問. 将来 (65 歳以降) は、主にどのような交通手段を利用すると思いますか。
(現在 65 歳以上の方は、どのような交通手段を利用していますか。)(2 つまで)

図 11-5-1 高齢時の交通手段



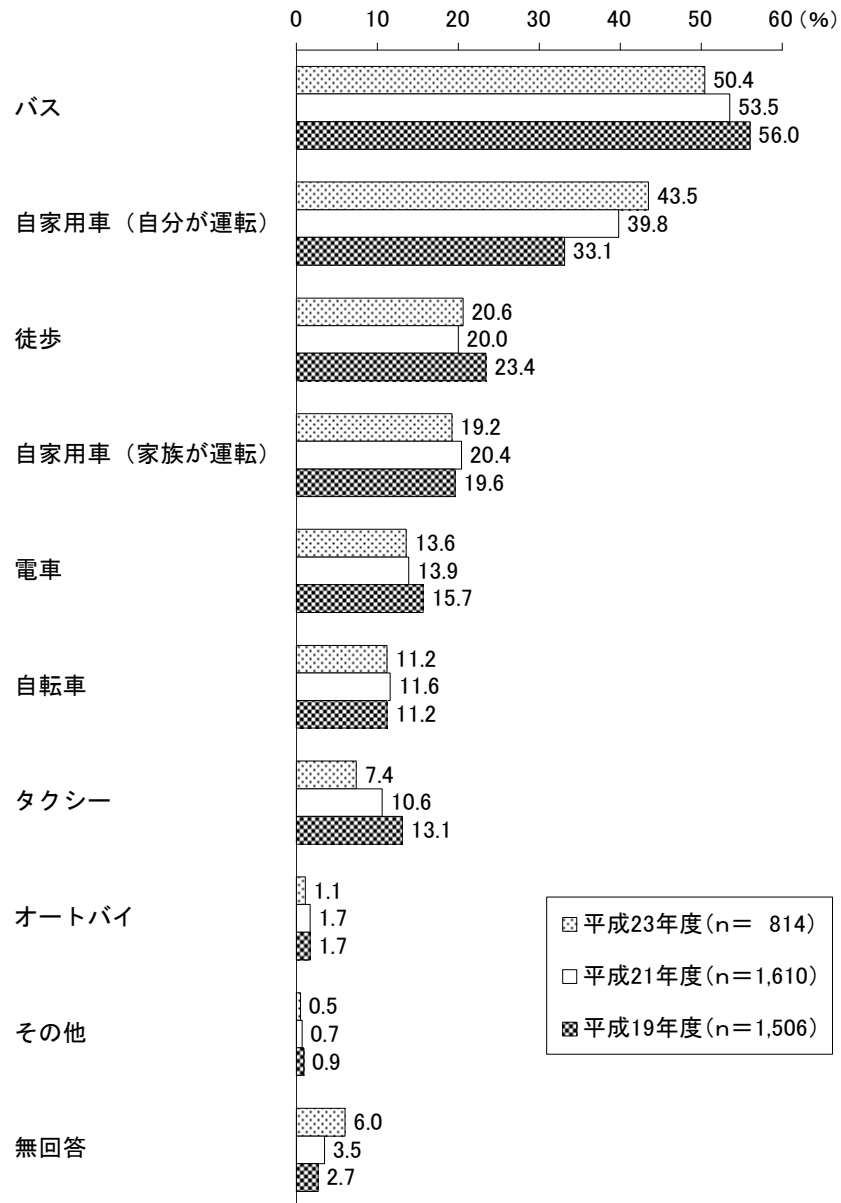
【全体】

高齢時の交通手段について聞いたところ、「バス」(50.4%) が5割で最も高くなっている。次いで、「自家用車 (自分が運転)」(43.5%)、「徒歩」(20.6%)、「自家用車 (家族が運転)」(19.2%)、「電車」(13.6%) となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「バス」が減少傾向となっている。一方、「自家用車（自分が運転）」が増加傾向となっている。

図 11-5-2 高齢時の交通手段—経年変化（2つまでの複数回答）



【属性別】

性別にみると、男性で「自家用車（自分が運転）」（59.8%）が女性より 27.7 ポイント高くなっている。一方、女性で「自家用車（家族が運転）」（26.8%）が男性より 18.2 ポイント高く、「バス」（52.8%）が男性より 6.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70 歳代で「バス」（69.5%）が 7 割、50 歳代で「電車」（21.9%）が 2 割を超え他の年代より高くなっている。また、80 歳以上で「自家用車（家族が運転）」（37.5%）が 4 割近く、「タクシー」（16.7%）が 2 割近くで他の年代より高くなっている。

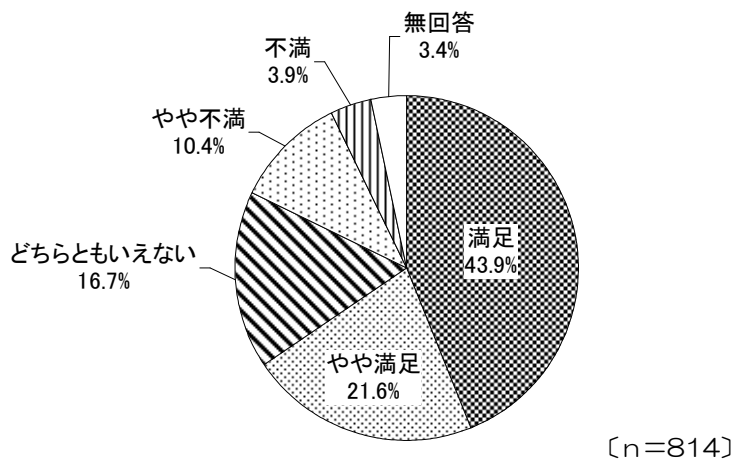
表 11-5-1 高齢時の交通手段—性別、年齢別（2つまでの複数回答）

			バス	自家用車 （自分が運転）	徒歩	自家用車 （家族が運転）	電車	自転車	タクシー	オートバイ	その他	無回答
		n	(%)									
全 体		814	50.4	43.5	20.6	19.2	13.6	11.2	7.4	1.1	0.5	6.0
性別	男 性	336	46.1	59.8	19.6	8.6	11.9	13.1	5.1	2.1	0.3	6.0
	女 性	470	52.8	32.1	21.7	26.8	14.7	10.0	8.9	0.4	0.6	6.0
年齢別	20 歳 未 満	12	33.3	33.3	33.3	33.3	16.7	16.7	8.3	-	-	-
	20 ～ 29 歳	61	47.5	44.3	23.0	21.3	14.8	8.2	8.2	-	-	6.6
	30 ～ 39 歳	156	50.6	45.5	24.4	16.0	12.8	7.1	4.5	-	-	7.1
	40 ～ 49 歳	151	43.7	51.0	23.8	17.9	9.3	16.6	6.0	0.7	-	5.3
	50 ～ 59 歳	151	42.4	42.4	16.6	22.5	21.9	11.3	6.6	1.3	-	7.3
	60 ～ 69 歳	149	55.7	45.6	15.4	19.5	10.7	10.7	8.1	2.0	2.0	5.4
	70 ～ 79 歳	105	69.5	37.1	21.9	14.3	12.4	12.4	10.5	2.9	-	2.9
80 歳 以 上	24	33.3	12.5	20.8	37.5	8.3	8.3	16.7	-	4.2	12.5	

(6) 窓口開庁日時について (B:問6)

問. 現在、住民票の申請等の窓口は、平日の8:30~17:15、毎週土曜日の午前中に開庁していますが、どう思いますか。(1つだけ)

図 11-6-1 窓口開庁日時について



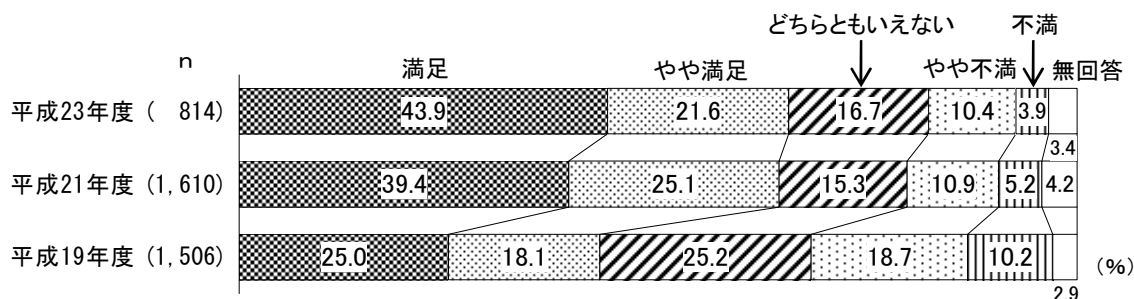
【全体】

窓口開庁日時についての満足度を聞いたところ、「満足」(43.9%)と「やや満足」(21.6%)を合わせた『満足』(65.5%)が6割半ばとなっている。一方、「やや不満」(10.4%)と「不満」(3.9%)を合わせた『不満』(14.3%)が1割半ばとなっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「満足」が増加傾向にあり、前回調査より 4.5 ポイント高くなっている。

図 11-6-2 窓口開庁日時について—経年変化

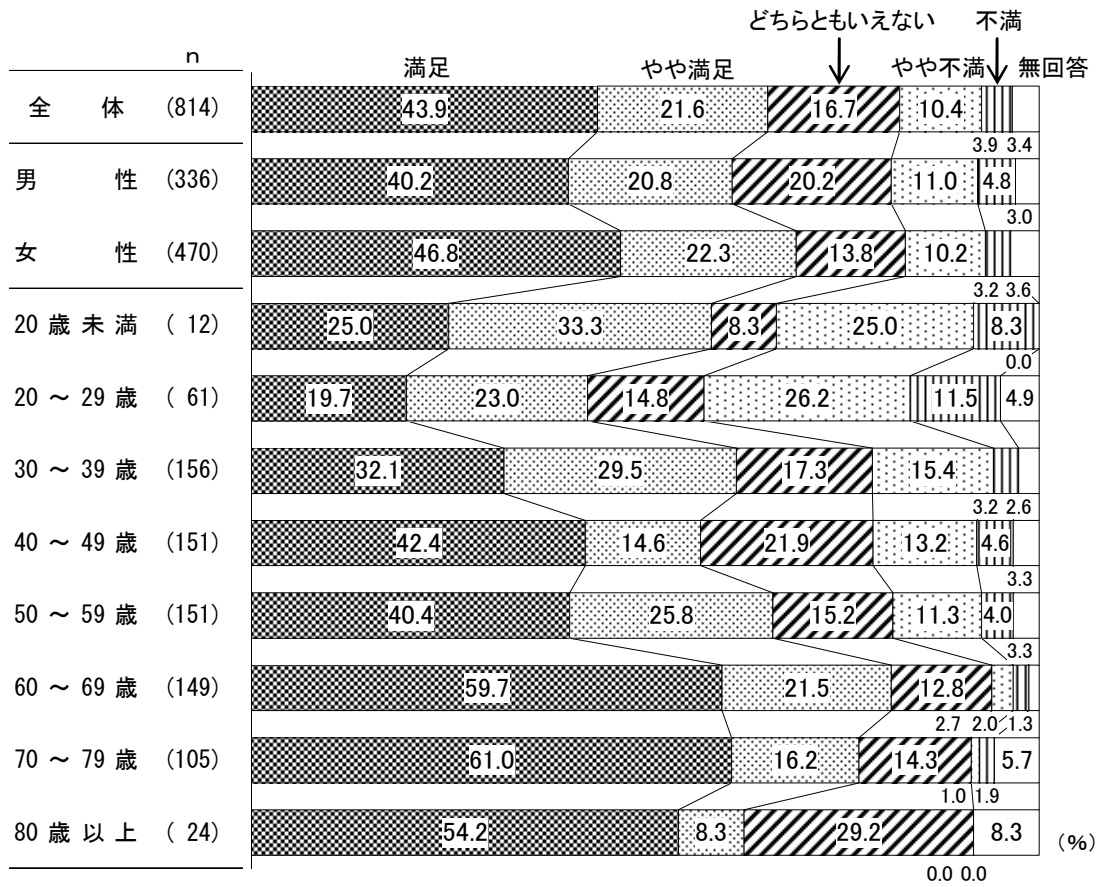


【属性別】

性別にみると、女性で『満足』(69.1%)が男性より8.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、60歳代以上で「満足」が5割以上となっており、おおむね年代が高くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。一方、『不満』は20歳代(37.7%)が4割近くで他の年代より高くなっている。

図 11-6-3 窓口開庁日時について—性別、年齢別

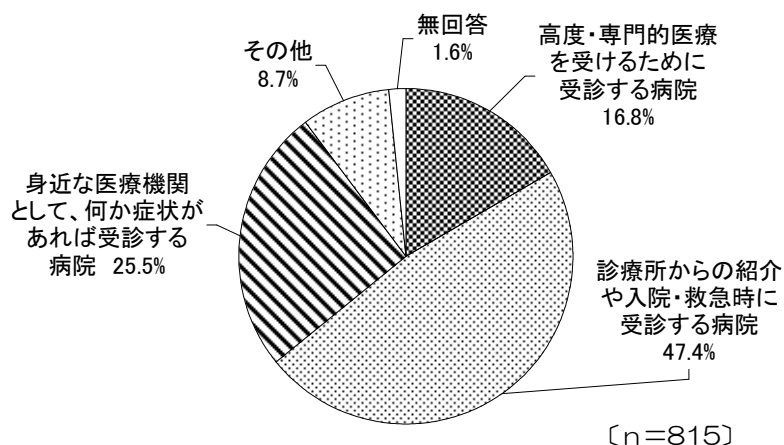


12 保健・健康

(1) 市立病院のイメージ (A: 問9)

問. 市立病院に対するあなたがお持ちのイメージについて、近いものを選んでください。
(1つだけ)

図 12-1-1 市立病院のイメージ



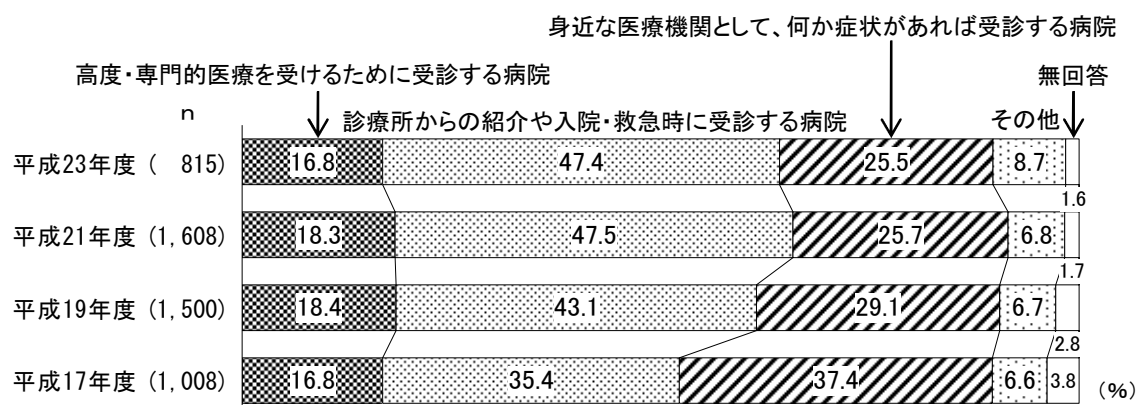
【全体】

市立病院に対して持っているイメージを聞いたところ、「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」(47.4%)が5割近くで最も高く、「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」(25.5%)が2割半ば、「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」(16.8%)が2割近くとなっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査、前々々回調査との比較をみると、増加傾向にあった「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」、減少傾向にあった「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」がともに前回調査と同じ傾向になっている。

図 12-1-2 市立病院のイメージ経年変化

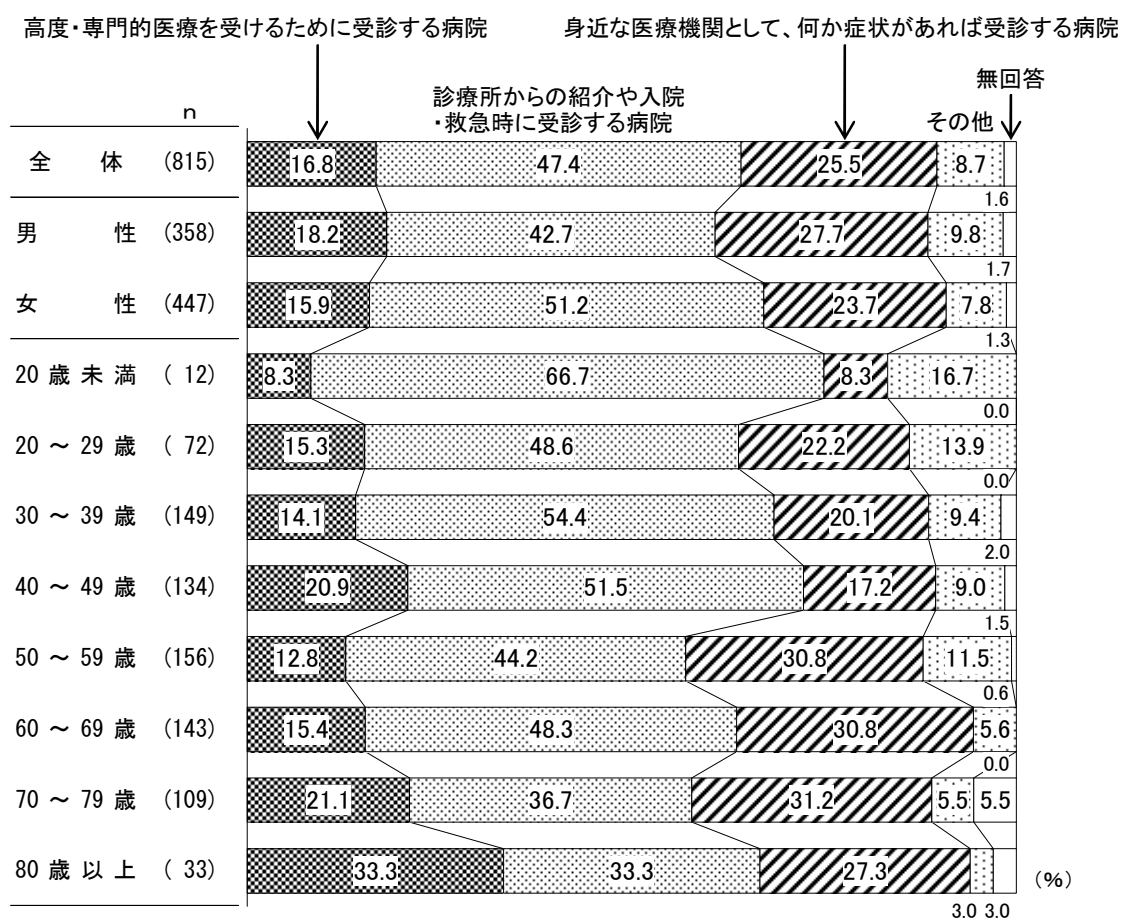


【属性別】

性別にみると、女性で「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」(51.2%)が男性より8.5ポイント高くなっている。一方、男性で「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」(27.7%)が女性より4.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、80歳以上で「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」(33.3%)が3割を超え他の年代より高くなっている。また、30歳代で「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」(54.4%)が5割半ばで他の年代より高くなっている。

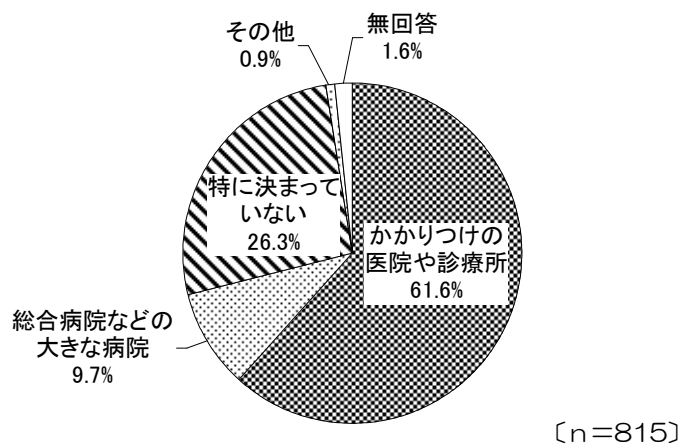
図 12-1-3 市立病院のイメージ—性別、年齢別



(2) 身近な医療機関 (A: 問7)

問. かぜなどにかかった時、通院する病院は決まっていますか。(1つだけ)

図 12-2-1 身近な医療機関



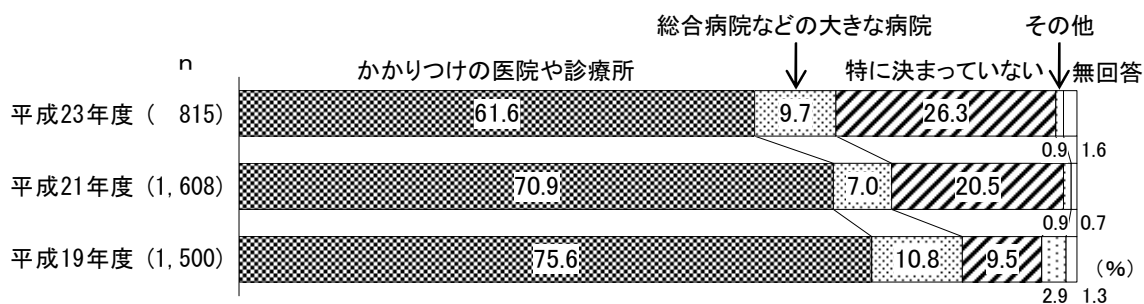
【全体】

かぜなどにかかった時、通院する病院は決まっているか聞いたところ、「かかりつけの医院や診療所」(61.6%)が6割を超え最も高くなっている。他には、「総合病院などの大きな病院」(9.7%)、「特に決まっていない」(26.3%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「かかりつけの医院や診療所」が減少傾向にあり、前回調査より 9.3 ポイント低くなっている。一方、「特に決まっていない」が増加傾向にあり、前回調査より 5.8 ポイント高くなっている。

図 12-2-2 身近な医療機関—経年変化

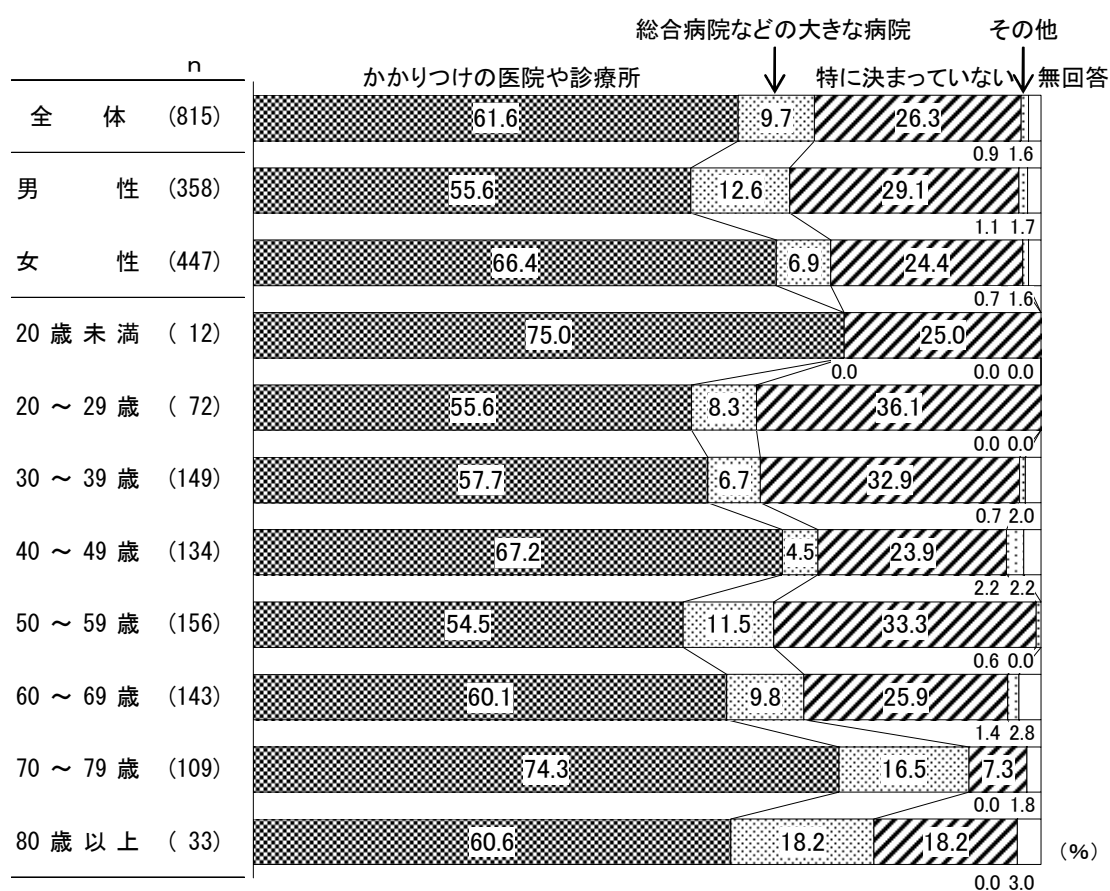


【属性別】

性別にみると、女性で「かかりつけの医院や診療所」（66.4%）が男性より 10.8 ポイント高くなっている。一方、男性で「総合病院などの大きな病院」（12.6%）が女性より 5.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70 歳代で「かかりつけの医院や診療所」（74.3%）が7割半ばで他の年代より高くなっている。一方、20 歳代で「特に決まっていない」（36.1%）が3割半ばで他の年代より高くなっている。

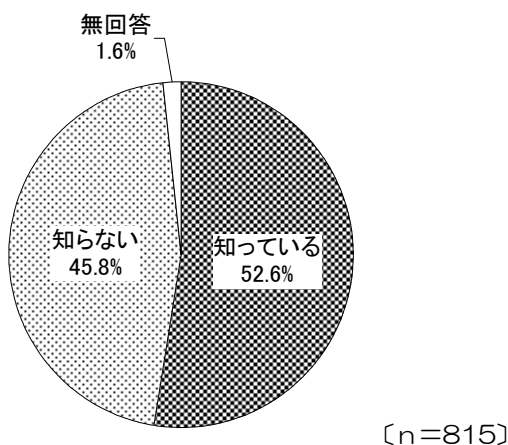
図 12-2-3 身近な医療機関—性別、年齢別



(3) 医療機関の役割分担 (A：問8)

問. かかりつけ医（主に医院や診療所など）は日ごろから医療や健康相談を受け持ち、病院は入院の必要な患者を受け持つという役割分担があることを知っていますか。
（1つだけ）

図 12-3-1 医療機関の役割分担



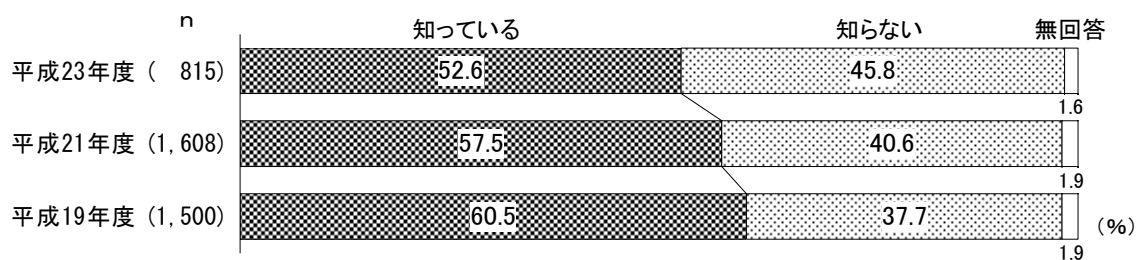
【全体】

かかりつけ医（主に医院や診療所など）は日ごろから医療や健康相談を受け持ち、病院は入院の必要な患者を受け持つという役割分担があることを知っているか聞いたところ、「知っている」（52.6%）が5割を超え、「知らない」（45.8%）が4割半ばとなっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「知っている」が減少傾向にあり、前回調査より4.9ポイント低くなっている。一方、「知らない」が増加傾向にあり、前回調査より5.2ポイント高くなっている。

図 12-3-2 医療機関の役割分担—経年変化

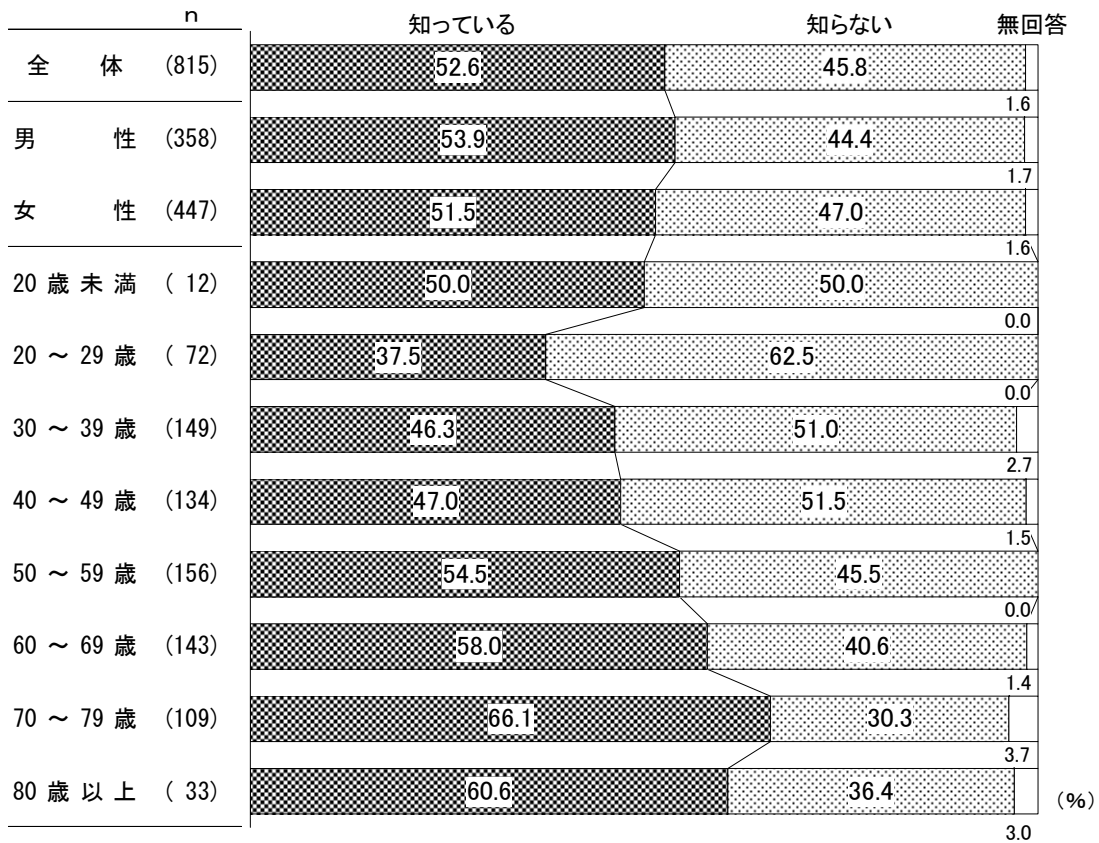


【属性別】

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別にみると、70 歳代以上で「知っている」が6割以上で、おおむね年代が高くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。一方、「知らない」は 20 歳代（62.5%）が6割を超え他の年代より高くなっている。

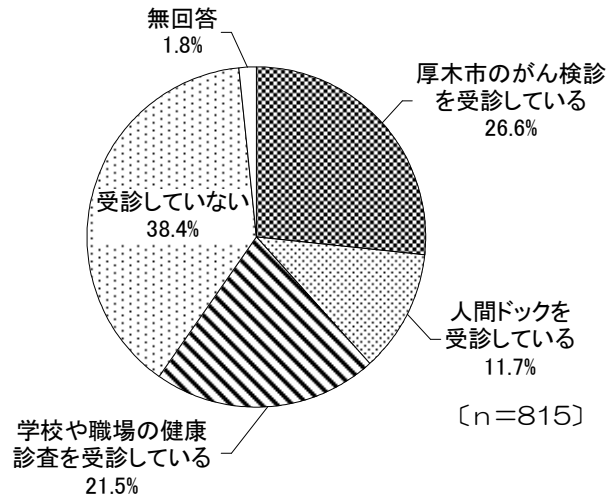
図 12-3-3 医療機関の役割分担—性別、年齢別



(4) がん検診の受診状況 (A: 問 10)

問. あなたは、なんらかのがん検診を受診していますか。(主なものを1つだけ)

図 12-4-1 がん検診の受診状況



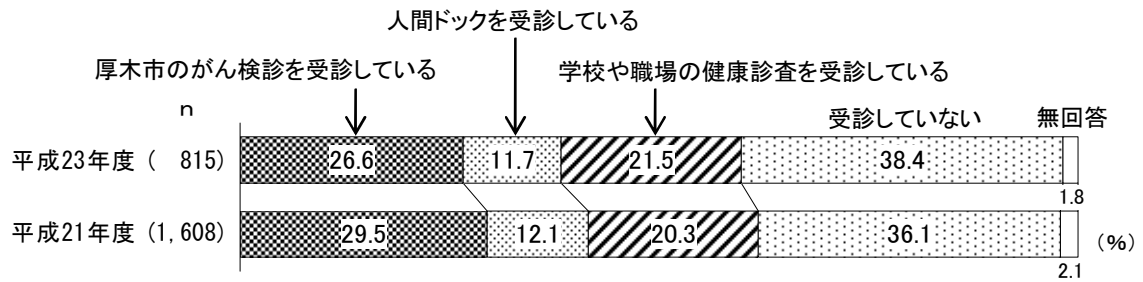
【全体】

がん検診の受診状況について聞いたところ、「厚木市のがん検診を受診している」(26.6%)が3割近くで最も高く、「学校や職場の健康診査を受診している」(21.5%)が2割を超え、「人間ドックを受診している」(11.7%)が1割を超えている。一方、「受診していない」(38.4%)が4割近くとなっている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

図 12-4-2 がん検診の受診状況—経年変化

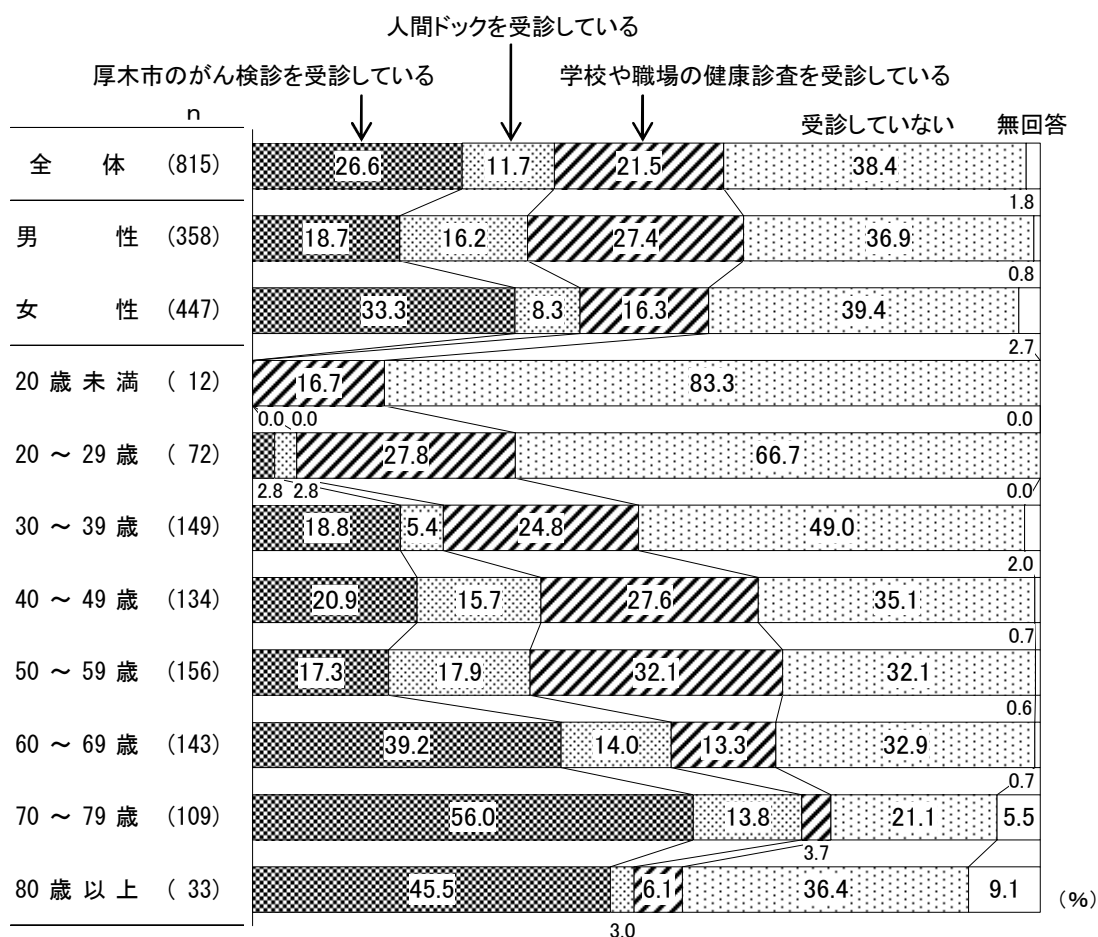


【属性別】

性別にみると、女性で「厚木市のがん検診を受診している」(33.3%)が男性より14.6ポイント高くなっている。一方、男性で「学校や職場の健康診査を受診している」(27.4%)が女性より11.1ポイント高く、「人間ドックを受診している」(16.2%)が女性より7.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「厚木市のがん検診を受診している」は70歳代(56.0%)が5割半ば、80歳以上(45.5%)が4割半ば、60歳代(39.2%)がほぼ4割で他の年代より高くなっている。また、50歳代で「人間ドックを受診している」(17.9%)が2割近く、「学校や職場の健康診査を受診している」(32.1%)が3割を超え他の年代より高くなっている。一方、20歳未満で「受診していない」(83.3%)が8割を超え、おおむね年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

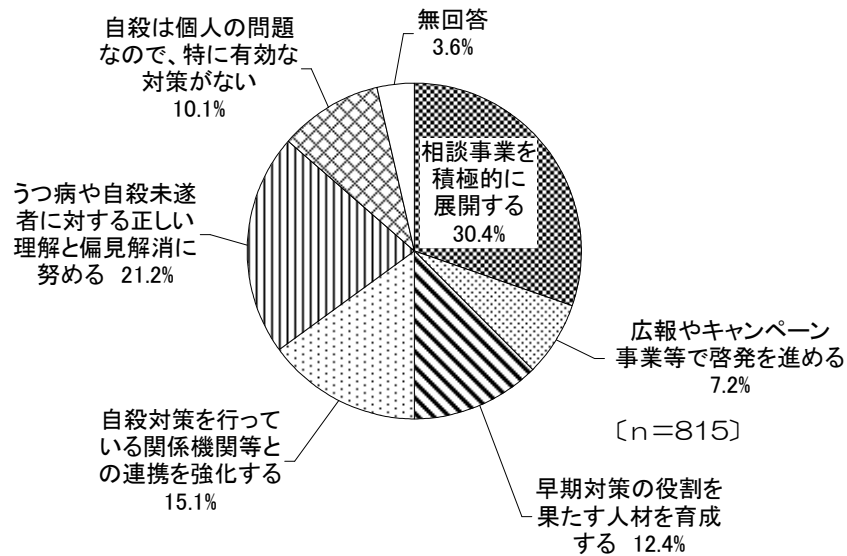
図 12-4-3 がん検診の受診状況—性別、年齢別



(5) 自殺への対策（A：問 11）

問. 自殺で亡くなる方は全国で年間3万人を超え、厚木市でも少なくありません。
このことに対して、どのような対策が重要だと思いますか。（1つだけ）

図 12-5-1 自殺への対策



【全体】

自殺への対策について聞いたところ、「相談事業を積極的に展開する」（30.4%）が3割で最も高くなっている。次いで、「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」（21.2%）、「自殺対策を行っている関係機関等との連携を強化する」（15.1%）となっている。

【経年変化】

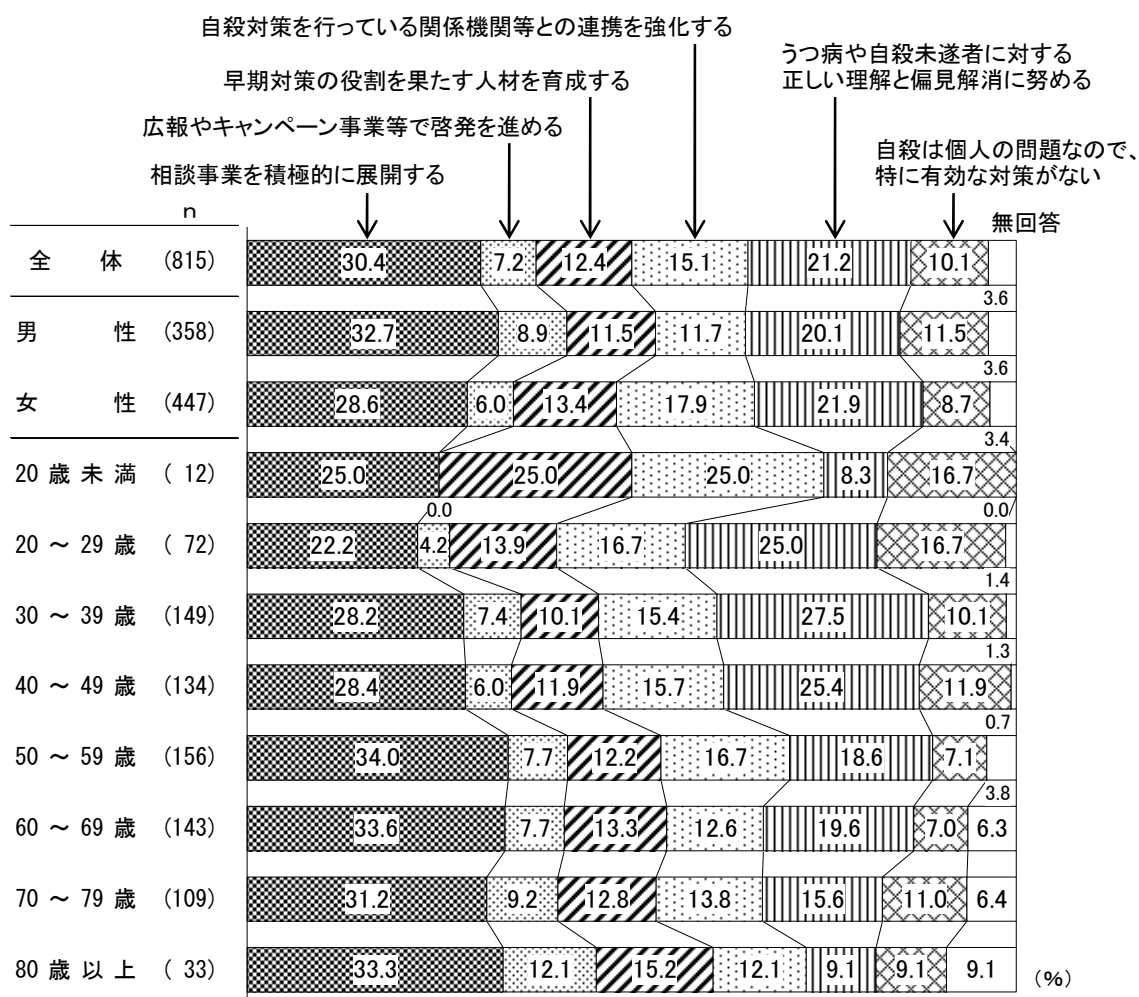
新規設問のため、経年変化はなし。

【属性別】

性別にみると、女性で「自殺対策を行っている関係機関等との連携を強化する」（17.9%）が男性より6.2ポイント高くなっている。一方、男性で「相談事業を積極的に展開する」（32.7%）が女性より4.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30歳代で「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」（27.5%）が3割近くで他の年代より高くなっている。

図 12-5-2 自殺への対策—性別、年齢別

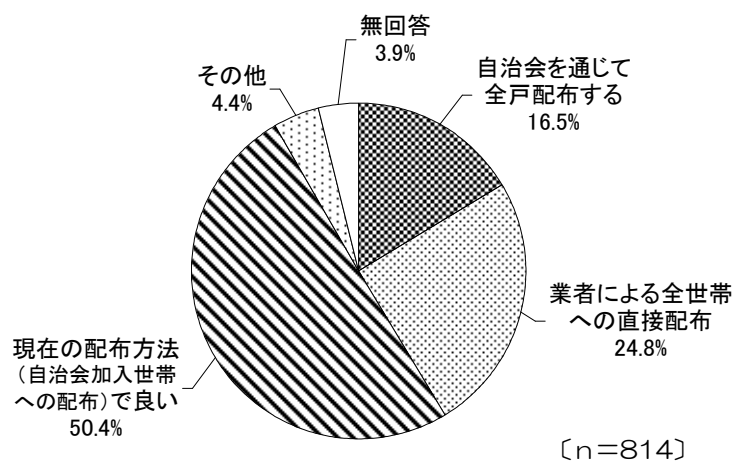


1.3 広報・広聴

(1) 「広報あつぎ」の配布（B：問10）

問. 市では「広報あつぎ」を全世帯にもれなく配布することを検討していますが、どう考えますか。（1つだけ）

図 13-1-1 「広報あつぎ」の配布



【全体】

「広報あつぎ」の配布方法について聞いたところ、「現在の配布方法（自治会加入世帯への配布）が良い」（50.4%）が5割、「業者による全世帯への直接配布」（24.8%）が2割半ば、「自治会を通じて全戸配布する」（16.5%）が2割近くとなっている。

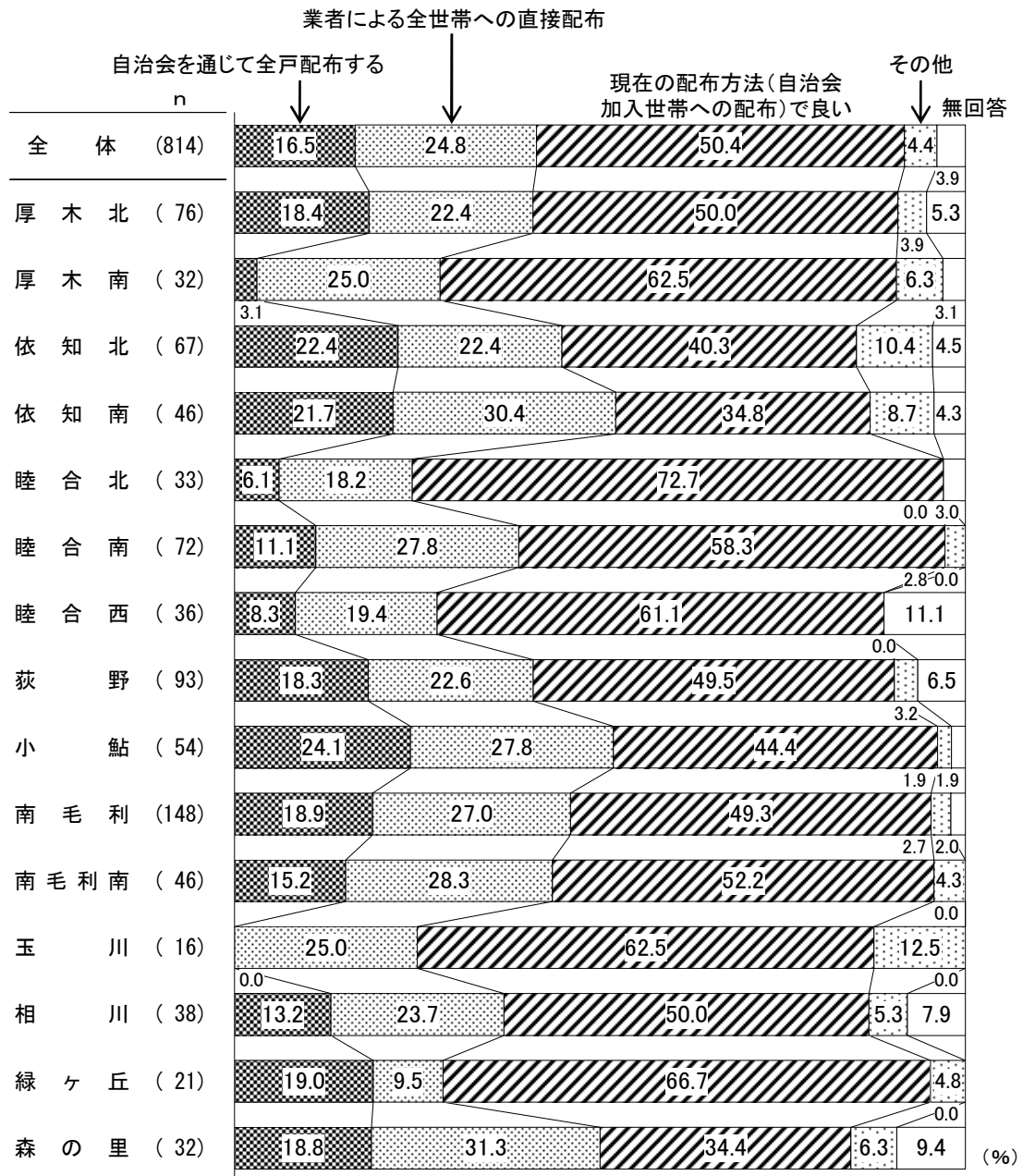
【経年変化】

新規設問のため、経年変化はなし。

【属性別】

居住地区別にみると、「現在の配布方法（自治会加入世帯への配布）が良い」は睦合北（72.7%）が7割を超え、緑ヶ丘（66.7%）が7割近くで他の居住地区より高くなっている。

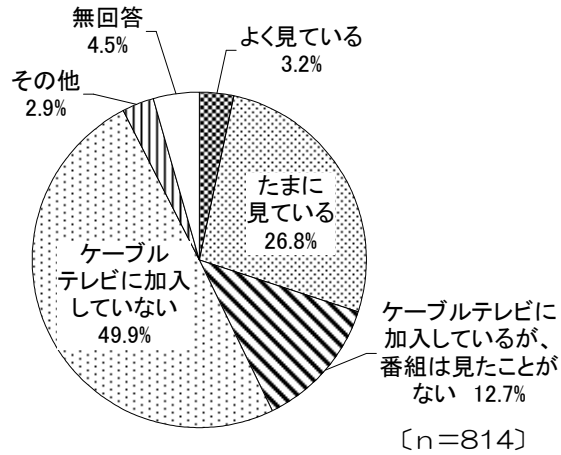
図 13-1-2 「広報あつぎ」の配布—居住地区別



(2) ケーブルテレビ「あつぎ元気 Wave」の視聴頻度（B：問 11）

問. ケーブルテレビの「あゆチャンネル」で放映している市提供番組「あつぎ元気 Wave」を見たことがありますか。（1つだけ）

図 13-2-1 ケーブルテレビ「あつぎ元気 Wave」の視聴頻度



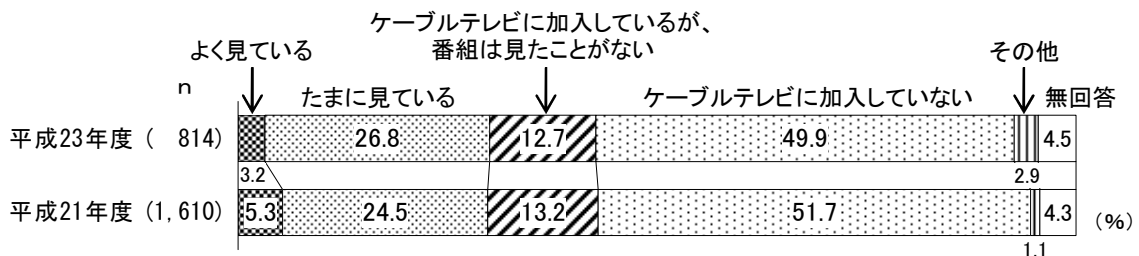
【全体】

ケーブルテレビ「あつぎ元気Wave」の視聴頻度について聞いたところ、「よく見ている」(3.2%)、「たまに見ている」(26.8%)を合わせた『見ている』(30.0%)が3割となっている。一方、「ケーブルテレビに加入していない」(49.9%)が5割、「ケーブルテレビに加入しているが、番組は見たことがない」(12.7%)が1割程度となっている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

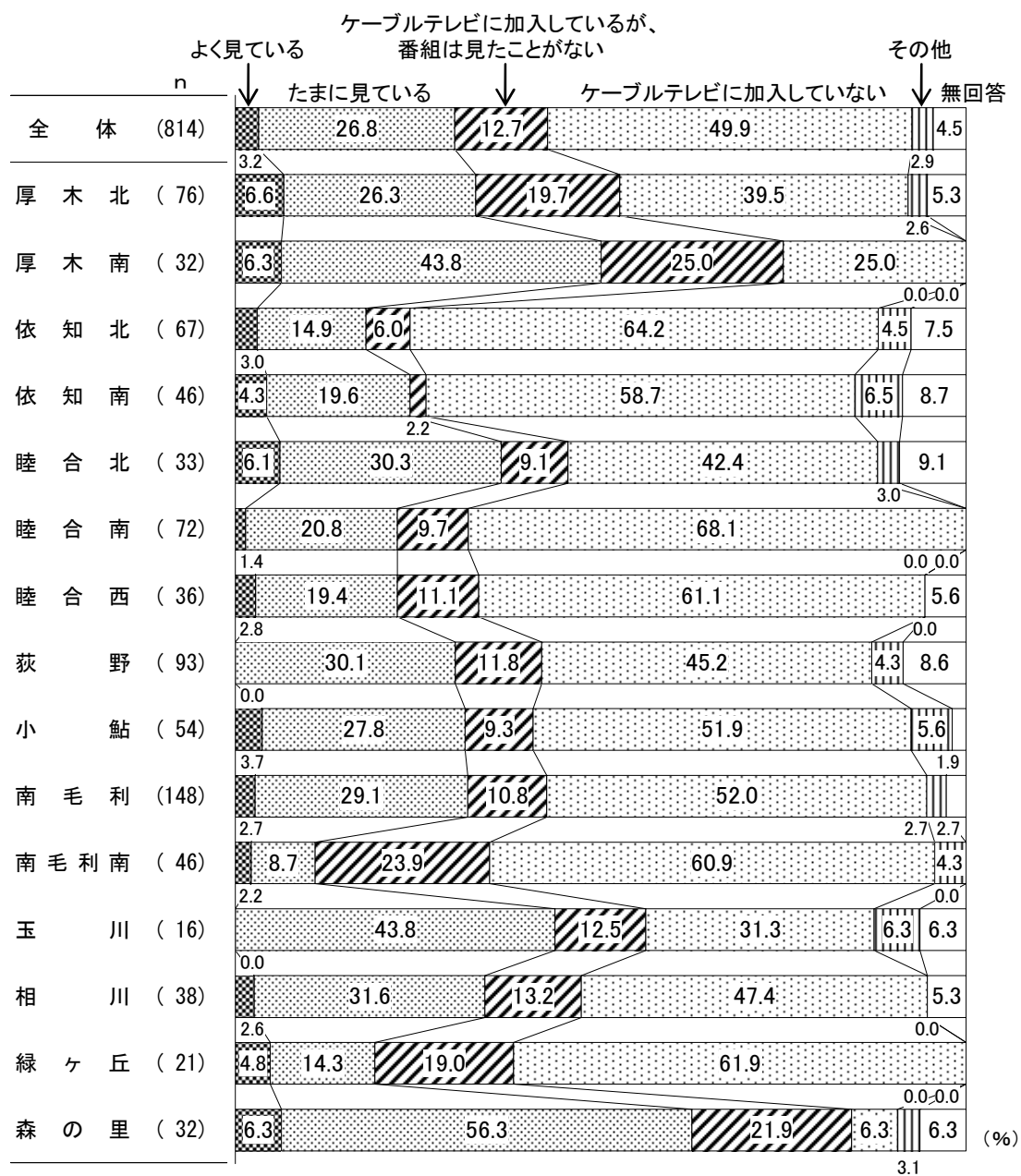
図 13-2-2 ケーブルテレビ「あつぎ元気 Wave」の視聴頻度—経年変化



【属性別】

居住地区別にみると、森の里で『見ている』（62.6%）が6割を超え他の居住地区より高くなっている。また、厚木南で「ケーブルテレビに加入しているが、番組は見たことがない」（25.0%）が2割半ばで他の居住地区より高く、「ケーブルテレビに加入していない」は睦合南（68.1%）が7割近く、依知北（64.2%）が6割半ばで他の居住地区より高くなっている。

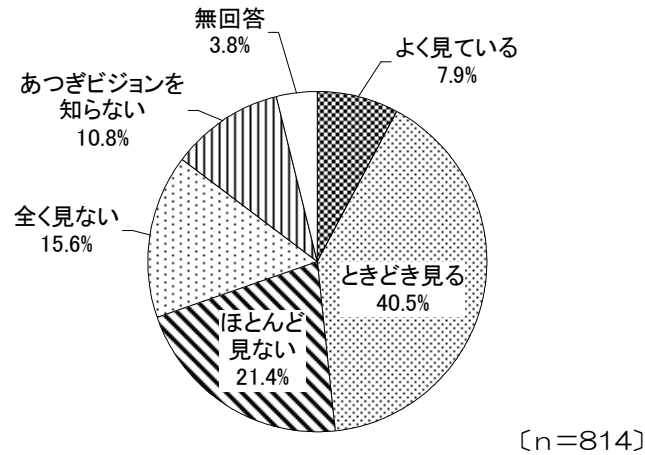
図 13-2-3 ケーブルテレビ「あつぎ元気 Wave」の視聴頻度—居住地区別



(3) 屋外大型映像装置（あつぎビジョン）の視聴頻度（B：問 12）

問. 本厚木駅北口駅前に設置されている屋外大型映像装置（あつぎビジョン）を見たことがありますか。（1つだけ）

図 13-3-1 屋外大型映像装置（あつぎビジョン）の視聴頻度



【全体】

本厚木駅北口駅前に設置されている屋外大型映像装置（あつぎビジョン）の視聴頻度について聞いたところ、「よく見ている」（7.9%）、「ときどき見る」（40.5%）を合わせた『見ている』（48.4%）が5割近くとなっている。一方、「ほとんど見ない」（21.4%）、「全くない」（15.6%）を合わせた『見ない』（37.0%）が4割近くとなっている。

【経年変化】

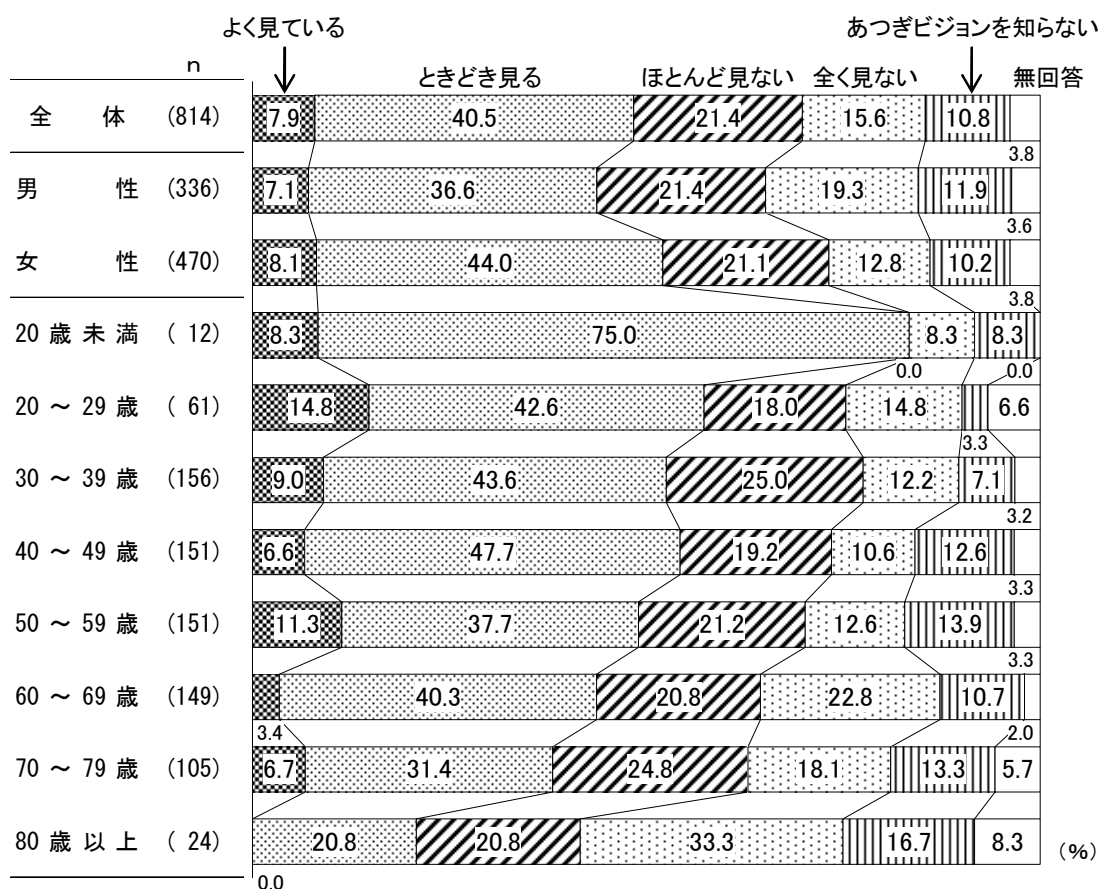
新規設問のため、経年変化はなし。

【属性別】

性別にみると、女性で『見ている』(52.1%)が男性より8.4ポイント高くなっている。一方、男性で『見ない』(40.7%)が女性より6.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『見ている』はおおむね年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。一方、『見ない』はおおむね年代が高くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

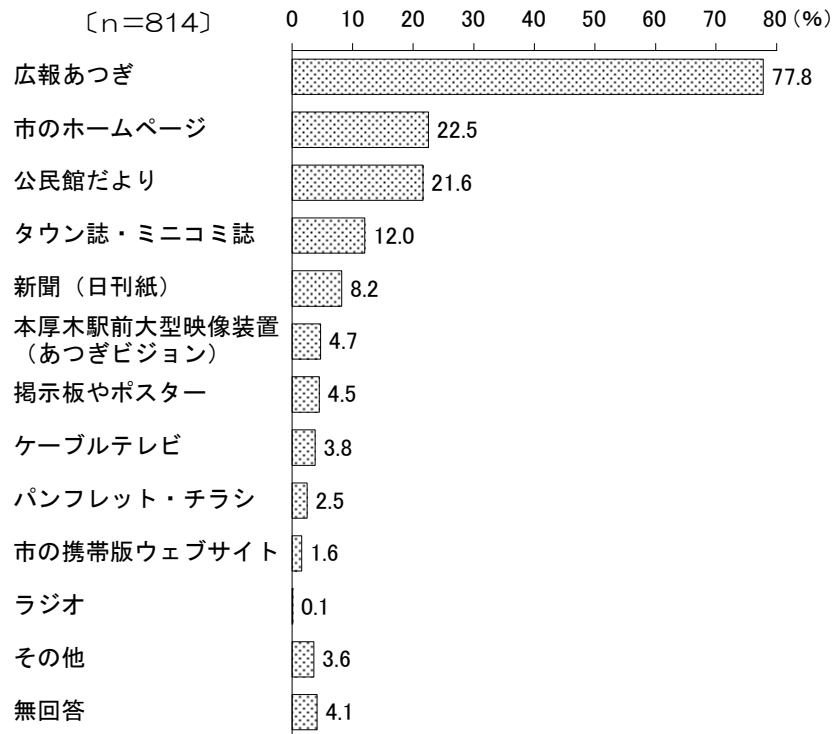
図 13-3-2 屋外大型映像装置（あつぎビジョン）の視聴頻度—性別、年齢別



(4) 市の情報の入手方法 (B: 問 13)

問. 市の情報はどのように入手していますか。(2つまで)

図 13-4-1 市の情報の入手方法



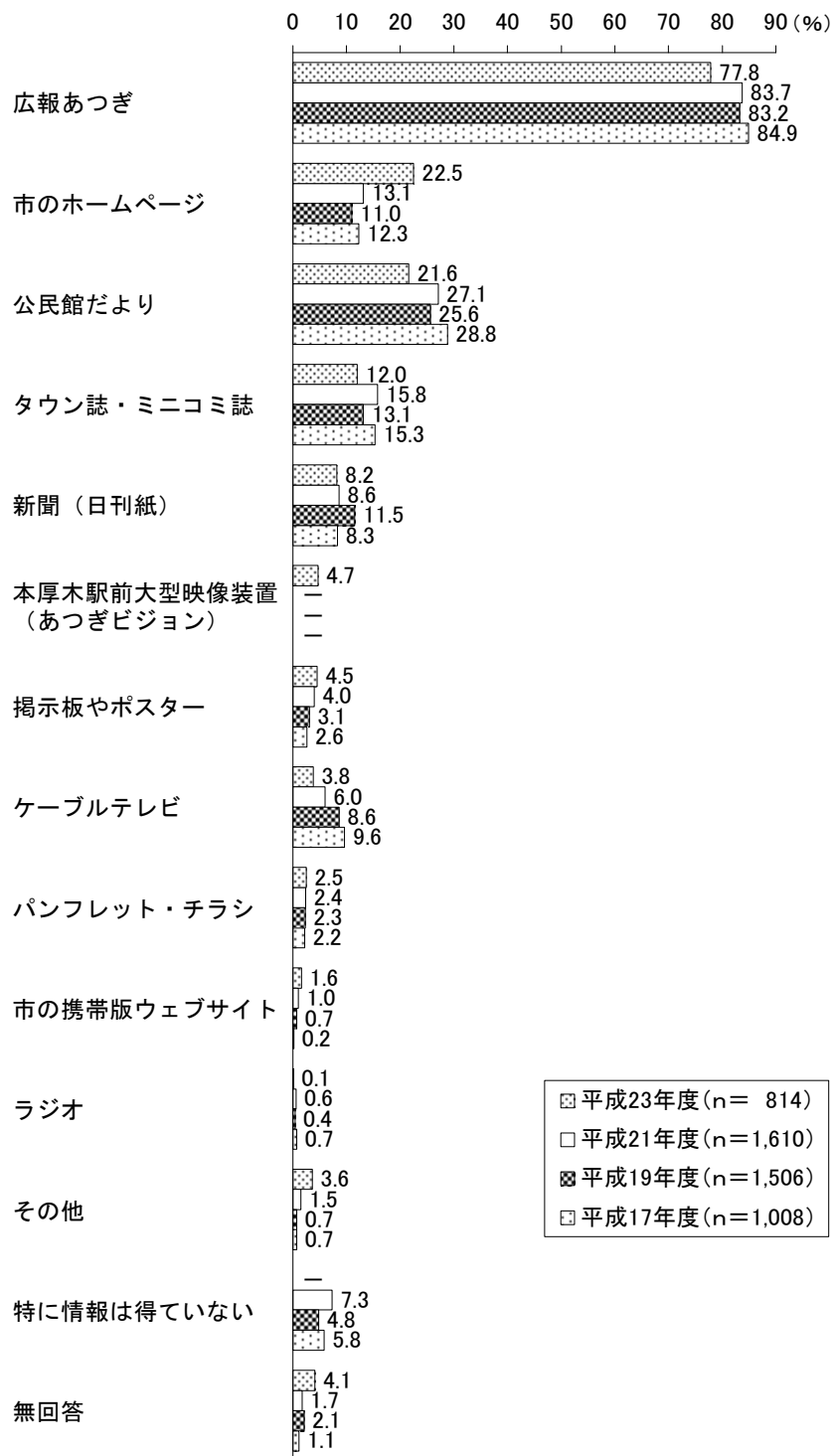
【全体】

市の情報の入手方法について聞いたところ、「広報あつぎ」(77.8%)が8割近くで特に高くなっている。次いで、「市のホームページ」(22.5%)、「公民館だより」(21.6%)、「タウン誌・ミニコミ誌」(12.0%)、「新聞(日刊紙)」(8.2%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査、前々々回調査との比較をみると、「広報あつぎ」が8割以上だったが、前回調査より5.9ポイント低くなり、「公民館だより」でも5.5ポイント低くなっている。一方、「市のホームページ」が1割を超える程度であったが、前回調査より9.4ポイント高くなっている。

図 13-4-2 市の情報の入手方法—経年変化（2つまでの複数回答）



（注）平成 23 年度調査では、「本厚木駅前大型映像装置（あつぎビジョン）」が選択肢に追加、「特に情報は得ていない」が削除されている。

【属性別】

性別にみると、女性で「公民館だより」(24.7%)が男性より7.1ポイント高くなっている。一方、男性で「新聞(日刊紙)」(10.7%)が女性より4.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、50歳代以上で「広報あつぎ」が8割以上で、おおむね年代が高くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。30歳代・40歳代で「市のホームページ」(37.2%・35.1%)が3割以上、60歳代・70歳代で「公民館だより」(34.2%・40.0%)が3割以上、80歳以上で「新聞(日刊紙)」(25.0%)が2割半ばで他の年代より高くなっている。また、20歳未満・20歳代で「本厚木駅前大型映像装置(あつぎビジョン)」(25.0%・16.4%)が1割以上、20歳未満で「掲示板やポスター」(25.0%)が2割半ばで他の年代より高くなっている。

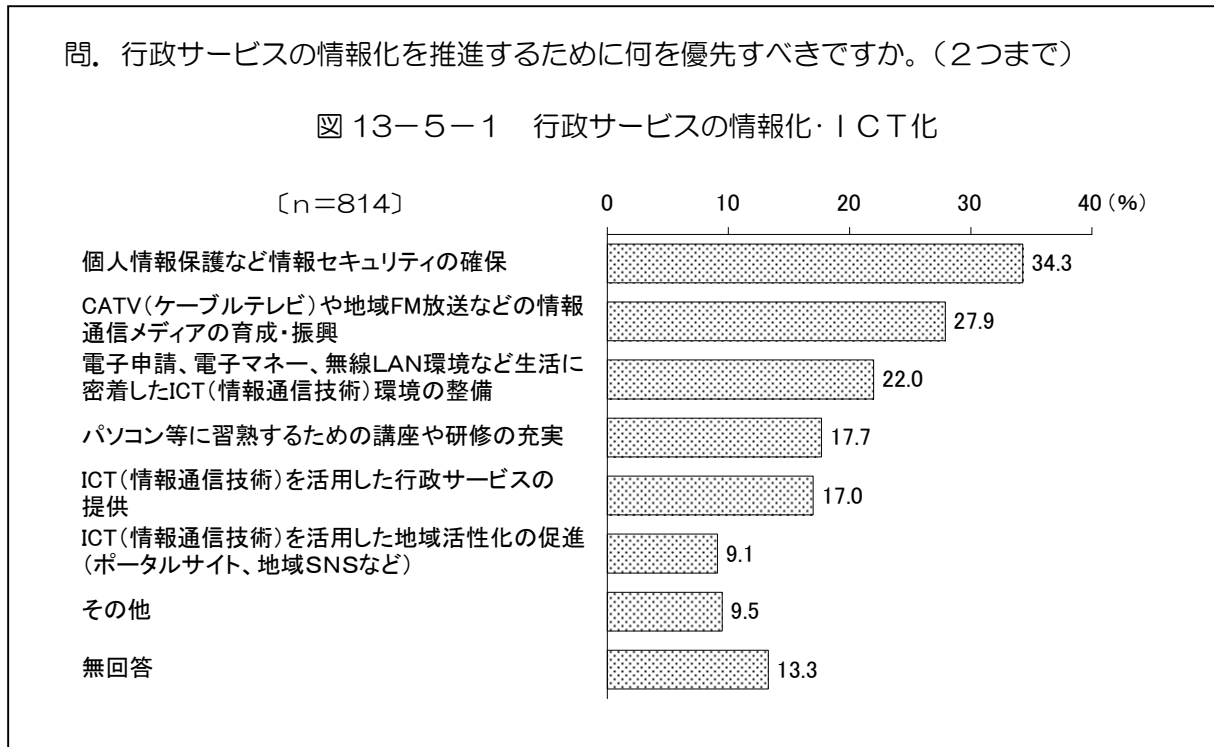
表 13-4-1 市の情報の入手方法—性別、年齢別(2つまでの複数回答)

		n	広報あつぎ	市のホームページ	公民館だより	タウン誌・ミニコミ誌	新聞(日刊紙)	本厚木駅前大型映像装置(あつぎビジョン)	掲示板やポスター	ケーブルテレビ	パンフレット・チラシ	市の携帯版ウェブサイト	ラジオ	その他	無回答
全体		814	77.8	22.5	21.6	12.0	8.2	4.7	4.5	3.8	2.5	1.6	0.1	3.6	4.1
性別	男性	336	77.1	24.1	17.6	13.4	10.7	5.1	4.8	3.9	2.7	1.5	-	3.0	5.1
	女性	470	78.5	21.1	24.7	11.3	6.4	4.5	4.5	3.6	2.3	1.7	0.2	4.0	3.0
年齢別	20歳未満	12	50.0	25.0	8.3	16.7	16.7	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	61	52.5	27.9	3.3	11.5	3.3	16.4	1.6	-	6.6	4.9	-	8.2	6.6
	30～39歳	156	64.1	37.2	10.9	10.9	2.6	5.1	5.8	3.2	5.1	1.9	-	7.1	2.6
	40～49歳	151	76.2	35.1	12.6	10.6	6.0	1.3	5.3	4.6	2.0	4.6	-	5.3	4.6
	50～59歳	151	86.8	21.2	25.2	12.6	10.6	6.0	3.3	5.3	2.6	-	-	1.3	3.3
	60～69歳	149	89.3	7.4	34.2	15.4	8.7	2.0	5.4	3.4	-	-	-	1.3	2.7
	70～79歳	105	87.6	4.8	40.0	12.4	14.3	2.9	2.9	2.9	1.0	-	1.0	1.0	4.8
80歳以上	24	91.7	4.2	25.0	4.2	25.0	-	-	8.3	-	-	-	-	8.3	

(5) 行政サービスの情報化・ICT化 (B: 問 14)

問. 行政サービスの情報化を推進するために何を優先すべきですか。(2つまで)

図 13-5-1 行政サービスの情報化・ICT化



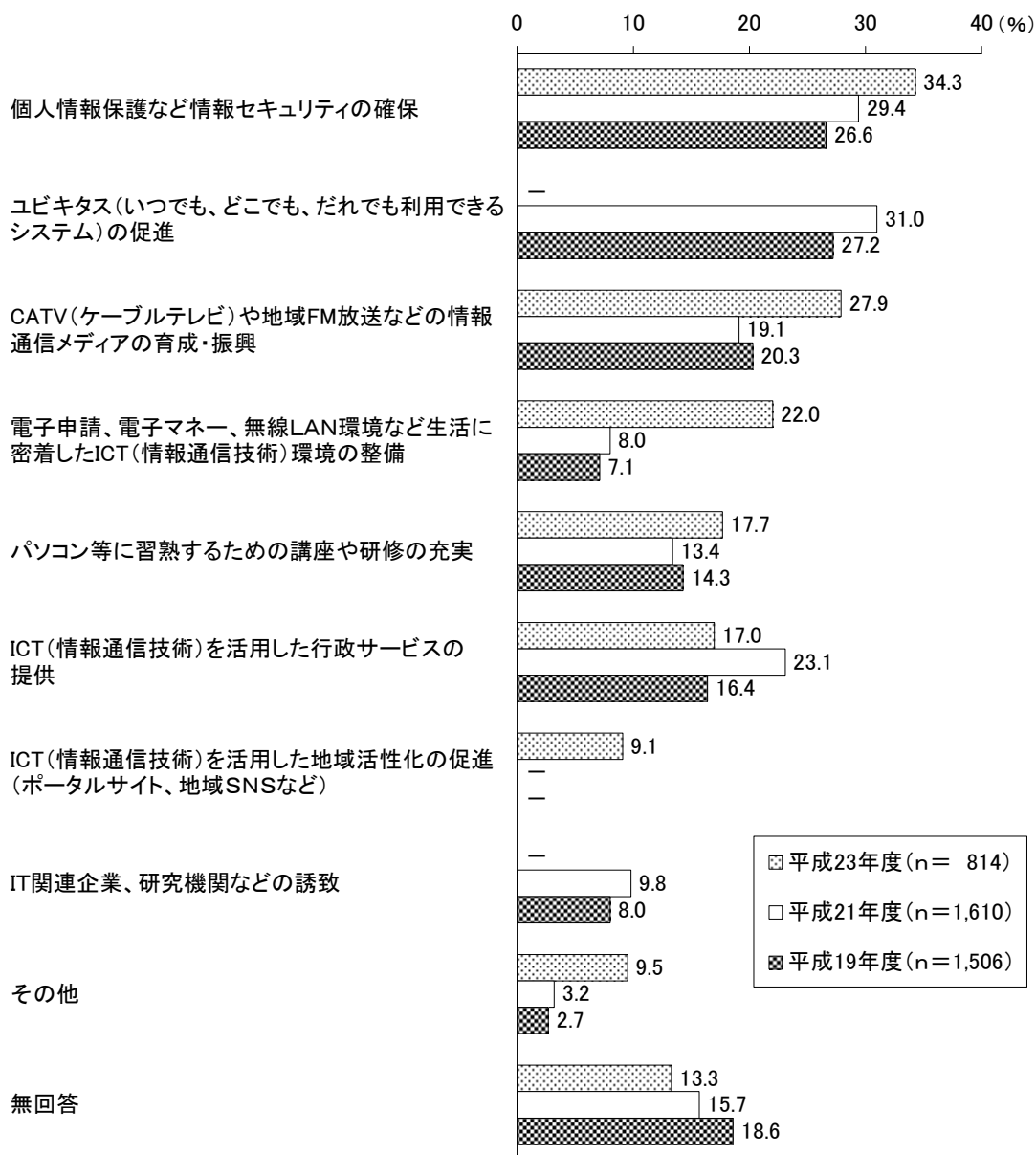
【全体】

行政サービスの情報化を推進するために何を優先すべきか聞いたところ、「個人情報保護など情報セキュリティの確保」(34.3%)が3割半ばで最も高くなっている。次いで、「CATV(ケーブルテレビ)や地域FM放送などの情報通信メディアの育成・振興」(27.9%)、「電子申請、電子マネー、無線LAN環境など生活に密着したICT(情報通信技術)環境の整備」(22.0%)、「パソコン等に習熟するための講座や研修の充実」(17.7%)、「ICT(情報通信技術)を活用した行政サービスの提供」(17.0%)となっている。

【経年変化】

前回調査との比較は、選択肢が異なるため、参考に掲載する。

図 13-5-2 行政サービスの情報化・ICT化—経年変化（2つまでの複数回答）



(注) 平成 23 年度調査では、「ICT (情報通信技術) を活用した地域活性化の促進 (ポータルサイト、地域 SNS など)」が選択肢に追加されている。また、平成 23 年度調査では、「ユビキタス (いつでも、どこでも、だれでも利用できるシステム) の促進」、「IT 関連企業、研究機関などの誘致」が選択肢から削除されている。

【属性別】

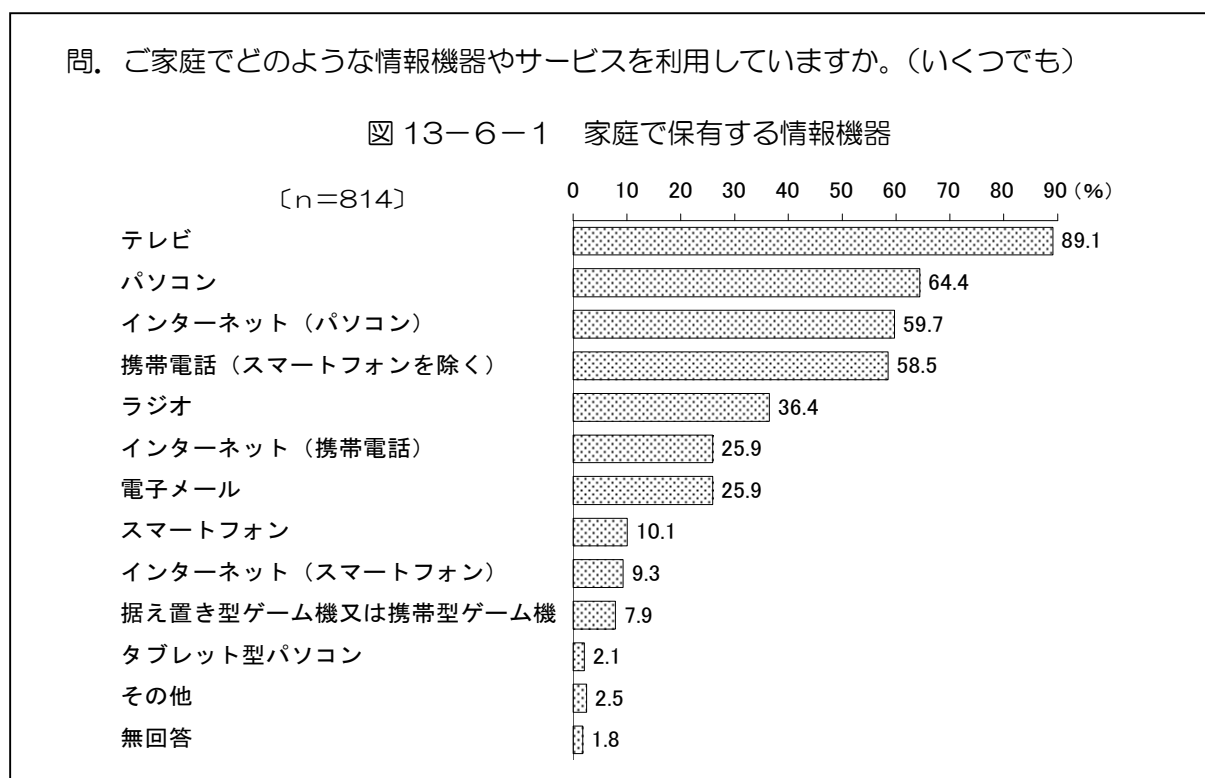
性別にみると、男性で「電子申請、電子マネー、無線LAN環境など生活に密着したICT（情報通信技術）環境の整備」（25.6%）が女性より6.0ポイント高く、「CATV（ケーブルテレビ）や地域FM放送などの情報通信メディアの育成・振興」（31.0%）が女性より5.3ポイント高くなっている。一方、女性で「個人情報保護など情報セキュリティの確保」（36.6%）が男性より5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20歳代から40歳代で「電子申請、電子マネー、無線LAN環境など生活に密着したICT（情報通信技術）環境の整備」（37.7%・29.5%・29.8%）が他の年代より高く、50歳代で「CATV（ケーブルテレビ）や地域FM放送などの情報通信メディアの育成・振興」（36.4%）が3割半ばで他の年代より高くなっている。また、30歳代で「ICT（情報通信技術）を活用した地域活性化の促進（ポータルサイト、地域SNSなど）」（17.3%）が2割近くで他の年代より高くなっている。

表 13-5-1 行政サービスの情報化・ICT化—性別、年齢別（2つまでの複数回答）

			(%)								
		n	個人情報保護など情報セキュリティ	CFAMTV（ケーブルテレビ）や地域の育成・振興	電子申請、電子マネー、無線LAN（情報通信技術）環境の整備	パソコン等に習熟するための講座や研修	行政サービス（情報通信技術）を活用したICT	地域活性化（情報通信技術）を活用したポータルサイト	ト、地域SNSなど	その他	無回答
全 体		814	34.3	27.9	22.0	17.7	17.0	9.1	9.5	13.3	
性別	男 性	336	31.5	31.0	25.6	19.6	18.8	11.6	8.6	10.4	
	女 性	470	36.6	25.7	19.6	16.6	15.7	7.4	9.6	15.3	
年齢別	20歳未満	12	16.7	33.3	50.0	8.3	33.3	8.3	25.0	-	
	20～29歳	61	32.8	23.0	37.7	8.2	24.6	11.5	9.8	8.2	
	30～39歳	156	35.9	22.4	29.5	13.5	19.2	17.3	9.6	7.1	
	40～49歳	151	41.7	25.8	29.8	17.9	20.5	7.3	3.3	9.3	
	50～59歳	151	37.1	36.4	23.2	17.9	19.2	10.6	4.6	9.9	
	60～69歳	149	34.9	24.8	9.4	24.8	12.1	5.4	10.1	20.8	
	70～79歳	105	24.8	30.5	5.7	23.8	9.5	3.8	21.0	21.0	
80歳以上	24	16.7	37.5	12.5	4.2	-	-	12.5	37.5		

(6) 家庭で保有する情報機器 (B: 問 15)



【全体】

家庭でどのような情報機器やサービスを利用しているか聞いたところ、「テレビ」(89.1%)がほぼ9割で最も高くなっている。次いで、「パソコン」(64.4%)、「インターネット (パソコン)」(59.7%)、「携帯電話 (スマートフォンを除く)」(58.5%)、「ラジオ」(36.4%)となっている。

【経年変化】

前回調査との比較は、選択肢が異なるため、参考に掲載する。

表 13-6-1 家庭で保有する情報機器—経年変化 (複数回答)

順位	平成23年調査 (n=814)		平成21年調査 (n=1,610)		平成19年調査 (n=1,506)	
	情報機器/サービス	割合 (%)	情報機器/サービス	割合 (%)	情報機器/サービス	割合 (%)
1	テレビ	89.1	テレビ	93.8	テレビ	81.5
2	パソコン	64.4	携帯電話	61.4	携帯電話	56.8
3	インターネット (パソコン)	59.7	インターネット (パソコンなど)	54.6	インターネット (パソコンなど)	45.2
4	携帯電話 (スマートフォンを除く)	58.5	パソコン	48.4	ラジオ	43.3
5	ラジオ	36.4	デジタルカメラ	38.8	パソコン	41.8

(注) 平成21年度調査では、「テレビ」を「テレビ (アナログ)」(48.0%)と「テレビ (地デジ)」(45.8%)の各選択肢に分けて調査していた。

【属性別】

性別にみると、男性で「電子メール」(29.2%)が女性より5.8ポイント高くなっている。一方、女性で「パソコン」(66.0%)が男性より4.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、40歳代以下では「パソコン」、「インターネット(パソコン)」、「携帯電話(スマートフォンを除く)」が他の年代より高くなっている。一方、50歳代以上では「テレビ」が9割前後、「ラジオ」が4割以上と他の年代より高くなっている。

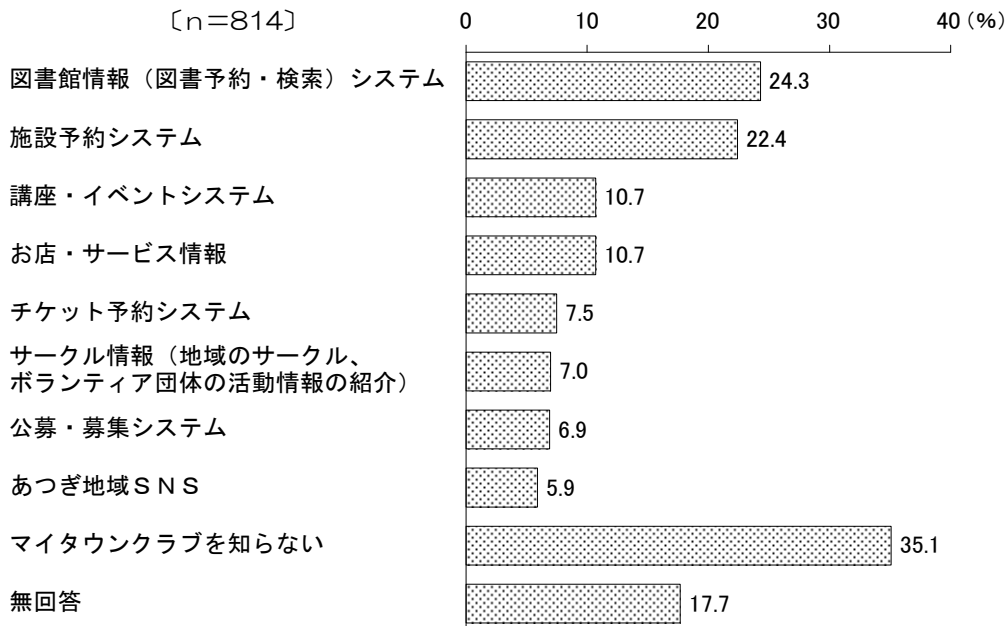
表 13-6-2 家庭で保有する情報機器—性別、年齢別(複数回答)

			テレビ	パソコン	インターネット(パソコン)	携帯電話(スマートフォンを除く)	ラジオ	インターネット(携帯電話)	電子メール	スマートフォン	インターネット(スマートフォン)	携帯型ゲーム機 据え置き型ゲーム機 又は	タブレット型パソコン	その他	無回答
		n													
全 体		814	89.1	64.4	59.7	58.5	36.4	25.9	25.9	10.1	9.3	7.9	2.1	2.5	1.8
性別	男 性	336	87.5	61.9	58.0	57.1	36.3	23.8	29.2	8.6	10.1	5.7	3.0	2.7	3.0
	女 性	470	90.4	66.0	60.6	59.6	36.4	27.4	23.4	10.9	8.7	9.6	1.5	2.1	1.1
年 齢 別	20歳未満	12	83.3	83.3	66.7	66.7	25.0	58.3	25.0	16.7	25.0	-	8.3	-	-
	20～29歳	61	86.9	85.2	72.1	72.1	27.9	50.8	36.1	27.9	26.2	27.9	1.6	1.6	4.9
	30～39歳	156	86.5	80.1	73.7	73.7	19.2	38.5	35.9	10.3	10.3	11.5	1.3	0.6	0.6
	40～49歳	151	84.1	76.8	80.1	66.9	27.8	38.4	39.7	15.2	15.2	11.3	2.6	0.7	2.0
	50～59歳	151	95.4	71.5	70.2	60.3	45.0	23.2	26.5	11.9	9.9	7.3	4.0	2.0	-
	60～69歳	149	91.3	44.3	42.3	45.6	45.0	7.4	13.4	1.3	0.7	0.7	0.7	3.4	2.7
	70～79歳	105	89.5	33.3	21.9	36.2	55.2	5.7	7.6	1.9	1.0	-	1.9	5.7	2.9
	80歳以上	24	87.5	33.3	12.5	33.3	41.7	4.2	-	-	-	-	-	12.5	4.2

(7)「マイタウンクラブ」の認知度（B：問 16）

問. 市インターネットサービス「マイタウンクラブ」が提供しているサービスで、利用したことがある、または知っているサービスは何ですか。（いくつでも）

図 13-7-1 「マイタウンクラブ」の認知度



【全体】

市インターネットサービス「マイタウンクラブ」が提供しているサービスで、利用したことのある、または知っているサービスについて聞いたところ、「図書館情報（図書予約・検索）システム」（24.3%）が2割半ばで最も高くなっている。次いで、「施設予約システム」（22.4%）、「講座・イベントシステム」と「お店・サービス情報」（ともに 10.7%）と続いている。一方、「マイタウンクラブを知らない」（35.1%）が3割半ばとなっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化はなし。

【属性別】

性別にみると、女性で「図書館情報（図書予約・検索）システム」（27.4%）が男性より 7.2 ポイント高く、「施設予約システム」（24.9%）が男性より 5.9 ポイント高くなっている。一方、男性で「マイタウンクラブを知らない」（39.0%）が女性より 6.7 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20 歳代・40 歳代で「図書館情報（図書予約・検索）システム」（44.3%・37.7%）が 4 割前後で、おおむね年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。また、40 歳代で「施設予約システム」（30.5%）がほぼ 3 割で他の年代より高くなっている。

表 13-7-1 「マイタウンクラブ」の認知度—性別、年齢別（複数回答）

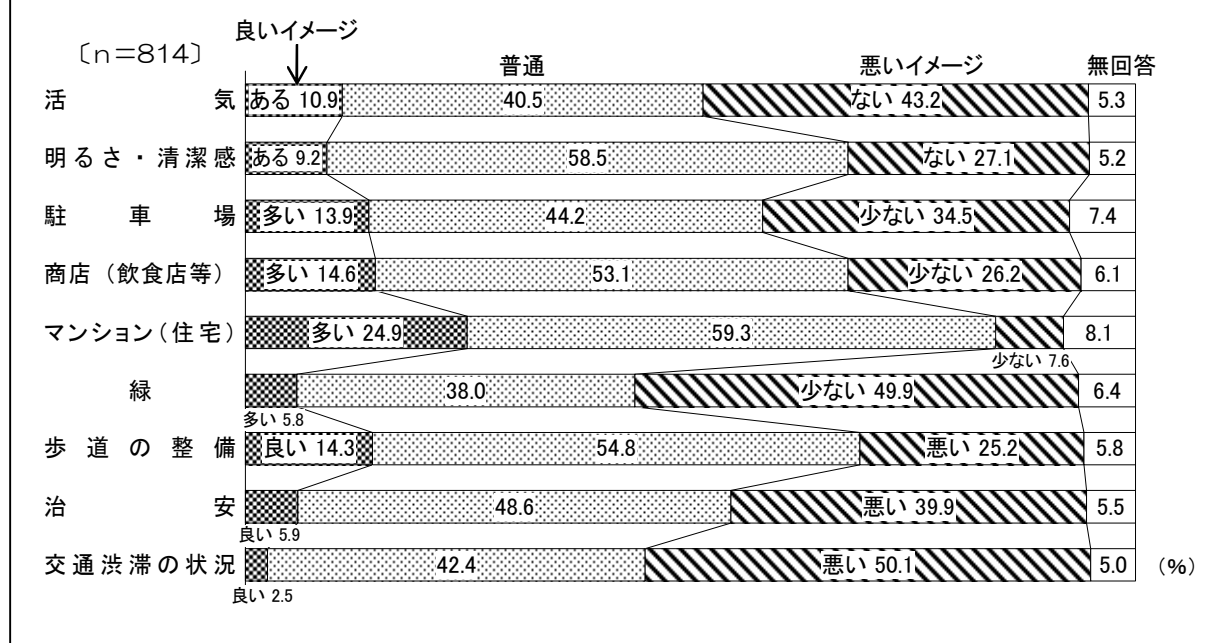
		n	図書館情報（図書予約・検索）システム	施設予約システム	講座・イベントシステム	お店・サービス情報	チケット予約システム	ボランティア団体（地域の活動情報の紹介）サークル情報（地域のサークル）	公募・募集システム	あつぎ地域 SNS	マイタウンクラブを知らない	無回答
全体		814	24.3	22.4	10.7	10.7	7.5	7.0	6.9	5.9	35.1	17.7
性別	男性	336	20.2	19.0	8.9	11.6	5.7	4.5	6.8	6.0	39.0	18.2
	女性	470	27.4	24.9	12.1	10.2	8.7	8.9	7.0	6.0	32.3	17.0
年齢別	20 歳未満	12	16.7	16.7	-	-	-	8.3	-	-	50.0	8.3
	20～29 歳	61	44.3	27.9	3.3	4.9	4.9	3.3	1.6	3.3	32.8	4.9
	30～39 歳	156	28.8	23.7	12.8	9.0	6.4	7.7	9.0	7.7	39.1	9.0
	40～49 歳	151	37.7	30.5	14.6	15.2	9.9	8.6	10.6	6.6	30.5	6.6
	50～59 歳	151	25.2	25.8	13.2	15.2	8.6	11.9	9.9	9.3	39.7	9.9
	60～69 歳	149	10.1	16.8	7.4	10.1	8.1	3.4	4.0	3.4	34.9	30.2
	70～79 歳	105	11.4	15.2	10.5	8.6	7.6	5.7	2.9	4.8	31.4	36.2
80 歳以上	24	4.2	-	4.2	-	-	-	4.2	-	29.2	62.5	

14 まちづくり

(1) 本厚木駅周辺のイメージ (B: 問 17)

問. 現在の本厚木駅周辺 (中心市街地) のイメージについて、該当するものに○印を付けてください。

図 14-1-1 本厚木駅周辺のイメージ

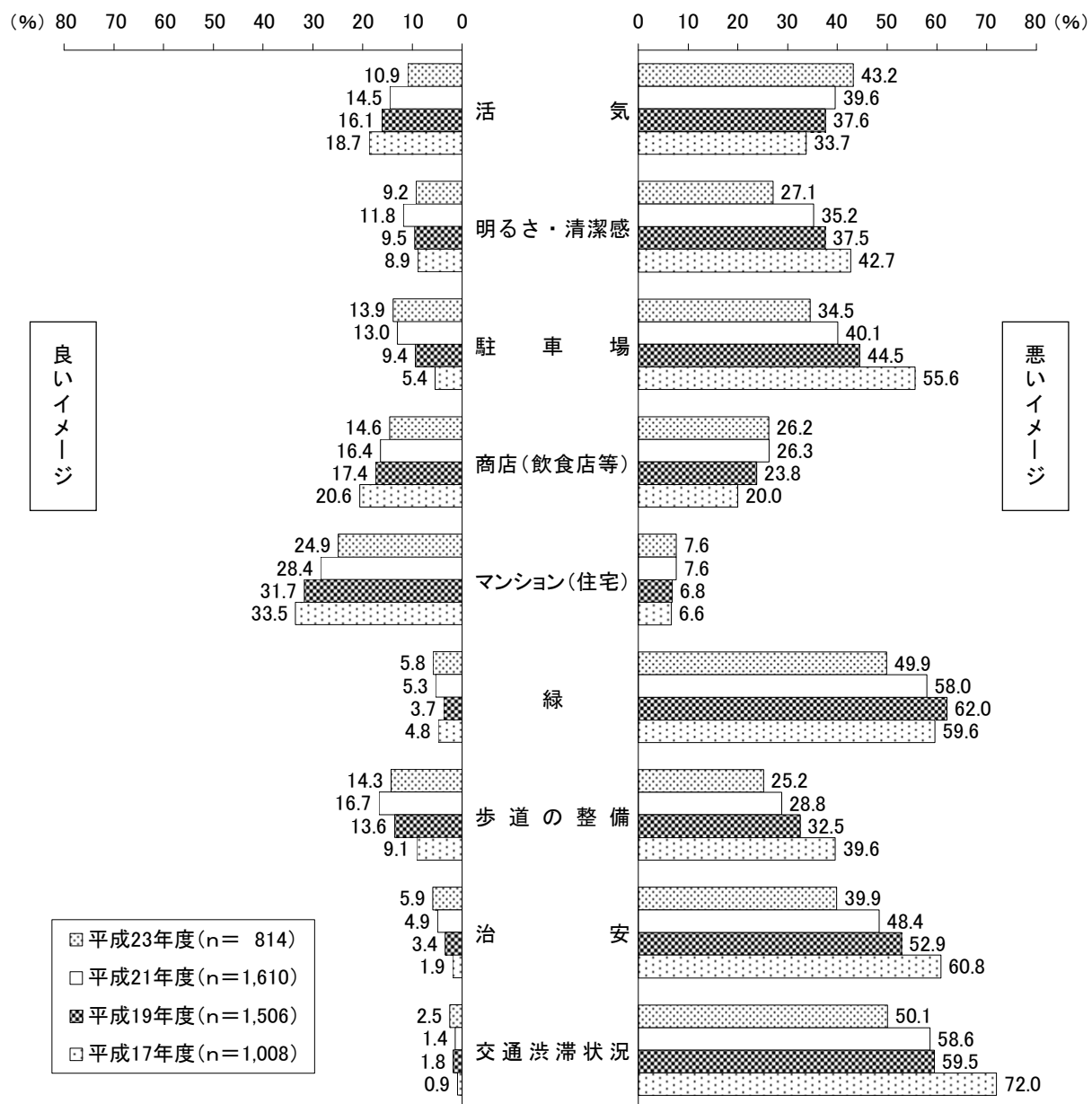


現在の本厚木駅周辺 (中心市街地) のイメージについて、9つの項目ごとに聞いたところ、良いイメージが高いのは「マンション (住宅)」(24.9%) で、良いイメージが悪いイメージを上回っているのはこの項目だけである。また、悪いイメージが最も高いのは「交通渋滞の状況」(50.1%) で、次いで「緑」(49.9%)、「活気」(43.2%)、「治安」(39.9%)、「駐車場」(34.5%) となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査、前々々回調査との比較をみると、良いイメージで増加傾向となっているのは「駐車場」・「治安」であり、悪いイメージで増加傾向となっているのは「活気」である。

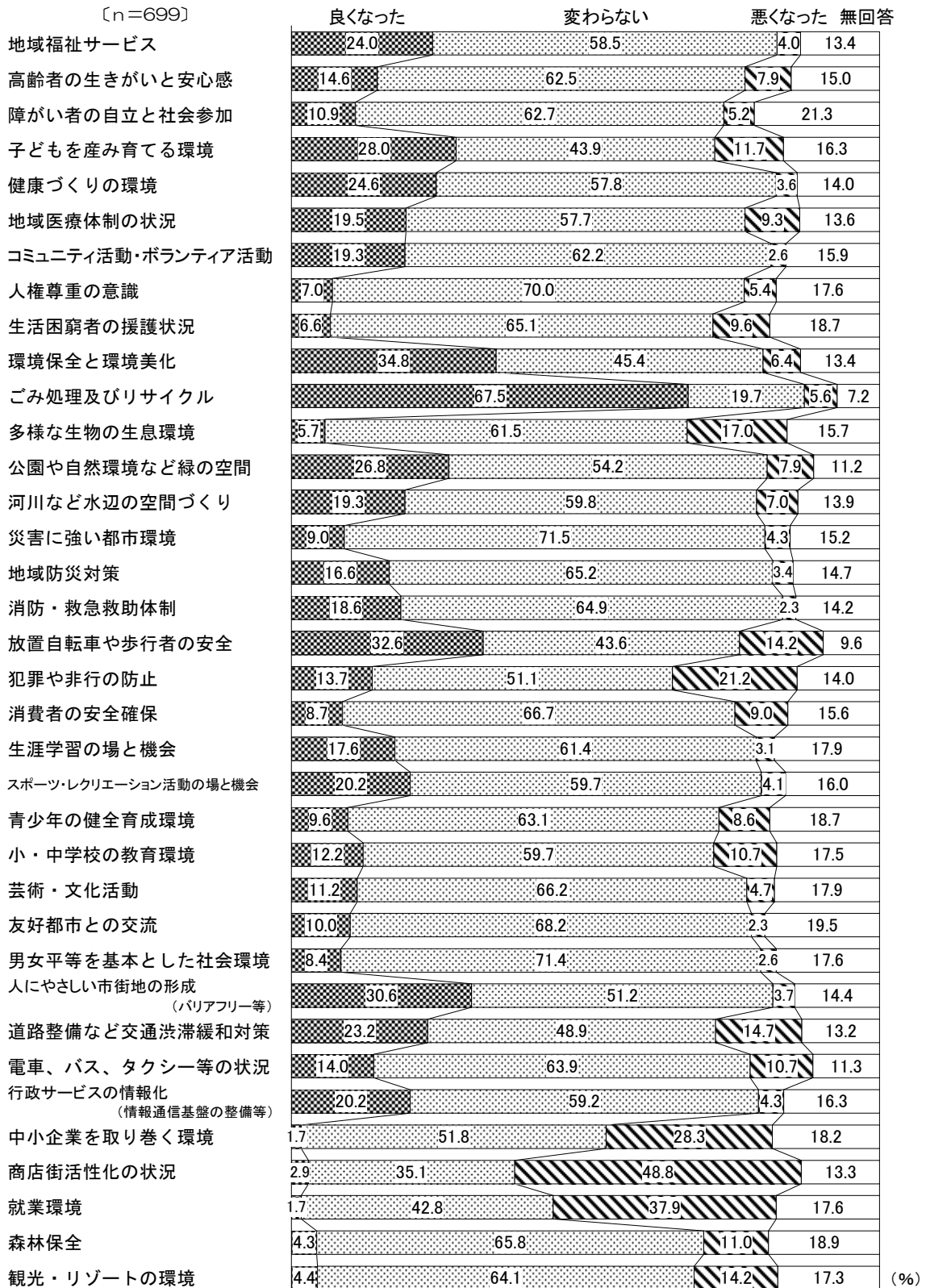
図 14-1-2 本厚木駅周辺のイメージ経年変化



(2) まちづくり全般の変化 (B:問1)

問. 5年前と比べたまちづくり全般の変化について、該当欄に○印を記入してください。
(厚木市に転入されて5年未満の方は、問2へお進みください。)

図 14-2-1 まちづくり全般の変化



【全体】

5年前と比べて、現在のまちづくりがどのように変化したと思うか、36の項目ごとに聞いた。

「良くなった」は、『ごみ処理及びリサイクル』（67.5%）が7割近くで最も高くなっている。次いで、『環境保全と環境美化』（34.8%）、『放置自転車や歩行者の安全』（32.6%）、『人にやさしい市街地の形成（バリアフリー等）』（30.6%）、『子どもを産み育てる環境』（28.0%）となっている。

「悪くなった」は、『商店街活性化の状況』（48.8%）が5割近くで最も高くなっている。次いで、『就業環境』（37.9%）、『中小企業を取り巻く環境』（28.3%）、『犯罪や非行の防止』（21.2%）、『多様な生物の生息環境』（17.0%）となっている。

「変わらない」は、『災害に強い都市環境』（71.5%）、『男女平等を基本とした社会環境』（71.4%）、『人権尊重の意識』（70.0%）で7割以上になっている。

表 14-2-1 まちづくり全般の変化-上位5項目

(n=699)

(%)

順位	良くなった		変わらない		悪くなった	
	項目	割合	項目	割合	項目	割合
1	ごみ処理及びリサイクル	67.5	災害に強い都市環境	71.5	商店街活性化の状況	48.8
2	環境保全と環境美化	34.8	男女平等を基本とした社会環境	71.4	就業環境	37.9
3	放置自転車や歩行者の安全	32.6	人権尊重の意識	70.0	中小企業を取り巻く環境	28.3
4	人にやさしい市街地の形成 (バリアフリー等)	30.6	友好都市との交流	68.2	犯罪や非行の防止	21.2
5	子どもを産み育てる環境	28.0	消費者の安全確保	66.7	多様な生物の生息環境	17.0

【経年変化】

良くなったものでは、『ごみ処理及びリサイクル』が一貫して1位となり、前回調査より16.0ポイント高くなっている。

変わらないものでは、前回4位だった『災害に強い都市環境』が1位、前回1位だった『友好都市との交流』が4位となっている。

悪くなったものでは、前回に引き続き『商店街活性化の状況』が1位となり、前回調査より5.5ポイント高くなっている。また、順位は変わらないが『犯罪や非行の防止』が6.0ポイント低く、『多様な生物の生息環境』が5.8ポイント低くなっている。

表 14-2-2 まちづくり全般の変化－経年変化

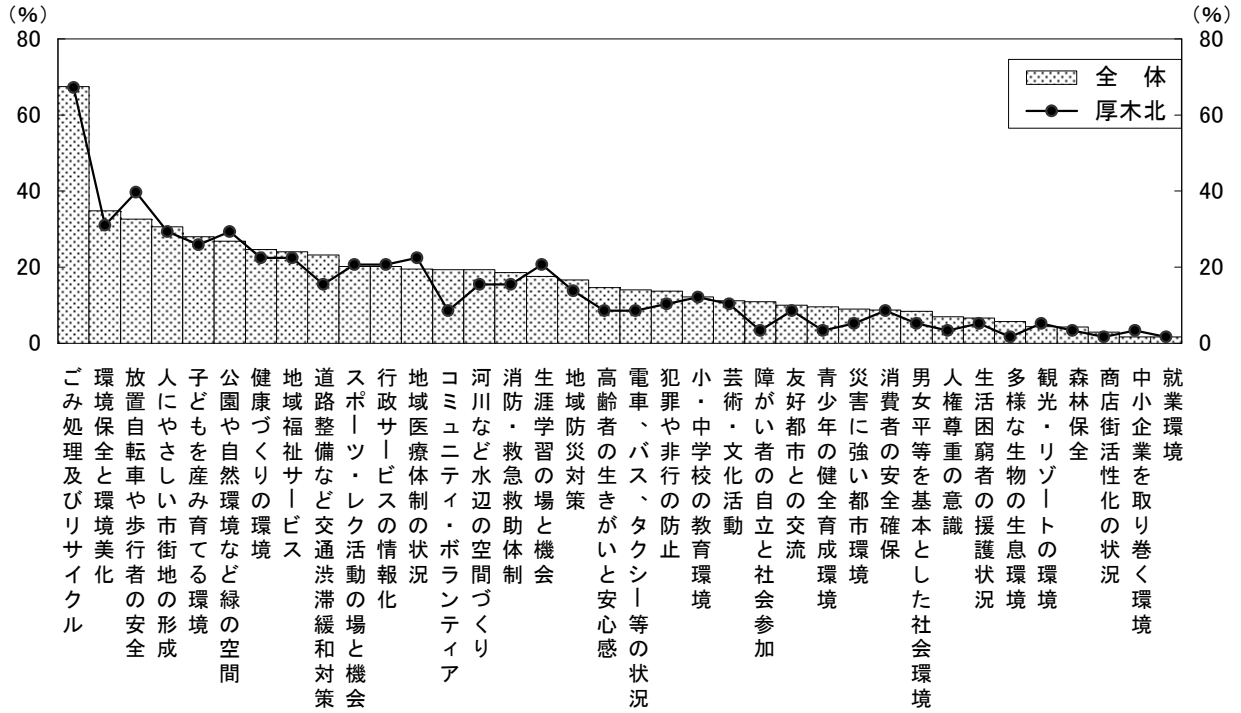
(%)

評価	順位	平成23年度 (n=699)		平成21年度 (n=1,610)		平成19年度 (n=1,506)		平成17年度 (n=1,008)	
良くなったもの	1	ごみ処理及びリサイクル	67.5	ごみ処理及びリサイクル	51.5	ごみ処理及びリサイクル	46.7	ごみ処理及びリサイクル	53.1
	2	環境保全と環境美化	34.8	人にやさしい市街地の形成(バリアフリー等)	33.3	人にやさしい市街地の形成(バリアフリー等)	31.3	地域福祉サービス	27.6
	3	放置自転車や歩行者の安全	32.6	環境保全と環境美化	31.2	放置自転車や歩行者の安全	28.8	消防・救急救助体制	27.0
	4	人にやさしい市街地の形成(バリアフリー等)	30.6	放置自転車や歩行者の安全	29.6	環境保全と環境美化	25.6	人にやさしい市街地の形成(バリアフリー等)	26.5
	5	子どもを産み育てる環境	28.0	公園や自然環境など緑の空間	27.5	公園や自然環境など緑の空間	24.8	地域防災対策	24.0
変わらないもの	1	災害に強い都市環境	71.5	友好都市との交流	71.9	男女平等を基本とした社会環境	66.3	男女平等を基本とした社会環境	71.4
	2	男女平等を基本とした社会環境	71.4	男女平等を基本とした社会環境	71.4	友好都市との交流	65.7	人権尊重の意識	70.0
	3	人権尊重の意識	70.0	人権尊重の意識	71.2	災害に強い都市環境	64.9	災害に強い都市環境	69.6
	4	友好都市との交流	68.2	災害に強い都市環境	69.3	芸術・文化活動	63.9	観光・リゾートの環境	69.4
	5	消費者の安全確保	66.7	芸術・文化活動	68.5	観光・リゾートの環境	63.4	生活困窮者の援護状況	69.3
悪くなったもの	1	商店街活性化の状況	48.8	商店街活性化の状況	43.3	商店街活性化の状況	44.2	犯罪や非行の防止	54.2
	2	就業環境	37.9	就業環境	36.8	犯罪や非行の防止	36.4	商店街活性化の状況	48.0
	3	中小企業を取り巻く環境	28.3	中小企業を取り巻く環境	27.5	地域医療体制の状況／多様な生物の生息環境	26.2	放置自転車や歩行者の安全	33.3
	4	犯罪や非行の防止	21.2	犯罪や非行の防止	27.2			道路整備など交通渋滞緩和対策	32.9
	5	多様な生物の生息環境	17.0	多様な生物の生息環境	22.8	子どもを産み育てる環境	25.5	就業環境	29.7

〔厚木北地区〕

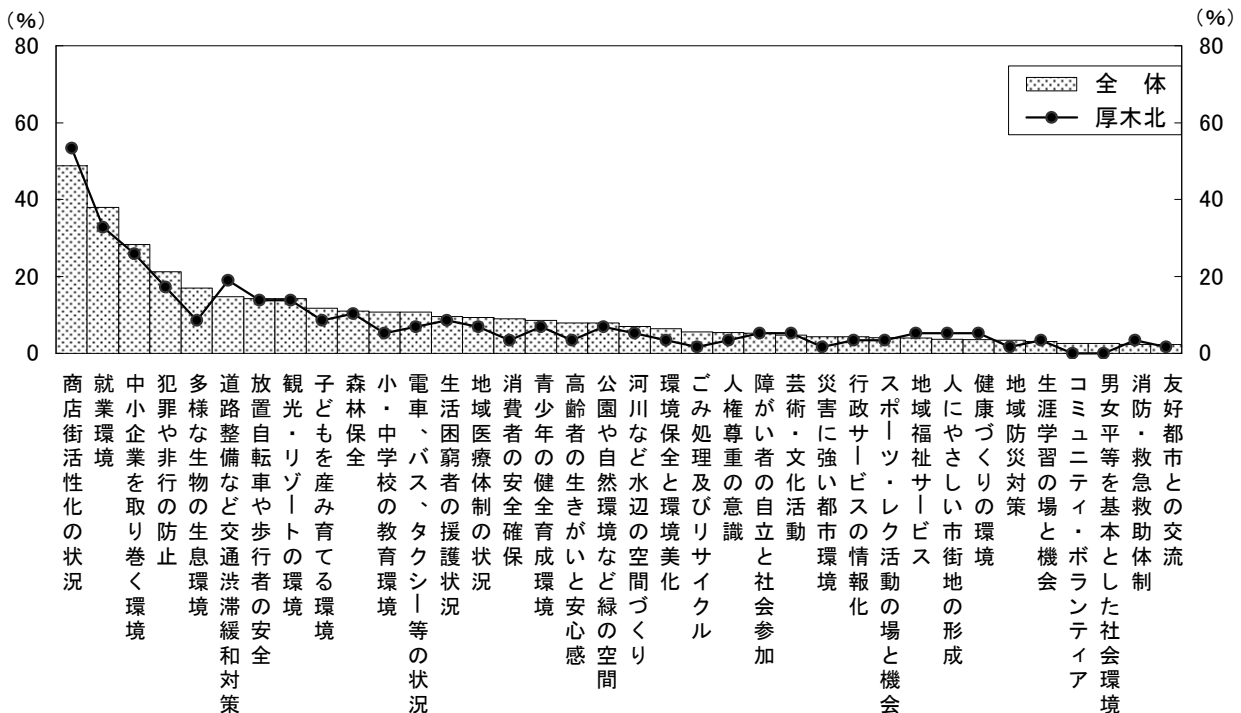
良くなったものでは、全体と比べて『放置自転車や歩行者の安全』が高くなっている。一方、『コミュニティ・ボランティア』が特に低くなっている。

図 14-2-2 まちづくり全般の変化－厚木北地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『就業環境』、『多様な生物の生息環境』、『小・中学校の教育環境』、『消費者の安全確保』が低くなっている。

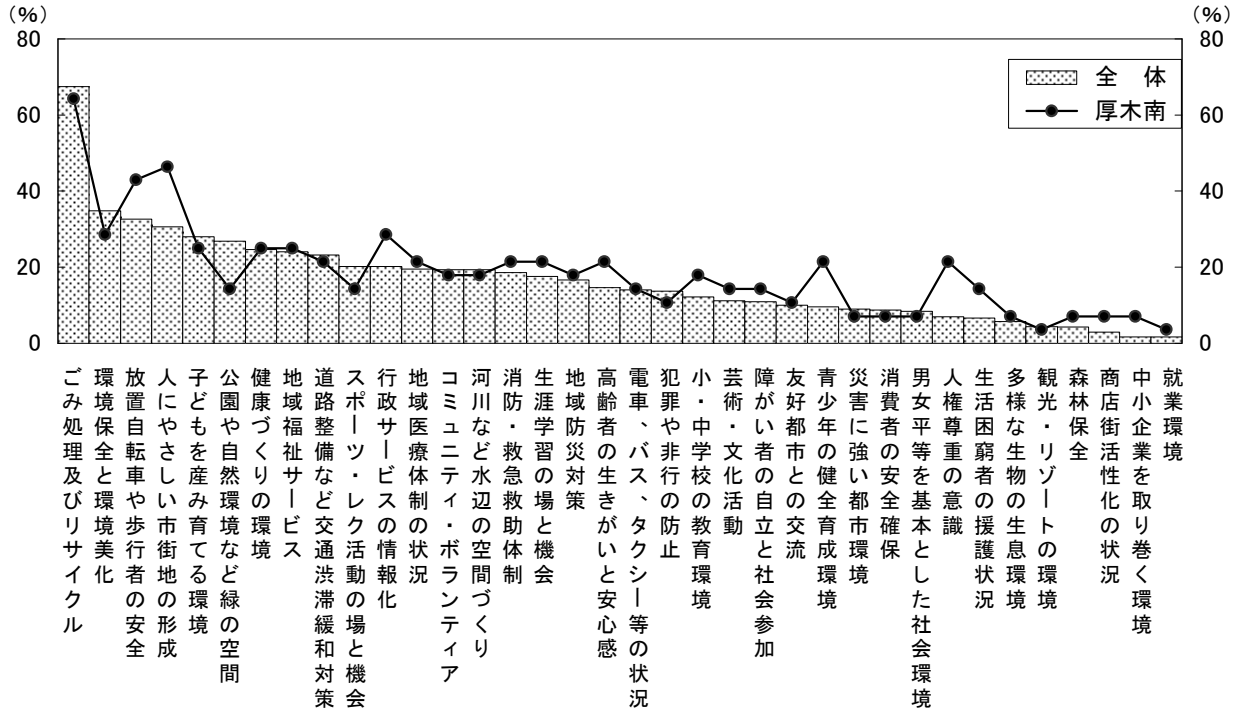
図 14-2-3 まちづくり全般の変化－厚木北地区（悪くなったもの）



〔厚木南地区〕

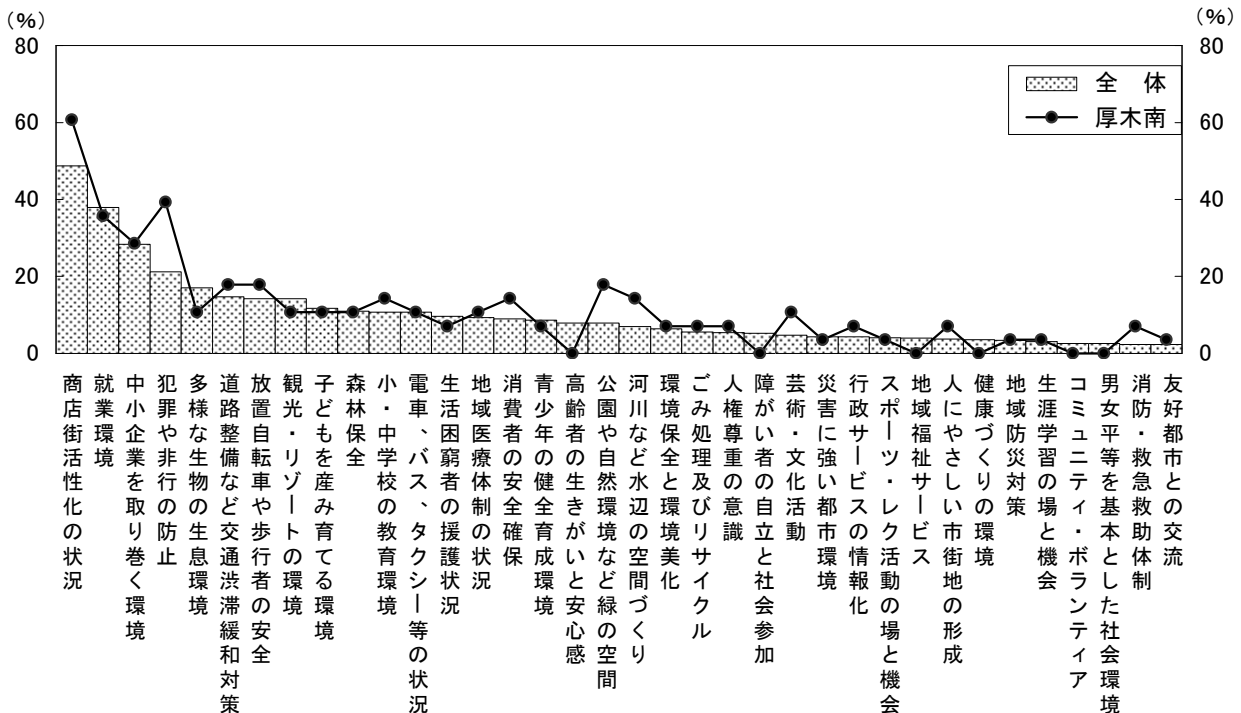
良くなったものでは、全体と比べて『放置自転車や歩行者の安全』、『人にやさしい市街地の形成（バリアフリー等）』、『青少年の健全育成環境』、『人権尊重の意識』が特に高くなっている。一方、『公園や自然環境など緑の空間』が特に低くなっている。

図 14-2-4 まちづくり全般の変化－厚木南地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『商店街活性化の状況』、『犯罪や非行の防止』、『公園や自然環境など緑の空間』が特に高くなっている。一方、『多様な生物の生息環境』、『高齢者の生きがいと安心感』、『障がい者の自立と社会参加』が低くなっている。

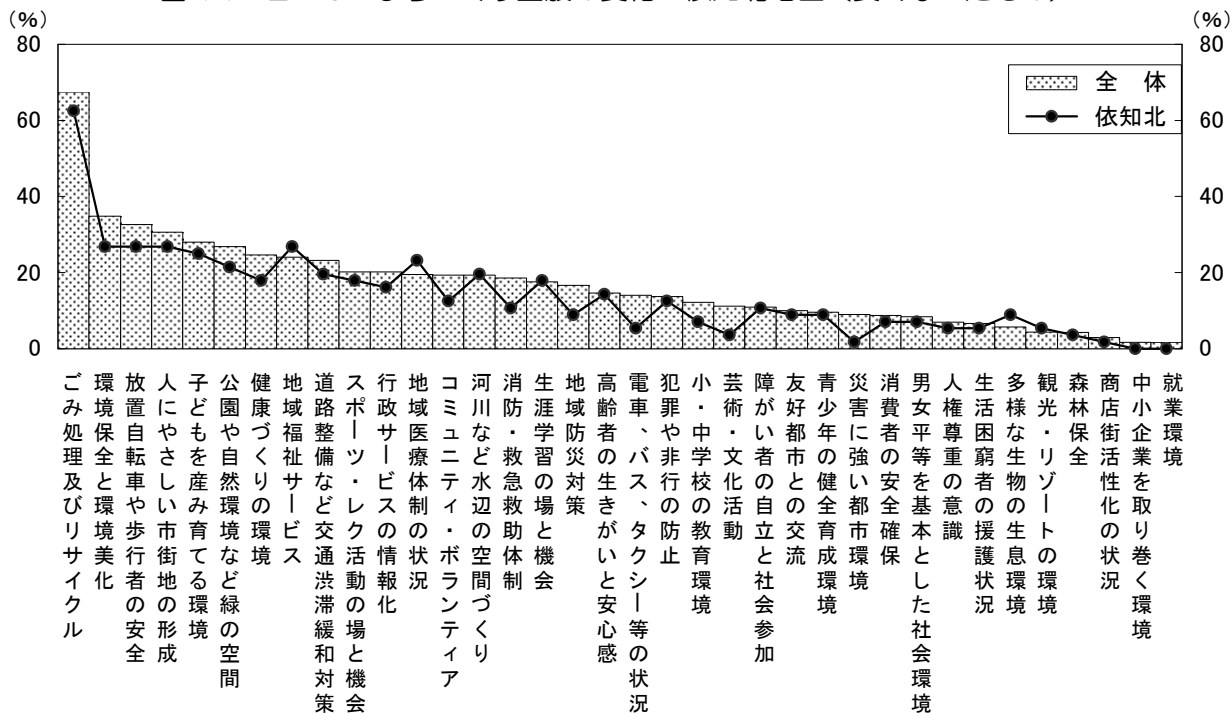
図 14-2-5 まちづくり全般の変化－厚木南地区（悪くなったもの）



〔依知北地区〕

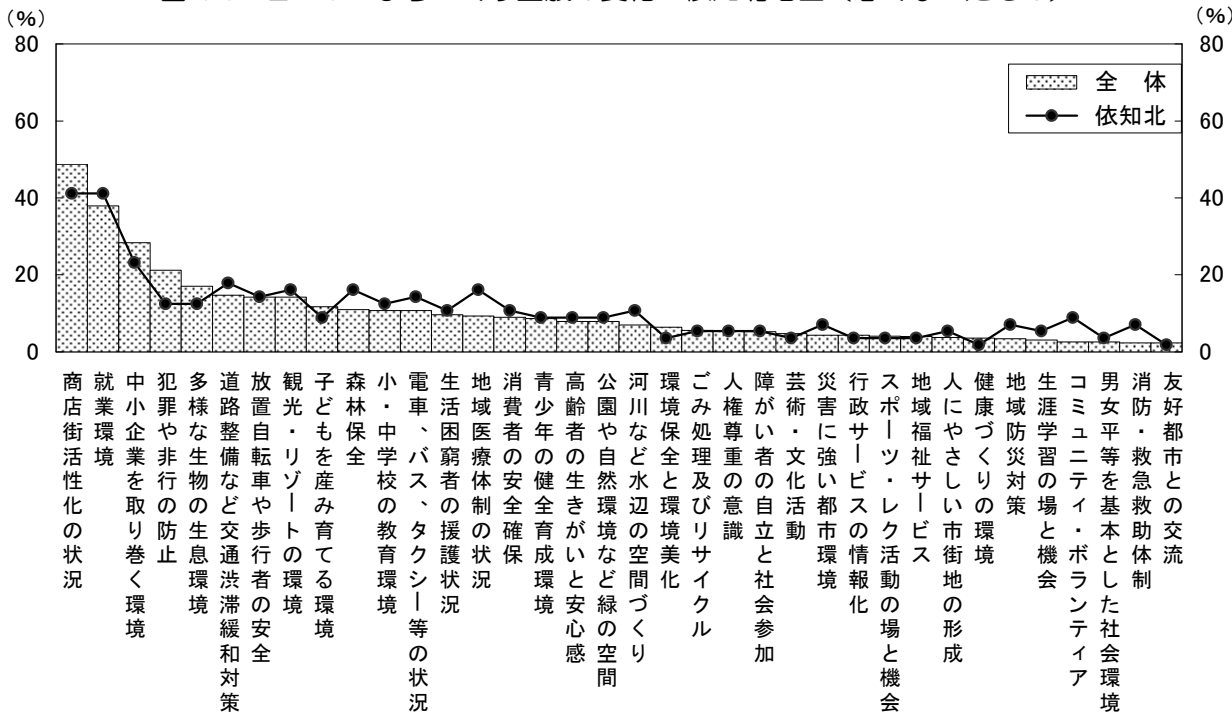
良くなったものでは、全体と比べて『地域福祉サービス』、『地域医療体制の状況』が高くなっている。一方、『環境保全と環境美化』、『消防・救急救助体制』、『地域防災対策』、『電車、バス、タクシー等の状況』などが低くなっている。

図 14-2-6 まちづくり全般の変化－依知北地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『森林保全』、『地域医療体制の状況』が高くなっている。一方、『商店街活性化の状況』、『中小企業を取り巻く環境』、『犯罪や非行の防止』が低くなっている。

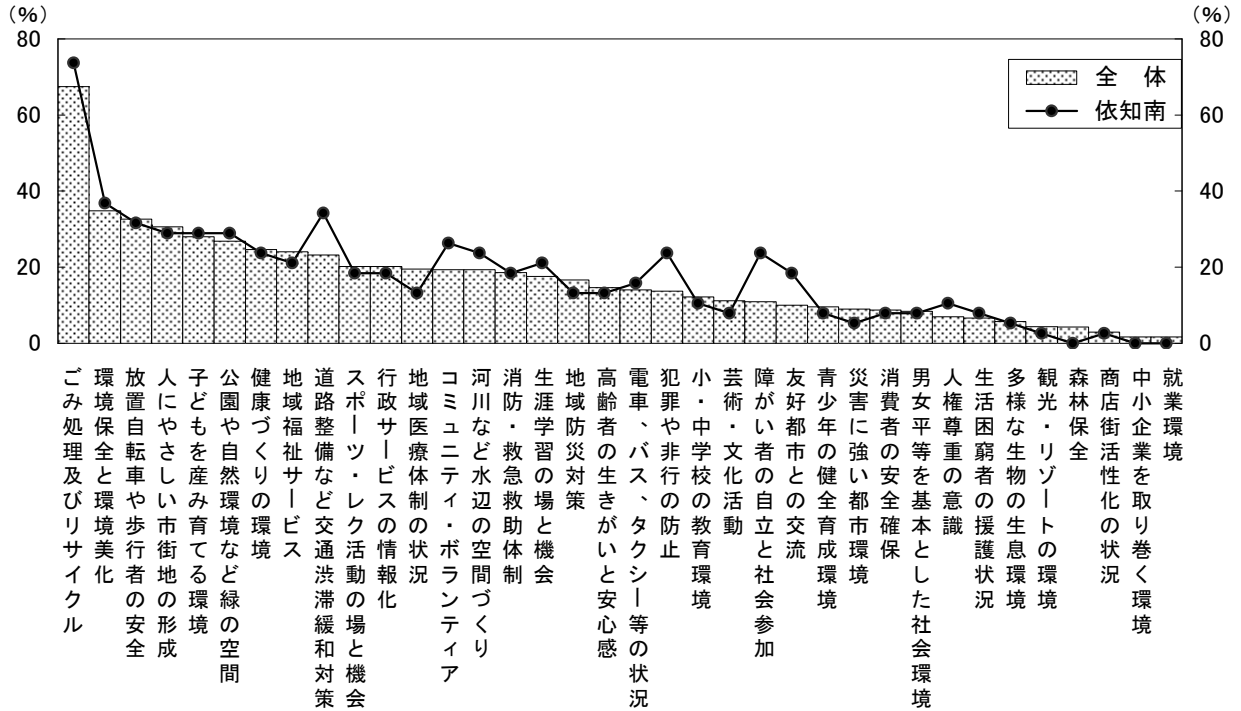
図 14-2-7 まちづくり全般の変化－依知北地区（悪くなったもの）



〔依知南地区〕

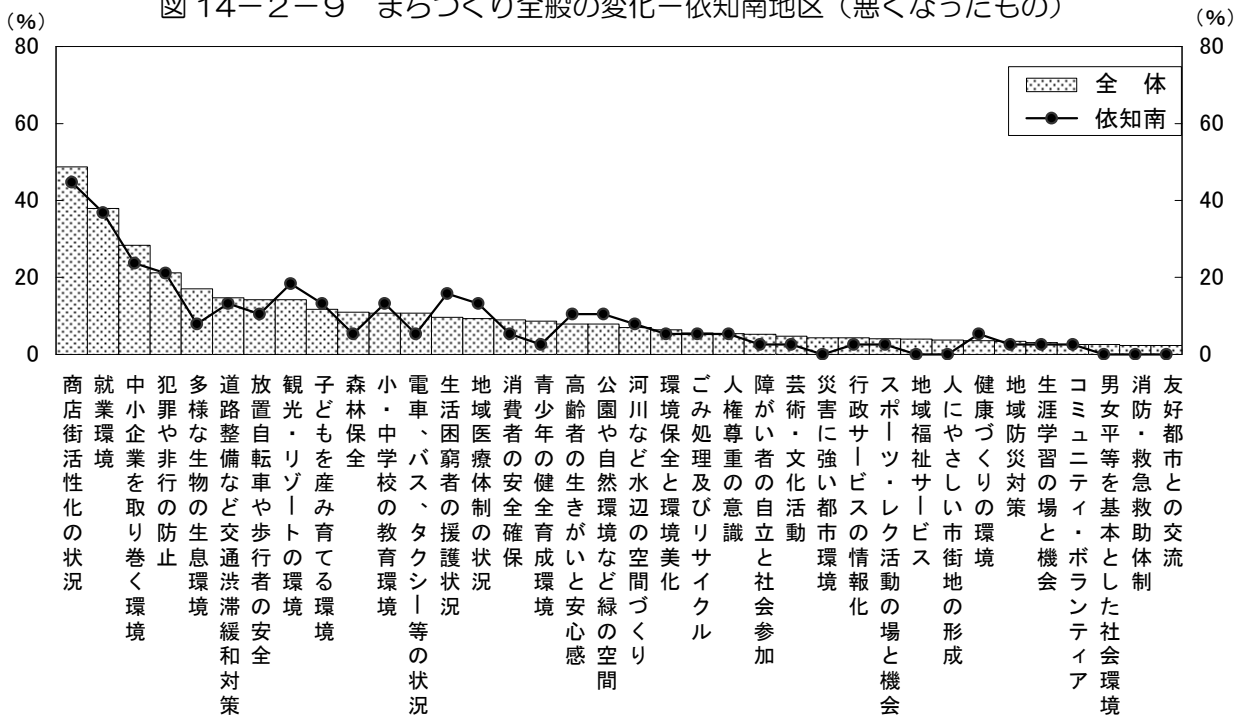
良くなったものでは、全体と比べて『道路整備など交通渋滞緩和対策』、『犯罪や非行の防止』、『障がい者の自立と社会参加』が特に高くなっている。一方、『地域医療体制の状況』が低くなっている。

図 14-2-8 まちづくり全般の変化－依知南地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『生活困窮者の援護状況』が高くなっている。一方、『多様な生物の生息環境』、『森林保全』、『電車、バス、タクシー等の状況』、『青少年の健全育成環境』が低くなっている。

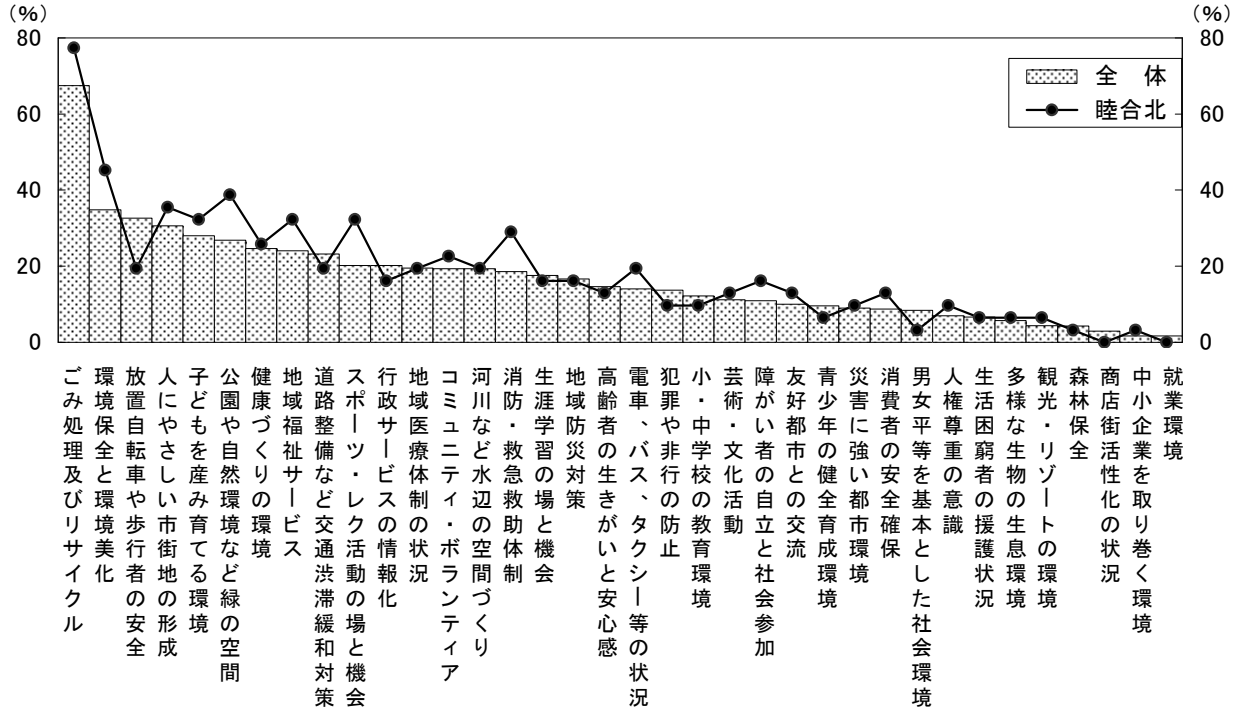
図 14-2-9 まちづくり全般の変化－依知南地区（悪くなったもの）



〔睦合北地区〕

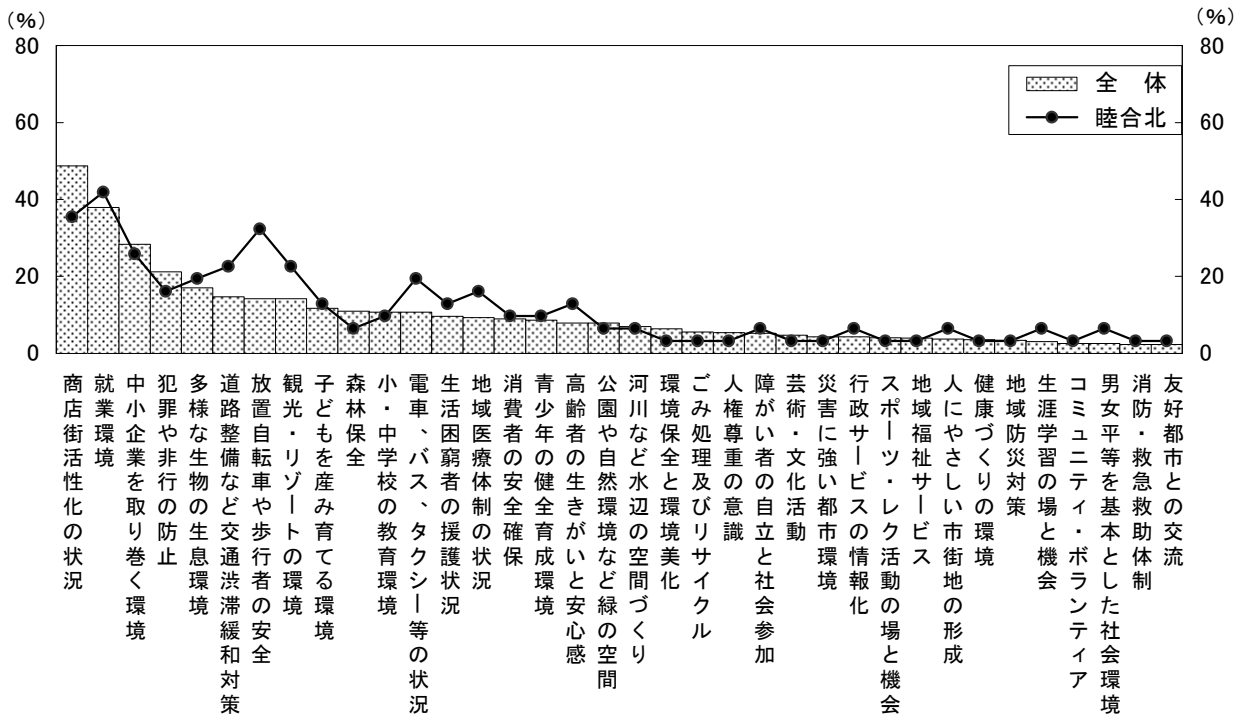
良くなったものでは、全体と比べて『環境保全と環境美化』、『公園や自然環境など緑の空間』、『スポーツ・レクリエーション活動の場と機会』、『消防・救急救助体制』が特に高くなっている。一方、『放置自転車や歩行者の安全』が特に低くなっている。

図 14-2-10 まちづくり全般の変化—睦合北地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『放置自転車や歩行者の安全』が特に高くなっている。一方、『商店街活性化の状況』が特に低くなっている。

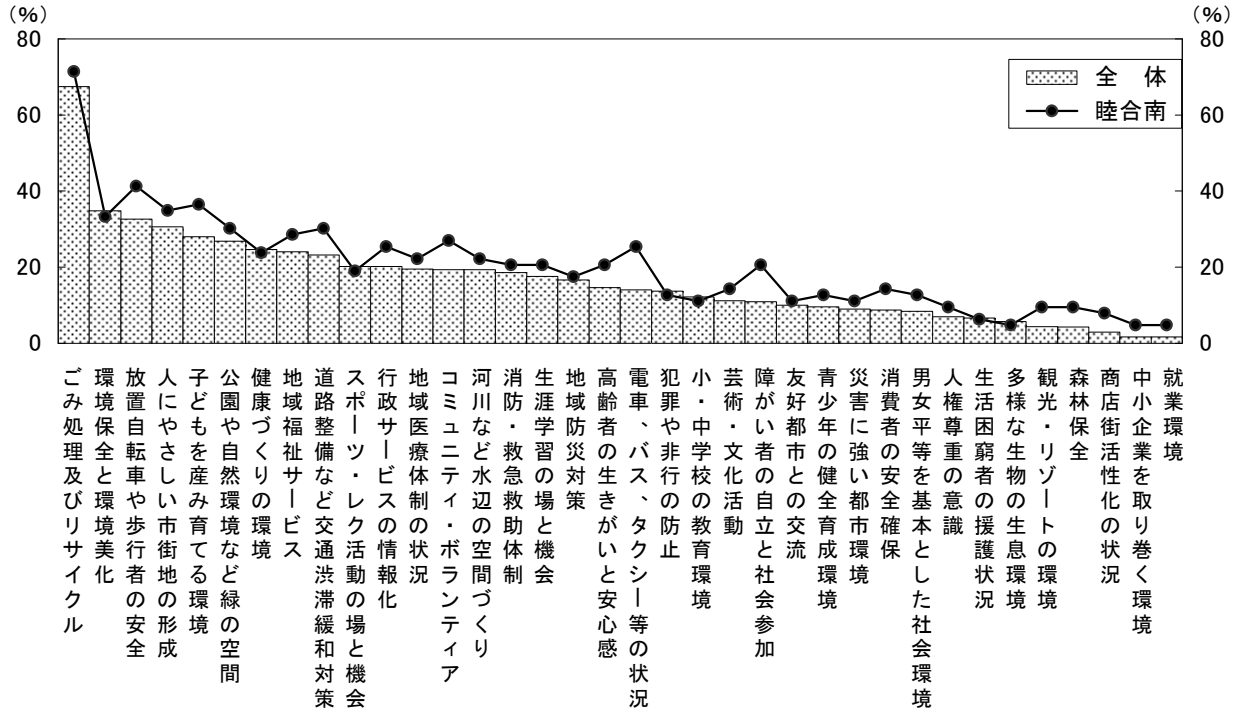
図 14-2-11 まちづくり全般の変化—睦合北地区（悪くなったもの）



〔睦合南地区〕

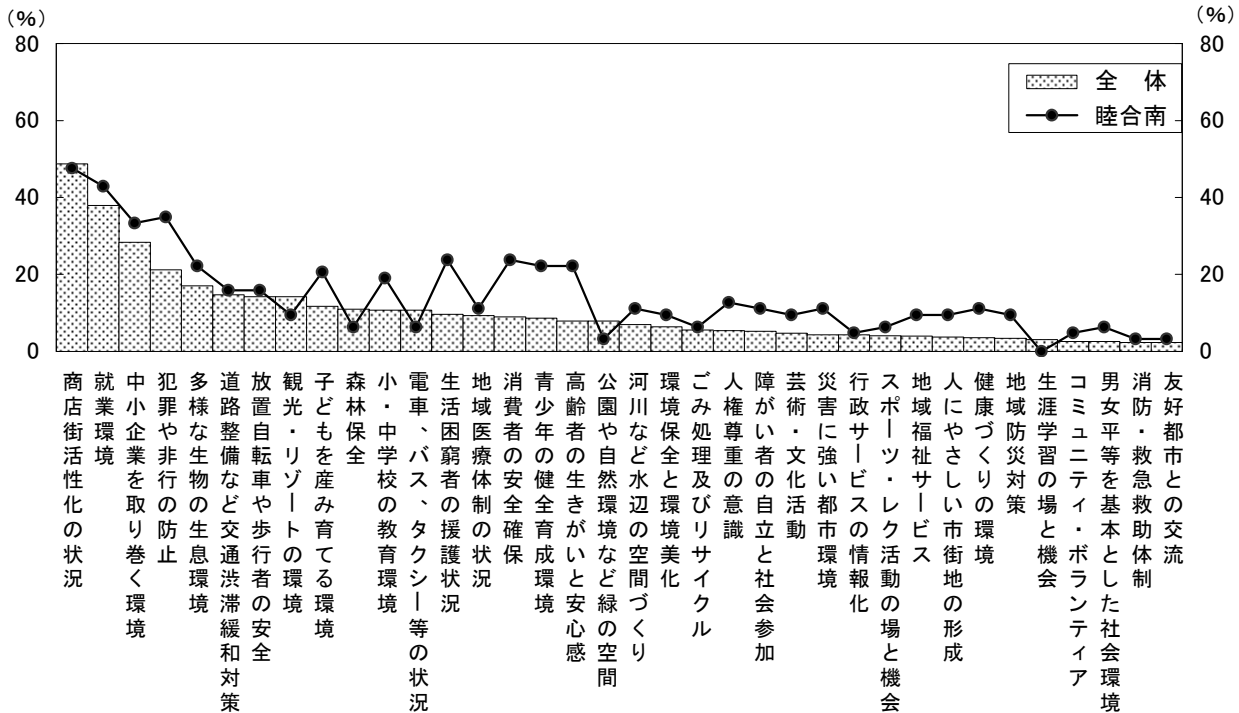
良くなったものでは、全体と比べて『放置自転車や歩行者の安全』、『電車、バス、タクシー等の状況』、『障がい者の自立と社会参加』が特に高くなっている。

図 14-2-12 まちづくり全般の変化—睦合南地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『犯罪や非行の防止』、『生活困窮者の援護状況』、『消費者の安全確保』、『青少年の健全育成環境』、『高齢者の生きがいと安心感』が特に高くなっている。

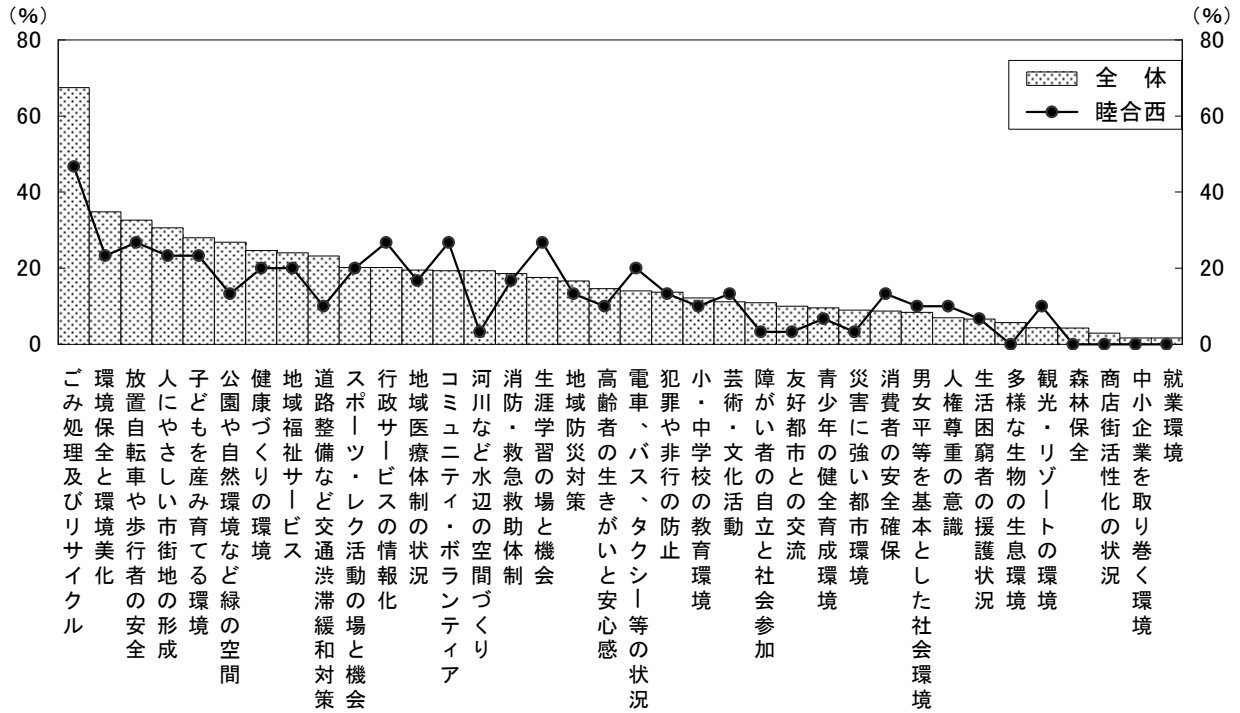
図 14-2-13 まちづくり全般の変化—睦合南地区（悪くなったもの）



〔睦合西地区〕

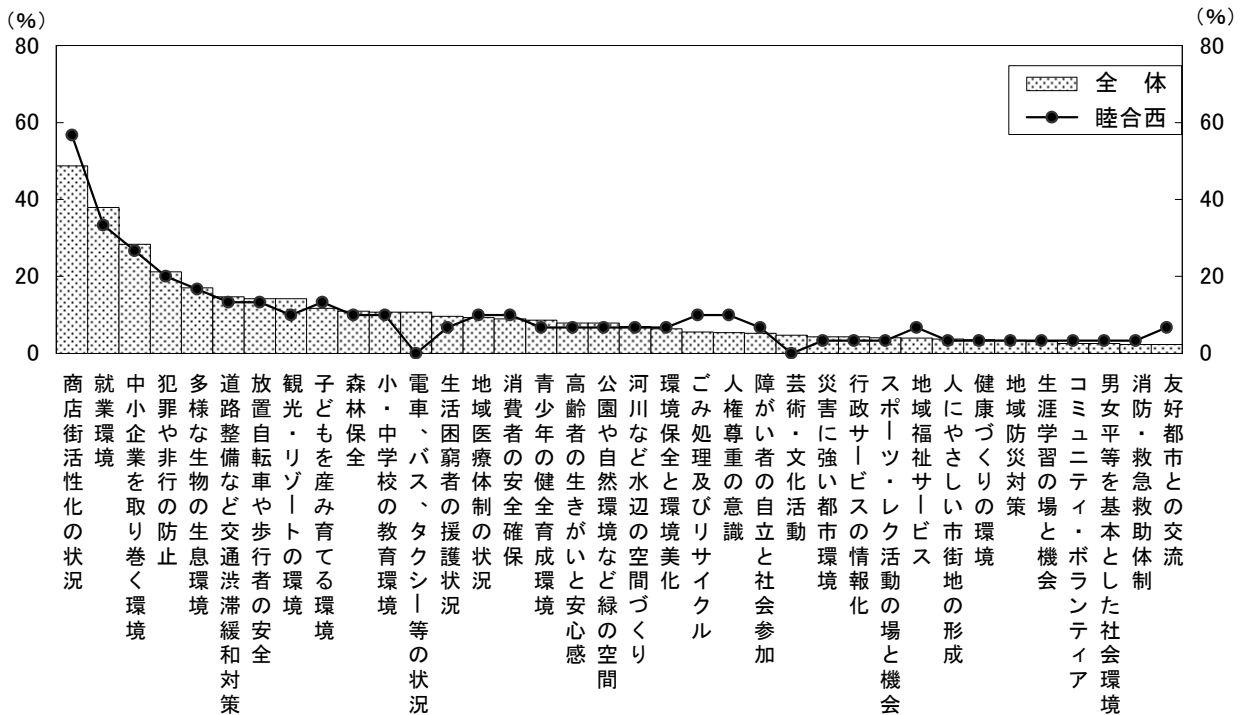
良くなったものでは、全体と比べて『行政サービスの情報化』、『コミュニティ活動・ボランティア活動』、『生涯学習の場と機会』、『電車、バス、タクシー等の状況』が高くなっている。一方、『ごみ処理及びリサイクル』、『環境保全と環境美化』、『公園や自然環境など緑の空間』、『道路整備など交通渋滞緩和対策』、『河川など水辺の空間づくり』が特に低くなっている。

図 14-2-14 まちづくり全般の変化—睦合西地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『商店街活性化の状況』が高くなっている。一方、『電車、バス、タクシー等の状況』が特に低くなっている。

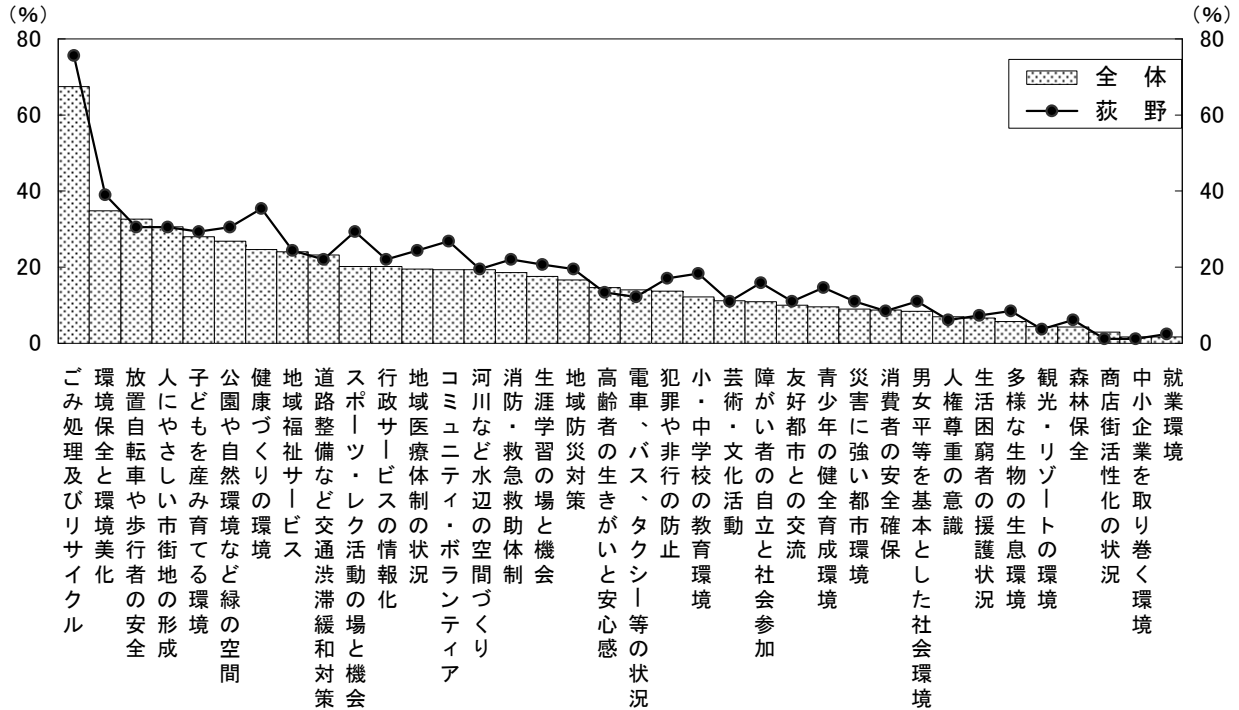
図 14-2-15 まちづくり全般の変化—睦合西地区（悪くなったもの）



〔荻野地区〕

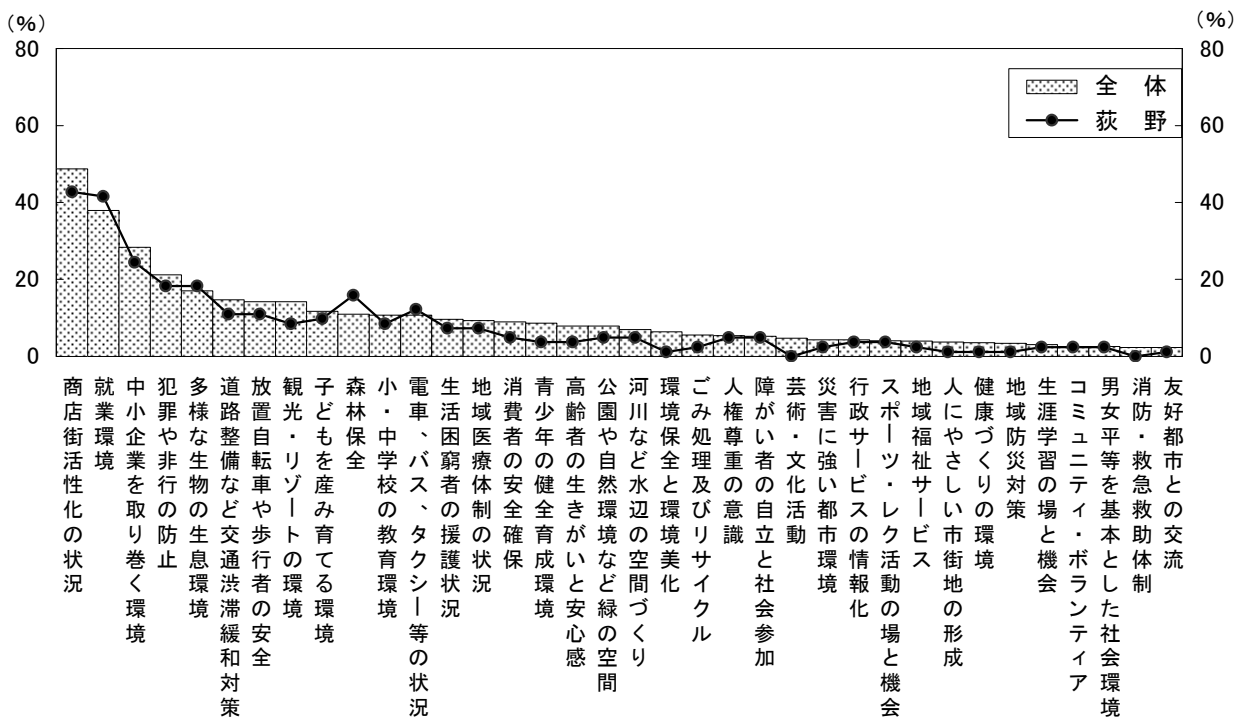
良くなったものでは、全体と比べて『ごみ処理及びリサイクル』、『健康づくりの環境』、『スポーツ・レク活動の場と機会』が特に高くなっている。

図 14-2-16 まちづくり全般の変化—荻野地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『商店街活性化の状況』、『観光・リゾートの環境』、『環境保全と環境美化』が低くなっている。

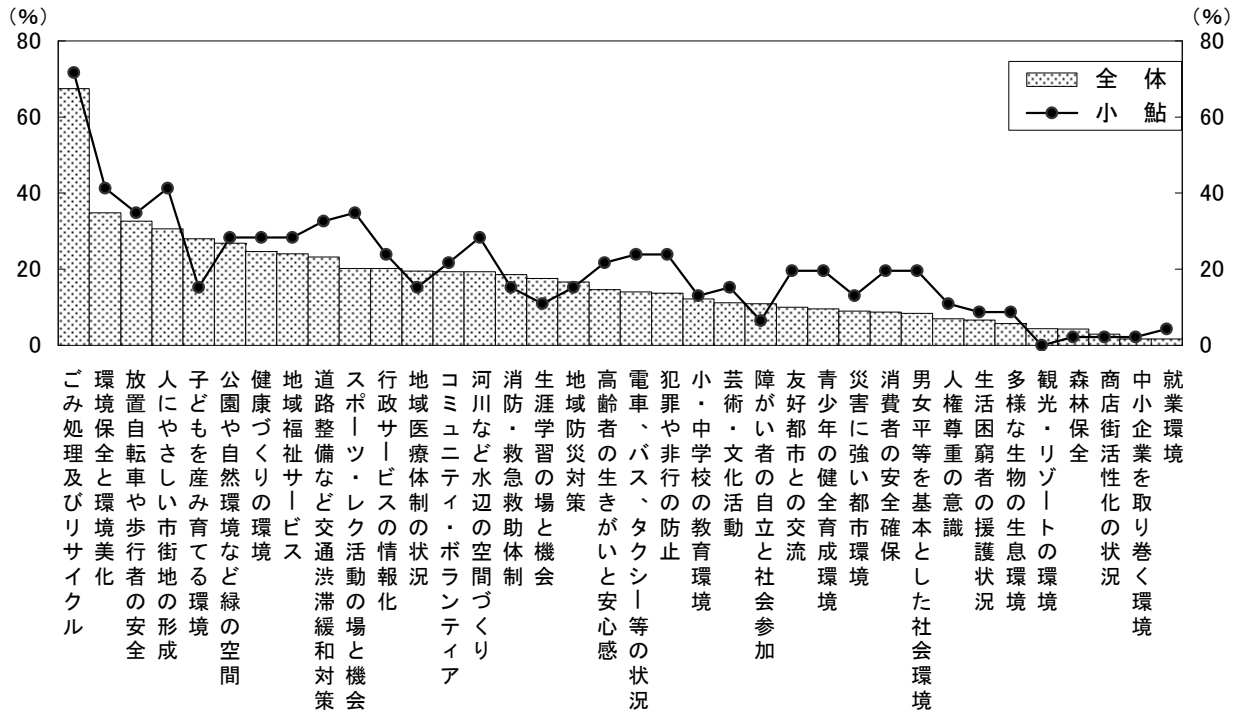
図 14-2-17 まちづくり全般の変化—荻野地区（悪くなったもの）



〔小鮎地区〕

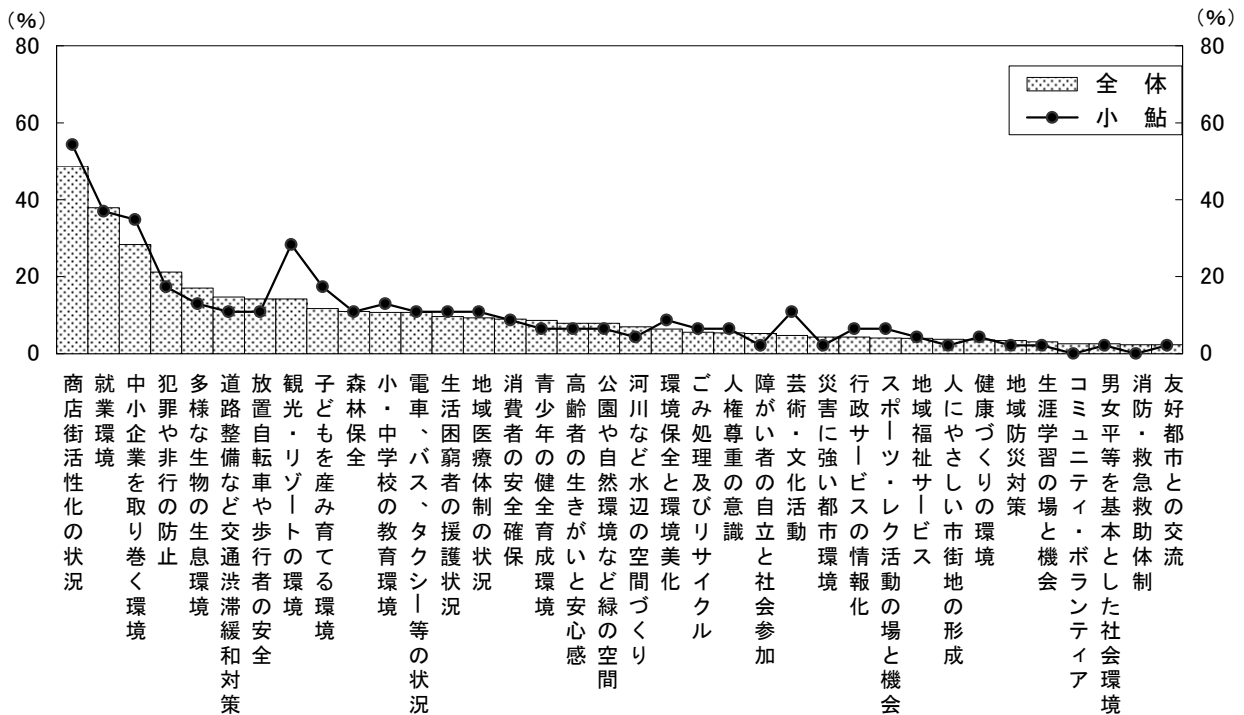
良くなったものでは、全体と比べて『人にやさしい市街地の形成』、『スポーツ・レクリエーション活動の場と機会』、『犯罪や非行の防止』、『青少年の健全育成環境』、『消費者の安全確保』、『男女平等を基本とした社会環境』が特に高くなっている。一方、『子どもを産み育てる環境』が特に低くなっている。

図 14-2-18 まちづくり全般の変化—小鮎地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『観光・リゾートの環境』が特に高くなっている。

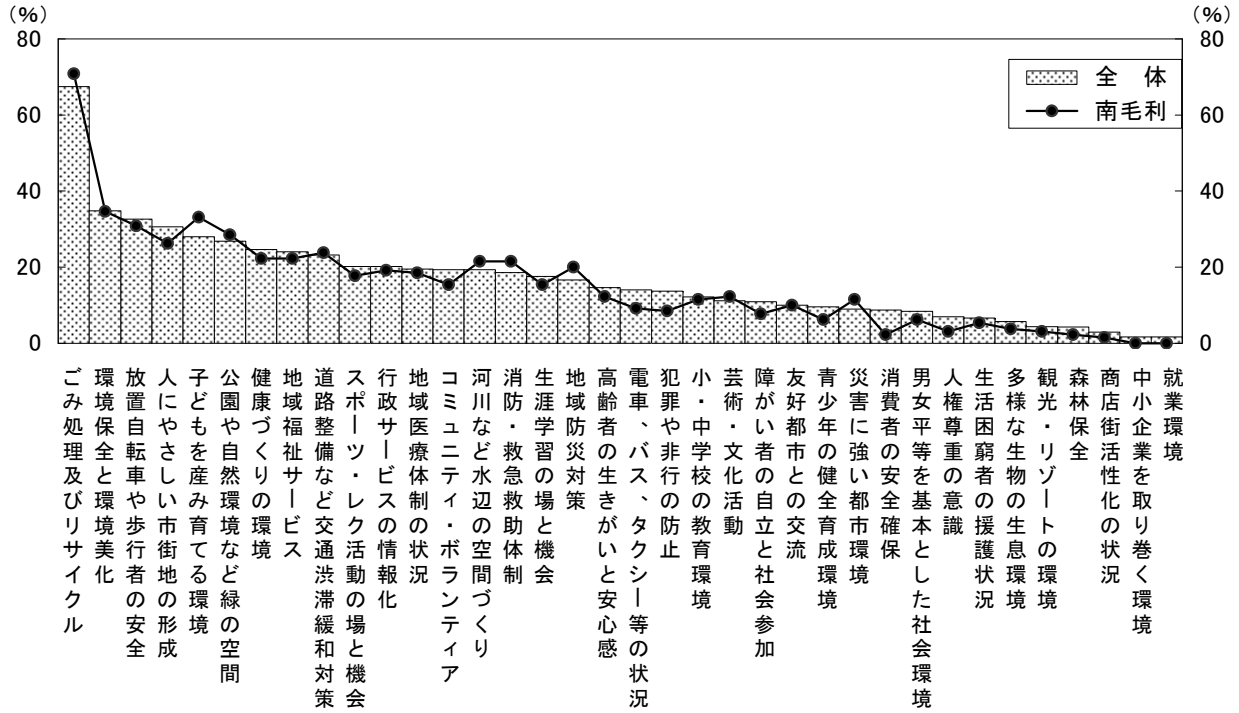
図 14-2-19 まちづくり全般の変化—小鮎地区（悪くなったもの）



〔南毛利地区〕

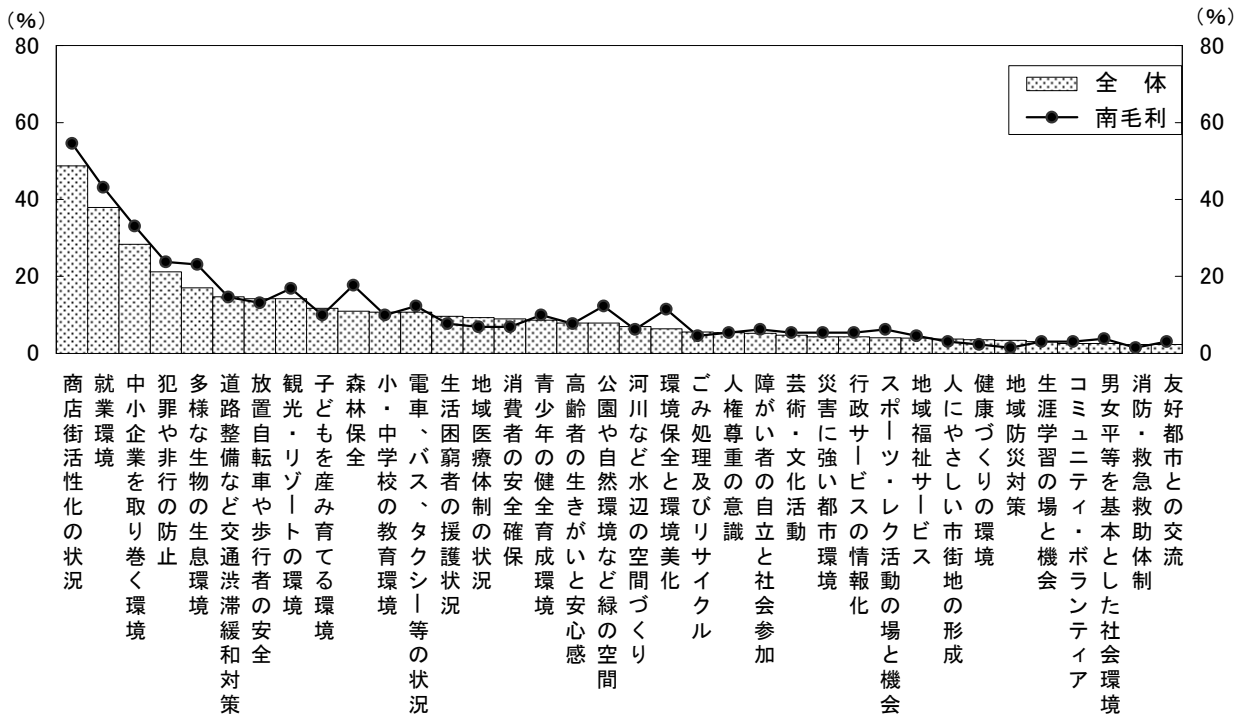
良くなったものでは、全体と比べて『子どもを産み育てる環境』が高くなっている。一方、『犯罪や非行の防止』、『消費者の安全確保』が低くなっている。

図 14-2-20 まちづくり全般の変化—南毛利地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『商店街活性化の状況』、『就業環境』、『多様な生物の生息環境』、『森林保全』、『環境保全と環境美化』が高くなっている。

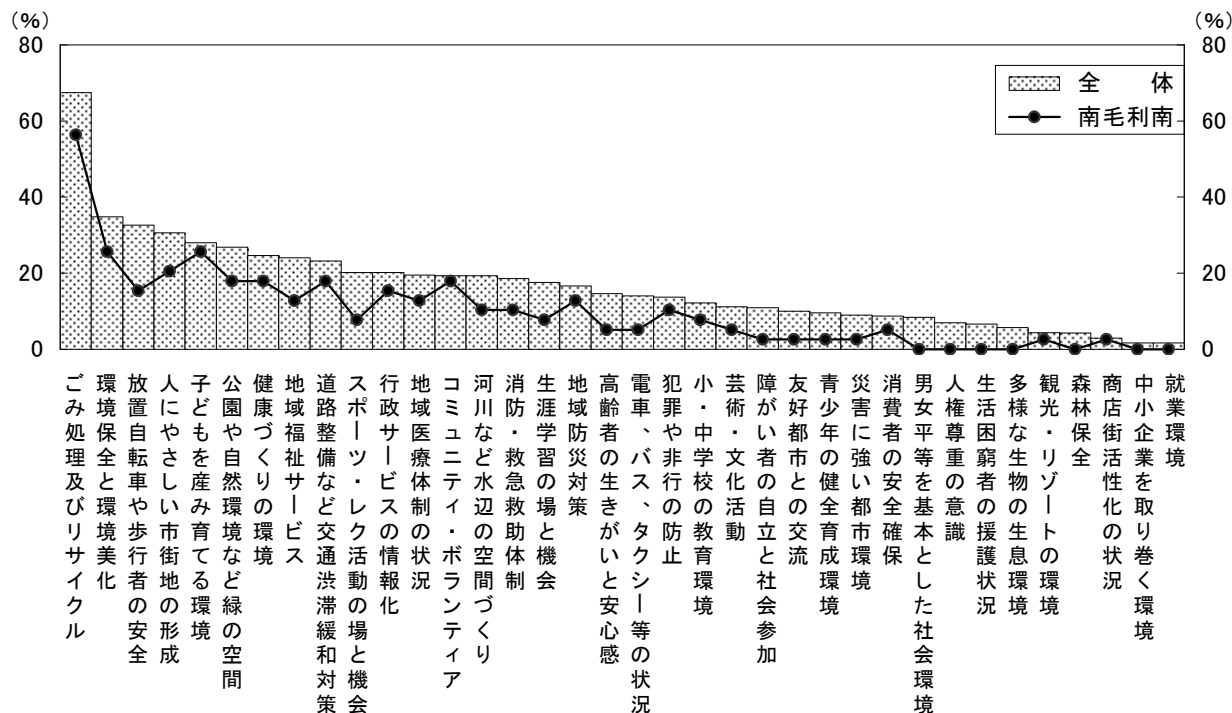
図 14-2-21 まちづくり全般の変化—南毛利地区（悪くなったもの）



〔南毛利南地区〕

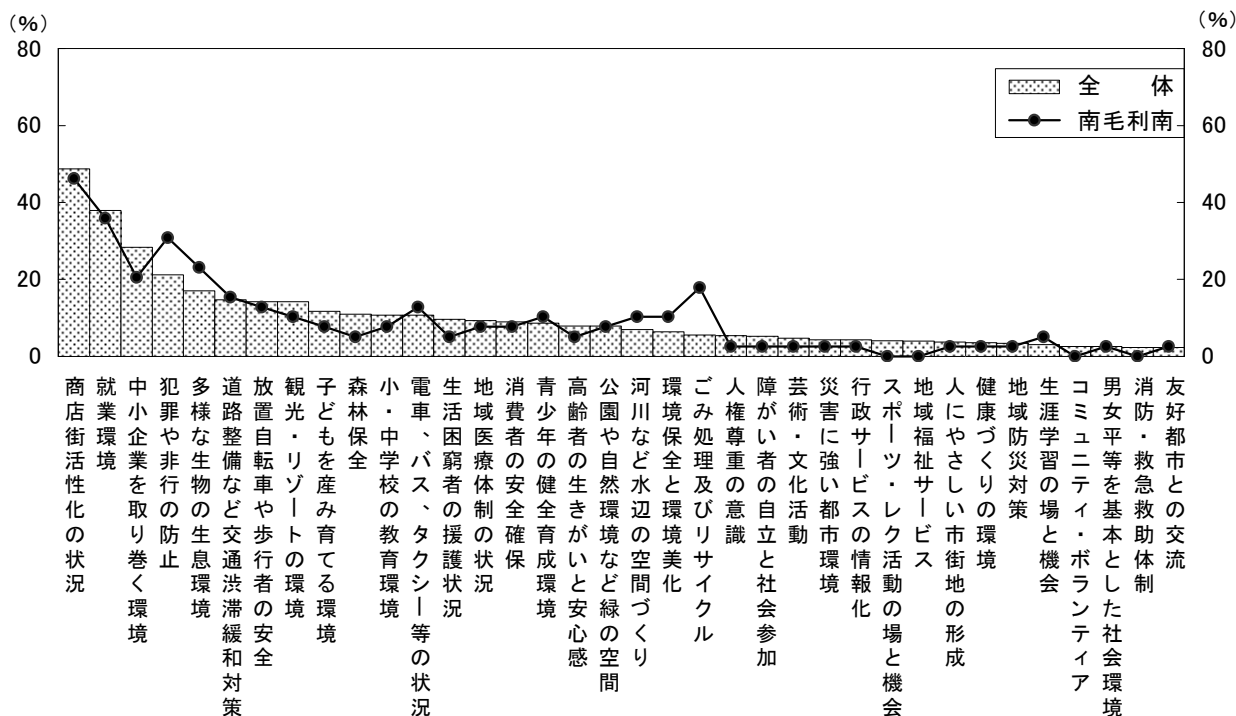
良くなったものでは、全体と比べて『ごみ処理及びリサイクル』、『放置自転車や歩行者の安全』、『人にやさしい市街地の形成』、『地域福祉サービス』、『スポーツ・レクリエーション活動の場と機会』が特に低くなっている。

図 14-2-22 まちづくり全般の変化—南毛利南地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『ごみ処理及びリサイクル』が高くなっている。一方、『中小企業を取り巻く環境』、『森林保全』が低くなっている。

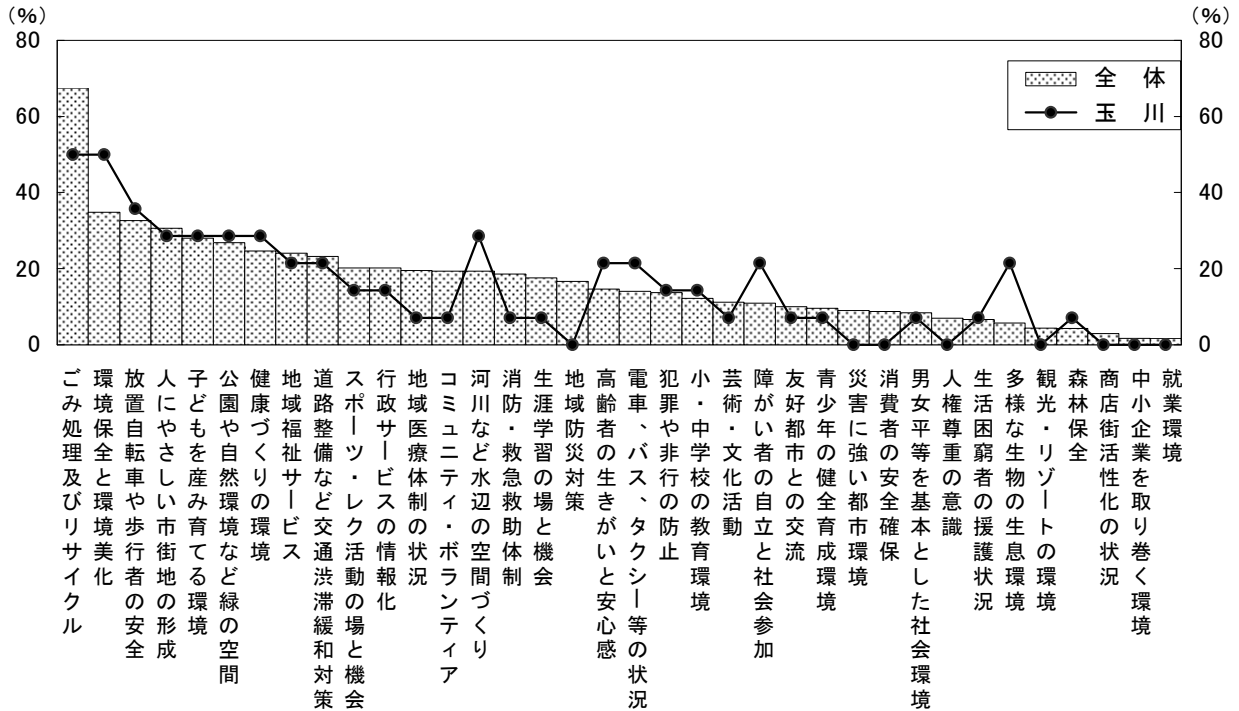
図 14-2-23 まちづくり全般の変化—南毛利南地区（悪くなったもの）



〔玉川地区〕

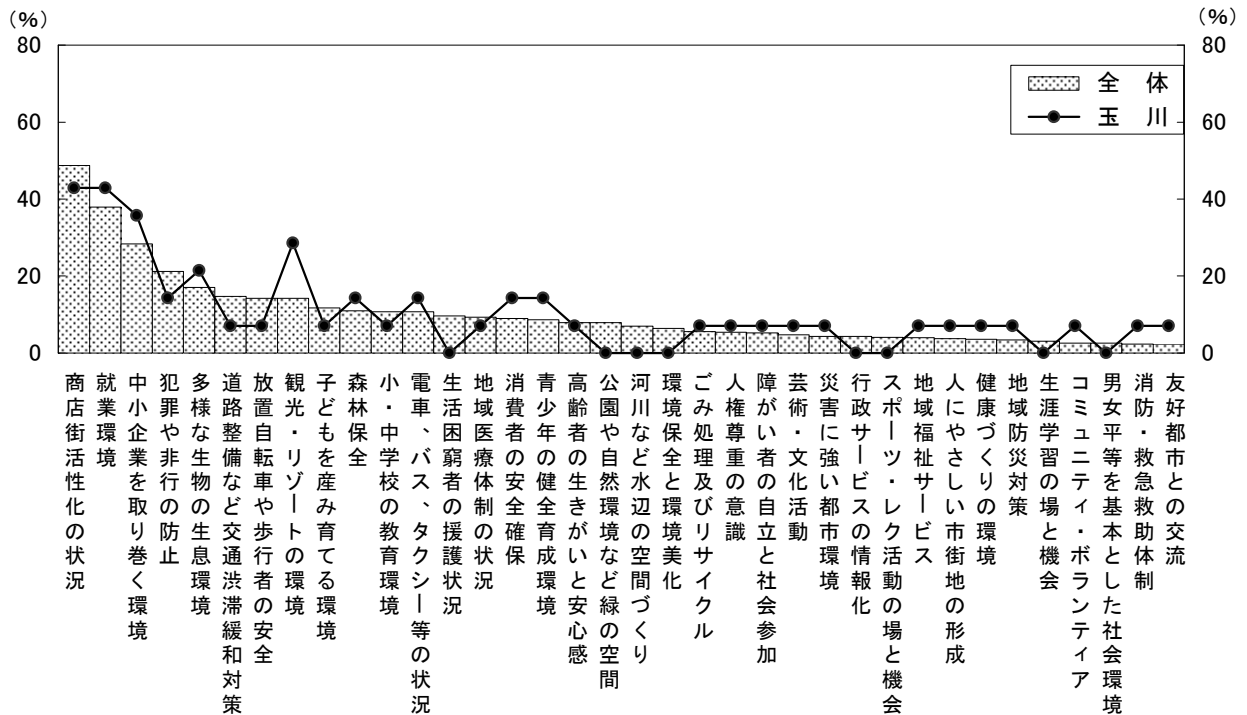
良くなったものでは、全体と比べて『環境保全と環境美化』、『障がい者の自立と社会参加』、『多様な生物の生息環境』が特に高くなっている。一方、『ごみ処理及びリサイクル』、『地域医療体制の状況』、『コミュニティ・ボランティア』、『消防・救急救助体制』、『生涯学習の場と機会』、『地域防災対策』が特に低くなっている。

図 14-2-24 まちづくり全般の変化—玉川地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『観光・リゾートの環境』が特に高くなっている。一方、『道路整備など交通渋滞緩和対策』、『放置自転車や歩行者の安全』、『生活困窮者の援護状況』が低くなっている。

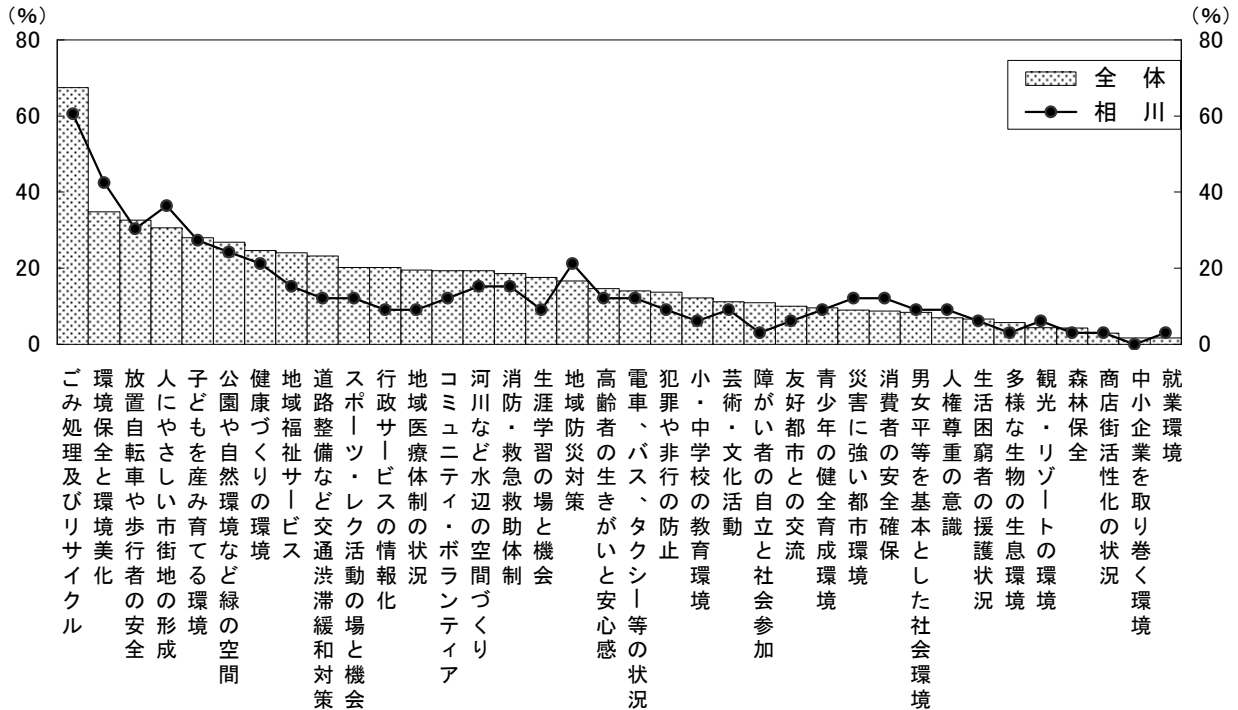
図 14-2-25 まちづくり全般の変化—玉川地区（悪くなったもの）



〔相川地区〕

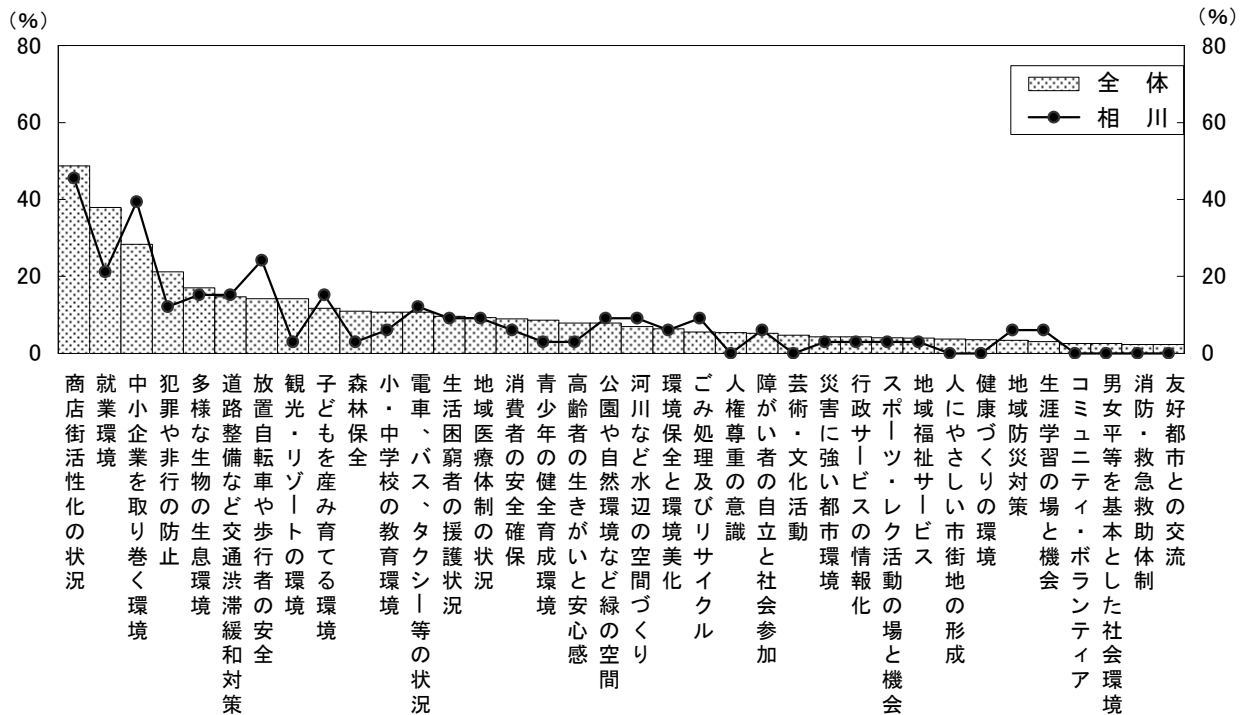
良くなったものでは、全体と比べて『環境保全と環境美化』、『人にやさしい市街地の形成』が高くなっている。一方、『道路整備など交通渋滞緩和対策』、『行政サービスの情報化』、『地域医療体制の状況』が特に低くなっている。

図 14-2-26 まちづくり全般の変化—相川地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『中小企業を取り巻く環境』、『放置自転車や歩行者の安全』が高くなっている。一方、『就業環境』、『観光・リゾートの環境』が特に低くなっている。

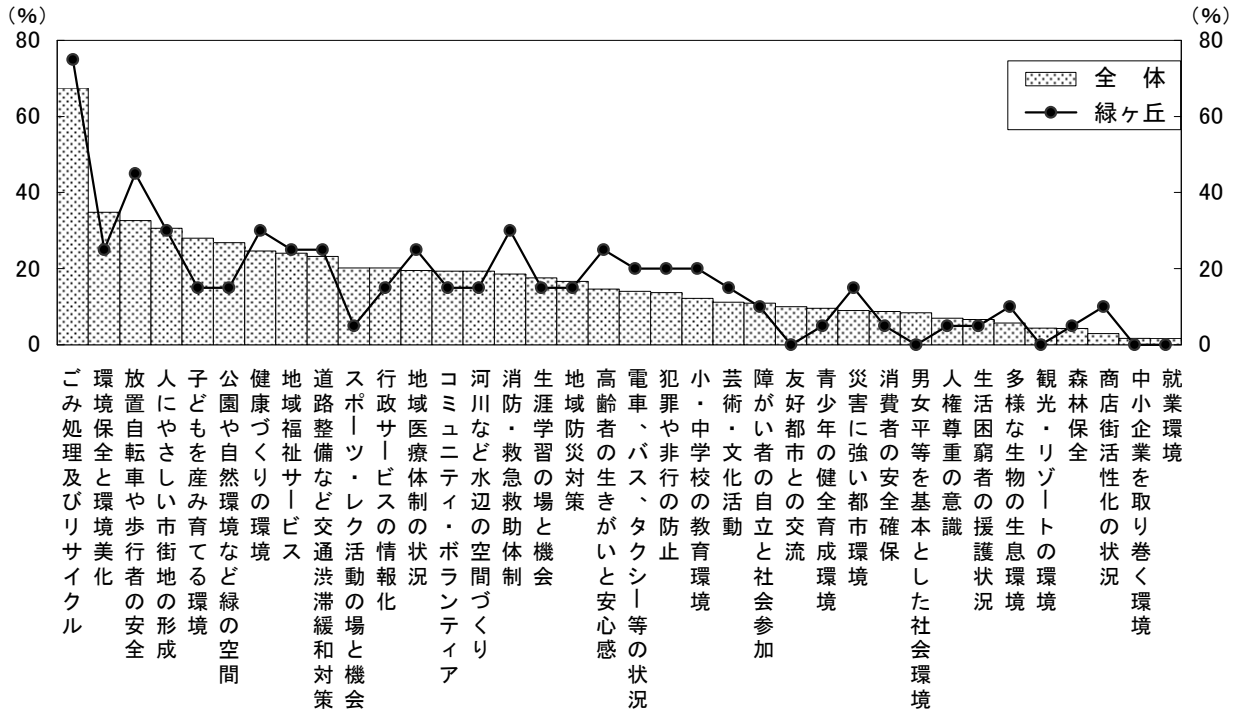
図 14-2-27 まちづくり全般の変化—相川地区（悪くなったもの）



〔緑ヶ丘地区〕

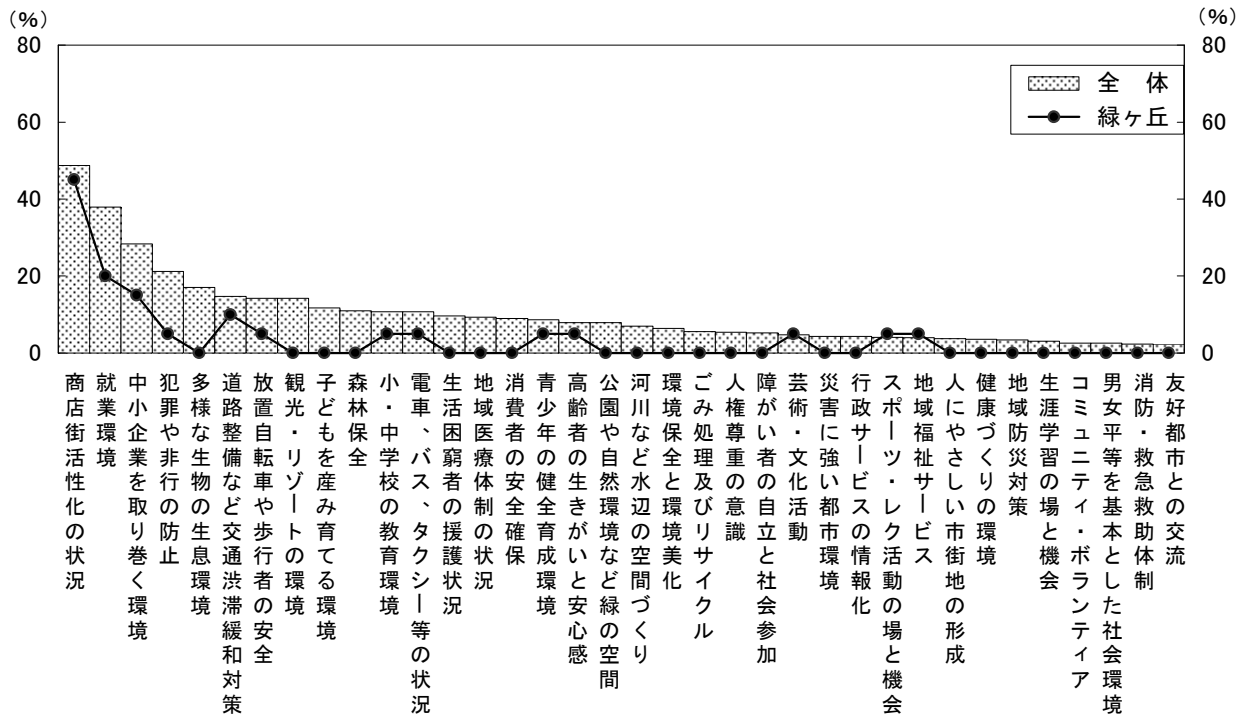
良くなったものでは、全体と比べて『放置自転車や歩行者の安全』、『消防・救急救助体制』、『高齢者の生きがいと安心感』が特に高くなっている。一方、『子どもを産み育てる環境』、『公園や自然環境など緑の空間』、『スポーツ・レクリエーション活動の場と機会』、『友好都市との交流』が特に低くなっている。

図 14-2-28 まちづくり全般の変化—緑ヶ丘地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『就業環境』、『中小企業を取り巻く環境』、『犯罪や非行の防止』、『多様な生物の生息環境』、『観光・リゾートの環境』、『子どもを産み育てる環境』、『森林保全』が特に低くなっている。

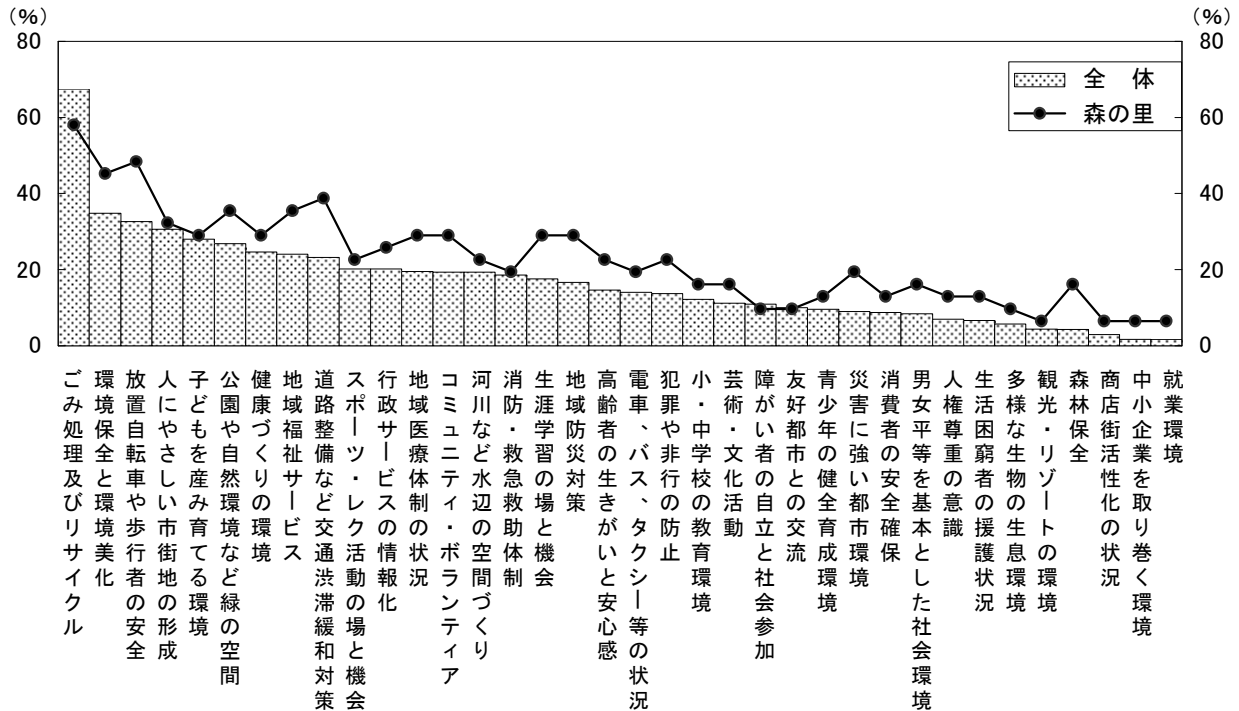
図 14-2-29 まちづくり全般の変化—緑ヶ丘地区（悪くなったもの）



〔森の里地区〕

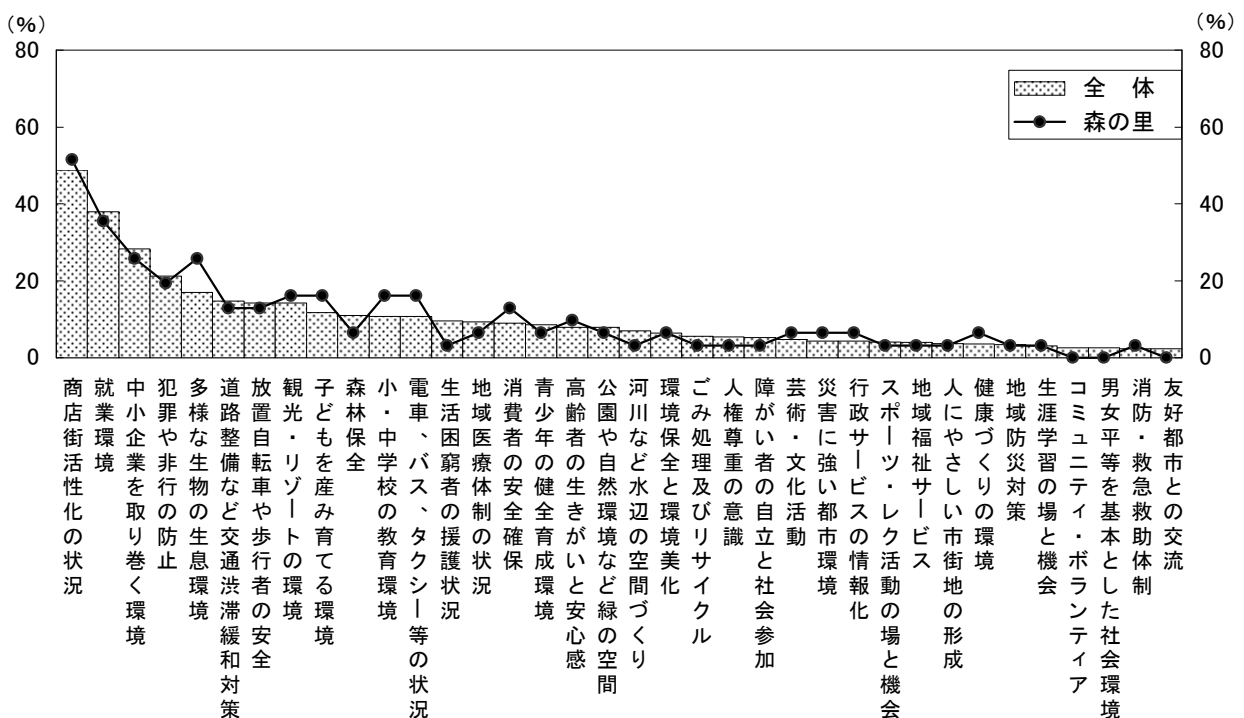
良くなったものでは、全体と比べて『環境保全と環境美化』、『放置自転車や歩行者の安全』、『地域福祉サービス』、『道路整備など交通渋滞緩和対策』、『生涯学習の場と機会』、『地域防災対策』、『災害に強い都市環境』が特に高くなっている。一方、『ごみ処理及びリサイクル』が低くなっている。

図 14-2-30 まちづくり全般の変化—森の里地区（良くなったもの）



悪くなったものでは、全体と比べて『多様な生物の生息環境』、『小・中学校の教育環境』、『電車、バス、タクシー等の状況』が高くなっている。一方、『生活困窮者の援護状況』が低くなっている。

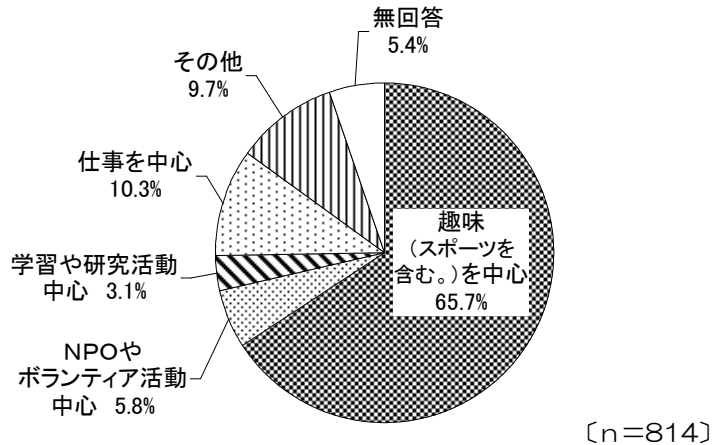
図 14-2-31 まちづくり全般の変化—森の里地区（悪くなったもの）



(3) 60歳以降の生活様式の希望 (B:問21)

問. 将来(60歳以降)どのような生活を送りたいですか。
 (現在60歳以上の方は、どのような生活を望んでいますか。)(1つだけ)

図 14-3-1 60歳以降の生活様式の希望



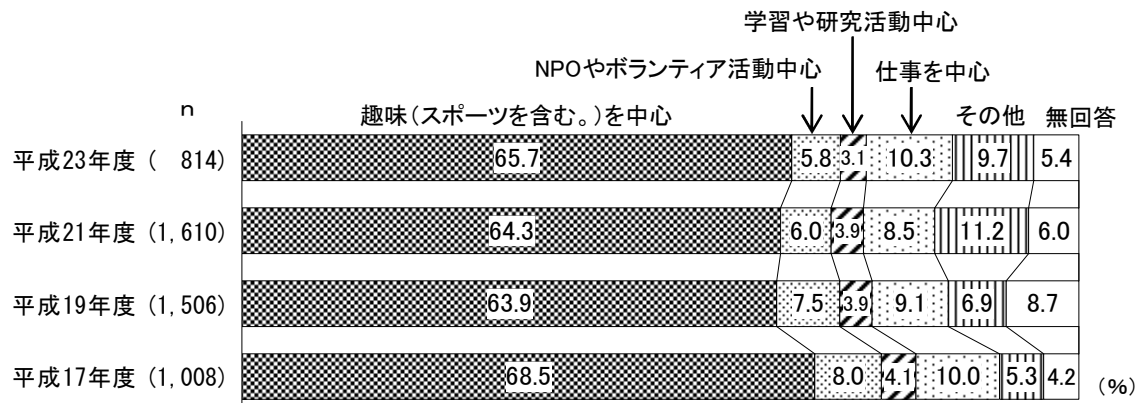
【全体】

60歳を過ぎてからどのような生活を送りたいか聞いたところ、「趣味(スポーツを含む。)を中心」(65.7%)が6割半ばで特に高くなっている。その他、「仕事を中心」(10.3%)が1割、「NPOやボランティア活動中心」(5.8%)、「学習や研究活動中心」(3.1%)が1割未満となっている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

図 14-3-2 60歳以降の生活様式の希望—経年変化

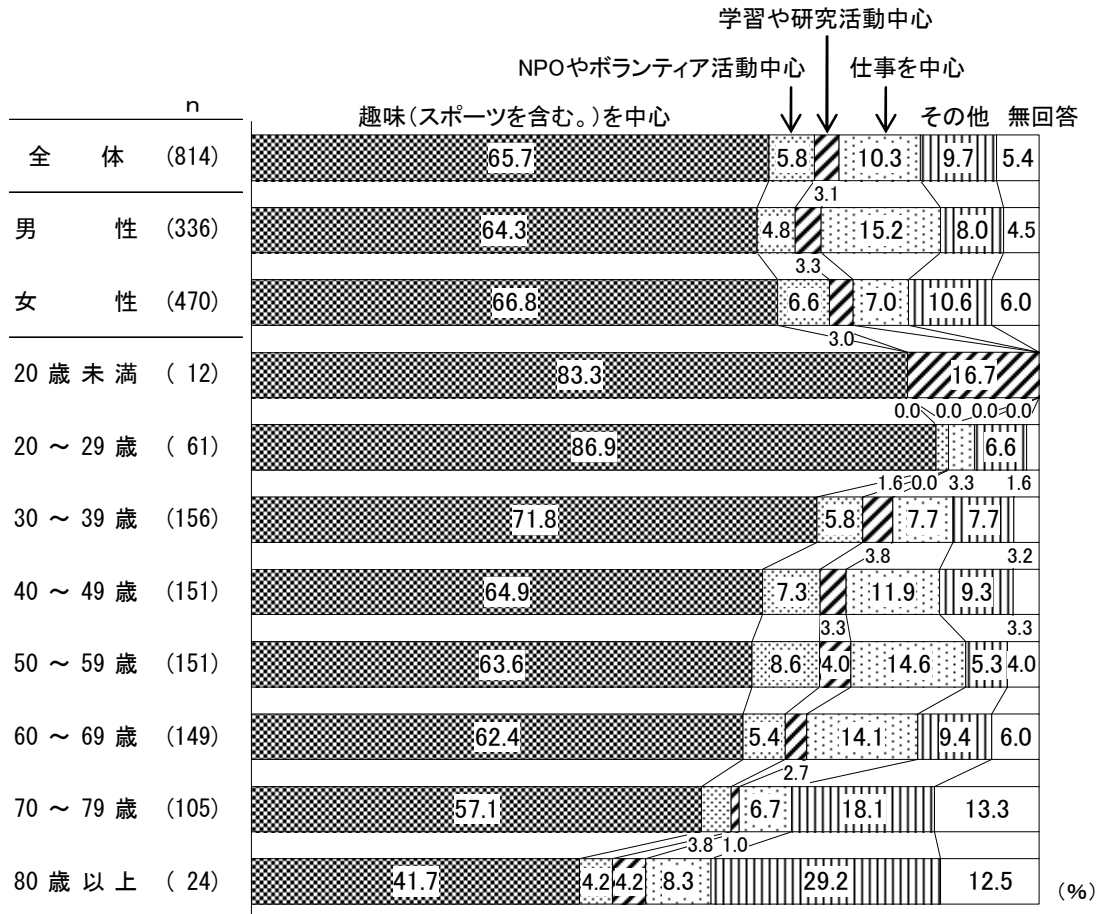


【属性別】

性別にみると、男性で「仕事を中心」（15.2%）が女性より8.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、どの年代も「趣味（スポーツを含む。）を中心」が最も高くなっており、年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

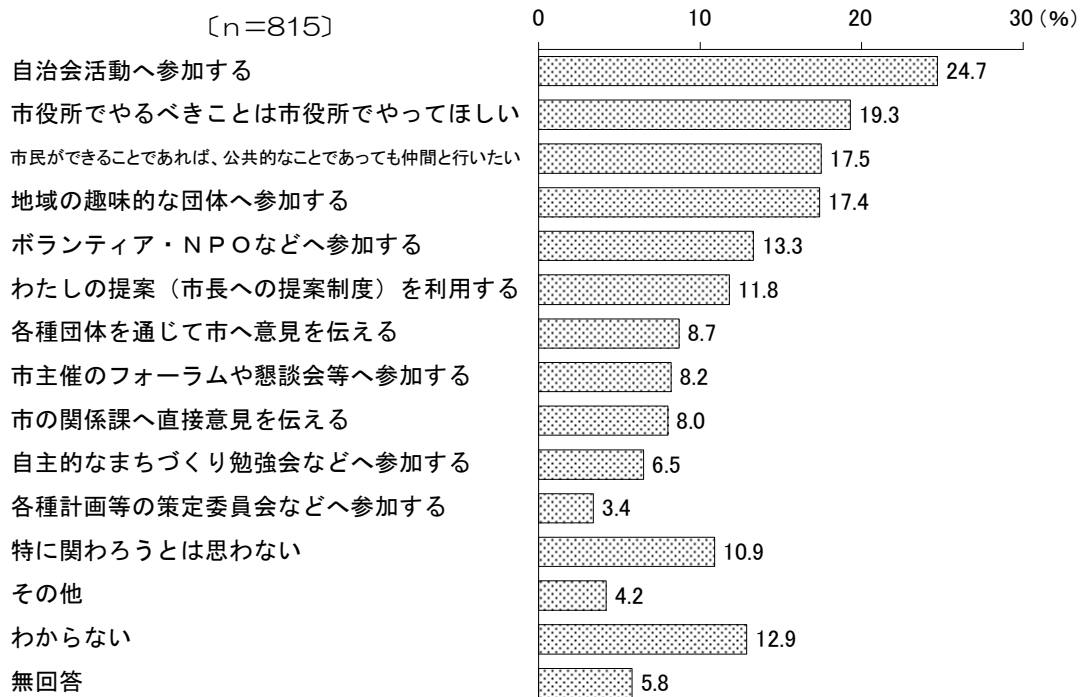
図 14-3-3 60歳以降の生活様式の希望—性別、年齢別



(4) まちづくりへの参加 (A:問30)

問. あなたは、どのようにまちづくりに関わっていきたいと思いますか。(いくつでも)

図 14-4-1 まちづくりへの参加



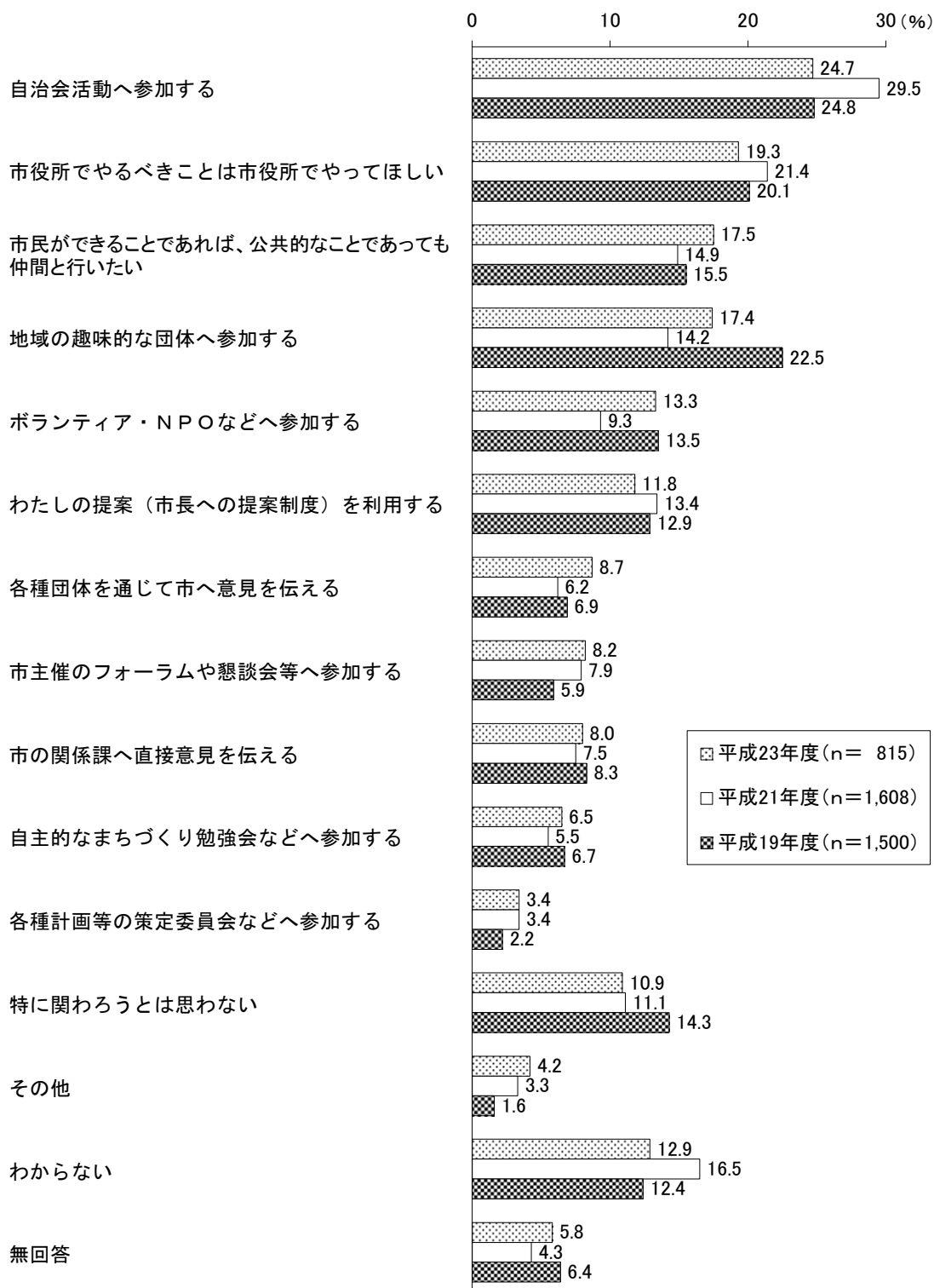
【全体】

どのようにしてまちづくりに関わっていきたいと思うか聞いたところ、「自治会活動へ参加する」(24.7%)が2割半ばで最も高くなっている。次いで、「市役所でやるべきことは市役所でやってほしい」(19.3%)、「市民ができることであれば、公共的なことであっても仲間で行いたい」(17.5%)、「地域の趣味的な団体へ参加する」(17.4%)、「ボランティア・NPOなどへ参加する」(13.3%)となっている。一方、「特に関わろうとは思わない」(10.9%)はほぼ1割となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「自治会活動へ参加する」が前回調査より 4.8 ポイント低くなっている。

図 14-4-2 まちづくりへの参加—経年変化（複数回答）



【属性別】

性別にみると、男性で「市主催のフォーラムや懇談会等へ参加する」(12.3%)が女性より7.4ポイント高く、「わたしの提案(市長への提案制度)を利用する」(14.8%)が女性より5.4ポイント高く、「各種団体を通じて市へ意見を伝える」(11.5%)が女性より5.2ポイント高く、「自治会活動へ参加する」(27.1%)が女性より4.5ポイント高くなっている。一方、女性で「市役所でやるべきことは市役所でやってほしい」(21.0%)が男性より4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70歳代で「自治会活動へ参加する」(36.7%)が4割近く、60歳代・70歳代で「地域の趣味的な団体へ参加する」(27.3%・26.6%)が2割台で他の年代より高くなっている。また、80歳以上で「市の関係課へ直接意見を伝える」と「自主的なまちづくり勉強会などへ参加する」(それぞれ18.2%)が2割近くで他の年代より高くなっている。

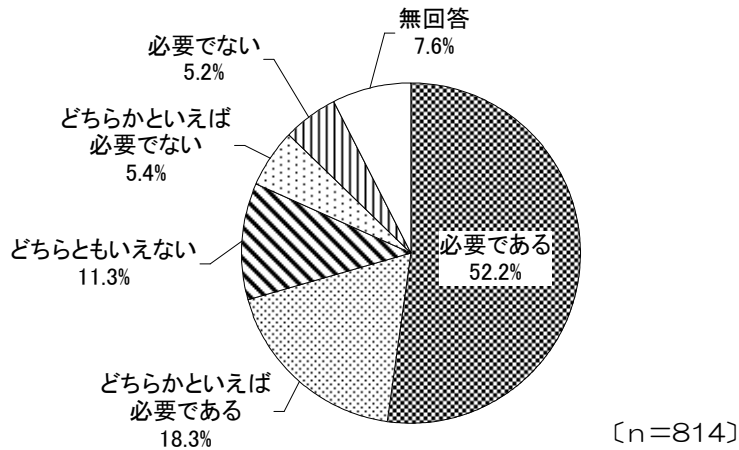
表 14-4-1 まちづくりへの参加—性別、年齢別(複数回答)

		n	自治会活動へ参加する	市役所でやるべきことは市役所でやってほしい	なことであっても仲間と行いたい市民ができることであれば、公共的	地域の趣味的な団体へ参加する	ボランティア・NPOなどへ参加する	わたしの提案(市長への提案制度)を利用する	各種団体を通じて市へ意見を伝える	市主催のフォーラムや懇談会等へ参加する	市の関係課へ直接意見を伝える	自主的なまちづくり勉強会などへ参加する	各種計画等の策定委員会などへ参加する	特に関わろうとは思わない	その他	わからない	無回答
全 体		815	24.7	19.3	17.5	17.4	13.3	11.8	8.7	8.2	8.0	6.5	3.4	10.9	4.2	12.9	5.8
性別	男 性	358	27.1	16.8	15.1	15.6	13.4	14.8	11.5	12.3	7.0	7.8	5.3	10.1	5.6	11.2	5.3
	女 性	447	22.6	21.0	19.2	18.8	13.0	9.4	6.3	4.9	8.7	5.1	1.8	11.9	2.9	14.3	6.3
年齢別	20歳未満	12	-	-	8.3	8.3	25.0	-	16.7	-	8.3	-	-	33.3	-	16.7	-
	20～29歳	72	9.7	18.1	13.9	12.5	18.1	9.7	6.9	4.2	2.8	4.2	4.2	20.8	5.6	20.8	1.4
	30～39歳	149	20.8	19.5	15.4	14.1	12.1	10.1	6.0	6.0	4.0	4.7	1.3	10.1	2.7	18.8	4.7
	40～49歳	134	20.9	16.4	15.7	11.9	9.0	14.9	6.7	3.7	8.2	3.7	0.7	12.7	4.5	11.2	6.7
	50～59歳	156	26.3	17.3	17.9	13.5	19.2	13.5	8.3	9.6	9.6	6.4	5.8	7.1	8.3	9.6	3.8
	60～69歳	143	30.1	23.1	23.8	27.3	14.7	9.1	10.5	11.2	9.1	7.7	5.6	9.1	2.8	11.9	3.5
	70～79歳	109	36.7	20.2	18.3	26.6	6.4	11.9	12.8	13.8	9.2	9.2	2.8	7.3	1.8	8.3	12.8
	80歳以上	33	24.2	30.3	12.1	12.1	6.1	18.2	6.1	12.1	18.2	18.2	3.0	18.2	-	12.1	15.2

(5) 本厚木駅周辺の活性化の必要性 (B: 問 27)

問. 本厚木駅周辺を活性化するために新たな商業施設の誘致や再開発事業を推進する必要があると思いますか。(1つだけ)

図 14-5-1 本厚木駅周辺の活性化の必要性



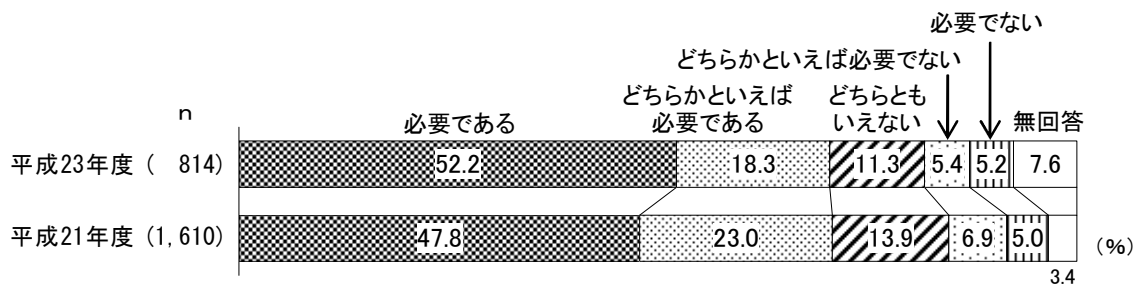
【全体】

本厚木駅周辺の活性化の必要性について聞いたところ、「必要である」(52.2%)、「どちらかといえば必要である」(18.3%)を合わせた『必要である』(70.5%)がほぼ7割となっている。一方、「必要でない」(5.2%)、「どちらかといえば必要でない」(5.4%)を合わせた『必要でない』(10.6%)はほぼ1割となっている。

【経年変化】

前回調査との比較をみると、「必要である」が4.4ポイント高くなっている。

図 14-5-2 本厚木駅周辺の活性化の必要性—経年変化

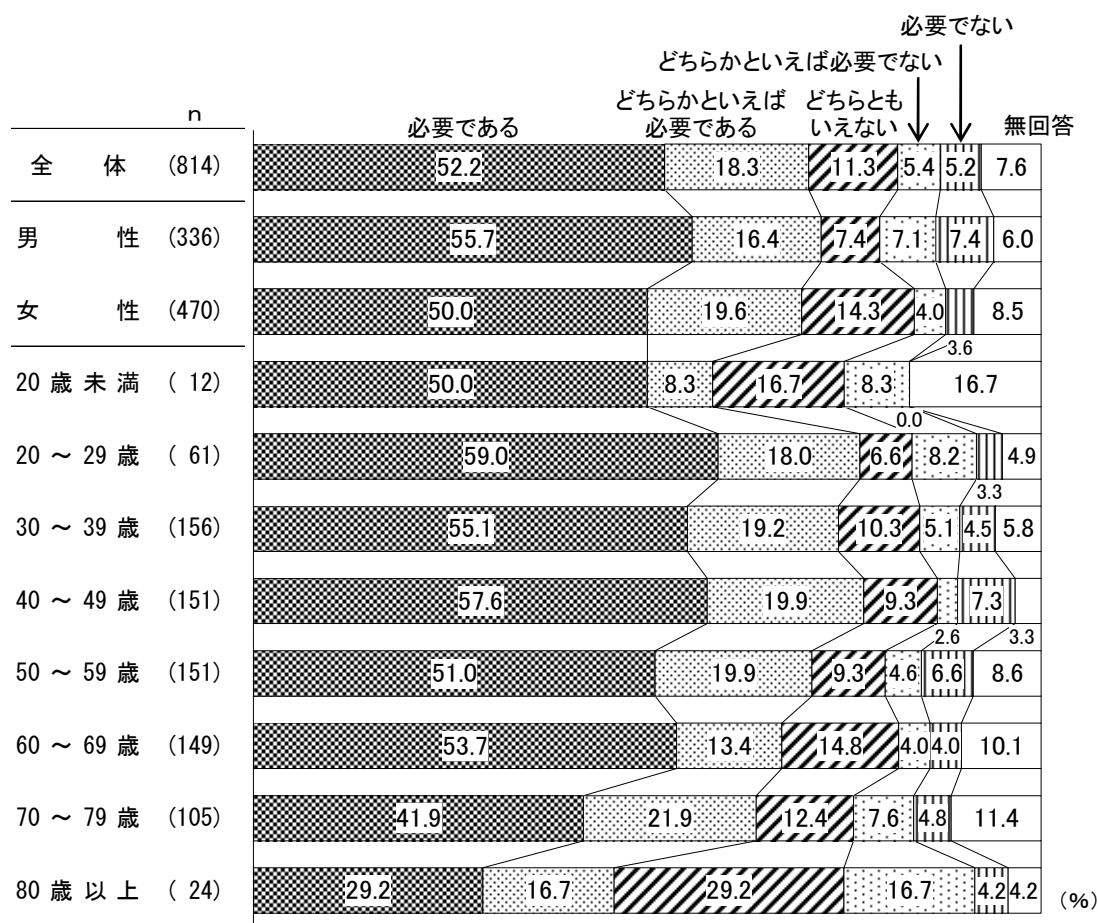


【属性別】

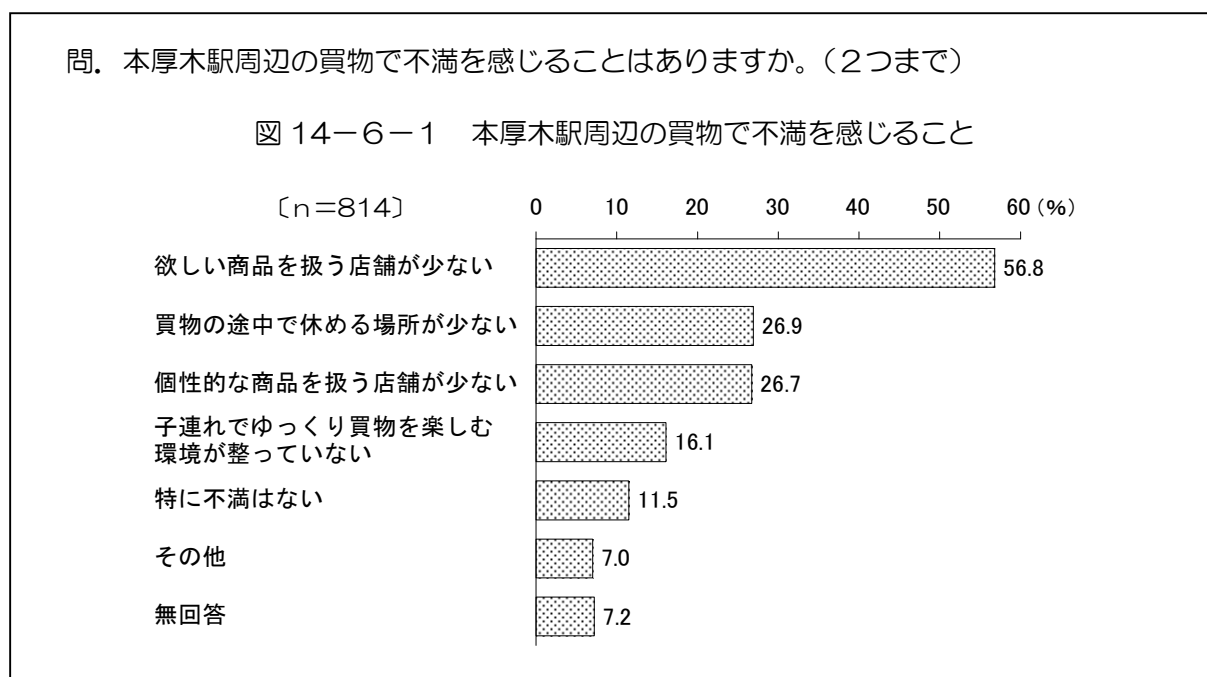
性別にみると、女性で「どちらともいえない」（14.3%）が男性より6.9ポイント高くなっている。一方、男性で『必要でない』（14.5%）が女性より6.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20歳代・40歳代で『必要である』（77.0%・77.5%）が8割近くで他の年代より高くなっている。また、80歳以上で「どちらともいえない」（29.2%）がほぼ3割、『必要でない』（20.9%）が2割を超え他の年代より高くなっている。

図 14-5-3 本厚木駅周辺の活性化の必要性—性別、年齢別



(6) 本厚木駅周辺の買物で不満を感じることに(B:問28)



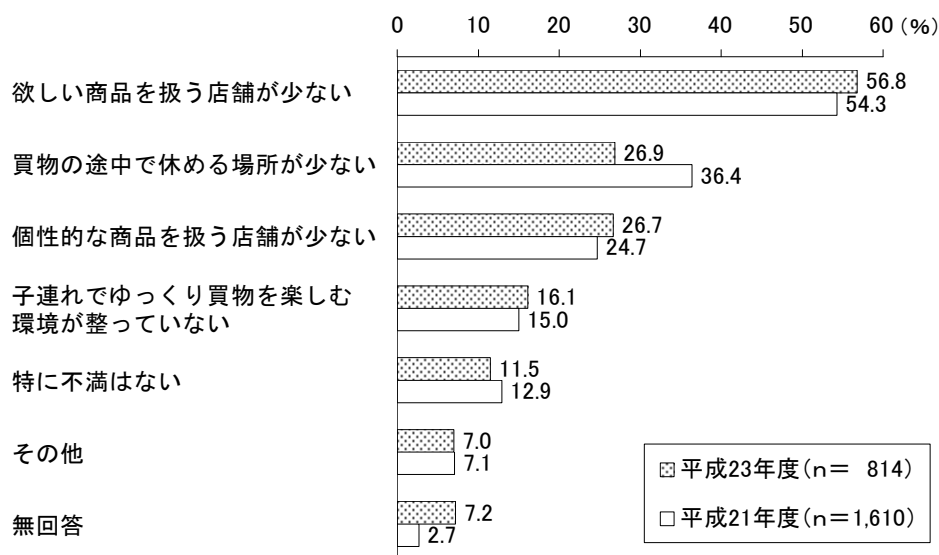
【全体】

本厚木駅周辺の買物で不満を感じることにについて聞いたところ、「欲しい商品を扱う店舗が少ない」(56.8%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「買物の途中で休める場所が少ない」(26.9%)、「個性的な商品を扱う店舗が少ない」(26.7%)、「子連れでゆっくり買物を楽しむ環境が整っていない」(16.1%)となっている。また、「特に不満はない」(11.5%)は1割を超える程度となっている。

【経年変化】

前回調査との比較をみると、「買物の途中で休める場所が少ない」が9.5ポイント低くなっている。

図 14-6-2 本厚木駅周辺の買物で不満を感じることに経年変化(2つまでの複数回答)



【属性別】

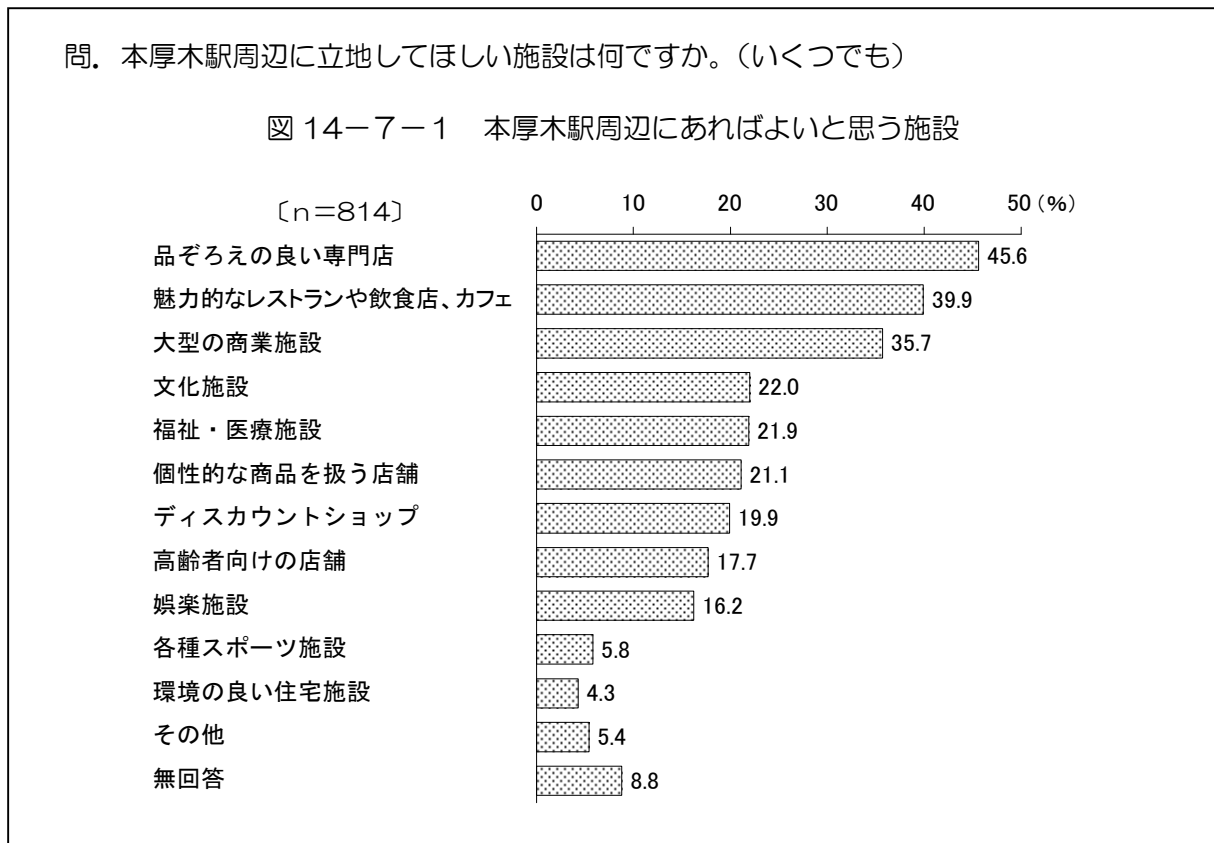
性別にみると、男性で「個性的な商品を扱う店舗が少ない」（32.4%）が女性より 9.4 ポイント高くなっている。一方、女性で「欲しい商品を扱う店舗が少ない」（58.5%）が男性より 4.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20 歳代で「欲しい商品を扱う店舗が少ない」（75.4%）が7割半ば、「買物の途中で休める場所が少ない」は 70 歳代（38.1%）が4割近く、80 歳以上（45.8%）が4割半ばで他の年代より高くなっている。また、30 歳代で「子連れでゆっくり買物を楽しむ環境が整っていない」（32.7%）が3割を超え他の年代より高くなっている。

表 14-6-1 本厚木駅周辺の買物で不満を感じること—性別、年齢別（2つまでの複数回答）

		(%)							
	n	欲が 少ない 商品を 扱う 店舗	買場 所が 途 中 で 休 め る	個 店 性 舗 的 な 商 品 を 扱 う	子 を い 連 れ し い で む ゆ っ き り 買 物 を し る 環 境 が 整 っ て い な い	特 に 不 満 は な い	そ の 他	無 回 答	
全	体	814	56.8	26.9	26.7	16.1	11.5	7.0	7.2
性 別	男 性	336	54.5	26.8	32.4	14.0	11.9	6.8	6.5
	女 性	470	58.5	27.2	23.0	17.9	11.3	6.8	7.4
年 齢 別	20 歳 未 満	12	75.0	25.0	33.3	8.3	-	8.3	16.7
	20 ~ 29 歳	61	75.4	27.9	26.2	16.4	3.3	6.6	4.9
	30 ~ 39 歳	156	57.7	22.4	23.1	32.7	9.0	7.1	5.1
	40 ~ 49 歳	151	60.9	21.9	29.1	18.5	12.6	7.3	4.0
	50 ~ 59 歳	151	63.6	20.5	30.5	11.9	11.9	7.3	6.6
	60 ~ 69 歳	149	47.0	32.9	24.2	9.4	14.1	6.7	10.7
	70 ~ 79 歳	105	46.7	38.1	29.5	7.6	13.3	7.6	9.5
	80 歳 以 上	24	37.5	45.8	16.7	4.2	20.8	-	8.3

(7) 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設 (B: 問 29)



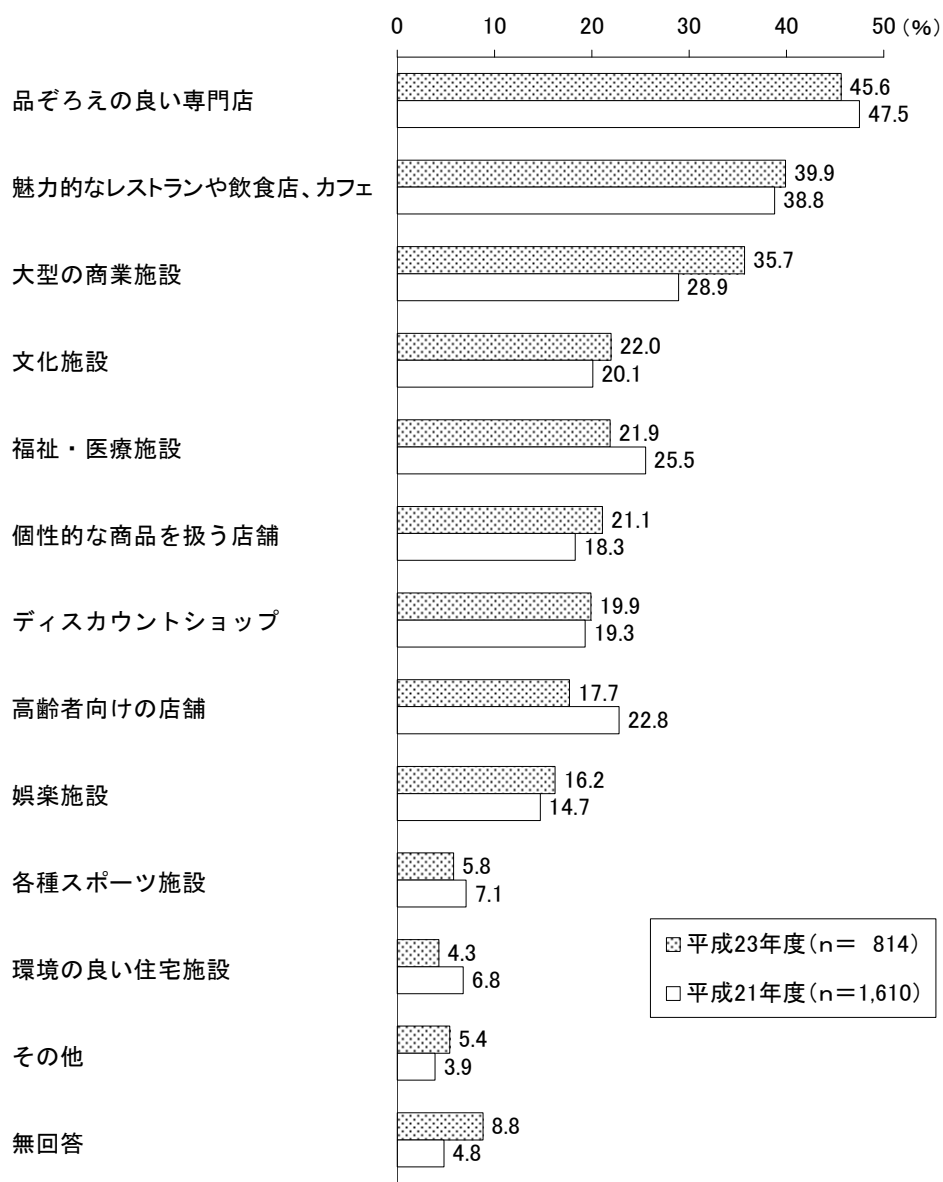
【全体】

本厚木駅周辺にあればよいと思う施設について聞いたところ、「品ぞろえの良い専門店」(45.6%)が4割半ばで最も高くなっている。次いで、「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」(39.9%)、「大型の商業施設」(35.7%)、「文化施設」(22.0%)、「福祉・医療施設」(21.9%)となっている。

【経年変化】

前回調査との比較をみると、「大型の商業施設」が6.8ポイント高くなっている。一方、「高齢者向けの店舗」が5.1ポイント低くなっている。

図 14-7-2 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設—経年変化（複数回答）



【属性別】

性別にみると、女性で「魅力的なレストランや飲食店、カフェ」（43.6%）が男性より 8.8 ポイント高くなっている。一方、男性で「個性的な商品を扱う店舗」（25.6%）が女性より 7.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20 歳代で「品ぞろえの良い専門店」（57.4%）が6割近くで他の年代より高く、20 歳代から 40 歳代で「大型の商業施設」（49.2%・47.4%・46.4%）が4割台で他の年代より高くなっている。また、「娯楽施設」はおおむね年代が低くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にあり、「高齢者向けの店舗」は年代が高くなるにつれて占める割合が高くなる傾向にある。

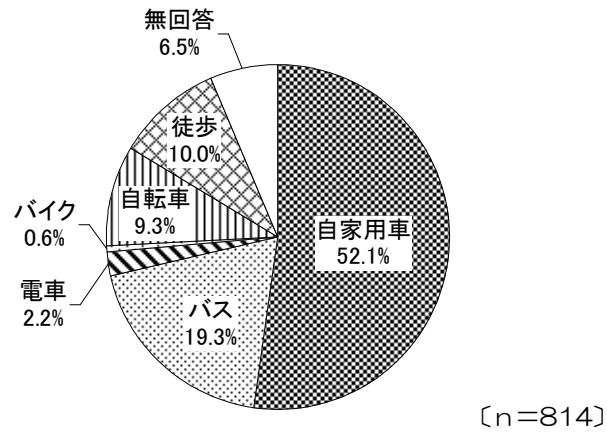
表 14-7-1 本厚木駅周辺にあればよいと思う施設—性別、年齢別（複数回答）

		n	品ぞろえの良い専門店	魅力的なレストランや飲食店、カフェ	大型の商業施設	文化施設	福祉・医療施設	個性的な商品を扱う店舗	デブイスカウトショップ	高齢者向けの店舗	娯楽施設	各種スポーツ施設	環境の良い住宅施設	その他	無回答
全 体		814	45.6	39.9	35.7	22.0	21.9	21.1	19.9	17.7	16.2	5.8	4.3	5.4	8.8
性別	男 性	336	45.5	34.8	32.7	24.7	19.6	25.6	17.6	19.0	19.0	5.7	4.5	6.3	8.6
	女 性	470	46.0	43.6	37.9	20.0	23.2	18.1	21.5	16.6	14.5	5.7	4.0	4.9	8.7
年齢別	20 歳 未 満	12	58.3	33.3	25.0	25.0	8.3	8.3	25.0	8.3	33.3	8.3	-	-	16.7
	20 ～ 29 歳	61	57.4	47.5	49.2	16.4	13.1	16.4	27.9	4.9	34.4	13.1	8.2	4.9	4.9
	30 ～ 39 歳	156	50.0	38.5	47.4	17.9	14.7	23.1	24.4	6.4	20.5	7.1	3.8	7.1	5.8
	40 ～ 49 歳	151	43.0	35.1	46.4	20.5	19.9	21.9	23.8	7.9	15.2	3.3	2.0	7.3	6.0
	50 ～ 59 歳	151	51.0	49.0	27.8	25.8	27.2	25.2	19.9	13.9	13.2	7.3	7.3	6.0	9.3
	60 ～ 69 歳	149	36.9	40.9	27.5	26.8	24.2	21.5	14.8	26.2	14.1	5.4	3.4	3.4	12.1
	70 ～ 79 歳	105	39.0	36.2	21.9	22.9	29.5	17.1	11.4	41.9	7.6	1.0	3.8	3.8	12.4
	80 歳 以 上	24	45.8	20.8	29.2	12.5	25.0	12.5	12.5	50.0	12.5	4.2	-	4.2	8.3

(8) 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段 (B: 問 30)

問. 本厚木駅周辺で買物をするとき、自宅からの交通手段は何ですか。(1つだけ)

図 14-8-1 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段



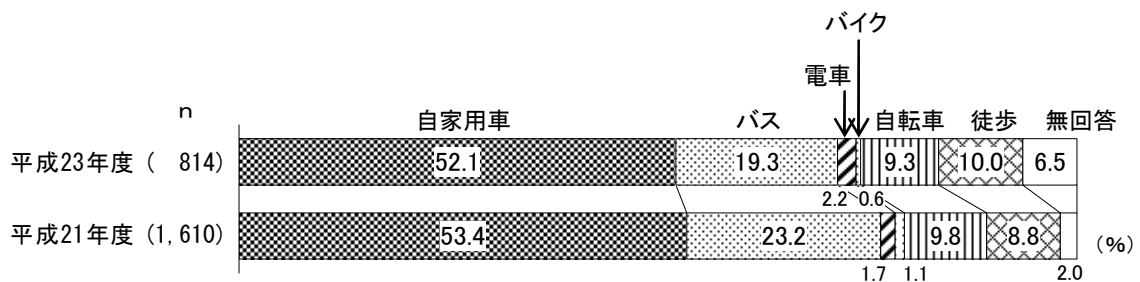
【全体】

本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段について聞いたところ、「自家用車」(52.1%)が5割を超え最も高くなっている。次いで、「バス」(19.3%)、「徒歩」(10.0%)、「自転車」(9.3%)、「電車」(2.2%)、「バイク」(0.6%)となっている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

図 14-8-2 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段—経年変化

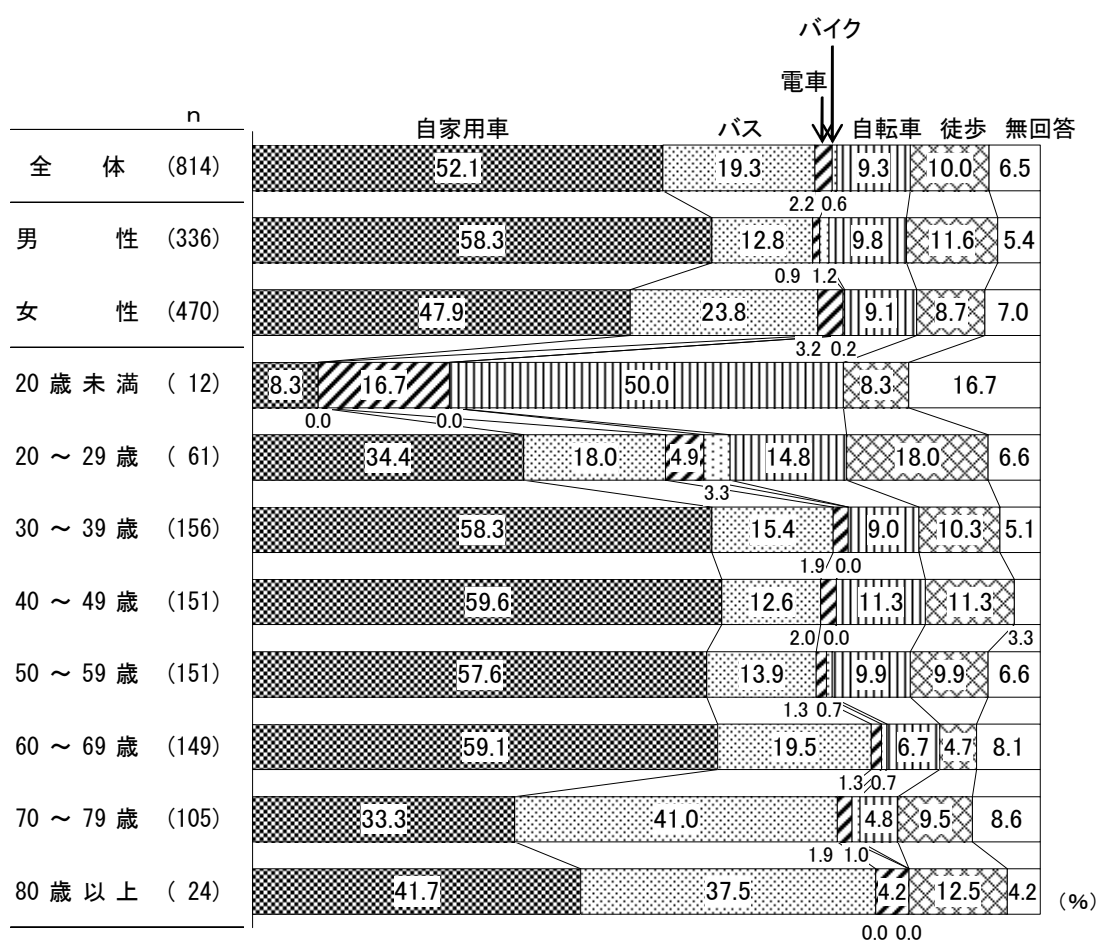


【属性別】

性別にみると、女性で「バス」(23.8%)が男性より11.0ポイント高くなっている。一方、男性で「自家用車」(58.3%)が女性より10.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30歳代～60歳代の年代で「自家用車」が5割以上と高くなっている。また、「バス」は70歳代(41.0%)がほぼ4割、80歳以上(37.5%)が4割近く、20歳未満で「自転車」(50.0%)が5割、20歳代で「徒歩」(18.0%)が2割近くで他の年代より高くなっている。

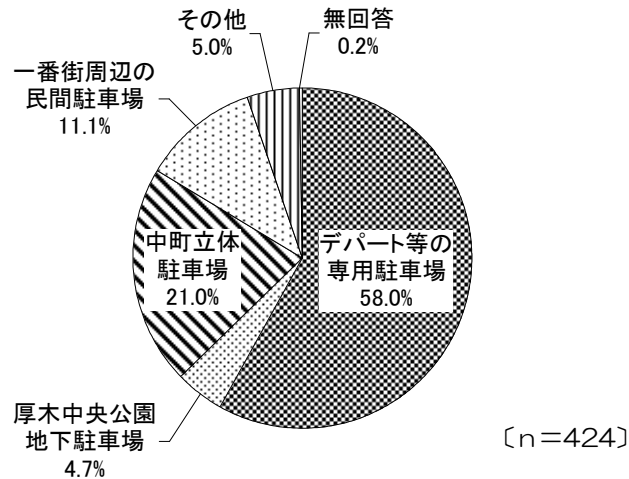
図 14-8-3 本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段—性別、年齢別



(9) 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場（B：問31）

問. 自家用車とお答えの方にお聞きします。主に利用される駐車場はどこですか。
（1つだけ）

図 14-9-1 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場



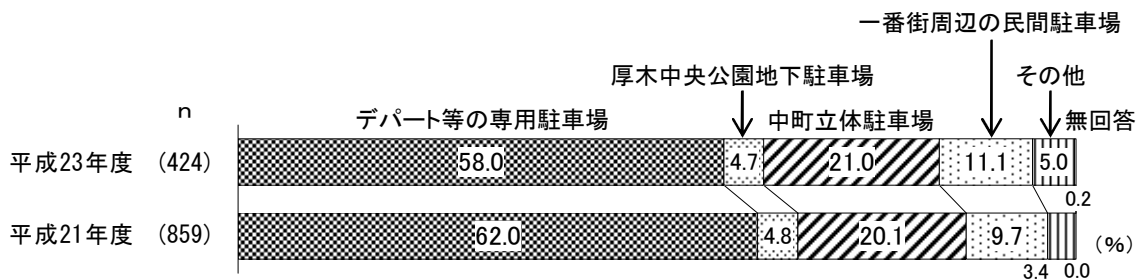
【全体】

本厚木駅周辺で買物をするときの交通手段で「自家用車」と答えた人（424人）に主に利用する駐車場について聞いたところ、「デパート等の専用駐車場」（58.0%）が6割近くで最も高くなっている。次いで、「中町立体駐車場」（21.0%）、「一番街周辺の民間駐車場」（11.1%）、「厚木中央公園地下駐車場」（4.7%）となっている。

【経年変化】

前回調査との比較をみると、「デパート等の専用駐車場」が4.0ポイント低くなっている。

図 14-9-2 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場—経年変化

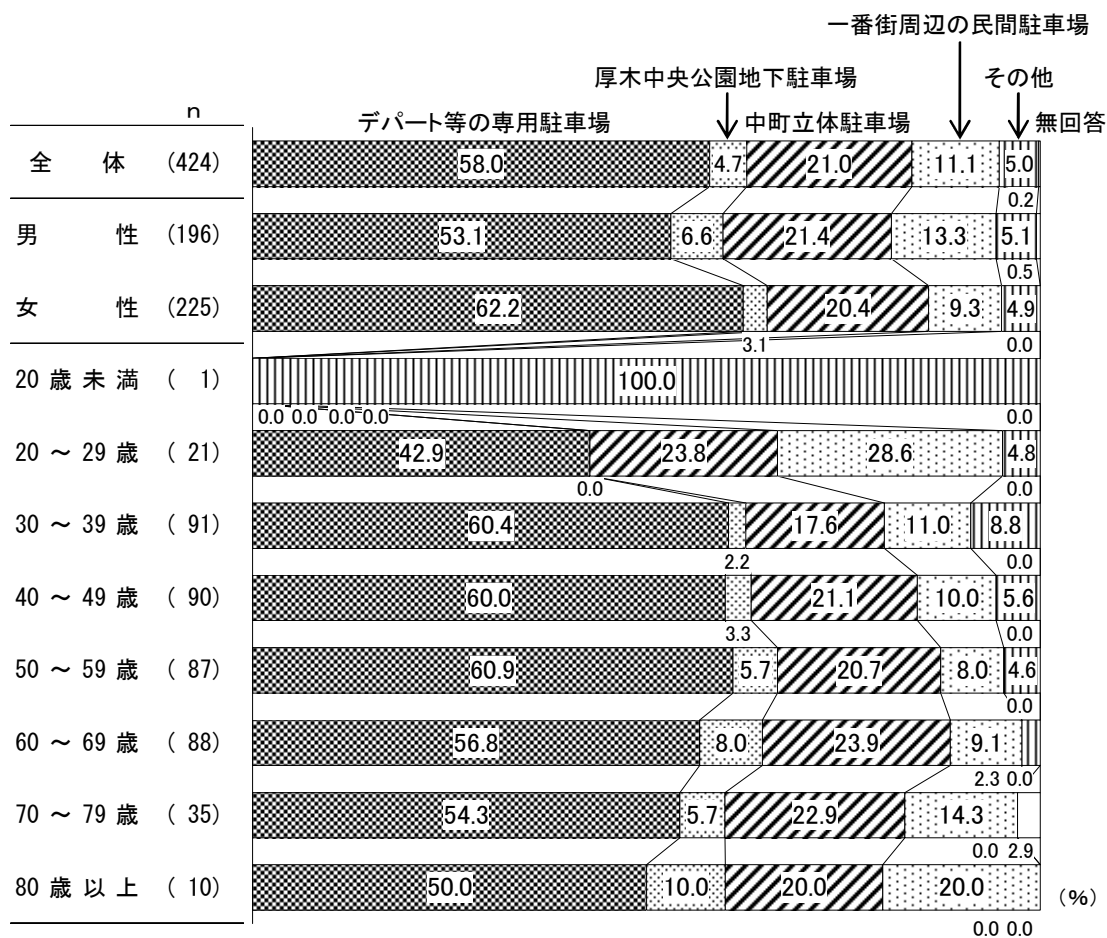


【属性別】

性別にみると、女性で「デパート等の専用駐車場」(62.2%)が男性より9.1ポイント高くなっている。一方、男性で「一番街周辺の民間駐車場」(13.3%)が女性より4.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、30代以上の年代で「デパート等の専用駐車場」が5割以上で高くなっている。

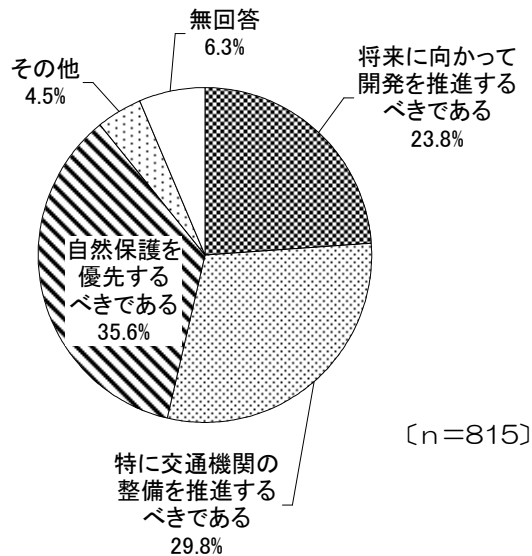
図 14-9-3 本厚木駅周辺で主に利用する駐車場—性別、年齢別



(10) 市の将来の土地利用 (A: 問 29)

問. 厚木市の将来的な土地利用についてどう思いますか。(1つだけ)

図 14-10-1 市の将来の土地利用



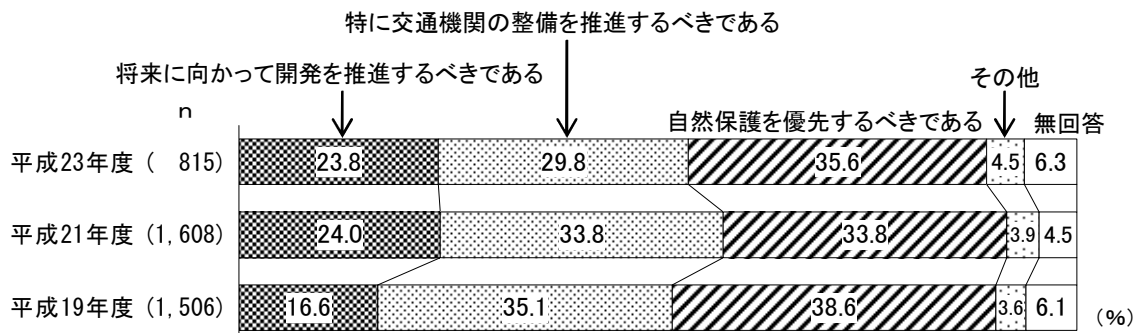
【全体】

厚木市の将来的な土地利用についてどう思うか聞いたところ、「自然保護を優先するべきである」(35.6%) が3割半ばで最も高く、「特に交通機関の整備を推進するべきである」(29.8%) が3割、「将来に向かって開発を推進するべきである」(23.8%) が2割を超えている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「特に交通機関の整備を推進するべきである」が前回調査より 4.0 ポイント低くなっている。

図 14-10-2 市の将来の土地利用—経年変化

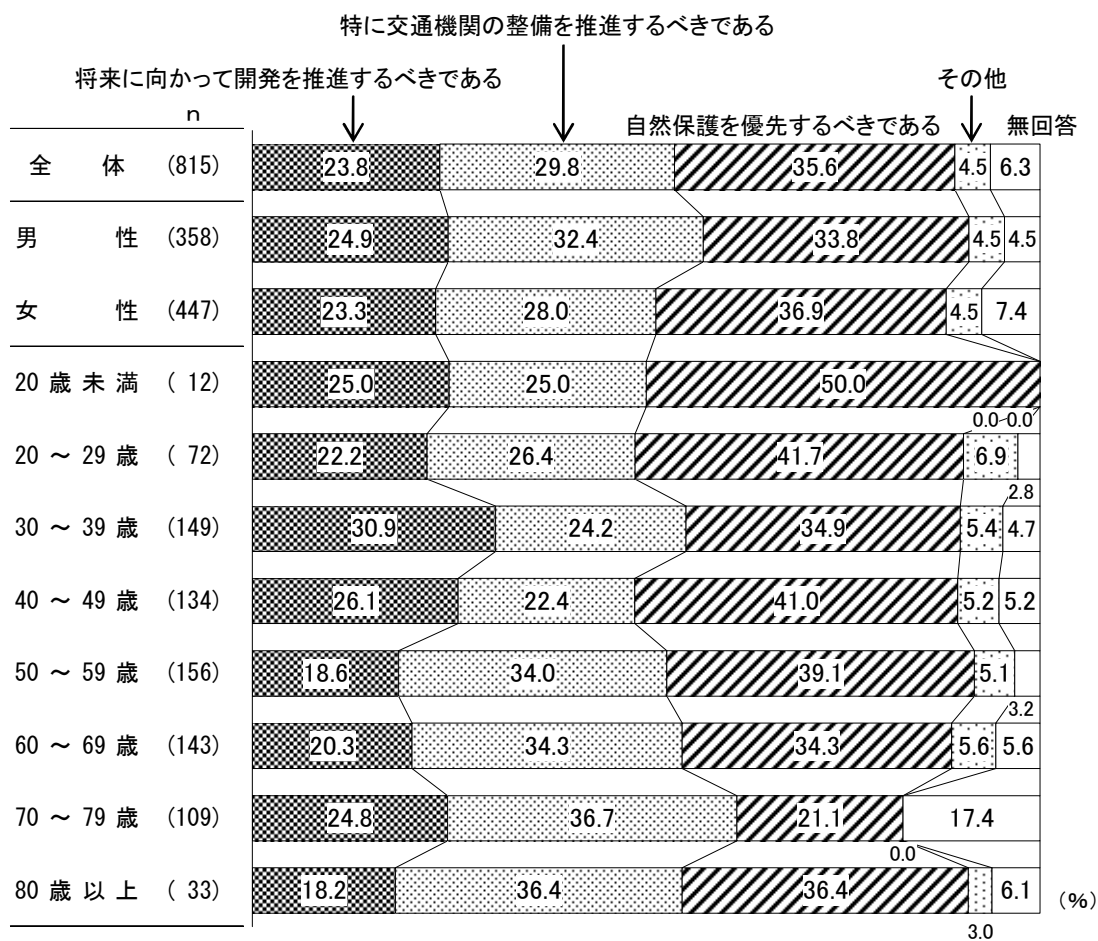


【属性別】

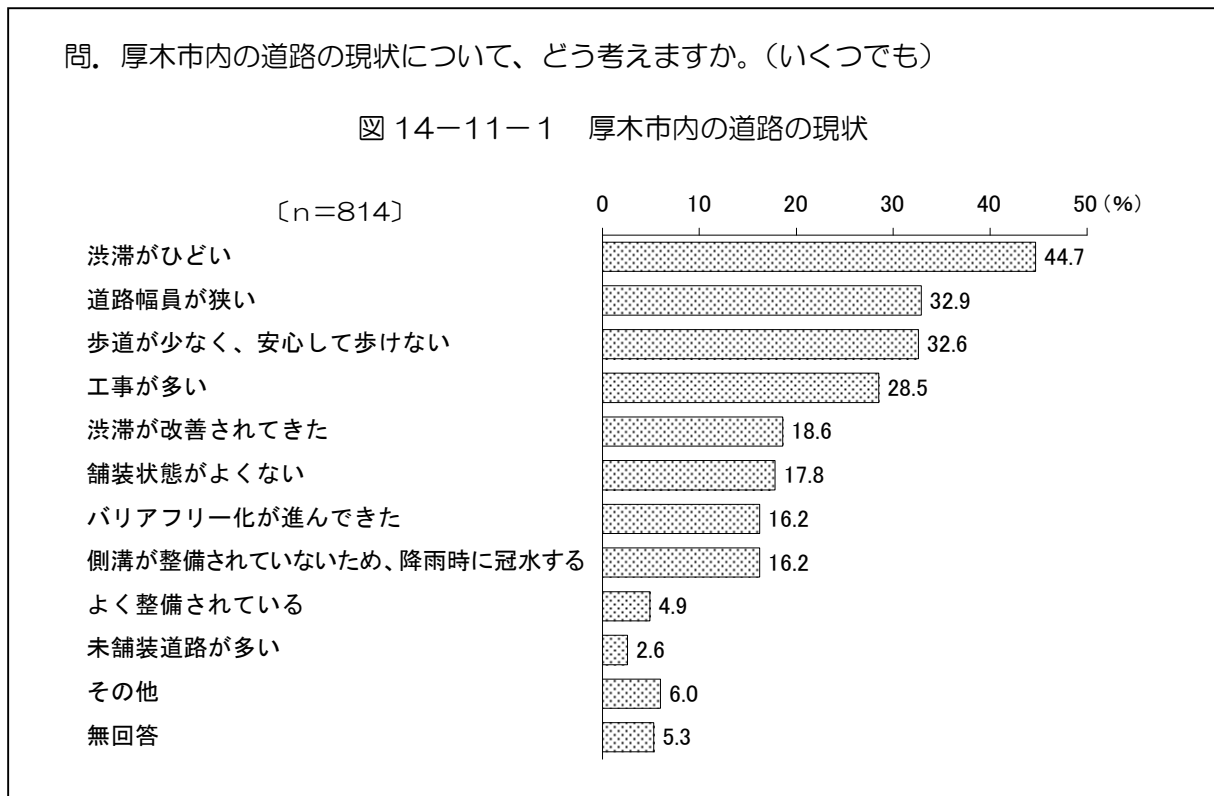
性別にみると、男性で「特に交通機関の整備を推進するべきである」(32.4%)が女性より4.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70歳代では「特に交通機関の整備を推進するべきである」が最も高く、50歳代以下では「自然保護を優先するべきである」が最も高く、60歳代・80歳以上では「特に交通機関の整備を推進するべきである」と「自然保護を優先するべきである」が同率となっている。

図 14-10-3 市の将来の土地利用—性別、年齢別



(11) 厚木市内の道路の現状 (B: 問 18)



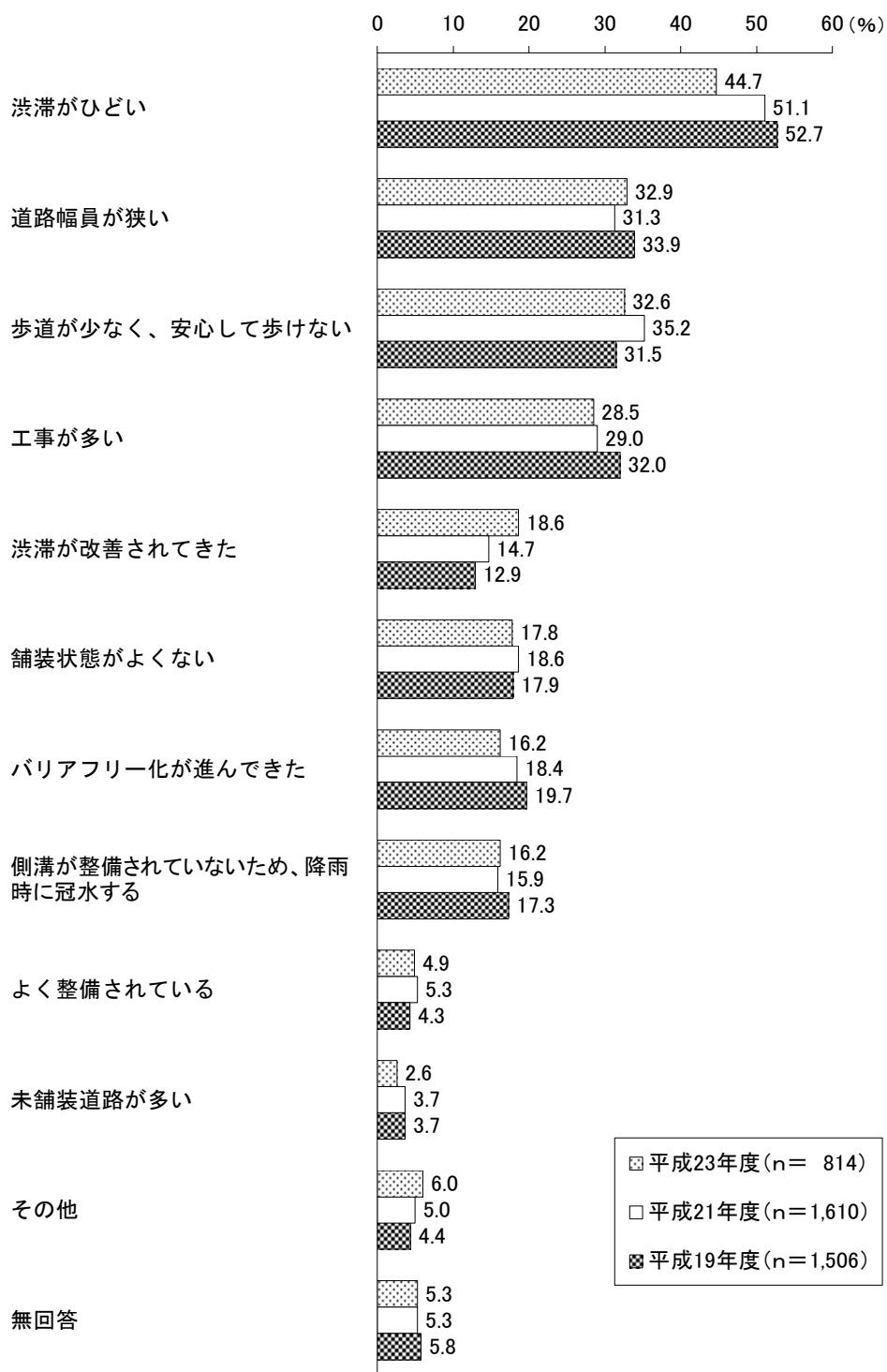
【全体】

厚木市内の道路の現状について聞いたところ、「渋滞がひどい」(44.7%)が4割半ばで最も高くなっている。次いで、「道路幅員が狭い」(32.9%)、「歩道が少なく、安心して歩けない」(32.6%)、「工事が多い」(28.5%)、「渋滞が改善された」(18.6%)、「舗装状態がよくない」(17.8%)となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「渋滞がひどい」が減少傾向にあり、前回調査より6.4ポイント低くなっている。

図 14-11-2 厚木市内の道路の現状—経年変化（複数回答）



【属性別】

性別にみると、男性で「道路幅員が狭い」(38.4%)が女性より9.3ポイント高く、「渋滞がひどい」(49.7%)が女性より8.6ポイント高く、「渋滞が改善されてきた」が女性より5.3ポイント高くなっている。一方、女性で「工事が多い」(30.9%)が男性より5.3ポイント高く、「歩道が少なく、安心して歩けない」(34.7%)が男性より5.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70歳代で「道路幅員が狭い」(42.9%)と「歩道が少なく、安心して歩けない」(41.0%)が4割を超え他の年代より高くなっている。また、50歳代で「工事が多い」(36.4%)が3割半ばで他の年代より高く、60歳代で「渋滞が改善されてきた」(25.5%)が2割半ばで他の年代より高くなっている。

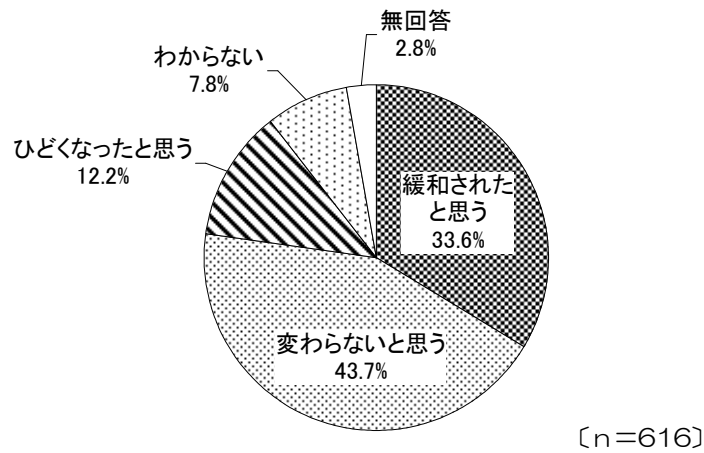
表 14-11-1 厚木市内の道路の現状－性別、年齢別（複数回答）

		n	渋滞 がひどい	道路 幅員が狭い	歩道 が少ない、 安心して	工事 が多い	渋滞 が改善 されてきた	舗装 状態が よくない	きた リアフ リー化 が進んで	ため、 降雨時 に冠水 しない	よく 整備 されて いる	未舗 装道 路が多 い	その他	無 回 答
全 体		814	44.7	32.9	32.6	28.5	18.6	17.8	16.2	16.2	4.9	2.6	6.0	5.3
性別	男 性	336	49.7	38.4	29.5	25.6	21.7	18.2	15.2	17.3	6.3	2.4	6.3	3.0
	女 性	470	41.1	29.1	34.7	30.9	16.4	17.4	16.6	15.5	4.0	2.8	6.0	7.0
年 齢 別	20歳未満	12	8.3	50.0	33.3	16.7	-	16.7	-	8.3	-	-	-	8.3
	20～29歳	61	45.9	29.5	21.3	34.4	4.9	21.3	14.8	16.4	3.3	6.6	14.8	4.9
	30～39歳	156	50.6	27.6	34.6	23.7	10.9	17.9	9.6	12.8	3.8	4.5	5.8	3.8
	40～49歳	151	43.0	32.5	35.8	23.2	18.5	20.5	16.6	15.2	6.6	1.3	7.3	4.0
	50～59歳	151	45.7	34.4	27.2	36.4	23.2	16.6	21.2	19.2	1.3	0.7	4.6	4.0
	60～69歳	149	40.3	32.9	29.5	30.9	25.5	16.8	20.8	19.5	6.0	3.4	6.0	8.7
	70～79歳	105	47.6	42.9	41.0	27.6	22.9	13.3	16.2	14.3	7.6	1.0	3.8	6.7
	80歳以上	24	41.7	20.8	45.8	25.0	25.0	20.8	8.3	16.7	12.5	4.2	-	4.2

(12) 交通渋滞の緩和状況 (B: 問 19)

問. 10年前と比べて厚木市内の交通渋滞は緩和されたと思いますか。(1つだけ)
(厚木市に転入されて10年未満の方は、問20へお進みください。)

図 14-12-1 交通渋滞の緩和状況



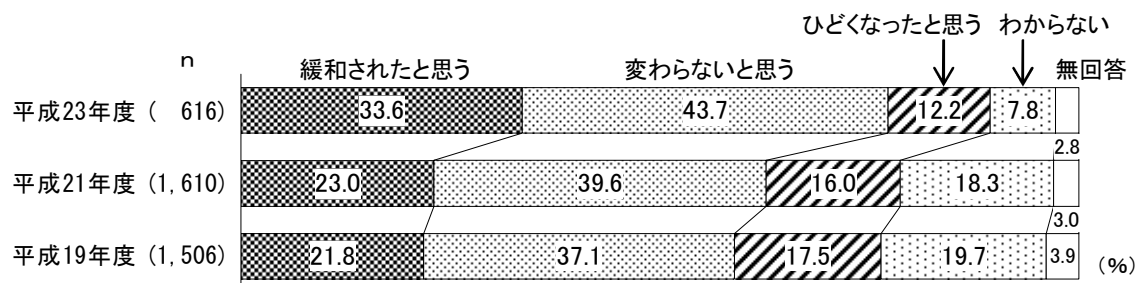
【全体】

厚木市に10年以上住んでいる人(616人)に、10年前と比べて厚木市内の交通渋滞は緩和されたと思うか聞いたところ、「変わらないと思う」(43.7%)が4割を超え最も高く、「緩和されたと思う」(33.6%)が3割を超え、「ひどくなったと思う」(12.2%)が1割を超えている。

【経年変化】

今回調査より厚木市に10年以上住んでいる人に聞いているため、参考に掲載する。

図 14-12-2 交通渋滞の緩和状況—経年変化

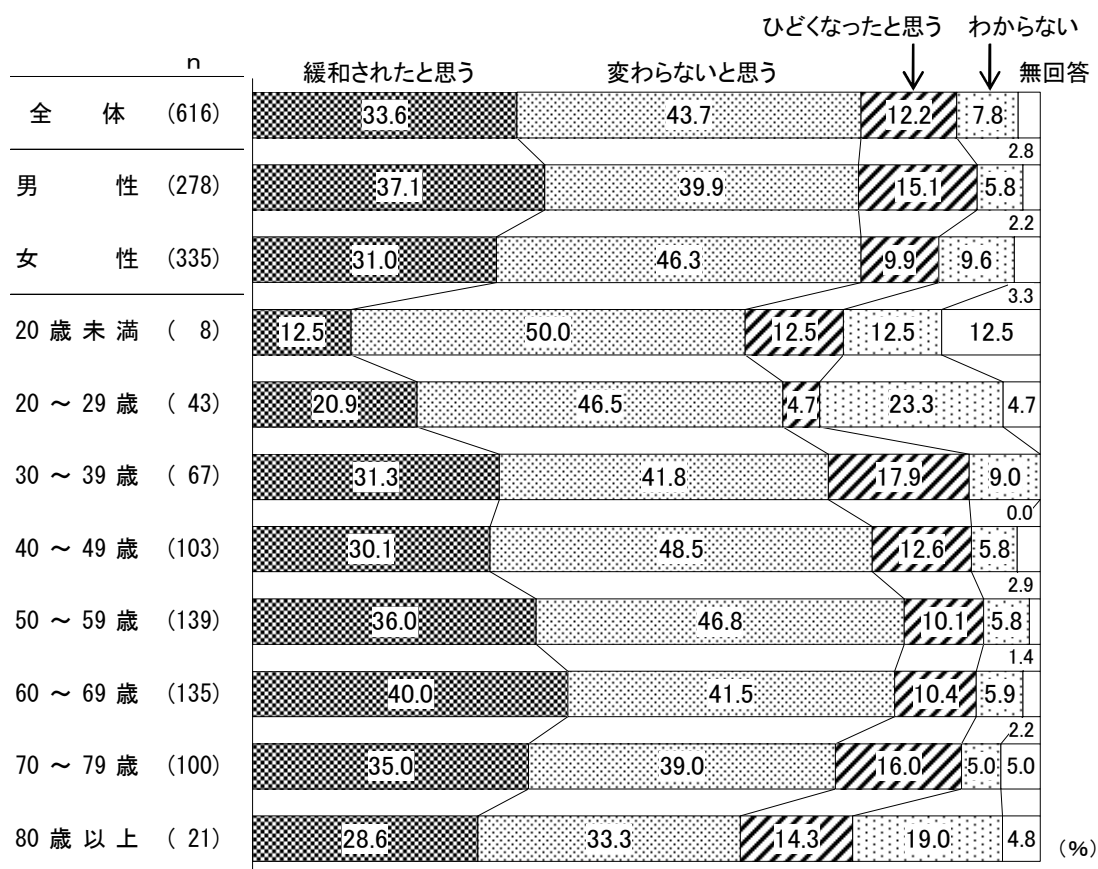


【属性別】

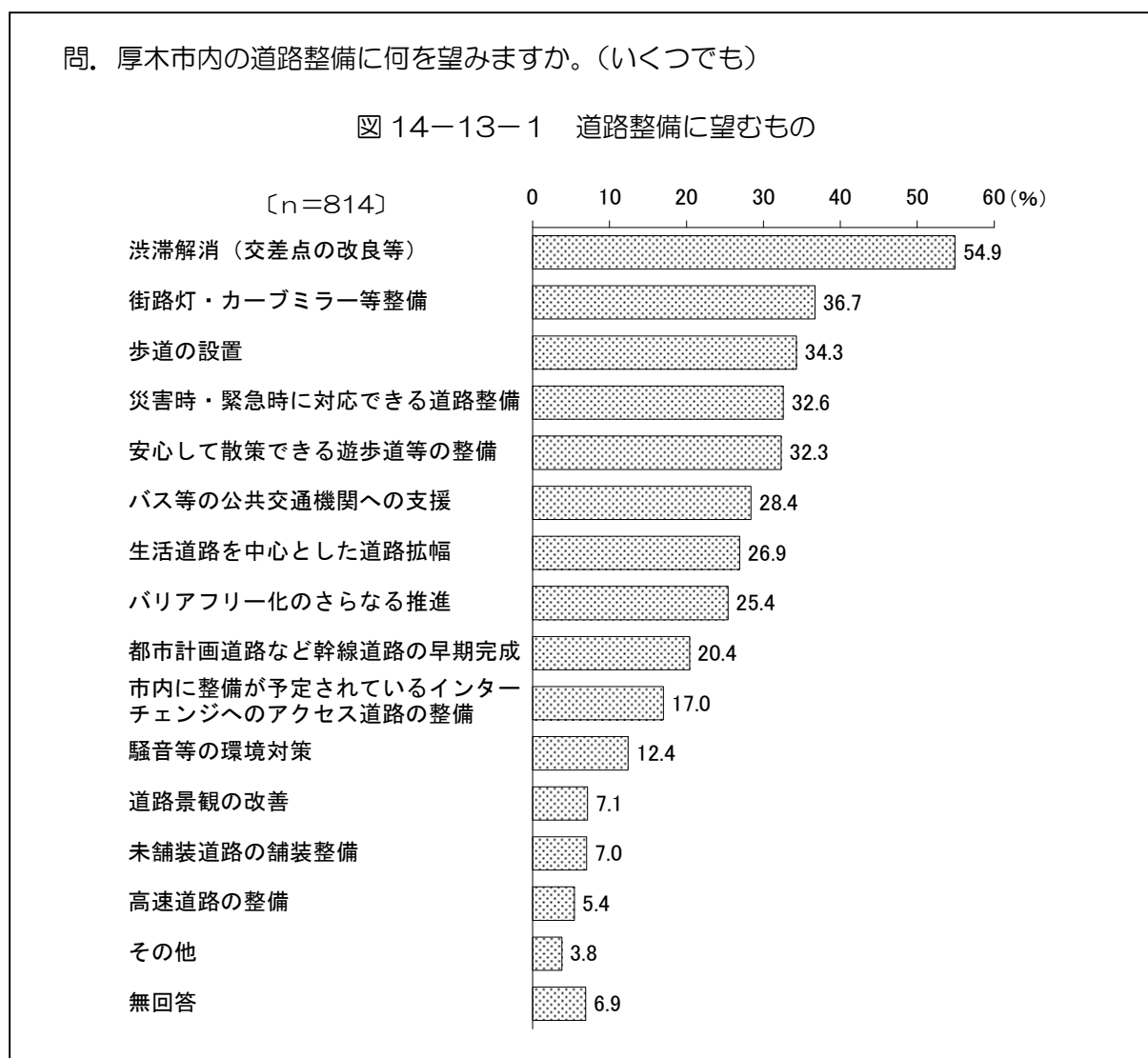
性別にみると、女性で「変わらないと思う」(46.3%)が男性より6.4ポイント高くなっている。一方、男性で「緩和されたと思う」(37.1%)が女性より6.1ポイント高く、「ひどくなったと思う」(15.1%)が女性より5.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、すべての年代で「変わらないと思う」が最も高くなっている。また、20歳代で「わからない」(23.3%)が2割を超え他の年代より高くなっている。

図 14-12-3 交通渋滞の緩和状況—性別、年齢別



(13) 道路整備に望むもの（B：問 20）



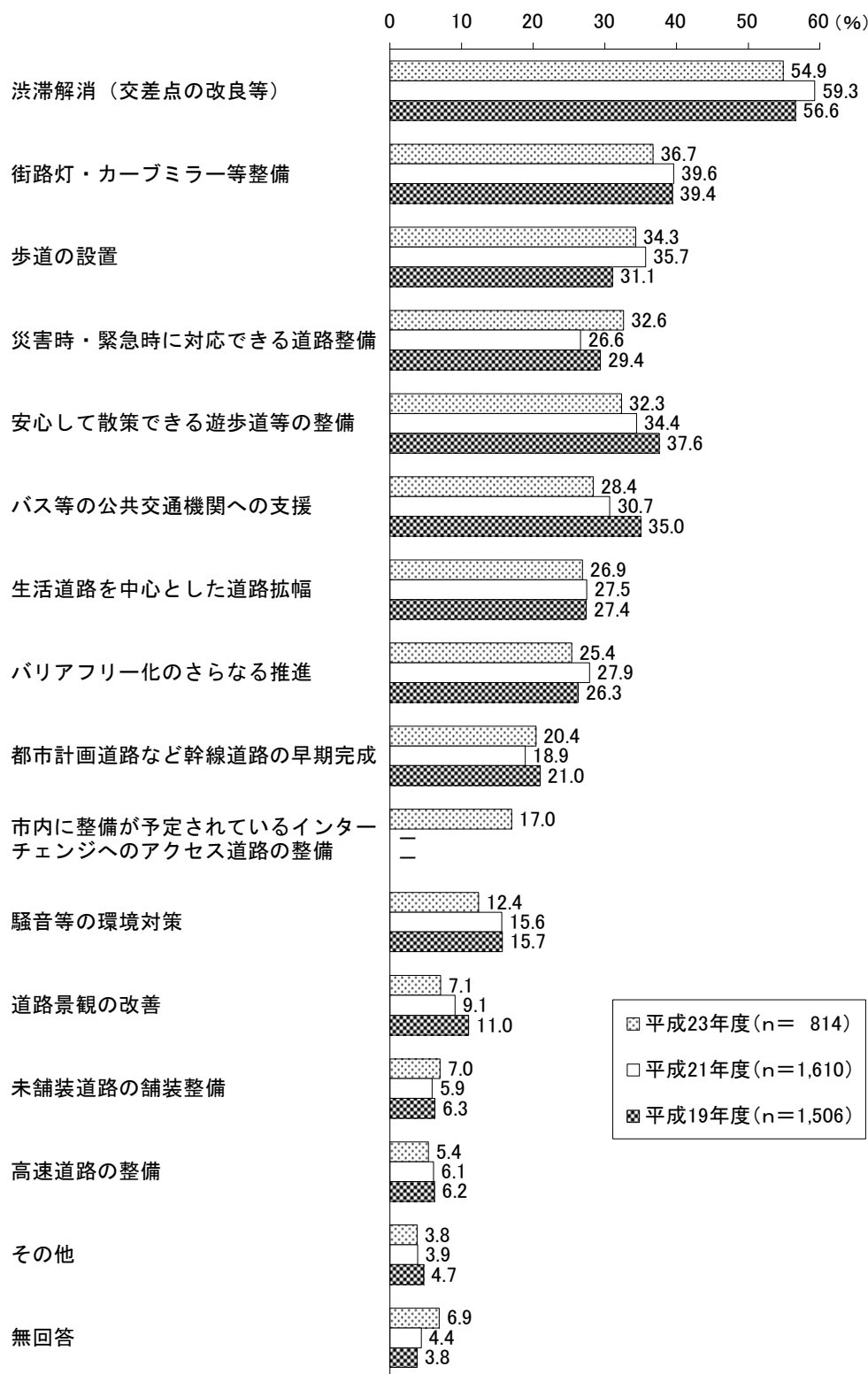
【全体】

厚木市内の道路整備に何を望むか聞いたところ、「渋滞解消（交差点の改良等）」（54.9%）が5割半ばで最も高くなっている。次いで、「街路灯・カーブミラー等整備」（36.7%）、「歩道の設置」（34.3%）、「災害時・緊急時に対応できる道路整備」（32.6%）、「安心して散策できる遊歩道等の整備」（32.3%）、「バス等の公共交通機関への支援」（28.4%）となっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、「災害時・緊急時に対応できる道路整備」が前回調査より6.0ポイント高くなっている。

図 14-13-2 道路整備に望むもの一経年変化（複数回答）



（注）平成 23 年度調査では、「市内に整備が予定されているインターチェンジへのアクセス道路の整備」が選択肢に追加、平成 19 年度調査では、「わからない」（2.2%）の選択肢が含まれる。

【属性別】

性別にみると、男性で「都市計画道路など完成道路の早期完成」(27.1%)が女性より11.6ポイント高く、「市内に整備が予定されているインターチェンジへのアクセス道路の整備」(22.9%)が女性より9.9ポイント高く、「高速道路の整備」(10.1%)が女性より8.0ポイント高くなっている。一方、女性で「街路灯・カーブミラー等整備」(41.3%)が男性より10.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20歳代・30歳代・40歳代で「渋滞解消(交差点の改良等)」(60.7%・64.1%・63.6%)が6割台で他の年代より高くなっている。また、30歳代で「街路灯・カーブミラー等整備」(46.2%)が4割半ば、40歳代で「歩道の設置」(44.4%)が4割半ばで他の年代より高くなっている。

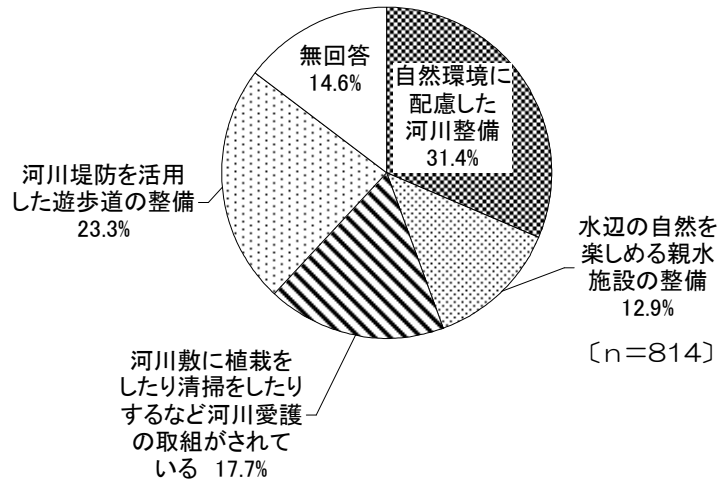
表 14-13-1 道路整備に望むもの—性別、年齢別(複数回答)

		n	渋滞解消(交差点の改良等)	街路灯・カーブミラー等整備	歩道の設置	災害時・緊急時に対応できる道路整備	安心して散策できる遊歩道等の整備	バス等の公共交通機関への支援	生活道路を中心とした道路拡幅	バリアフリー化のさらなる推進	都市計画道路など幹線道路の早期完成	市内に整備が予定されているインターチェンジへのアクセス道路の整備	騒音等の環境対策	道路景観の改善	未舗装道路の舗装整備	高速道路の整備	その他	無回答
全 体		814	54.9	36.7	34.3	32.6	32.3	28.4	26.9	25.4	20.4	17.0	12.4	7.1	7.0	5.4	3.8	6.9
性別	男 性	336	58.6	31.3	31.3	28.9	29.2	27.4	29.8	21.7	27.1	22.9	13.7	8.3	6.8	10.1	3.6	6.0
	女 性	470	52.1	41.3	36.4	35.3	34.7	29.1	24.7	27.9	15.5	13.0	11.7	6.4	7.2	2.1	3.8	7.7
年 齢 別	20歳未満	12	25.0	50.0	50.0	25.0	33.3	33.3	33.3	33.3	25.0	8.3	25.0	16.7	-	-	-	-
	20～29歳	61	60.7	37.7	27.9	31.1	31.1	26.2	27.9	24.6	23.0	16.4	16.4	14.8	16.4	6.6	3.3	1.6
	30～39歳	156	64.1	46.2	39.1	34.6	38.5	34.0	22.4	25.0	18.6	22.4	10.9	7.7	12.8	5.8	1.9	3.2
	40～49歳	151	63.6	39.1	44.4	38.4	27.8	27.8	33.8	25.2	18.5	13.2	19.2	4.6	4.0	5.3	4.0	4.6
	50～59歳	151	54.3	37.7	31.1	36.4	33.8	29.8	25.8	26.5	17.2	17.2	13.2	11.3	4.6	4.0	4.0	8.6
	60～69歳	149	46.3	32.9	27.5	29.5	30.9	26.8	26.2	25.5	24.8	17.4	10.1	3.4	5.4	6.0	3.4	8.7
	70～79歳	105	46.7	27.6	29.5	25.7	31.4	21.9	27.6	24.8	22.9	17.1	5.7	4.8	3.8	6.7	5.7	12.4
	80歳以上	24	33.3	16.7	33.3	16.7	29.2	25.0	16.7	20.8	12.5	8.3	4.2	4.2	8.3	4.2	8.3	16.7

(14) 河川環境の整備状況 (B: 問 22)

問. 河川環境の整備がされていると思うと感じることは何ですか。(1つだけ)

図 14-14-1 河川環境の整備状況



【全体】

河川環境の整備状況について聞いたところ、「自然環境に配慮した河川整備」(31.4%)が3割を超え最も高く、「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(23.3%)が2割を超え、「河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組がされている」(17.7%)が2割近く、「水辺の自然を楽しむ親水施設の整備」(12.9%)が1割を超えている。

【経年変化】

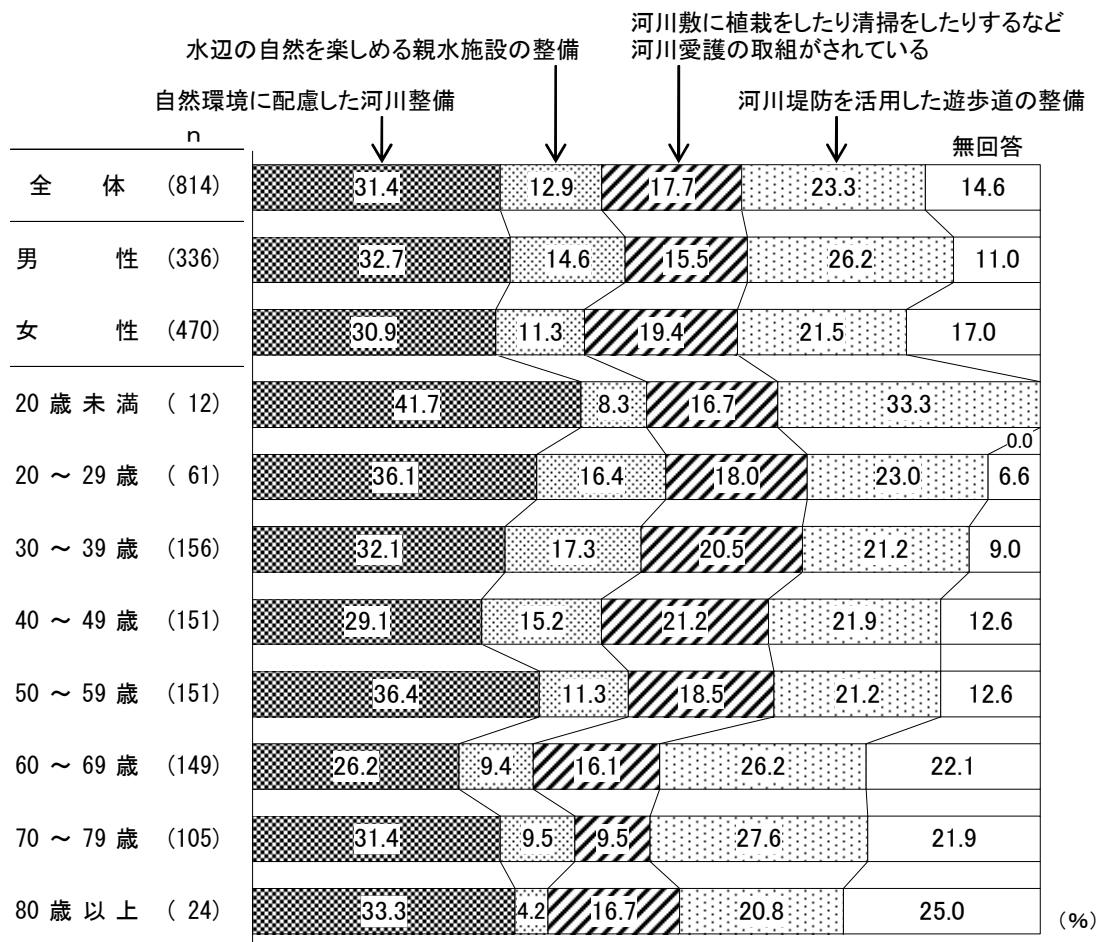
新規設問のため、経年変化はなし。

【属性別】

性別にみると、男性で「河川堤防を活用した遊歩道の整備」(26.2%)が女性より4.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、60歳代では「自然環境に配慮した河川整備」と「河川堤防を活用した遊歩道の整備」が同率で最も高く、それ以外の年代では「自然環境に配慮した河川整備」が最も高くなっている。

図 14-14-2 河川環境の整備状況—性別、年齢別

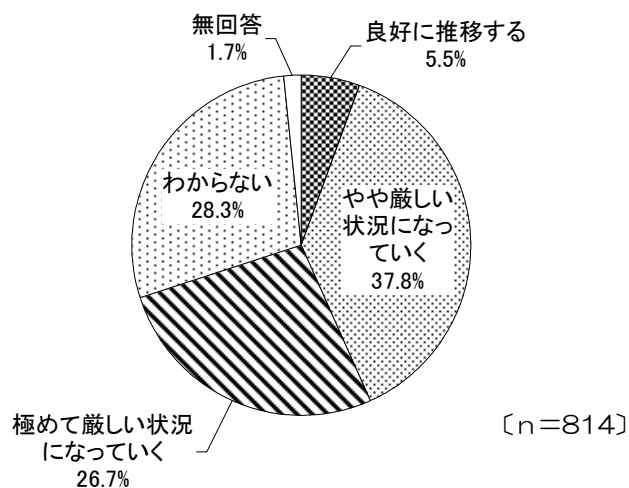


15 行政

(1) 市の財政状況（B：問 23）

問. 厚木市の今後の財政状況はどのように推移していくと思われませんか。（1つだけ）

図 15-1-1 市の財政状況



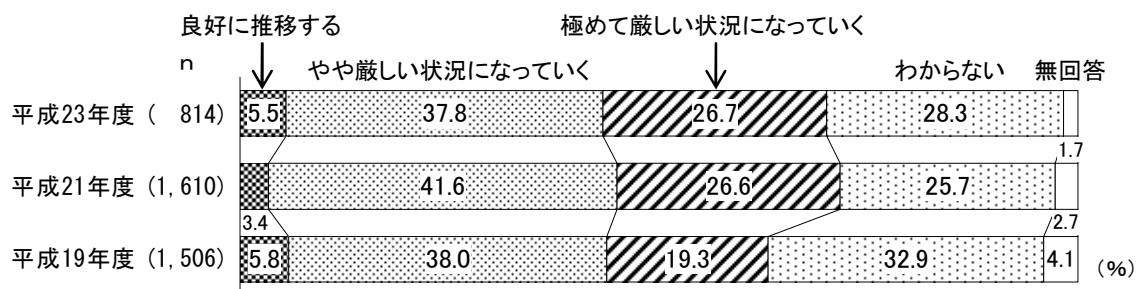
【全体】

厚木市の今後の財政状況はどのように推移していくと思うか聞いたところ、「やや厳しい状況になっていく」（37.8%）が4割近くで最も高くなっている。次いで、「極めて厳しい状況になっていく」（26.7%）が3割近く、「良好に推移する」（5.5%）が1割未満となっている。また、「わからない」（28.3%）が3割近くとなっている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

図 15-1-2 市の財政状況—経年変化

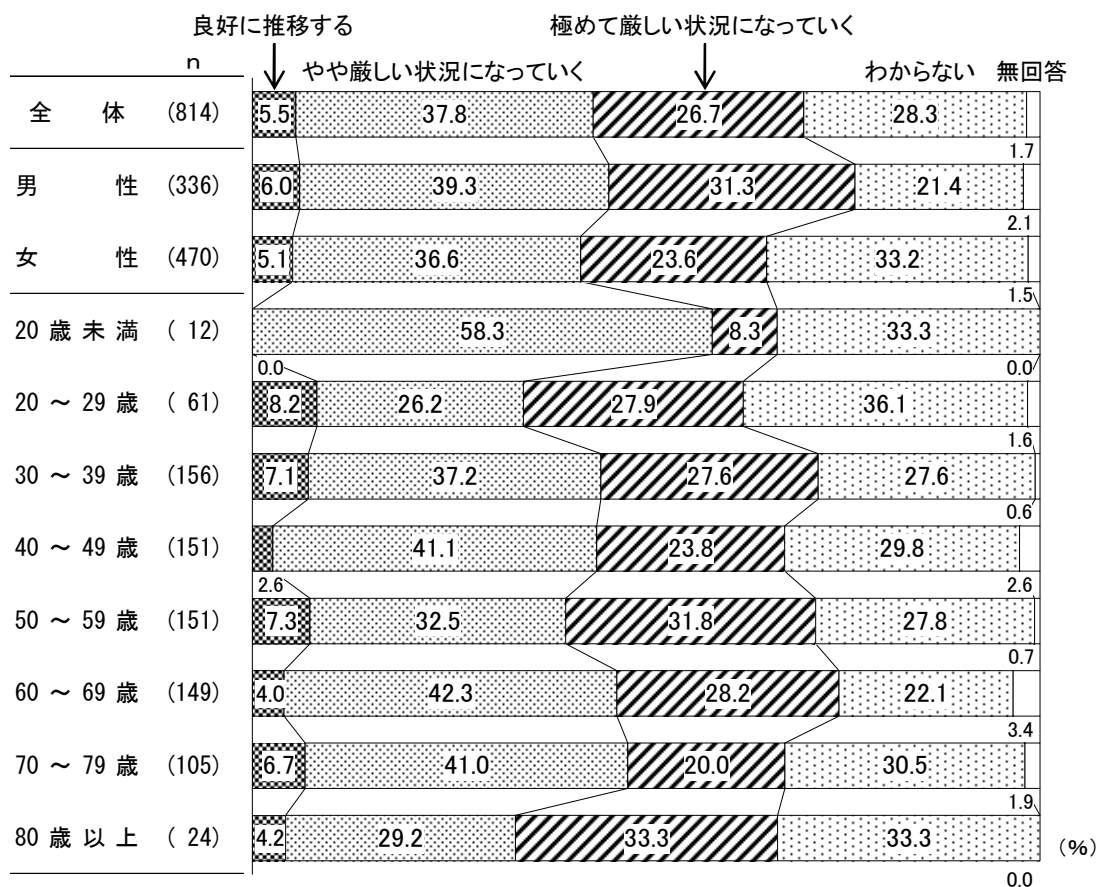


【属性別】

性別にみると、男性で「極めて厳しい状況になっていく」(31.3%)が女性より7.7ポイント高くなっている。一方、女性で「わからない」(33.2%)が男性より11.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、50歳代・80歳以上で「極めて厳しい状況になっていく」(31.8%・33.3%)が3割以上で他の年代より高くなっている。また、20歳代で「わからない」(36.1%)が3割半ばで他の年代より高くなっている。

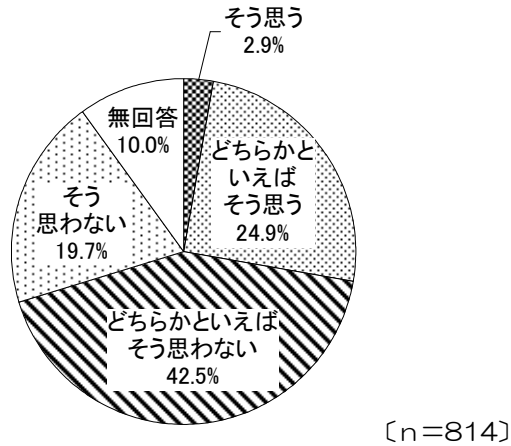
図 15-1-3 市の財政状況—性別、年齢別



(2) 市民の声を行政に反映させる仕組み（B：問 24）

問. 市民の声を政策や市の取組に反映させるための仕組みは十分だと思いますか。
（1つだけ）

図 15-2-1 市民の声を行政に反映させる仕組み



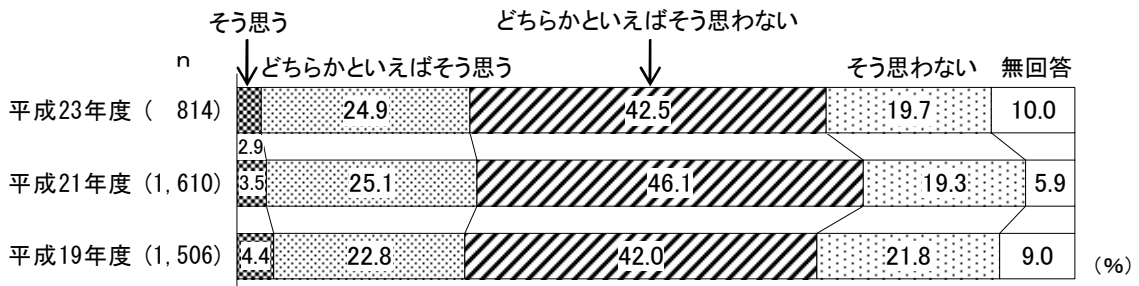
【全体】

市民の声を行政に反映させるための仕組みは十分だと思うか聞いたところ、「そう思う」（2.9%）、「どちらかといえばそう思う」（24.9%）を合わせた『そう思う』（27.8%）が3割近くとなっている。一方、「そう思わない」（19.7%）と「どちらかといえばそう思わない」（42.5%）を合わせた『そう思わない』（62.2%）が6割を超えている。

【経年変化】

経年による大きな差異はみられない。

図 15-2-2 市民の声を行政に反映させる仕組み—経年変化

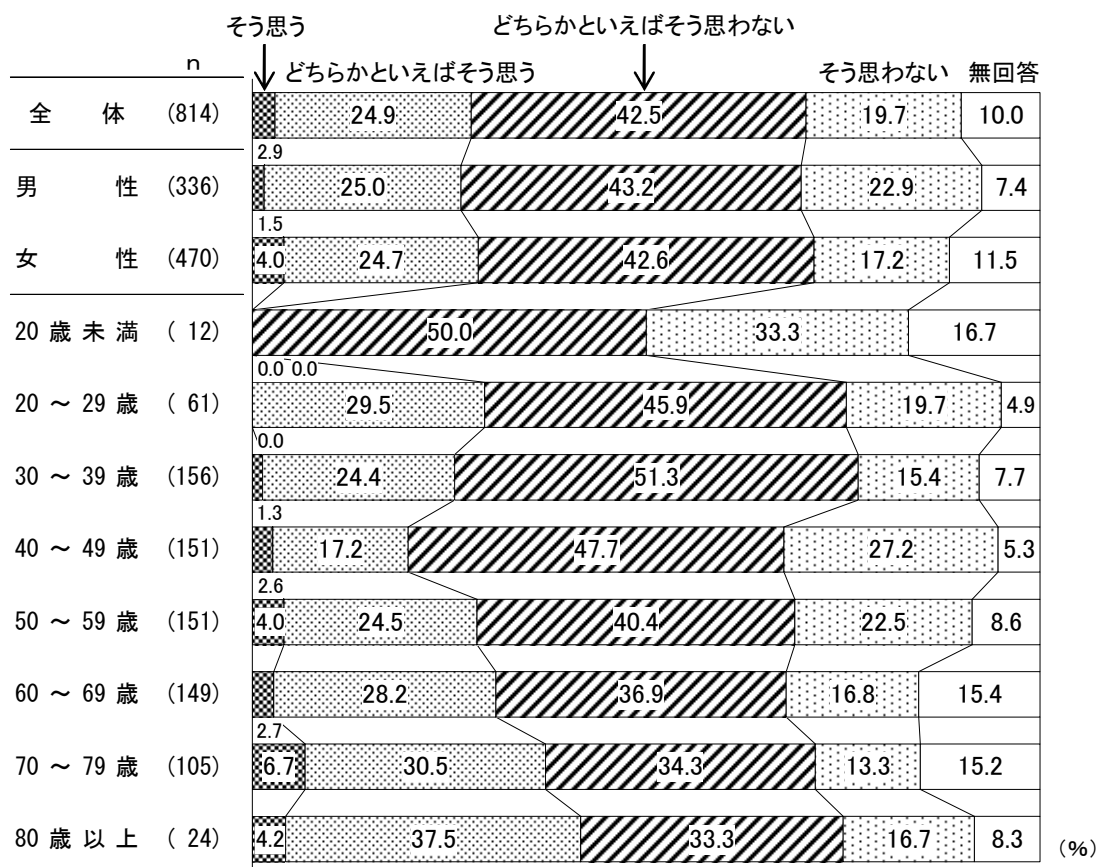


【属性別】

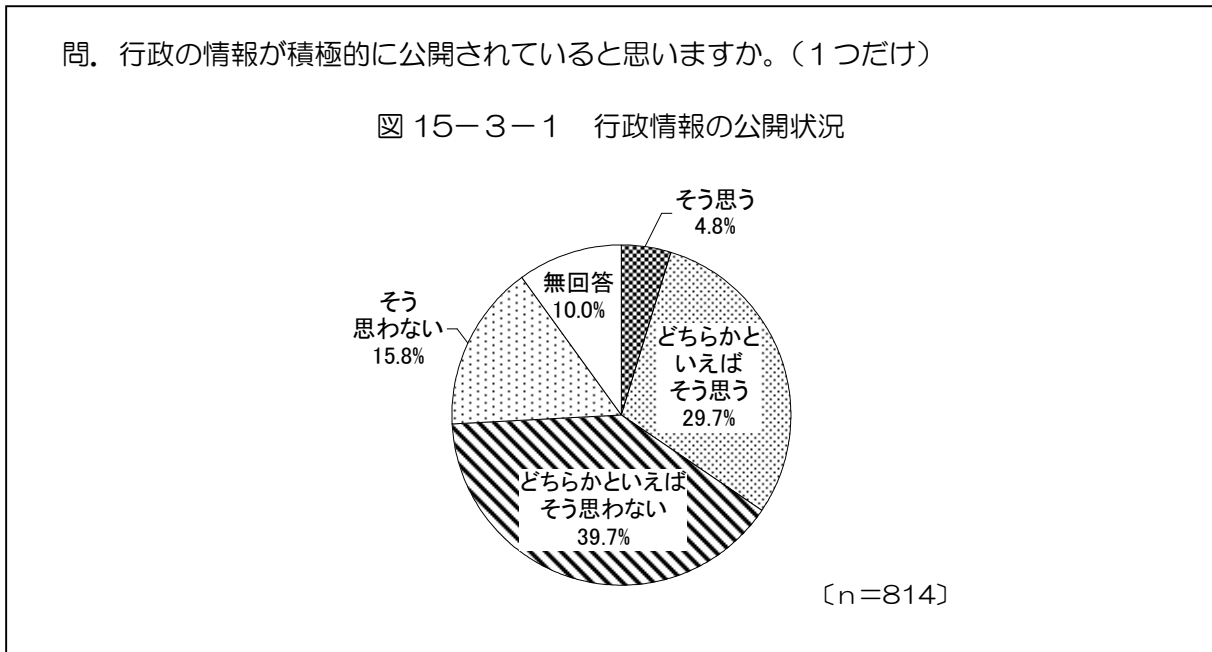
性別にみると、男性で『そう思わない』(66.1%)が女性より6.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『そう思う』は80歳以上(41.7%)が4割を超え、70歳代(37.2%)が4割近くで他の年代より高くなっている。一方、『そう思わない』は40歳代(74.9%)が7割半ばで他の年代より高くなっている。

図 15-2-3 市民の声を行政に反映させる仕組み—性別、年齢別



(3) 行政情報の公開状況 (B: 問 25)



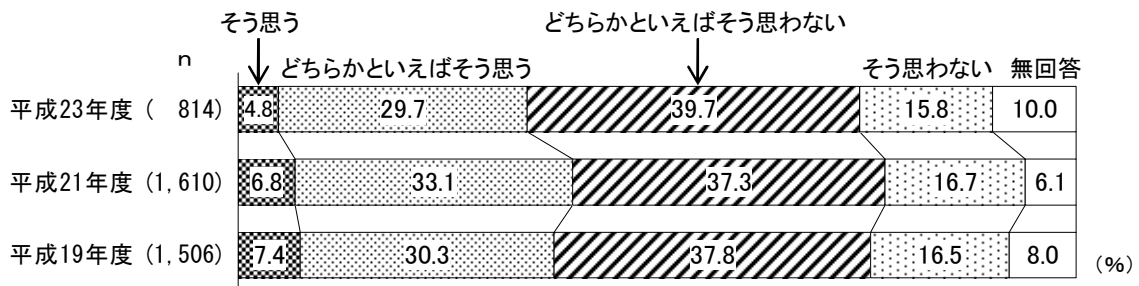
【全体】

行政の情報が積極的に公開されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.8%)、「どちらかといえばそう思う」(29.7%)を合わせた『そう思う』(34.5%)が3割半ばとなっている。一方、「そう思わない」(15.8%)と「どちらかといえばそう思わない」(39.7%)を合わせた『そう思わない』(55.5%)が5割半ばとなっている。

【経年変化】

前回調査、前々回調査との比較をみると、『そう思う』が5.4ポイント低くなっている。

図 15-3-2 行政情報の公開状況—経年変化

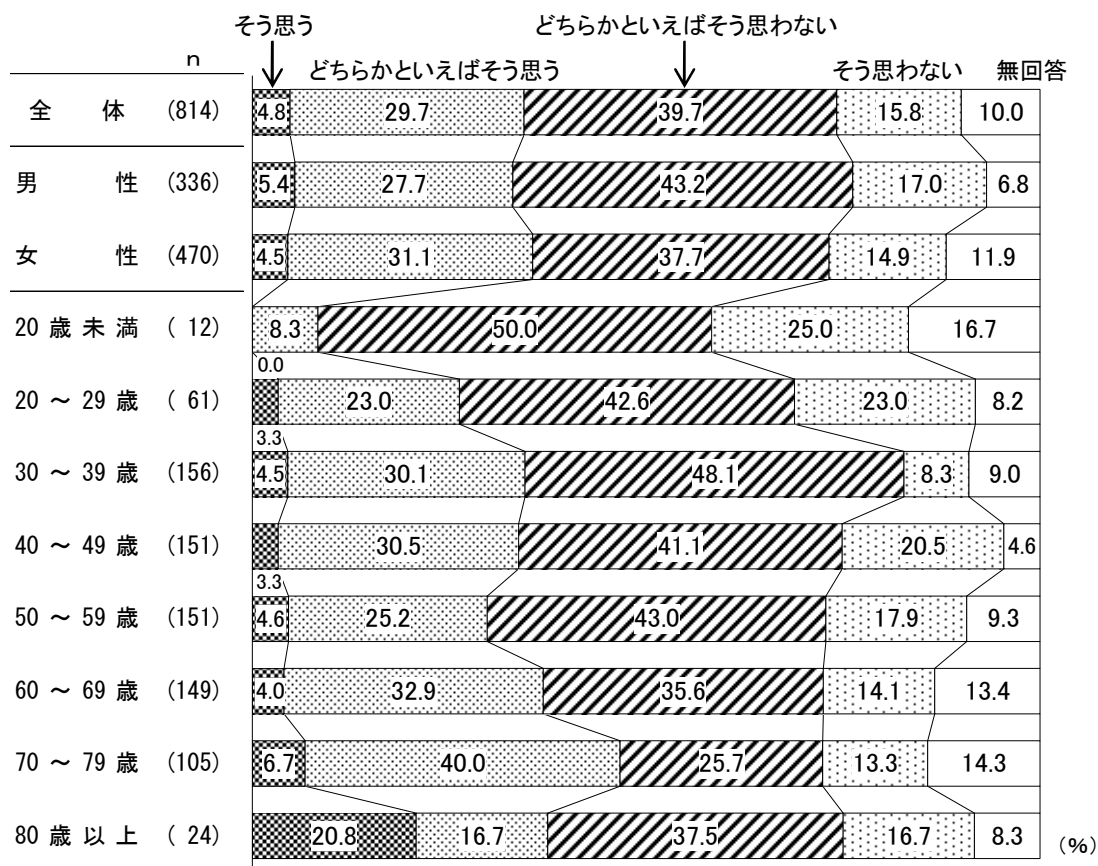


【属性別】

性別にみると、男性で『そう思わない』（60.2%）が女性より7.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、80歳以上で「そう思う」（20.8%）がほぼ2割で他の年代より高く、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』では70歳代（46.7%）が5割近くで他の年代より高くなっている。一方、『そう思わない』は20歳代（65.6%）で6割半ばで他の年代より高くなっている。

図 15-3-3 行政情報の公開状況—性別、年齢別



IV. 調査票と集計結果

厚木市民意識調査 郵送調査票A

【最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。】

■該当する数字を○印で囲んでください。

ア あなたの性別は？ (n=815)

1	男性	43.9	2	女性	54.8	無回答	1.2
---	----	------	---	----	------	-----	-----

イ 年齢はおいくつですか。(n=815)

1	20歳未満	1.5	3	30～39歳	18.3	5	50～59歳	19.1	7	70～79歳	13.4
2	20～29歳	8.8	4	40～49歳	16.4	6	60～69歳	17.5	8	80歳以上	4.0
										無回答	0.9

ウ 家族構成はどれに該当しますか。(n=815)

1	夫婦	25.5	3	親子（子との二世帯）	39.4	5	一人暮らし	6.7
2	親子（親との二世帯）	15.5	4	親子孫（三世帯）	8.6	6	その他	3.1
							無回答	1.2

エ お住まいはどのような形態ですか。(n=815)

1	持ち家（分譲マンション含む。）	78.9	5	社宅・寮	1.3	
2	民営借家	2.6	6	借間	0.4	
3	民営アパート（賃貸マンション含む。）	10.9	7	官公舎	-	
4	公営・UR都市機構・公社賃貸住宅	3.8	8	その他	1.0	
					無回答	1.1

オ どの地区にお住まいですか。(n=815)

1	厚木北（松枝、元町、東町、厚木町、寿町、吾妻町、水引、栄町、中町、田村町）	9.3	
2	厚木南（幸町、泉町、旭町、南町）	5.3	
3	依知北（上依知、猿ヶ島、山際、下川入）	7.7	
4	依知南（関口、中依知、下依知、金田）	5.8	
5	睦合北（三田、三田南、棚沢）	4.3	
6	睦合南（妻田）	7.9	
7	睦合西（林、及川、王子1丁目）	3.3	
8	荻野（上荻野、まつかげ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾）	12.8	
9	小鮎（飯山、上古沢、下古沢、宮の里）	7.0	
10	南毛利（戸室、恩名、温水、温水西、愛名、長谷、毛利台）	16.9	
11	南毛利南（船子、愛甲）	4.7	
12	玉川（小野、七沢、岡津古久）	2.6	
13	相川（岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼）	5.6	
14	緑ヶ丘（緑ヶ丘、王子2丁目、王子3丁目）	2.8	
15	森の里	3.1	
		無回答	1.0

カ 厚木市にどのくらいお住まいですか。(n=815)

1	20年以上（生まれてからずっと）	24.2	5	5～9年	10.6
2	20年以上（転入して以来）	38.3	6	3～4年	4.0
3	10～19年（生まれてからずっと）	2.2	7	2年以下	5.3
4	10～19年（転入して以来）	14.5		無回答	1.0

キ 日ごろ、鉄道を利用する際の最寄駅はどこですか。(n=815)

1	本厚木駅	79.8	3	海老名駅	6.3	5	その他	1.2
2	愛甲石田駅	9.9	4	厚木駅	1.6		無回答	1.2

ク 自宅からその駅まではどうやって行きますか。(n=815)

1	徒歩	20.1	3	自家用車	16.0	5	バイク	1.7	無回答	1.3
2	バス	53.0	4	自転車	6.7	6	その他	1.1		

ケ 職業は何ですか。(n=815)

1	農林水産業	1.5	6	会社・団体の役員	6.4	11	学生	2.1
2	商工自営業	2.9	7	販売職・サービス職・事務職	10.3	12	主婦・主夫	20.0
3	自由業	1.3	8	専門技術職	10.7	13	無職	16.3
4	教員	2.1	9	労務技能職	1.8	14	その他	4.5
5	公務員	3.6	10	パート（フリーター含む。）	15.2		無回答	1.2

コ 通勤（通学）先はどこですか。（1つのみ。：主婦・主夫、無職の方を除く）(n=509)

1	自宅	5.1	3	横浜・川崎市内	7.5	5	東京23区内	5.9	7	その他	5.3
2	厚木市内	46.8	4	その他の県内	23.6	6	その他の都内	2.4		無回答	3.5

【ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。】

問1 ふだんどこで買物をしますか。各品目について主な場所1つに○印を入れてください。(n=815)

品目	① 本厚 木駅 周辺	② 愛甲 石田 駅 周辺	③ その 他 厚木 市内	④ 伊勢 原駅 周辺	⑤ 海老 名駅 周辺	⑥ 平塚 駅 周辺	⑦ 横浜 市内	⑧ 町田 市内	⑨ 東京 23区 内	⑩ イン ター ネット ショッピング	⑪ その 他	無回 答
ア 食料品	30.3	3.1	56.8	0.7	1.0	-	0.4	0.1	-	0.5	4.4	2.7
イ 日用 衣料品	38.2	0.7	36.4	1.1	5.2	0.1	1.8	3.3	1.7	2.1	4.9	4.4
ウ 高級衣料品 装飾品	20.0	-	8.6	-	6.1	0.1	15.5	10.2	13.5	4.2	10.6	11.3
エ 書籍	46.3	3.2	30.8	0.5	0.5	0.1	1.1	0.5	1.1	4.7	3.2	8.1

問2 産業の活性化について、どう考えますか。(2つまで選んでください)(n=815)

1 積極的に産業振興を進める	39.1	4 企業誘致や新産業創造に務める	30.7
2 将来のまちづくりの財源確保に必要	38.7	5 その他	5.0
3 雇用の場の確保につなげる	54.1	無回答	5.2

問3 厚木市の観光地の活性化には、どのような取組みが必要だと思えますか。

(2つまで選んでください)(n=815)

1 テレビ・インターネットを利用した厚木の観光地の紹介	43.1
2 B-1グランプリなど全国的に知名度があるイベントの開催	42.7
3 ハイキングコースや自然公園・花の名所づくりなど自然をいかした観光資源の整備	54.0
4 飯山温泉郷や東丹沢七沢温泉郷などの観光資源の整備	33.9
無回答	3.4

問4 都市農業や林業の振興にはどのような取組みが必要だと思えますか。

(2つまで選んでください)(n=815)

1 農業・林業の担い手、新規就農者の育成	60.4
2 農業・林業体験の開催	15.6
3 農業者への施設・技術支援	18.7
4 地場農畜産物を身近で購入できる直売所、朝市・夕焼け市の充実	44.7
5 農林業従事者への経営安定支援	33.0
無回答	5.4

問5 介護保険制度の介護保険料の額は、利用した介護サービスの量によって決まる仕組みと
なっています。介護保険料額と介護サービス量のバランスについて、どう考えますか。
(対象年齢でない方は、対象者になることを想定して回答してください。)(n=815)

1 介護保険料額が多少高くても、介護サービス量が充実している方がよい	14.6
2 介護保険料額も介護サービス量も、バランスが良い方がよい	69.6
3 介護サービス量が充実しなくても、介護保険料額は低い方がよい	6.9
4 その他	1.7
5 分からない	5.9
無回答	1.3

問6 あなた自身が高齢になった場合、望む居住形態はどちらですか。
(現在65歳以上の方はどのような居住形態を望んでいますか。)
(1つだけ選んでください)(n=815)

1 従来型住宅での子どもの世帯との同居	13.3	4 高齢者専用共同住宅への入居	16.2
2 子どもの世帯との二世帯住宅	22.7	5 その他(例えば有料老人ホームへの入所)	6.9
3 子どもの世帯とは別居	36.4	無回答	4.5

問7 かぜなどにかかった時、通院する病院は決まっていますか。(1つだけ選んでください)(n=815)

1 かかりつけの医院や診療所	61.6	4 その他	0.9
2 総合病院などの大きな病院	9.7	無回答	1.6
3 特に決まっていない	26.3		

問8 かかりつけ医(主に医院や診療所など)は日ごろから医療や健康相談等を受け持ち、
病院は入院の必要な患者を受け持つという役割分担があることを知っていますか。(n=815)

1 知っている	52.6	2 知らない	45.8	無回答	1.6
---------	------	--------	------	-----	-----

問9 市立病院に対するあなたがお持ちのイメージについて、近いものを選んでください。
(1つだけ選んでください)(n=815)

1 高度・専門的医療を受けるために受診する病院	16.8
2 診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院	47.4
3 身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院	25.5
4 その他	8.7
無回答	1.6

問10 あなたは、なんらかのがん検診を受診していますか。
(主なものを1つだけ選んでください)(n=815)

1 厚木市のがん検診を受診している	26.6
2 人間ドックを受診している	11.7
3 学校や職場の健康診査を受診している	21.5
4 受診していない	38.4
無回答	1.8

問11 自殺で亡くなる方は全国で年間3万人を超え、厚木市でも少なくありません。このことに対して、どのような対策が重要だと思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=815)

1	相談事業を積極的に展開する	30.4
2	広報やキャンペーン事業等で啓発を進める	7.2
3	早期対策の役割を果たす人材を育成する	12.4
4	自殺対策を行っている関係機関等との連携を強化する	15.1
5	うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める	21.2
6	自殺は個人の問題なので、特に有効な対策がない	10.1
	無回答	3.6

問12 国際化に対応するために、どのような取組が必要だと思いますか。

(2つまで選んでください) (n=815)

1	文化・スポーツ等の交流の推進	38.5	8	外国の大学・企業等の誘致	11.4
2	青少年海外研修の推進	16.3	9	国際交流施設の整備	9.9
3	市内在住外国人との交流促進	25.8	10	外国人との共生意識の推進	11.9
4	新たな友好都市の締結	4.7	11	市内企業の国際活動の支援	7.4
5	国際友好都市との交流	12.6	12	地域からの国際協力	6.6
6	市のパンフレット、道路標識等の外国語表示の整備	11.4	13	その他	4.3
7	国際理解を推進する講座等の開催	9.1		無回答	5.2

問13 自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。ある場合、それはどのような人権侵害ですか。(ある場合はいくつでもお選びください。)(n=815)

1	ない	62.7
2	ある：性別を理由にした差別や偏見	3.2
3	ある：高齢者であることを理由にした差別や偏見	3.1
4	ある：障がい者であることを理由にした差別や偏見	2.5
5	ある：外国人であることを理由にした差別や偏見	1.5
6	ある：職場での不当な待遇や上司の言動	10.3
7	ある：思想・信条を理由にした差別や偏見	1.5
8	ある：地位や職業を理由にした差別や偏見	4.3
9	ある：学歴を理由にした差別や偏見	3.4
10	ある：あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口	12.9
11	ある：名誉・信用のき損、侮辱	4.2
12	ある：プライバシーの侵害	7.0
13	ある：その他	2.6
	無回答	5.5

問14 問13で「ある」とお答えの方にお聞きします。人権侵害を受けた時、どのように対応されましたか。(ある場合はいくつでもお選びください。)(n=259)

1	黙って我慢した	64.9	7	法務局または人権擁護委員に相談した	0.4
2	相手に抗議した	21.6	8	市役所や関係機関に相談した	4.2
3	身近な人に相談した	36.3	9	警察に相談した	1.5
4	民生委員・児童委員に相談した	0.4	10	その他	6.6
5	自治会長に相談した	1.5		無回答	4.2
6	弁護士に相談した	3.1			

問15 人権や差別に対して関心がありますか。ある場合、どのような問題に関心がありますか。(ある場合はいくつでもお選びください) (n=815)

1 子どもに対する問題	31.7	9 刑を終えて出所した人に対する問題	10.7
2 女性に対する問題	16.9	10 犯罪被害者やその家族に対する問題	14.2
3 高齢者に対する問題	23.8	11 インターネットを悪用した問題	25.3
4 障がい者に対する問題	31.4	12 北朝鮮当局による人権侵害問題	14.8
5 同和関係者に対する問題	5.3	13 その他	4.9
6 外国人に対する問題	11.5	14 関心がない	8.8
7 ホームレスに対する問題	12.4	無回答	11.3
8 HIV (エイズウイルス) 感染者や HIV患者などに対する問題	11.3		

問16 安心して子どもを産み育てられる環境を整える施策について、何が必要であると思いますか。(5つまでお選びください) (n=815)

1 延長保育、休日保育など、保育サービスの充実	67.4
2 親のリフレッシュの場や機会の提供	21.8
3 健康相談などを通じた母親や乳幼児の健康の確保	26.4
4 小児医療(子ども医療費の助成等)の充実	49.0
5 父親の育児参加に関する意識啓発	23.1
6 事業主等への仕事と育児の両立支援に関する意識啓発	40.0
7 子育て相談体制の充実	21.6
8 子育てサークル、自主グループ、NPO等の育成	9.1
9 サロン(児童館等における子育て支援活動)の充実	8.0
10 ファミリー・サポート・センター(会員相互による育児の援助活動)の充実	8.7
11 放課後児童クラブ(留守家庭児童クラブ)の充実	32.9
12 子育て支援センター「もみじの手」の充実	9.3
13 幼稚園の預かり保育(教育時間外・長期休業保育)の充実	42.2
14 その他	5.8
無回答	6.0

問17 ごみの減量化・資源化システムを推進する上で、あなたが特に重要と思われることは何ですか。(2つまで選んでください) (n=815)

1	家庭における資源とごみの分別の徹底	54.1
2	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	24.0
3	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	18.9
4	小・中学校への環境学習の充実	13.5
5	環境問題(ごみ減量化・資源化)を学習できる場の提供や施設見学会の実施	10.6
6	行政による住民説明会の開催	3.2
7	買い物袋の持参	16.2
8	販売店の過剰包装の削減	31.8
9	生ごみ処理機等の購入	10.2
	無回答	2.8

問18 資源とごみの分別方法を理解し、積極的に分別していますか。(1つだけ選んでください) (n=815)

1	理解して分別している	60.2	5	分別方法が分からない	0.1
2	おおむね理解して分別している	36.2	6	その他	-
3	あまり分別していない	1.3		無回答	1.6
4	全く分別していない	0.5			

問19 地球温暖化防止には、どのような取組が特に必要だと思いますか。(2つまで選んでください) (n=815)

1	各家庭や企業における省エネルギーの推進	78.4
2	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化	46.9
3	行政による地球温暖化防止のPR活動	16.7
4	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実	13.7
5	その他	7.4
	無回答	2.8

問20 行政が行う環境問題に関する啓発事業として、どのようなものに参加してみたいですか。(1つだけ選んでください) (n=815)

1	公共施設での講座の開催	14.5
2	地域に出向いて行う講座の開催	15.3
3	環境施設の見学会の開催	31.3
4	イベント(講演会や展示会など)	22.7
5	その他	9.8
	無回答	6.4

問21 現在、厚木市では住宅用太陽光発電や電気自動車の購入に支援をしていますが、他にも実施してほしい新エネルギー施策はありますか。(1つだけ選んでください) (n=815)

1	家庭用風力発電設備設置への補助	28.0
2	低公害車(天然ガス自動車、燃料電池自動車)導入への補助	40.4
3	イベントの開催(講演会や展示会など)	12.1
4	その他	12.0
	無回答	7.5

問22 本厚木駅周辺の治安について、どう思いますか。(1つだけ選んでください) (n=815)

1 大変良くなったと思う	2.5	4 悪くなったと思う	18.2
2 良くなったと思う	27.6	5 大変悪くなったと思う	5.4
3 変わらない	40.2	無回答	6.1

問23 防犯対策に望むものは何ですか。(いくつでもお選びください) (n=815)

1 夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ	60.0
2 道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす	70.7
3 地域住民によるパトロール隊の組織化	38.7
4 広報等により市民に防犯を呼びかける	15.7
5 その他	6.1
無回答	2.2

問24 市民と行政が協働して、平成22年11月19日にセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯など安心安全なまちづくりを推進するという考え方に関心がありますか。(1つだけ選んでください) (n=815)

1 とても関心がある	30.2	4 あまり関心がない	9.3
2 少し関心がある	40.4	5 全く関心がない	1.8
3 どちらともいえない	15.1	無回答	3.2

問25 平成18年6月1日からすべての住宅へ住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。あなたの家には住宅用火災警報器が寝室、階段に設置されていますか。(なお、既に建てられた住宅は、平成23年5月31日で猶予期間が終了しています。)
(1つだけ選んでください) (n=815)

1 設置している	63.8
2 設置していないが、すぐに設置する	18.4
3 賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない	6.0
4 設置したいが、自分で設置することができない	4.9
5 その他	4.7
無回答	2.2

問26 平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、厚木市でも強い揺れを観測しましたが、今後、災害の発生に備えて、あなたは行政にどのような対策を望みますか。
(2つまで選んでください。)(n=815)

1 ライフライン(ガス・水道・電気)の確保	65.8
2 通信・交通手段の確保	17.3
3 大きな被害が想定される地域の情報	16.4
4 物資の供給など避難所の受入体制の整備	31.4
5 十分な医療や介護を受けることができる環境の整備	18.0
6 震災等発生後の支援などに関する行政からの情報や家族の安否等、様々な情報を受け取ることができる体制	39.6
7 その他	1.6
無回答	1.8

問27 講座、教室などの学習活動に参加する際、最も支障になると思われる理由はどれですか。(1つだけ選んでください) (n=815)

1 参加する時間がない	42.0	4 一緒に学ぶ仲間がない	8.6
2 学習機会に関する情報がない	18.9	5 その他	12.1
3 学習しても成果をいかす場がない	10.4	無回答	8.0

問28 厚木市に優先的に取り組んでほしい芸術文化施策は何ですか。(3つまで選んでください) (n=815)

1 芸術文化活動や鑑賞活動などの情報提供	34.5	7 芸術文化施設の整備	12.5
2 市民の芸術文化活動に対する支援	18.4	8 文化財展示や郷土芸能などの情報提供について	12.3
3 市街地での芸術文化イベントの充実	22.9	9 魅力ある都市景観の創造	29.4
4 文化会館での鑑賞機会の充実	30.7	無回答	11.7
5 学校や福祉施設など、文化会館以外での鑑賞機会の充実	25.3		
6 文化芸術を通じた国際交流、地域間交流	15.8		

問29 厚木市の将来的な土地利用についてどう思いますか。(1つだけ選んでください) (n=815)

1 将来に向かって開発を推進するべきである	23.8
2 特に交通機関の整備を推進するべきである	29.8
3 自然保護を優先するべきである	35.6
4 その他	4.5
無回答	6.3

問30 あなたは、どのようにまちづくりに関わっていきたいと思いますか。(いくつでも選んでください) (n=815)

1 わたしの提案(市長への提案制度)を利用する	11.8
2 市主催のフォーラムや懇談会等へ参加する	8.2
3 各種計画等の策定委員会などへ参加する	3.4
4 市の関係課へ直接意見を伝える	8.0
5 自治会活動へ参加する	24.7
6 各種団体を通じて市へ意見を伝える	8.7
7 ボランティア・NPOなどへ参加する	13.3
8 自主的なまちづくり勉強会などへ参加する	6.5
9 地域の趣味的な団体へ参加する	17.4
10 市民ができることであれば、公共的なことであっても仲間と行いたい	17.5
11 市役所でやるべきことは市役所でやってほしい	19.3
12 特に関わろうとは思わない	10.9
13 その他	4.2
14 わからない	12.9
無回答	5.8

問31 市の公民館など、現在使用料が無料の施設を有料化することについてどう思いますか。
 (1つだけ選んでください) (n=815)

1	維持管理のため有料化した方がよい	17.9
2	有料化しなくてよい	26.9
3	ケースバイケースで有料化した方がよい	48.5
4	その他	1.3
	無回答	5.4

問32 厚木市にずっと住みたいですか。(1つだけ選んでください) (n=815)

1	ずっと住みたい	34.1	
2	できれば住みたい	33.9	
3	できれば市外に転出したい	7.7	
4	すぐにでも市外に転出したい	1.1	
5	どちらともいえない	17.8	→ 問35へ
	無回答	5.4	

問33 問32で1、2(住みたい)とお答えの方にお聞きします。理由は何ですか。
 (2つまで選んでください) (n=554)

1	自然環境が良い	35.9	8	交通の便が良い	12.5
2	教育環境が良い	0.2	9	人間関係が良い	6.1
3	子育て環境が充実している	4.0	10	生まれ育ったところである	14.4
4	保健福祉施策が充実している	4.3	11	住み慣れて愛着がある	31.9
5	自分の家や土地がある	48.4	12	通勤・通学に便利	4.7
6	仕事や学校の関係がある	7.6	13	その他	3.1
7	買物に便利である	8.1		無回答	1.8

問34 問32で3、4(転出したい)とお答えの方にお聞きします。理由は何ですか。
 (2つまで選んでください) (n=72)

1	自然環境が良くない	5.6	7	買物に不便	18.1
2	教育環境が不十分	8.3	8	交通の便が悪い	34.7
3	子育て環境が不十分	8.3	9	人間関係が希薄である	8.3
4	保健福祉施策が不十分	5.6	10	通勤・通学に不便	23.6
5	自分の家や土地でない	15.3	11	その他	31.9
6	仕事や学校の関係がない	5.6		無回答	4.2

問35 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいですか。該当欄に○印を記入してください。
 (それぞれ3つまで選んでください) (n=815)

項 目		① 現在の厚木市 のイメージ	② あなたが望む 将来の厚木
1	自然環境の豊かなまち	44.4	25.3
2	都市と自然が共存しているまち	26.1	38.5
3	交通の利便性の高いまち	18.8	33.7
4	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	40.9	9.6
5	防犯・防災対策が充実したまち	4.9	29.4
6	保健福祉・子育て環境が充実したまち	12.4	33.5
7	研究所・大学等のある研究学園都市	11.4	8.0
8	若者が多い活気のあるまち	5.0	16.8
9	居住環境・生活環境の整備されたまち	9.2	34.7
10	自治活動の活発なふれあいのまち	8.3	4.4
11	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	17.5	12.3
	無回答	15.0	11.3

厚木市民意識調査 郵送調査票B

【最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。】

■該当する数字を○印で囲んでください。

ア あなたの性別は？ (n=814)

1	男性	41.3	2	女性	57.7	無回答	1.0
---	----	------	---	----	------	-----	-----

イ 年齢はおいくつですか。(n=814)

1	20歳未満	1.5	3	30～39歳	19.2	5	50～59歳	18.6	7	70～79歳	12.9
2	20～29歳	7.5	4	40～49歳	18.6	6	60～69歳	18.3	8	80歳以上	2.9
										無回答	0.6

ウ 家族構成はどれに該当しますか。(n=814)

1	夫婦	27.0	3	親子（子との二世代）	37.7	5	一人暮らし	6.9
2	親子（親との二世代）	14.9	4	親子孫（三世代）	9.0	6	その他	3.2
							無回答	1.4

エ お住まいはどのような形態ですか。(n=814)

1	持ち家（分譲マンション含む。）	78.9	5	社宅・寮	2.6
2	民営借家	2.5	6	借間	0.5
3	民営アパート（賃貸マンション含む。）	11.9	7	官公舎	0.1
4	公営・UR都市機構・公社賃貸住宅	2.1	8	その他	0.9
				無回答	0.6

オ どの地区にお住まいですか。(n=814)

1	厚木北（松枝、元町、東町、厚木町、寿町、吾妻町、水引、栄町、中町、田村町）	9.3
2	厚木南（幸町、泉町、旭町、南町）	3.9
3	依知北（上依知、猿ヶ島、山際、下川入）	8.2
4	依知南（関口、中依知、下依知、金田）	5.7
5	睦合北（三田、三田南、棚沢）	4.1
6	睦合南（妻田）	8.8
7	睦合西（林、及川、王子1丁目）	4.4
8	荻野（上荻野、まつかけ台、みはる野、中荻野、下荻野、鳶尾）	11.4
9	小鮎（飯山、上古沢、下古沢、宮の里）	6.6
10	南毛利（戸室、恩名、温水、温水西、愛名、長谷、毛利台）	18.2
11	南毛利南（船子、愛甲）	5.7
12	玉川（小野、七沢、岡津古久）	2.0
13	相川（岡田、酒井、戸田、下津古久、上落合、長沼）	4.7
14	緑ヶ丘（緑ヶ丘、王子2丁目、王子3丁目）	2.6
15	森の里	3.9
	無回答	0.5

カ 厚木市にどのくらいお住まいですか。(n=814)

1	20年以上（生まれてからずっと）	21.0	5	5～9年	10.2
2	20年以上（転入して以来）	37.2	6	3～4年	6.9
3	10～19年（生まれてからずっと）	1.0	7	2年以下	6.4
4	10～19年（転入して以来）	16.5		無回答	0.9

キ 日ごろ、鉄道を利用する際の最寄駅はどこですか。(n=814)

1	本厚木駅	80.8	3	海老名駅	6.6	5	その他	1.2
2	愛甲石田駅	9.8	4	厚木駅	0.5		無回答	1.0

ク 自宅からその駅まではどうやって行きますか。(n=814)

1	徒歩	23.2	3	自家用車	14.7	5	バイク	0.9	無回答	1.0
2	バス	52.9	4	自転車	6.8	6	その他	0.5		

ケ 職業は何ですか。(n=814)

1	農林水産業	1.0	6	会社・団体の役員	5.8	11	学生	2.7
2	商工自営業	2.2	7	販売職・サービス職・事務職	10.9	12	主婦・主夫	21.4
3	自由業	1.4	8	専門技術職	10.7	13	無職	15.1
4	教員	1.5	9	労務技能職	1.5	14	その他	4.8
5	公務員	3.1	10	パート（フリーター含む。）	17.0		無回答	1.1

コ 通勤（通学）先はどこですか。（1つのみ。：主婦・主夫、無職の方を除く）(n=508)

1	自宅	6.3	3	横浜・川崎市内	7.1	5	東京23区内	6.3	7	その他	5.1
2	厚木市内	52.4	4	その他の県内	18.3	6	その他の都内	2.0		無回答	2.6

【ここからは、あなたご自身のお考えについて、お伺いします。】

問1 まちづくり全般の変化について、該当欄に○印を記入してください。

(厚木市に転入されて5年未満の方は、問2へお進みください。)(n=699)

項目	5年前と比べ				項目	5年前と比べ					
	① 良 く な っ た	② 変 わ ら な い	③ 悪 く な っ た	無 回 答		① 良 く な っ た	② 変 わ ら な い	③ 悪 く な っ た	無 回 答		
質問					質問						
1	地域福祉サービス	24.0	58.5	4.0	13.4	19	犯罪や非行の防止	13.7	51.1	21.2	14.0
2	高齢者の生きがいと安心感	14.6	62.5	7.9	15.0	20	消費者の安全確保	8.7	66.7	9.0	15.6
3	障がい者の自立と社会参加	10.9	62.7	5.2	21.3	21	生涯学習の場と機会	17.6	61.4	3.1	17.9
4	子どもを産み育てる環境	28.0	43.9	11.7	16.3	22	スポーツ・レクリエーション活動の場と機会	20.2	59.7	4.1	16.0
5	健康づくりの環境	24.6	57.8	3.6	14.0	23	青少年の健全育成環境	9.6	63.1	8.6	18.7
6	地域医療体制の状況	19.5	57.7	9.3	13.6	24	小・中学校の教育環境	12.2	59.7	10.7	17.5
7	コミュニティ活動・ボランティア活動	19.3	62.2	2.6	15.9	25	芸術・文化活動	11.2	66.2	4.7	17.9
8	人権尊重の意識	7.0	70.0	5.4	17.6	26	友好都市との交流	10.0	68.2	2.3	19.5
9	生活困窮者の援護状況	6.6	65.1	9.6	18.7	27	男女平等を基本とした社会環境	8.4	71.4	2.6	17.6
10	環境保全と環境美化	34.8	45.4	6.4	13.4	28	人にやさしい市街地の形成(バリアフリー等)	30.6	51.2	3.7	14.4
11	ごみ処理及びリサイクル	67.5	19.7	5.6	7.2	29	道路整備など交通渋滞緩和対策	23.2	48.9	14.7	13.2
12	多様な生物の生息環境	5.7	61.5	17.0	15.7	30	電車、バス、タクシー等の状況	14.0	63.9	10.7	11.3
13	公園や自然環境など緑の空間	26.8	54.2	7.9	11.2	31	行政サービスの情報化(情報通信基盤の整備等)	20.2	59.2	4.3	16.3
14	河川など水辺の空間づくり	19.3	59.8	7.0	13.9	32	中小企業を取り巻く環境	1.7	51.8	28.3	18.2
15	災害に強い都市環境	9.0	71.5	4.3	15.2	33	商店街活性化の状況	2.9	35.1	48.8	13.3
16	地域防災対策	16.6	65.2	3.4	14.7	34	就業環境	1.7	42.8	37.9	17.6
17	消防・救急救助体制	18.6	64.9	2.3	14.2	35	森林保全	4.3	65.8	11.0	18.9
18	放置自転車や歩行者の安全	32.6	43.6	14.2	9.6	36	観光・リゾートの環境	4.4	64.1	14.2	17.3

問2 この1年間に利用された「市の施設」をお答えください。

(いくつでも選んでください) (n=814)

1 中央図書館	29.2	14 弁天の森キャンプ場	0.6	27 児童館	9.5
2 小・中学校の体育館	10.0	15 青少年広場	3.3	28 ヤングコミュニティセンター	5.4
3 荻野運動公園	26.3	16 スポーツ広場	2.2	29 勤労福祉センター	5.0
4 ぼうさいの丘公園	33.5	17 東町スポーツセンター	3.3	30 市立公民館・地区市民センター	21.3
5 厚木中央公園	24.0	18 猿ヶ島スポーツセンター	2.5	31 郷土資料館	2.7
6 玉川野球場	1.2	19 市営水泳プール	4.2	32 市民ギャラリー	3.4
7 及川球技場	6.0	20 ふれあいプラザ	6.5	33 パートナーセンター	4.9
8 厚木野球場	1.1	21 南毛利スポーツセンター	6.8	34 老人福祉センター(寿荘)	1.5
9 文化会館	26.8	22 若宮公園テニスコート	1.2	35 保健センター	8.8
10 七沢自然ふれあいセンター	6.5	23 厚木テニスコート	1.2	36 その他	1.2
11 情報プラザ	3.6	24 小・中学校の校庭	12.2	37 利用したことがない	15.6
12 子ども科学館	8.0	25 総合福祉センター	9.3	無回答	8.8
13 老人憩の家	8.2	26 子育て支援センター	4.1		

問3 日ごろ、自宅から目的地まで出かけるときに、どのような交通手段を利用しますか。

(2つまで選んでください) (n=814)

1 徒歩	22.4	5 自家用車(家族が運転)	18.1	9 その他	0.2
2 自転車	21.5	6 電車	12.3	無回答	2.6
3 オートバイ	3.4	7 バス	29.9		
4 自家用車(自分が運転)	54.8	8 タクシー	1.8		

問4 将来(65歳以降)は、主にどのような交通手段を利用すると思いますか。(現在、65歳以上の方は、どのような交通手段を利用していますか。)(2つまで選んでください) (n=814)

1 徒歩	20.6	5 自家用車(家族が運転)	19.2	9 その他	0.5
2 自転車	11.2	6 電車	13.6	無回答	6.0
3 オートバイ	1.1	7 バス	50.4		
4 自家用車(自分が運転)	43.5	8 タクシー	7.4		

問5 生活をする上で、必要な施設は何ですか。(3つまで選んでください) (n=814)

1 公園	25.1	11 葬祭場	3.8	21 遊園地	0.4
2 ちびっこ広場	2.7	12 博物館	0.7	22 市民休暇村	2.2
3 図書館	15.5	13 音楽・演劇等ホール	4.2	23 市民農園	2.7
4 スポーツ施設	8.4	14 音楽・演劇等専用練習場	1.0	24 地場農産物直売所	6.4
5 公民館・地区市民センター	13.0	15 美術館	2.5	25 百貨店・スーパー	57.7
6 児童館	1.0	16 娯楽施設	4.9	26 ホテル	0.2
7 老人憩の家	5.0	17 映画館	13.4	27 駐車場・駐輪場	21.9
8 老人ホーム	7.1	18 植物園	2.3	28 その他	3.7
9 病院・診療所	66.6	19 動物園	0.5	無回答	2.3
10 霊園	1.4	20 水族館	1.0		

問6 現在、住民票の申請等の窓口は、平日の8：30～17：15、毎週土曜日の午前中に開庁していますが、どう思いますか。(n=814)

1 満足	43.9	4 やや不満	10.4
2 やや満足	21.6	5 不満	3.9
3 どちらともいえない	16.7	無回答	3.4

問7 あなたが、今度、参加してみたいと思うスポーツイベントがあれば教えてください。(いくつでも選んでください)(n=814)

1 順位を競う大会やイベント	4.3
2 参加型の大会やイベント	24.4
3 公民館で実施する各種スポーツイベントやスポーツ教室	15.0
4 上級者向きのスポーツ教室やイベント	1.7
5 初心者向きのスポーツ教室やイベント	22.5
6 有名スポーツ選手を招いての講演会やスポーツ教室、イベント	18.8
7 特になし	38.5
無回答	7.0

問8 あなたは、スポーツ(運動)をどの程度やっていますか。(1つだけ選んでください)(n=814)

1 ほぼ毎日やっている	8.0	4 月に1～3回やっている	11.1	無回答	4.1
2 週に3～4回やっている	6.6	5 年数回やっている	11.3		
3 週に1、2回やっている	17.7	6 ほとんどやらない	41.3		

問9 現在、あなたがやっているスポーツの種目を教えてください。(いくつでも選んでください)(n=814)

1 ウォーキング(散歩)	42.6	19 乗馬	0.4
2 体操・ストレッチ・筋力トレーニング	19.5	20 クレー射撃	0.4
3 ゴルフ	7.1	21 スキー・スノーボード	4.8
4 ジョギング・ランニング	4.9	22 ゲートボール	0.5
5 水泳(アビクス・水中ウォーク)	6.8	23 社交ダンス・アビクス・ジャズダンス	1.7
6 登山・ハイキング・ウォークライミング	6.6	24 なぎなた	0.1
7 ボウリング	3.6	25 ラグビー・アメフト	0.1
8 陸上競技	0.4	26 バウンドテニス	-
9 野球	2.2	27 ヨガ・気功・太極拳	2.5
10 ソフトボール	1.8	28 サイクリング	4.1
11 柔道・剣道・空手・少林寺拳法		29 釣り	4.9
・ボクシング	0.9	30 スケートボード・インラインスケート	0.2
12 テニス・ソフトテニス	3.7	31 ターゲットボードゴルフ	0.6
13 バレーボール・ソフトバレーボール	1.8	32 グラウンドゴルフ	1.0
14 バスケットボール	0.6	33 アイススケート・アイスホッケー	0.5
15 弓道・アーチェリー	-	34 サフィソ・ウインドサフィソ	0.9
16 卓球	1.6	35 ダイビング	0.7
17 サッカー・フットサル	2.1	36 特になし	24.7
18 バドミントン	2.1	無回答	7.6

問10 市では「広報あつぎ」を全世帯にもれなく配布することを検討していますが、どう考えますか。(1つだけ選んでください) (n=814)

1 自治会を通じて全戸配布する	16.5	4 その他	4.4
2 業者による全世帯への直接配布	24.8	無回答	3.9
3 現在の配布方法(自治会加入世帯への配布)が良い	50.4		

問11 ケーブルテレビの「あゆチャンネル」で放映している市提供番組「あつぎ元気Wave」を見たことがありますか。(1つだけ選んでください) (n=814)

1 よく見ている	3.2	4 ケーブルテレビに加入していない	49.9
2 たまに見ている	26.8	5 その他	2.9
3 ケーブルテレビに加入しているが、番組は見たことがない	12.7	無回答	4.5

問12 本厚木駅北口駅前に設置されている屋外大型映像装置(あつぎビジョン)を見たことがありますか。(1つだけ選んでください) (n=814)

1 よく見ている	7.9	3 ほとんど見ない	21.4	5 あつぎビジョンを知らない	10.8
2 ときどき見る	40.5	4 全く見ない	15.6	無回答	3.8

問13 市の情報はどのように入手していますか。(2つまで選んでください) (n=814)

1 広報あつぎ	77.8	5 公民館だより	21.6	9 新聞(日刊紙)	8.2
2 市のホームページ	22.5	6 ラジオ	0.1	10 ケーブルテレビ	3.8
3 市の携帯版ウェブサイト	1.6	7 パンフレット・チラシ	2.5	11 夕刊誌・ミニコミ誌	12.0
4 本厚木駅前大型映像装置(あつぎビジョン)	4.7	8 掲示板やポスター	4.5	12 その他	3.6
				無回答	4.1

問14 行政サービスの情報化を推進するために何を優先するべきですか。(2つまで選んでください) (n=814)

1 CATV(ケーブルテレビ)や地域FM放送などの情報通信メディアの育成・振興	27.9
2 電子申請、電子マネー、無線LAN環境など生活に密着したICT(情報通信技術)環境の整備	22.0
3 パソコン等に習熟するための講座や研修の充実	17.7
4 ICT(情報通信技術)を活用した行政サービスの提供	17.0
5 個人情報保護など情報セキュリティの確保	34.3
6 ICT(情報通信技術)を活用した地域活性化の促進(ポータルサイト、地域SNSなど)	9.1
7 その他	9.5
無回答	13.3

問15 ご家庭でどのような情報機器やサービスを利用していますか。

(いくつでも選んでください) (n=814)

1	パソコン	64.4
2	タブレット型パソコン	2.1
3	スマートフォン	10.1
4	携帯電話(スマートフォンを除く)	58.5
5	テレビ	89.1
6	ラジオ	36.4
7	据え置き型ゲーム機又は携帯型ゲーム機	7.9
8	インターネット(パソコン)	59.7
9	インターネット(スマートフォン)	9.3
10	インターネット(携帯電話)	25.9
11	電子メール	25.9
12	その他	2.5
	無回答	1.8

問16 市インターネットサービス「マイタウンクラブ」が提供しているサービスで、利用したことのある、または知っているサービスは何ですか。

(いくつでも選んでください。)(n=814)

1	図書館情報(図書予約・検索)システム	24.3
2	施設予約システム	22.4
3	講座・イベントシステム	10.7
4	公募・募集システム	6.9
5	サークル情報(地域のサークル、ボランティア団体の活動情報の紹介)	7.0
6	チケット予約システム	7.5
7	お店・サービス情報	10.7
8	あつぎ地域SNS	5.9
9	マイタウンクラブを知らない	35.1
	無回答	17.7

問17 現在の本厚木駅周辺(中心市街地)のイメージについて、該当するものを○で囲んでください。(n=814)

1	活気	(①ある 10.9 ②普通 40.5 ③ない 43.2 無回答 5.3)
2	明るさ・清潔感	(①ある 9.2 ②普通 58.5 ③ない 27.1 無回答 5.2)
3	駐車場	(①多い 13.9 ②普通 44.2 ③少ない 34.5 無回答 7.4)
4	商店(飲食店等)	(①多い 14.6 ②普通 53.1 ③少ない 26.2 無回答 6.1)
5	マンション(住宅)	(①多い 24.9 ②普通 59.3 ③少ない 7.6 無回答 8.1)
6	緑	(①多い 5.8 ②普通 38.0 ③少ない 49.9 無回答 6.4)
7	歩道の整備	(①良い 14.3 ②普通 54.8 ③悪い 25.2 無回答 5.8)
8	治安	(①良い 5.9 ②普通 48.6 ③悪い 39.9 無回答 5.5)
9	交通渋滞の状況	(①良い 2.5 ②普通 42.4 ③悪い 50.1 無回答 5.0)

問18 厚木市内の道路の現状について、どう考えますか。(いくつでも選んでください) (n=814)

1 渋滞がひどい	44.7	8 未舗装道路が多い	2.6
2 渋滞が改善されてきた	18.6	9 舗装状態がよくない	17.8
3 バリアフリー化が進んできた	16.2	10 側溝が整備されていない	
4 よく整備されている	4.9	ため、降雨時に冠水する	16.2
5 道路幅員が狭い	32.9	11 その他	6.0
6 工事が多い	28.5	無回答	5.3
7 歩道が少なく、安心して歩けない	32.6		

問19 10年前と比べて厚木市内の交通渋滞は緩和されたと思いますか。

(1つだけ選んでください)

(厚木市に転入されて10年未満の方は、問20へお進みください。) (n=616)

1 緩和されたと思う	33.6	3 ひどくなったと思う	12.2	無回答	2.8
2 変わらないと思う	43.7	4 わからない	7.8		

問20 厚木市内の道路整備に何を望みますか。(いくつでも選んでください) (n=814)

1 渋滞解消(交差点の改良等)	54.9	10 騒音等の環境対策	12.4
2 バリアフリー化のさらなる推進	25.4	11 高速道路の整備	5.4
3 都市計画道路など幹線道路の早期完成	20.4	12 バス等の公共交通機関への支援	28.4
4 生活道路を中心とした道路拡幅	26.9	13 道路景観の改善	7.1
5 歩道の設置	34.3	14 市内に整備が予定されている	
6 未舗装道路の舗装整備	7.0	インターチェンジへのアクセス道路の整備	17.0
7 安心して散策できる遊歩道等の整備	32.3	15 その他	3.8
8 災害時・緊急時に対応できる道路整備	32.6	無回答	6.9
9 街路灯・カーブミラー等整備	36.7		

問21 将来(60歳以降)どのような生活を送りたいですか。(現在60歳以上の方はどんな生活を望んでいますか。)(1つだけ選んでください) (n=814)

1 趣味(スポーツを含む。)を中心	65.7	4 仕事を中心	10.3
2 NPOやボランティア活動中心	5.8	5 その他	9.7
3 学習や研究活動中心	3.1	無回答	5.4

問22 河川環境の整備がされていると思うと感じることは何ですか。

(1つだけ選んでください) (n=814)

1 自然環境に配慮した河川整備	31.4
2 水辺の自然を楽しむ親水施設の整備	12.9
3 河川敷に植栽をしたり清掃をしたりするなど河川愛護の取組がされている	17.7
4 河川堤防を活用した遊歩道の整備	23.3
無回答	14.6

問23 厚木市の今後の財政状況はどのように推移して行くと思われますか。

(1つだけ選んでください) (n=814)

1 良好に推移する	5.5	3 極めて厳しい状況になっていく	26.7	無回答	1.7
2 やや厳しい状況になっていく	37.8	4 わからない			28.3

問24 市民の声を政策や市の取組みに反映させるための仕組みは十分であると思いますか。

(1つだけ選んでください) (n=814)

1 そう思う	2.9	3 どちらかといえばそう思わない	42.5	無回答	10.0
2 どちらかといえばそう思う	24.9	4 そう思わない			19.7

問25 行政の情報が積極的に公開されていると思いますか。(1つだけ選んでください) (n=814)

1 そう思う	4.8	3 どちらかといえばそう思わない	39.7	無回答	10.0
2 どちらかといえばそう思う	29.7	4 そう思わない			15.8

問26 子どもの教育には何が大切であると思いますか。(1つだけ選んでください) (n=814)

1 学校教育	7.2	4 学校・家庭・地域の協力	65.1
2 家庭教育	13.5	5 わからない	3.2
3 地域の教育力	3.8	無回答	7.1

問27 本厚木駅周辺を活性化するために新たな商業施設の誘致や再開発事業を推進する必要があると思いますか。(n=814)

1 必要である	52.2	4 どちらかといえば必要でない	5.4
2 どちらかといえば必要である	18.3	5 必要でない	5.2
3 どちらともいえない	11.3	無回答	7.6

問28 本厚木駅周辺の買物で不満を感じることはありますか。(2つまで選んでください) (n=814)

1 欲しい商品を扱う店舗が少ない	56.8
2 買物の途中で休める場所が少ない	26.9
3 子連れでゆっくり買物を楽しむ環境が整っていない	16.1
4 個性的な商品を扱う店舗が少ない	26.7
5 その他	7.0
6 特に不満はない	11.5
無回答	7.2

問29 本厚木駅周辺に立地してほしい施設は何ですか。(いくつでも選んでください) (n=814)

1 品そろえの良い専門店	45.6	8 大型の商業施設	35.7
2 娯楽施設	16.2	9 福祉・医療施設	21.9
3 文化施設	22.0	10 各種スポーツ施設	5.8
4 ディスカウントショップ	19.9	11 環境の良い住宅施設	4.3
5 高齢者向けの店舗	17.7	12 その他	5.4
6 個性的な商品を扱う店舗	21.1	無回答	8.8
7 魅力的なレストランや飲食店、カフェ	39.9		

問30 本厚木駅周辺で買物をするとき、自宅からの交通手段は何ですか。

(1つだけ選んでください) (n=814)

1	自家用車	52.1	4	バイク	0.6	無回答	6.5
2	バス	19.3	5	自転車	9.3		
3	電車	2.2	6	徒歩	10.0		

→問31 問30で自家用車とお答えの方にお聞きします。主に利用される駐車場はどこですか。

(1つだけ選んでください) (n=424)

1	デパート等の専用駐車場	58.0	4	一番街周辺の民間駐車場	11.1
2	厚木中央公園地下駐車場	4.7	5	その他	5.0
3	中町立体駐車場	21.0		無回答	0.2

問32 厚木市にずっと住み続けたいですか。(1つだけ選んでください) (n=814)

1	ずっと住み続けたい	33.5		
2	できれば住み続けたい	34.3		
3	できれば市外に転出したい	10.9		
4	すぐにでも市外に転出したい	2.0		
5	どちらともいえない	12.3		→ 問35へ
	無回答	7.0		

問33 問32で1、2（住み続けたい）とお答えの方にお聞きします。理由は何ですか。

(2つまで選んでください) (n=552)

1	自然環境が良い	26.1	8	交通の便が良い	12.7
2	教育環境が良い	0.5	9	人間関係が良い	6.2
3	子育て環境が充実している	4.9	10	生まれ育ったところである	12.5
4	保健福祉施策が充実している	1.4	11	住み慣れて愛着がある	34.8
5	自分の家や土地がある	57.2	12	通勤・通学に便利	5.8
6	仕事や学校との関係がある	10.3	13	その他	3.8
7	買物に便利である	5.1		無回答	2.7

→問34 問32で3、4（転出したい）とお答えの方にお聞きします。理由は何ですか。

(2つまで選んでください) (n=105)

1	自然環境が良くない	10.5	7	買物に不便	37.1
2	教育環境が不十分	4.8	8	交通の便が悪い	45.7
3	子育て環境が不十分	7.6	9	人間関係が希薄である	8.6
4	保健福祉施策が不十分	6.7	10	通勤・通学に不便	21.0
5	自分の家や土地でない	13.3	11	その他	16.2
6	仕事や学校との関係がない	5.7		無回答	1.9

問35 厚木市のまちとして現在のイメージはどれですか。また、将来どのようなまちになってほしいですか。該当欄に○印を記入してください。

(それぞれ3つまで選んでください) (n=814)

項 目		① 現在の厚木市 のイメージ	② あなたが望む 将来の厚木
1	自然環境の豊かなまち	40.4	24.6
2	都市と自然が共存しているまち	23.3	39.4
3	交通の利便性の高いまち	19.8	35.3
4	花火大会や温泉のある商業・レジャーのまち	41.2	8.1
5	防犯・防災対策が充実したまち	4.8	35.6
6	保健福祉・子育て環境が充実したまち	12.2	29.2
7	研究所・大学等のある研究学園都市	11.2	6.8
8	若者が多い活気のあるまち	6.9	18.9
9	居住環境・生活環境の整備されたまち	7.7	36.0
10	自治活動の活発なふれあいのまち	9.8	5.0
11	インターチェンジをいかした流通機能の高いまち	16.5	11.4
	無回答	18.8	11.7